まちづくり町民アンケート

結果報告書

平成２８年１１月

音 更 町

もくじ

Ⅰ　調査の概要 1

Ⅱ　回答者の属性 4

１）性別 4
２）年齢 6
３）居住歴 8
４）音更町での居住年数 10
５）勤務地または通学地 12
６）居住地 14
７）職業 16

Ⅲ　設問別調査結果 18

１　暮らしの満足度・重要度（【問１】） 18
２　今後のまちづくりで特に重要だと思うもの（【問１】） 29
３　住み良さ（【問２】） 44
４　定住意向（【問３】【問４】） 47
５　産業の振興（【問５】【問６】【問７】） 54
６　まちづくりへの関心や参加（【問８】【問９】【問 10】） 67
７　広報、情報提供（【問 11】【問 12】【問 13】） 83
８　移住・定住（【問 14】） 94
９　行政改革（【問 15】【問 16】） 98
10　まちづくりへのアイデアや提案（【問 17】） 102

Ⅳ　調査票 112

Ⅰ　調査の概要

このアンケートは、「第５期音更町総合計画」（平成 23 年度～平成 32 年度）を推進するうえで、音更町での暮らしや課題などについて、町民の皆様からご意見や評価をいただくために実施しました。調査の実施概要については、次のとおりです。

対象	音更町に在住する 18 歳以上の町民 1,000 名（無作為抽出） （対象者が回答できない場合は、ほかのご家族の方（18 歳以上の方）が回答）
配布・回収方法	郵送にて配布、回収
調査時期	平成 28 年８月
回収数	415 票（回収率 41.5%）

報告書の集計・表記方法についての留意点は、次のとおりです。

・比較や順位付けは、回答数ではなく「回答率」や「加重平均値」で行っています。そのため、「多い・少ない」ではなく、「高い・低い」と表記しています。

・説明は「全回答者（415 人）」の説明（○の部分）のほか、男女や年齢など「属性別」の説明（●の部分）を記載しています。すべての属性ごとに集計していますが、この報告書では、「全体」と「性別・年齢別」の集計結果を中心に説明しています。

・グラフの中に［　］で示している数は、回答者の数です。性別、年齢別ごとの回答者数は、「無回答」を除いて表示しているため、合計が全体数（415 人）にはなりません。

・集計結果は、小数点第２位を四捨五入し、小数点第１位までを百分率(%)で表示しています。そのため、選択肢から１つだけ選択する設問では、%を合計しても 100.0%にならないことがあります。

・実際に用いた調査票の言葉が長い選択肢については、グラフや文章で示す際、文章を短縮しているものがあります。

・その他に記載のあった内容については、同じ内容のものについてはまとめ、回答数を（　）で示しています。

・自由記載の回答については、記述事項を一部整理・要約して掲載しています。

調査の企画・編集：音更町役場　企画財政部企画課企画調整係
結果の集計・分析：株式会社　日本コンサルタントグループ

属性別の回収票内訳

（単位：票）

全　　体		415
１）性別	男性	151
	女性	255
２）居住歴	音更町で生まれ、ずっと音更町に住んでいる	67
	音更町生まれ、転出後、再び音更町に住んでいる	60
	音更町外で生まれ、現在音更町に住んでいる	284
３）居住年数	5 年未満	43
	5 年以上 10 年未満	27
	10 年以上 20 年未満	81
	20 年以上	231
４）勤務・通学先	音更町内	150
	帯広市	103
	その他	97
５）居住地	農村部	31
	駒場地区	14
	音更市街	70
	木野市街（鈴蘭地区・緑陽台地区・共栄台地区含む）	227
	宝来・ひびき野市街	56
	十勝川温泉市街	4
６）年齢	18～29 歳	36
	30 歳代	50
	40 歳代	74
	50 歳代	75
	60 歳代	101
	70 歳代以上	71
７）職業	農林漁業	24
	製造業・建設業	39
	商業・サービス業・金融業など	73
	公務・団体等勤務	57
	その他の職業	74
	学生	4
	家事専業（主婦・主夫）	71
	無職	63

前回との比較について

比較が可能な設問については、昨年実施した「町民アンケート」との比較を行っています。前回実施のアンケートの概要については、次のとおりです。

前回のアンケートの概要

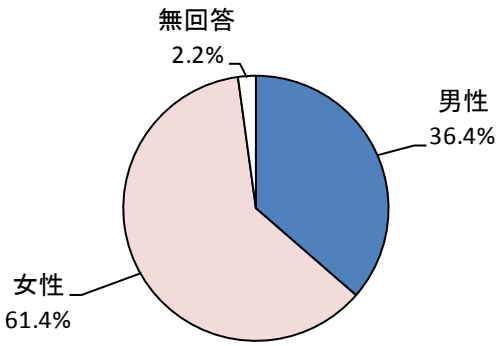
対象	音更町に在住する 18 歳以上の町民 1,000 名（無作為抽出） （対象者が回答できない場合は、ほかのご家族の方（18 歳以上の方）が回答）
配布・回収方法	郵送にて配布、回収
調査時期	平成 27 年 12 月
回収数	512 票（回収率 51.2%）

Ⅱ　回答者の属性

１）性別

○「男性」が 36.4%、「女性」が 61.4%で、女性が約６割を占めます。

１）性別（415人）



●年齢別でみると、いずれの年齢も女性の割合が高くなっています。

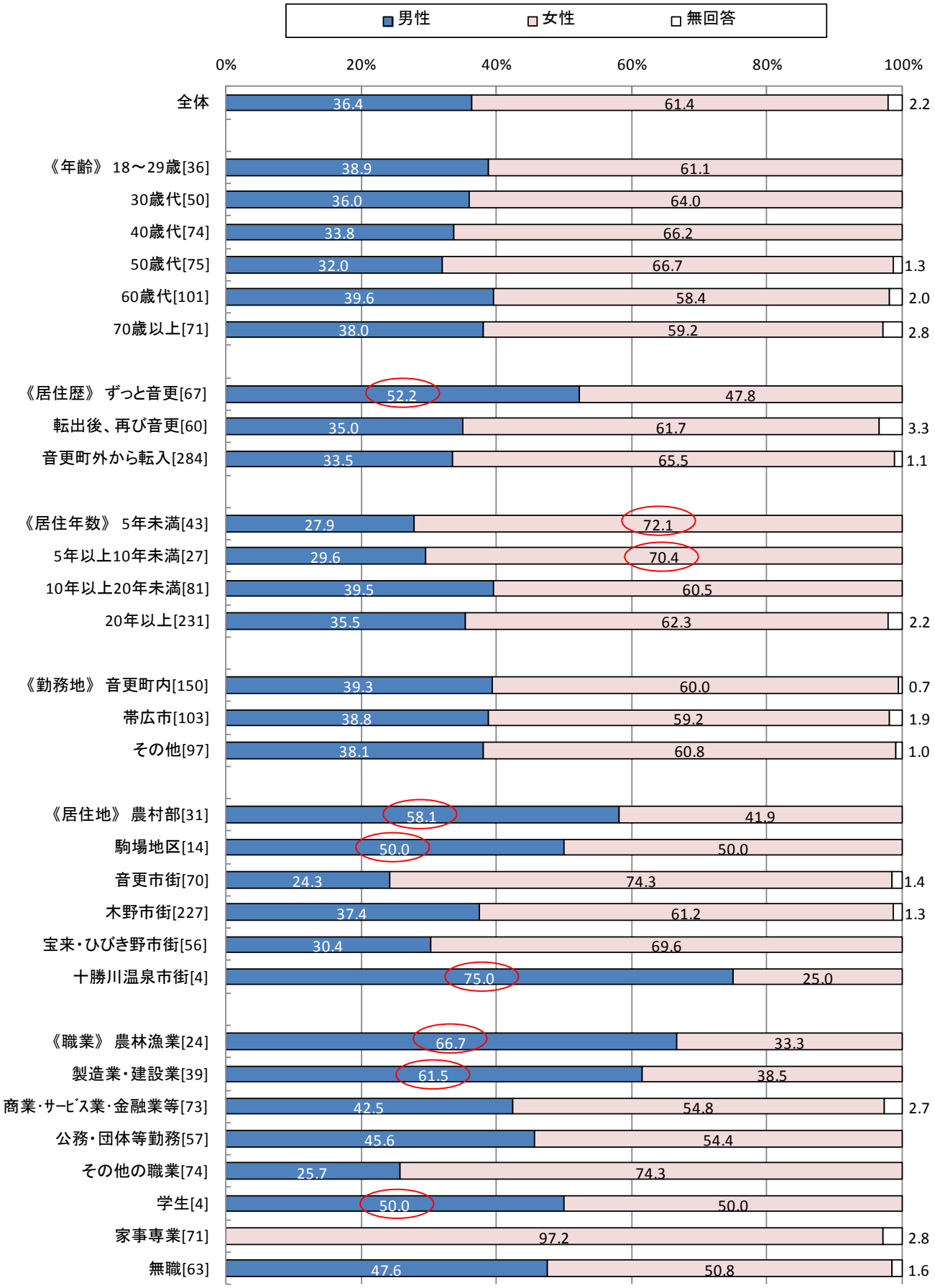
●居住歴別でみると、ずっと音更の回答者は、「男性」が過半数を占めます。

●居住年数でみると、５年未満や５年以上 10 年未満の若い年齢は、「女性」が７割以上を占めます。

●居住地別でみると、農村部、十勝川温泉市街は「男性」が過半数を占めます。駒場地区は同率です。

●職業別でみると、農林漁業、製造・建設業は「男性」が高くなっています。学生は同率です。

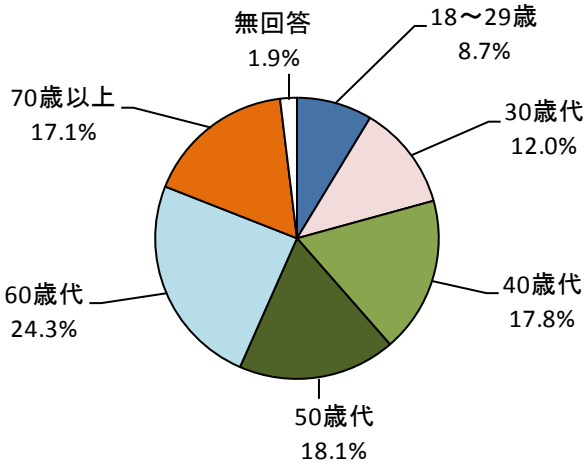
1）性別（属性別）


男性
女性
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 36.4 61.4 2.2
《年齢》 18～29歳[36] 38.9 61.1
30歳代[50] 36.0 64.0
40歳代[74] 33.8 66.2
50歳代[75] 32.0 66.7 1.3
60歳代[101] 39.6 58.4 2.0
70歳以上[71] 38.0 59.2 2.8
《居住歴》 ずっと音更[67] 52.2 47.8
転出後、再び音更[60] 35.0 61.7 3.3
音更町外から転入[284] 33.5 65.5 1.1
《居住年数》 5年未満[43] 27.9 72.1
5年以上10年未満[27] 29.6 70.4
10年以上20年未満[81] 39.5 60.5
20年以上[231] 35.5 62.3 2.2
《勤務地》 音更町内[150] 39.3 60.0 0.7
帯広市[103] 38.8 59.2 1.9
その他[97] 38.1 60.8 1.0
《居住地》 農村部[31] 58.1 41.9
駒場地区[14] 50.0 50.0
音更市街[70] 24.3 74.3 1.4
木野市街[227] 37.4 61.2 1.3
宝来・ひびき野市街[56] 30.4 69.6
十勝川温泉市街[4] 75.0 25.0
《職業》 農林漁業[24] 66.7 33.3
製造業・建設業[39] 61.5 38.5
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[73] 42.5 54.8 2.7
公務・団体等勤務[57] 45.6 54.4
その他の職業[74] 25.7 74.3
学生[4] 50.0 50.0
家事専業[71] 97.2 2.8
無職[63] 47.6 50.8 1.6

２）年齢

○「60 歳代」（24.3%）が最も高く、「50 歳代」（18.1%）、「40 歳代」（17.8%）、「70 歳以上」（17.1%）、「30 歳代」（12.0%）と続きます。最も低いのは「18～29 歳」（8.7%）です。

２）年齢（415人）



●性別でみると、男女とも「60 歳代」が最多ですが、女性は「40 歳代」「50 歳代」が２割近くを占め、男性より割合が高くなっています。

●居住歴別でみると、転出後再び音更の回答者は「50 歳代」が最も高くなっています。

●居住年数別でみると、5 年未満は「30 歳代」、10 年以上 20 年未満は「40 歳代」、20 年以上は「60 歳代」が、それぞれ最も高くなっています。5 年以上 10 年未満は「70 歳以上」以外の年齢が同じ割合です。

●居住地別でみると、農村部は「50 歳代」、駒場地区は「40 歳代」と「50 歳代」（同率）、音更市街、木野市街、十勝川温泉市街は「60 歳代」、宝来・ひびき野市街は「40 歳代」がそれぞれ最も高くなっています。

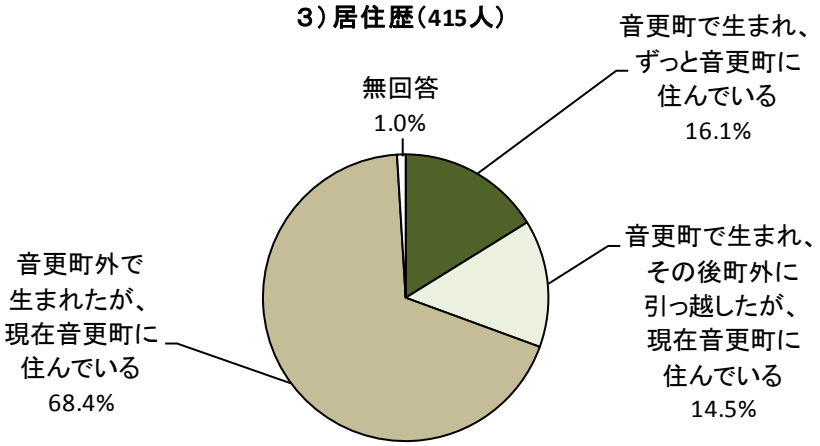
●職業別でみると、農林漁業は「70 歳以上」、製造業・建設業は「60 歳代」、商業・サービス業・金融業等と公務・団体等勤務は「50 歳代」が最も高くなっています。

2）年齢（属性別）

18～29歳
30歳代
40歳代
50歳代
60歳代
70歳以上
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 8.7 12.0 17.8 18.1 24.3 17.1 1.9
《性別》 男性[151] 9.3 11.9 16.6 15.9 26.5 17.9 2.0
女性[255] 8.6 12.5 19.2 19.6 23.1 16.5 0.4
《居住歴》 ずっと音更[67] 13.4 13.4 19.4 13.4 25.4 13.4 1.5
転出後、再び音更[60] 11.7 20.0 16.7 25.0 21.7 5.0
音更町外から転入[284] 7.0 10.2 18.0 18.0 25.0 20.8 1.1
《居住年数》 5年未満[43] 14.0 39.5 20.9 4.7 11.6 7.0 2.3
5年以上10年未満[27] 18.5 18.5 18.5 18.5 18.5 7.4
10年以上20年未満[81] 14.8 9.9 32.1 14.8 8.6 17.3 2.5
20年以上[231] 4.8 6.9 13.0 22.1 33.3 19.5 0.4
《勤務地》 音更町内[150] 10.0 16.0 19.3 23.3 21.3 9.3 0.7
帯広市[103] 10.7 13.6 27.2 24.3 19.4 3.9 1.0
その他[97] 9.3 10.3 15.5 11.3 25.8 25.8 2.1
《居住地》 農村部[31] 6.5 12.9 9.7 29.0 16.1 25.8
駒場地区[14] 14.3 7.1 28.6 28.6 14.3 7.1
音更市街[70] 5.7 17.1 15.7 14.3 34.3 12.9
木野市街[227] 9.3 10.1 17.2 18.9 26.0 18.5
宝来・ひびき野市街[56] 12.5 17.9 30.4 14.3 14.3 10.7
十勝川温泉市街[4] 75.0 25.0
《職業》 農林漁業[24] 4.2 20.8 12.5 20.8 16.7 25.0
製造業・建設業[39] 2.6 15.4 28.2 17.9 30.8 5.1
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[73] 11.0 13.7 24.7 27.4 17.8 5.5
公務・団体等勤務[57] 19.3 15.8 22.8 26.3 10.5 5.3
その他の職業[74] 6.8 14.9 25.7 25.7 18.9 6.8 1.4
学生[4] 100.0
家事専業[71] 7.0 11.3 8.5 7.0 42.3 23.9
無職[63] 1.6 1.6 4.8 6.3 33.3 52.4

３）居住歴

○「音更町外で生まれたが、現在音更町に住んでいる」（68.4%）が最も高く、「音更町で生まれ、ずっと音更町に住んでいる」（16.1%）、「音更町で生まれ、その後町外に引っ越したが、現在音更町に住んでいる」（14.5%）の順です。



●性別でみると、女性は「音更町外」が７割以上を占め、男性より高くなっています。

●年齢別でみると、年齢が高くなるほど「音更町外」の割合が高まる傾向にあります。

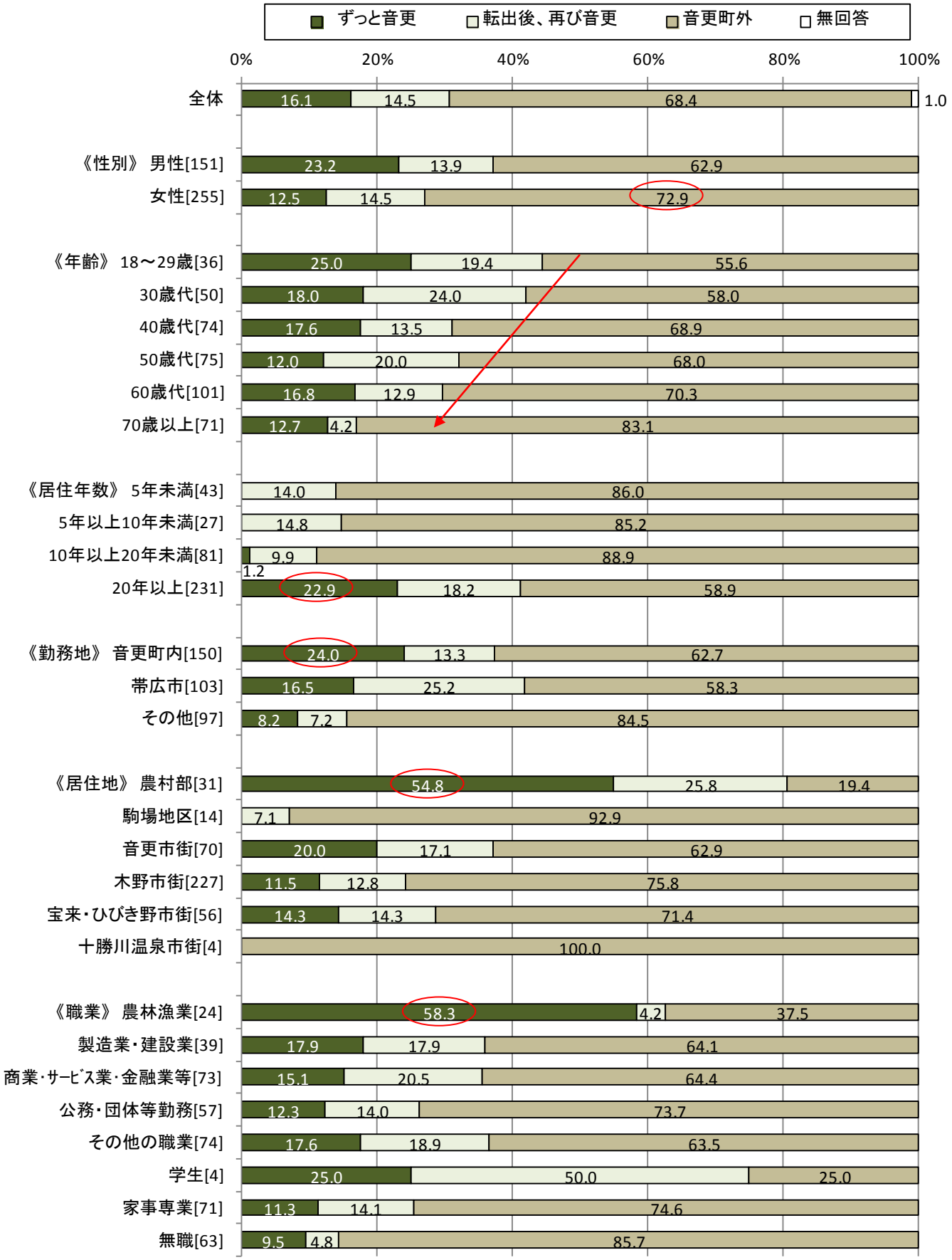
●居住年数別でみると、20 年以上は「ずっと音更」が約２割を占め、他より高くなっています。

●勤務地別でみると、音更町内に通勤の回答者は「ずっと音更」が２割以上を占めます。

●居住地別でみると、農村部は「ずっと音更」が過半数を占めます。

●職業別でみると、農林漁業は「ずっと音更」が過半数を占めます。

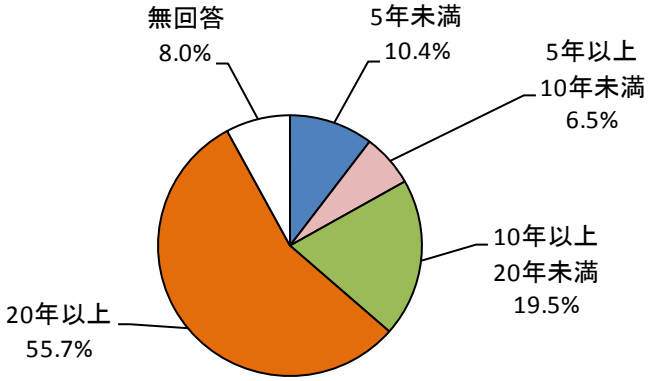
3）居住歴（属性別）


ずっと音更
転出後、再び音更
音更町外
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 16.1 14.5 68.4 1.0
《性別》 男性[151] 23.2 13.9 62.9
女性[255] 12.5 14.5 72.9
《年齢》 18～29歳[36] 25.0 19.4 55.6
30歳代[50] 18.0 24.0 58.0
40歳代[74] 17.6 13.5 68.9
50歳代[75] 12.0 20.0 68.0
60歳代[101] 16.8 12.9 70.3
70歳以上[71] 12.7 4.2 83.1
《居住年数》 5年未満[43] 14.0 86.0
5年以上10年未満[27] 14.8 85.2
10年以上20年未満[81] 9.9 88.9
1.2
20年以上[231] 22.9 18.2 58.9
《勤務地》 音更町内[150] 24.0 13.3 62.7
帯広市[103] 16.5 25.2 58.3
その他[97] 8.2 7.2 84.5
《居住地》 農村部[31] 54.8 25.8 19.4
駒場地区[14] 7.1 92.9
音更市街[70] 20.0 17.1 62.9
木野市街[227] 11.5 12.8 75.8
宝来・ひびき野市街[56] 14.3 14.3 71.4
十勝川温泉市街[4] 100.0
《職業》 農林漁業[24] 58.3 4.2 37.5
製造業・建設業[39] 17.9 17.9 64.1
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[73] 15.1 20.5 64.4
公務・団体等勤務[57] 12.3 14.0 73.7
その他の職業[74] 17.6 18.9 63.5
学生[4] 25.0 50.0 25.0
家事専業[71] 11.3 14.1 74.6
無職[63] 9.5 4.8 85.7

４）音更町での居住年数

○「20 年以上」（55.7%）が最も高く、「10 年以上 20 年未満」（19.5%）が続きます。

４）居住年数（415人）



●性別でみると、「５年未満」は女性の方が割合が高くなっています。

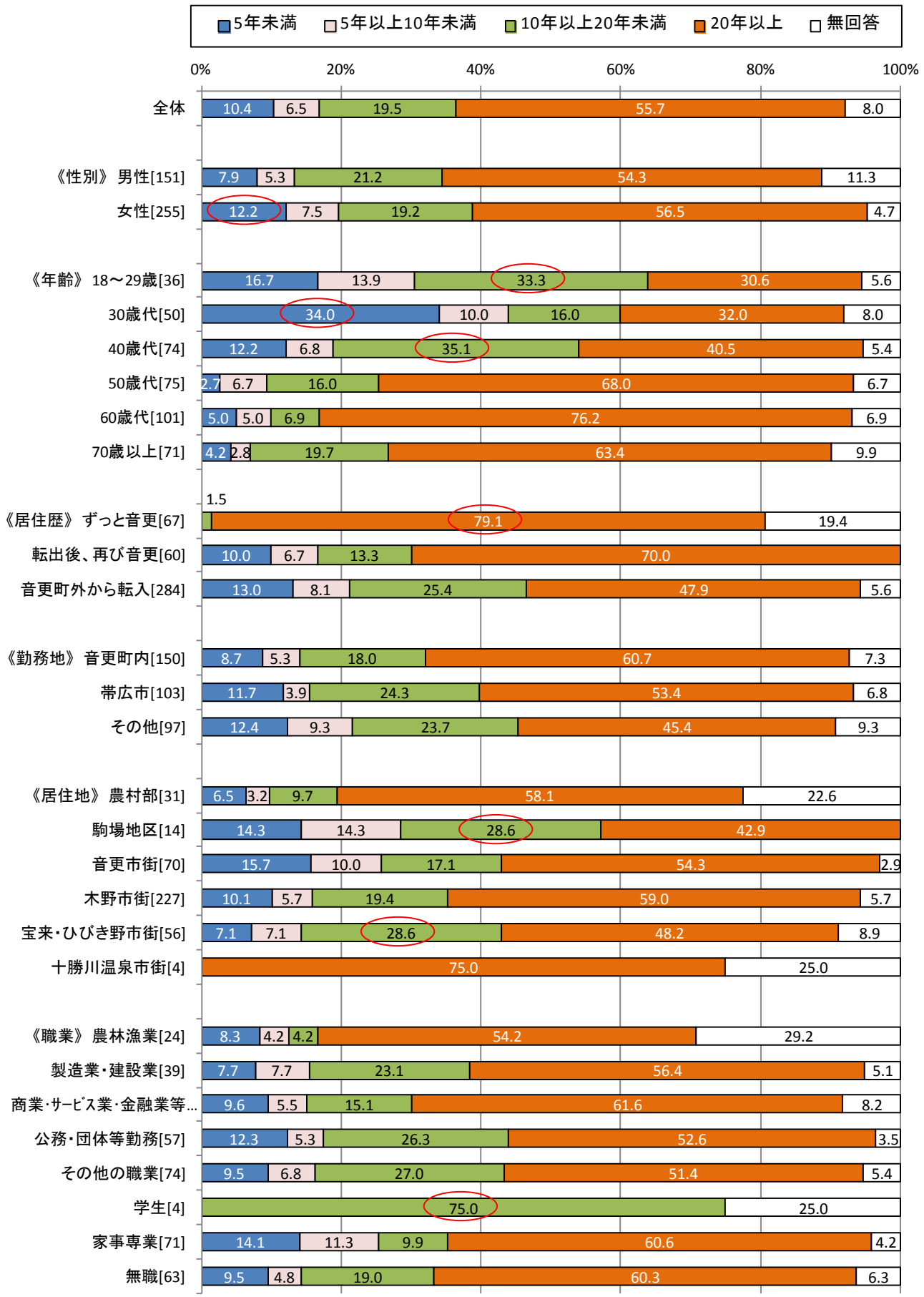
●年齢別でみると、18～29 歳と 40 歳代は「10 年以上 20 年未満」、30 歳代は「５年未満」がそれぞれ３割以上を占め、他の年齢よりも高くなっています。

●居住歴別でみると、「20 年以上」は、ずっと音更の回答者で約８割を占めています。

●居住地別でみると、駒場地区と宝来・ひびき野市街は「10 年以上 20 年未満」が３割近くを占め、他の地区に比べて高くなっています。

●職業別でみると、学生は「10 年以上 20 年未満」が４分３を占めます。

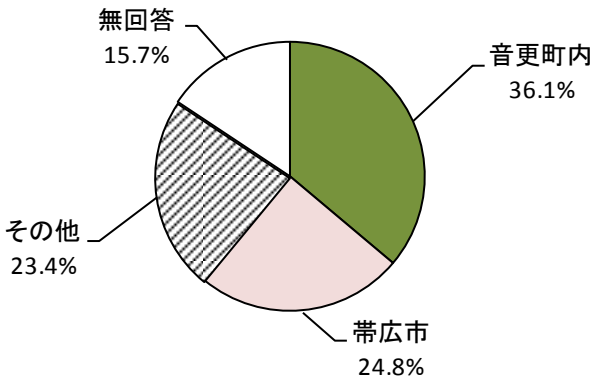
4）居住年数（属性別）


5年未満
5年以上10年未満
10年以上20年未満
20年以上
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 10.4 6.5 19.5 55.7 8.0
《性別》 男性[151] 7.9 5.3 21.2 54.3 11.3
女性[255] 12.2 7.5 19.2 56.5 4.7
《年齢》 18～29歳[36] 16.7 13.9 33.3 30.6 5.6
30歳代[50] 34.0 10.0 16.0 32.0 8.0
40歳代[74] 12.2 6.8 35.1 40.5 5.4
50歳代[75] 2.7 6.7 16.0 68.0 6.7
60歳代[101] 5.0 5.0 6.9 76.2 6.9
70歳以上[71] 4.2 2.8 19.7 63.4 9.9
《居住歴》 ずっと音更[67] 1.5 79.1 19.4
転出後、再び音更[60] 10.0 6.7 13.3 70.0
音更町外から転入[284] 13.0 8.1 25.4 47.9 5.6
《勤務地》 音更町内[150] 8.7 5.3 18.0 60.7 7.3
帯広市[103] 11.7 3.9 24.3 53.4 6.8
その他[97] 12.4 9.3 23.7 45.4 9.3
《居住地》 農村部[31] 6.5 3.2 9.7 58.1 22.6
駒場地区[14] 14.3 14.3 28.6 42.9
音更市街[70] 15.7 10.0 17.1 54.3 2.9
木野市街[227] 10.1 5.7 19.4 59.0 5.7
宝来・ひびき野市街[56] 7.1 7.1 28.6 48.2 8.9
十勝川温泉市街[4] 75.0 25.0
《職業》 農林漁業[24] 8.3 4.2 4.2 54.2 29.2
製造業・建設業[39] 7.7 7.7 23.1 56.4 5.1
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等… 9.6 5.5 15.1 61.6 8.2
公務・団体等勤務[57] 12.3 5.3 26.3 52.6 3.5
その他の職業[74] 9.5 6.8 27.0 51.4 5.4
学生[4] 75.0 25.0
家事専業[71] 14.1 11.3 9.9 60.6 4.2
無職[63] 9.5 4.8 19.0 60.3 6.3

５）勤務地または通学地

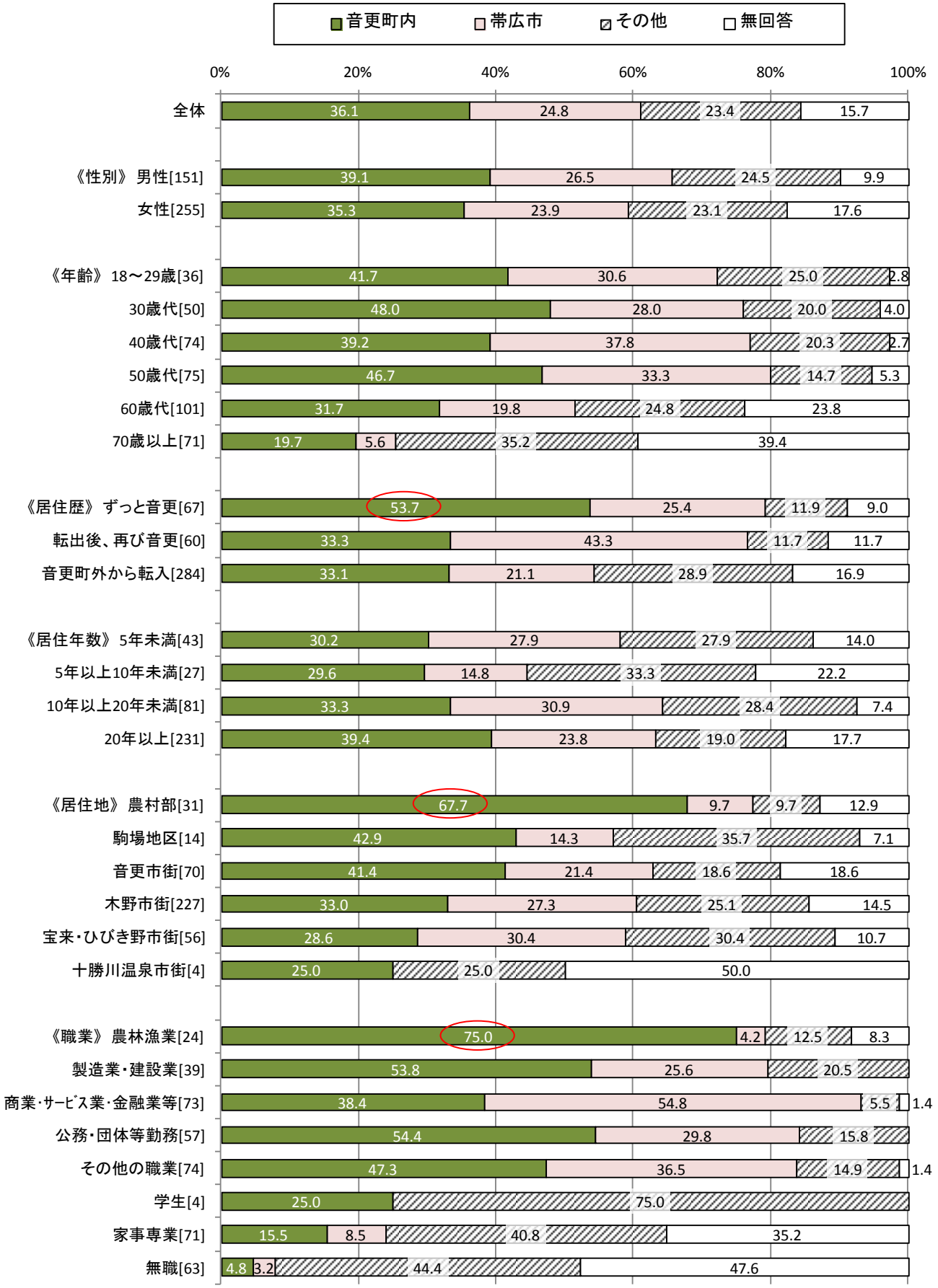
○「音更町内」（36.1%）、「帯広市」（24.8%）、「その他」（23.4%）の順です。

５）勤務または通学先（415人）



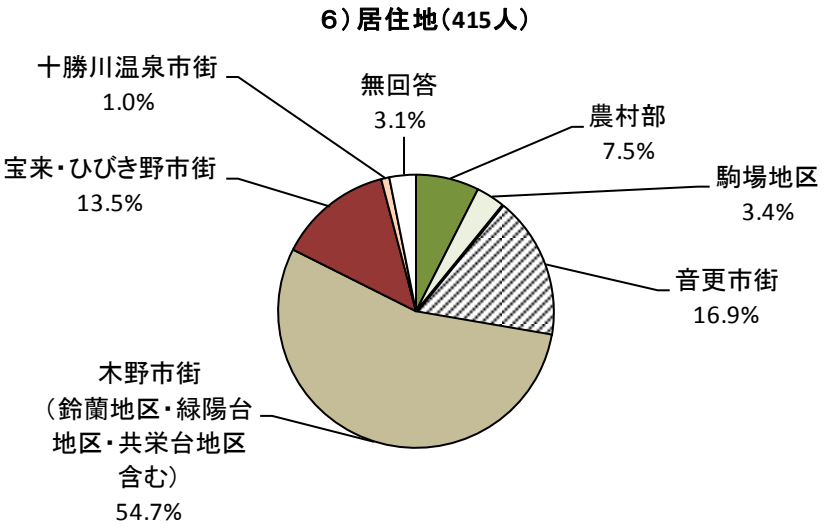
●居住歴別でみると、ずっと音更の回答者は「音更町内」が過半数を占めます。
●居住地別でみると、農村部は「音更町内」が約７割を占めます。
●職業別でみると、農林漁業は「音更町内」が４分の３を占めます。

5）勤務または通学先（属性別）



６）居住地

○「木野市街」（54.7%）が最も高く、「音更市街」（16.9%）、「宝来・ひびき野市街」（13.5%）、「農村部」（7.5%）、「駒場地区」（3.4%）、「十勝川温泉市街」（1.0%）です。



●性別でみると、女性は「音更市街」が約２割を占めます。

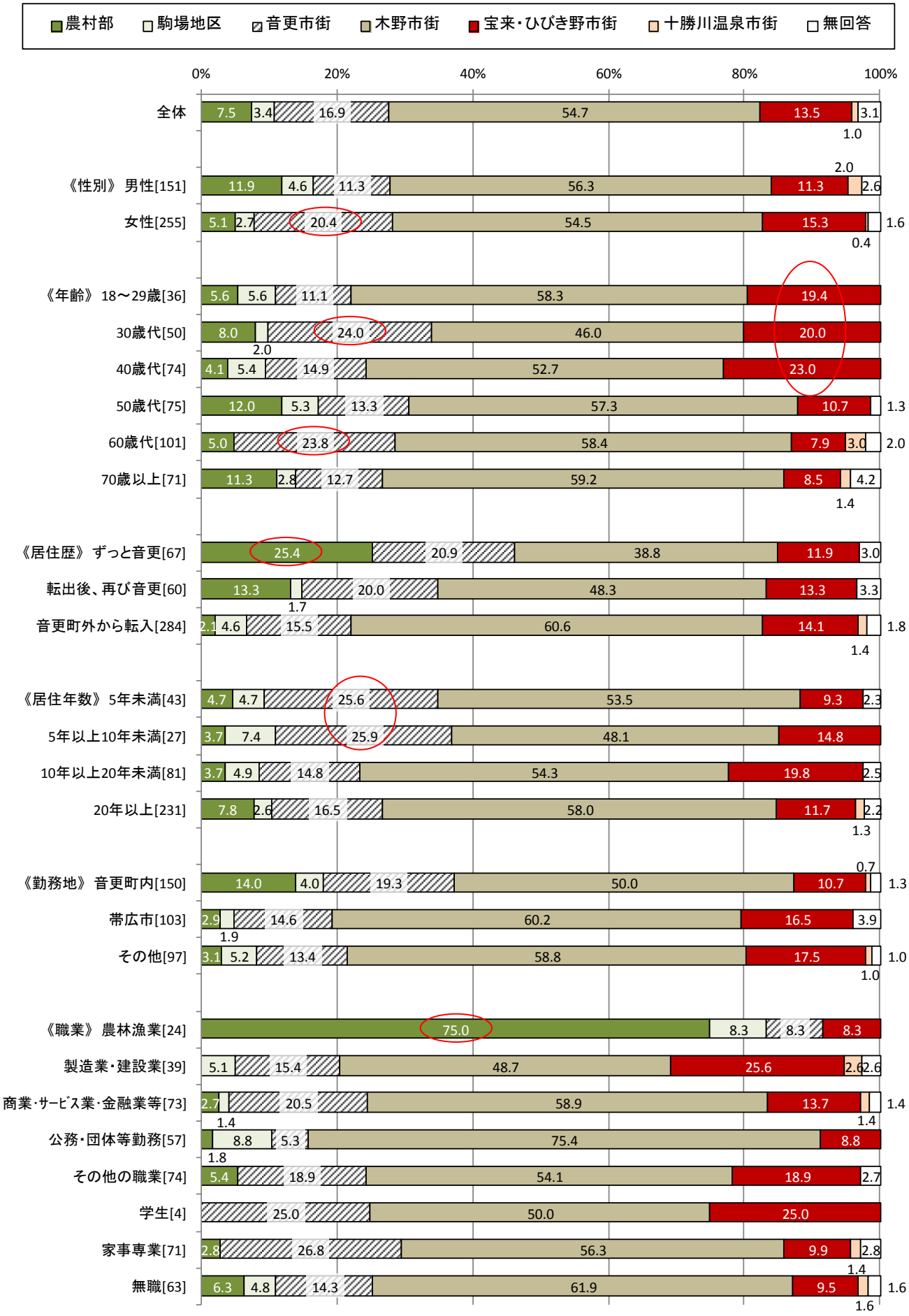
●年齢別でみると、30 歳代と 60 歳代は「音更市街」が２割以上を占め、他に比べて回答率が高くなっています。また、40 歳代までの若い年齢は「宝来・ひびき野市街」が２割前後を占め、他に比べて回答率が高くなっています。

●居住歴別でみると、ずっと音更の回答者は、「農村部」が約４分の１を占め他に比べて高いのがめだちます。

●居住年数別でみると、５年未満と５年以上 10 年未満は「音更市街」が約４分の１を占め、他に比べて高くなっています。

●職業別でみると、農林漁業は「農村部」が４分の３を占めます。

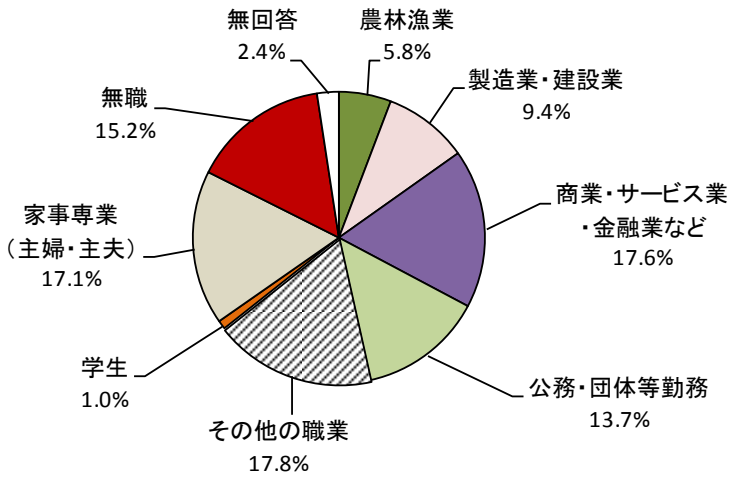
6）居住地（属性別）


農村部
駒場地区
音更市街
木野市街
宝来・ひびき野市街
十勝川温泉市街
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 7.5 3.4 16.9 54.7 13.5 3.1 1.0
《性別》 男性[151] 11.9 4.6 11.3 56.3 11.3 2.0 2.6
女性[255] 5.1 2.7 20.4 54.5 15.3 0.4 1.6
《年齢》 18～29歳[36] 5.6 5.6 11.1 58.3 19.4
30歳代[50] 8.0 2.0 24.0 46.0 20.0
40歳代[74] 4.1 5.4 14.9 52.7 23.0
50歳代[75] 12.0 5.3 13.3 57.3 10.7 1.3
60歳代[101] 5.0 23.8 58.4 7.9 3.0 2.0
70歳以上[71] 11.3 2.8 12.7 59.2 8.5 1.4 4.2
《居住歴》 ずっと音更[67] 25.4 20.9 38.8 11.9 3.0
転出後、再び音更[60] 13.3 1.7 20.0 48.3 13.3 3.3
音更町外から転入[284] 2.1 4.6 15.5 60.6 14.1 1.4 1.8
《居住年数》 5年未満[43] 4.7 4.7 25.6 53.5 9.3 2.3
5年以上10年未満[27] 3.7 7.4 25.9 48.1 14.8
10年以上20年未満[81] 3.7 4.9 14.8 54.3 19.8 2.5
20年以上[231] 7.8 2.6 16.5 58.0 11.7 1.3 2.2
《勤務地》 音更町内[150] 14.0 4.0 19.3 50.0 10.7 0.7 1.3
帯広市[103] 2.9 1.9 14.6 60.2 16.5 3.9
その他[97] 3.1 5.2 13.4 58.8 17.5 1.0 1.0
《職業》 農林漁業[24] 75.0 8.3 8.3 8.3
製造業・建設業[39] 5.1 15.4 48.7 25.6 2.6 2.6
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[73] 2.7 1.4 20.5 58.9 13.7 1.4 1.4
公務・団体等勤務[57] 1.8 8.8 5.3 75.4 8.8
その他の職業[74] 5.4 18.9 54.1 18.9 2.7
学生[4] 25.0 50.0 25.0
家事専業[71] 2.8 26.8 56.3 9.9 1.4 2.8
無職[63] 6.3 4.8 14.3 61.9 9.5 1.6 1.6

７）職業

○「その他の職業」（17.8%）が最も高く、「商業・サービス業・金融業など」（17.6%）「家事専業（主婦・主夫）」（17.1%）、「無職」（15.2%）と続きます。

７）職業（415人）



●性別でみると、男性は「商業・サービス業・金融業など」、女性は「家事専業」が最も高くなっています。

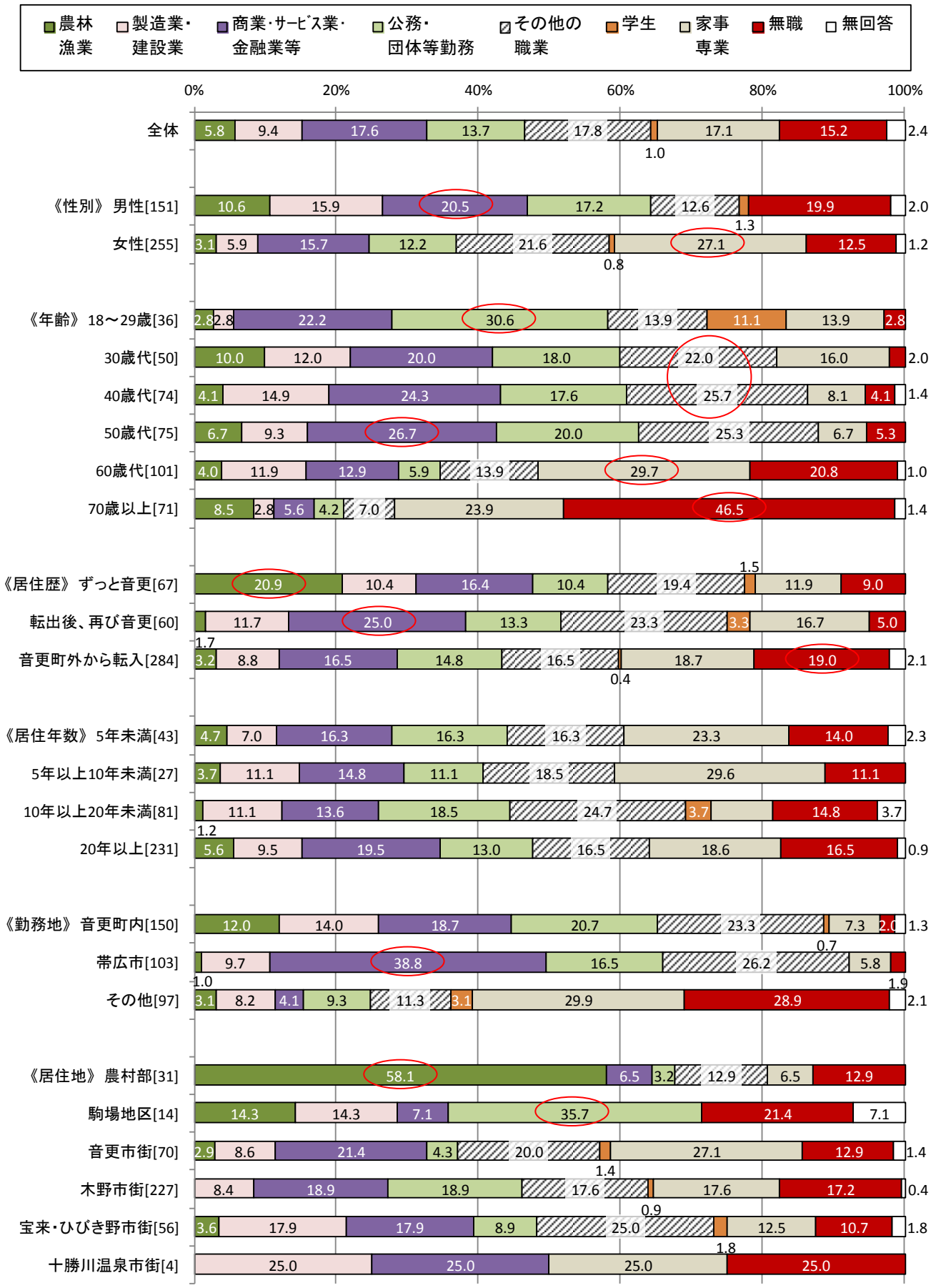
●年齢別でみると、18～29 歳は「公務・団体等勤務」、30 歳代と 40 歳代は「その他の職業」、50 歳代は「商業・サービス業・金融業など」、60 歳代は「家事専業」、70 歳以上は「無職」が、最も高くなっています。

●居住歴別でみると、ずっと音更町の回答者は「農林漁業」、転出後、再び音更町の回答者の回答者は「商業・サービス業・金融業など」、音更町外の回答者は「無職」が、最も高くなっています。

●勤務地別でみると、帯広市内に勤務の回答者は「商業・サービス業・金融業など」が４割近くを占め、他に比べて高いのがめだちます。

●居住地別でみると、農村部は「農林漁業」が約６割、駒場地区は「公務・団体等勤務」が３割以上を占め、他に比べて高いのがめだちます。

7）職業（属性別）


農林漁業
製造業・建設業
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等
公務・団体等勤務
その他の職業
学生
家事専業
無職
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 5.8 9.4 17.6 13.7 17.8 1.0 17.1 15.2 2.4
《性別》 男性[151] 10.6 15.9 20.5 17.2 12.6 1.3 19.9 2.0
女性[255] 3.1 5.9 15.7 12.2 21.6 0.8 27.1 12.5 1.2
《年齢》 18～29歳[36] 2.8 2.8 22.2 30.6 13.9 11.1 13.9 2.8
30歳代[50] 10.0 12.0 20.0 18.0 22.0 16.0 2.0
40歳代[74] 4.1 14.9 24.3 17.6 25.7 8.1 4.1 1.4
50歳代[75] 6.7 9.3 26.7 20.0 25.3 6.7 5.3
60歳代[101] 4.0 11.9 12.9 5.9 13.9 29.7 20.8 1.0
70歳以上[71] 8.5 2.8 5.6 4.2 7.0 23.9 46.5 1.4
《居住歴》 ずっと音更[67] 20.9 10.4 16.4 10.4 19.4 1.5 11.9 9.0
転出後、再び音更[60] 11.7 25.0 13.3 23.3 3.3 16.7 5.0
音更町外から転入[284] 1.7 3.2 8.8 16.5 14.8 16.5 0.4 18.7 19.0 2.1
《居住年数》 5年未満[43] 4.7 7.0 16.3 16.3 16.3 23.3 14.0 2.3
5年以上10年未満[27] 3.7 11.1 14.8 11.1 18.5 29.6 11.1
10年以上20年未満[81] 11.1 13.6 18.5 24.7 3.7 14.8 3.7
20年以上[231] 1.2 5.6 9.5 19.5 13.0 16.5 18.6 16.5 0.9
《勤務地》 音更町内[150] 12.0 14.0 18.7 20.7 23.3 7.3 2.0 1.3
帯広市[103] 9.7 38.8 16.5 26.2 0.7 5.8
その他[97] 1.0 3.1 8.2 4.1 9.3 11.3 3.1 29.9 28.9 1.9 2.1
《居住地》 農村部[31] 58.1 6.5 3.2 12.9 6.5 12.9
駒場地区[14] 14.3 14.3 7.1 35.7 21.4 7.1
音更市街[70] 2.9 8.6 21.4 4.3 20.0 27.1 12.9 1.4
木野市街[227] 8.4 18.9 18.9 17.6 1.4 17.6 17.2 0.4
宝来・ひびき野市街[56] 3.6 17.9 17.9 8.9 25.0 0.9 12.5 10.7 1.8
十勝川温泉市街[4] 25.0 25.0 25.0 1.8 25.0

Ⅲ　設問別調査結果

１　暮らしの満足度・重要度（【問１】）

【問１】音更町での暮らしについておたずねします。

（１）次の分野について、「①現在の満足度」と、「②今後の重要度」を各選択肢（Ａ～Ｅ）からお知らせください。（各項目○は１つ）

１）満足度について（％での比較）

○「満足」が最も高いのは「34.日常の買い物環境」（21.2%）で、「16.ごみの収集・リサイクル」（16.9%）、「29.上下水道の整備」（14.5%）と続きます。

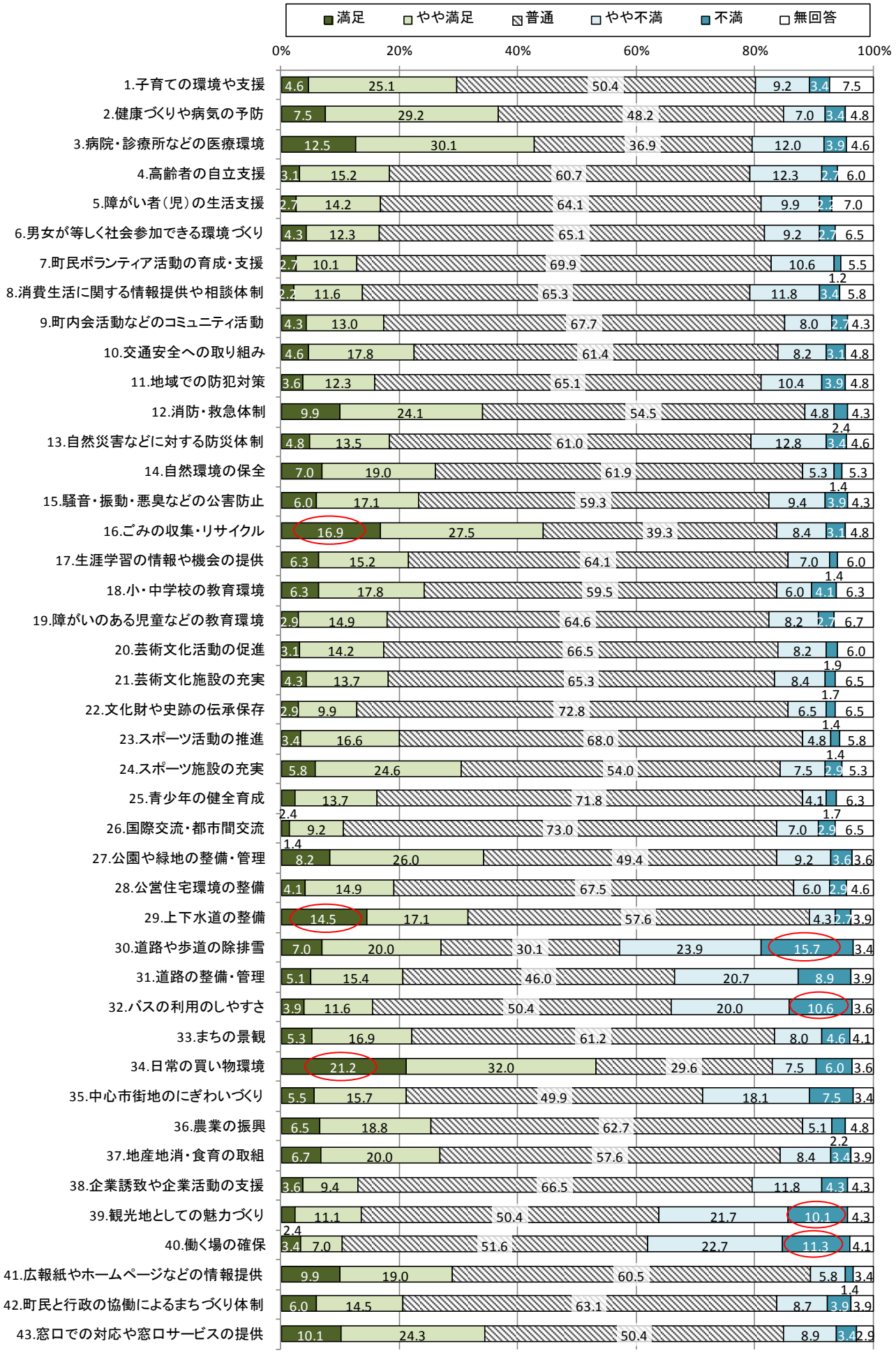
○一方、「不満」が最も高いのは「30.道路や歩道の除排雪」（15.7%）で、「40.働く場の確保」（11.3%）、「32.バスの利用のしやすさ」（10.6%）、「39.観光地としての魅力づくり」（10.1）と続きます。

２）重要度について（％での比較）

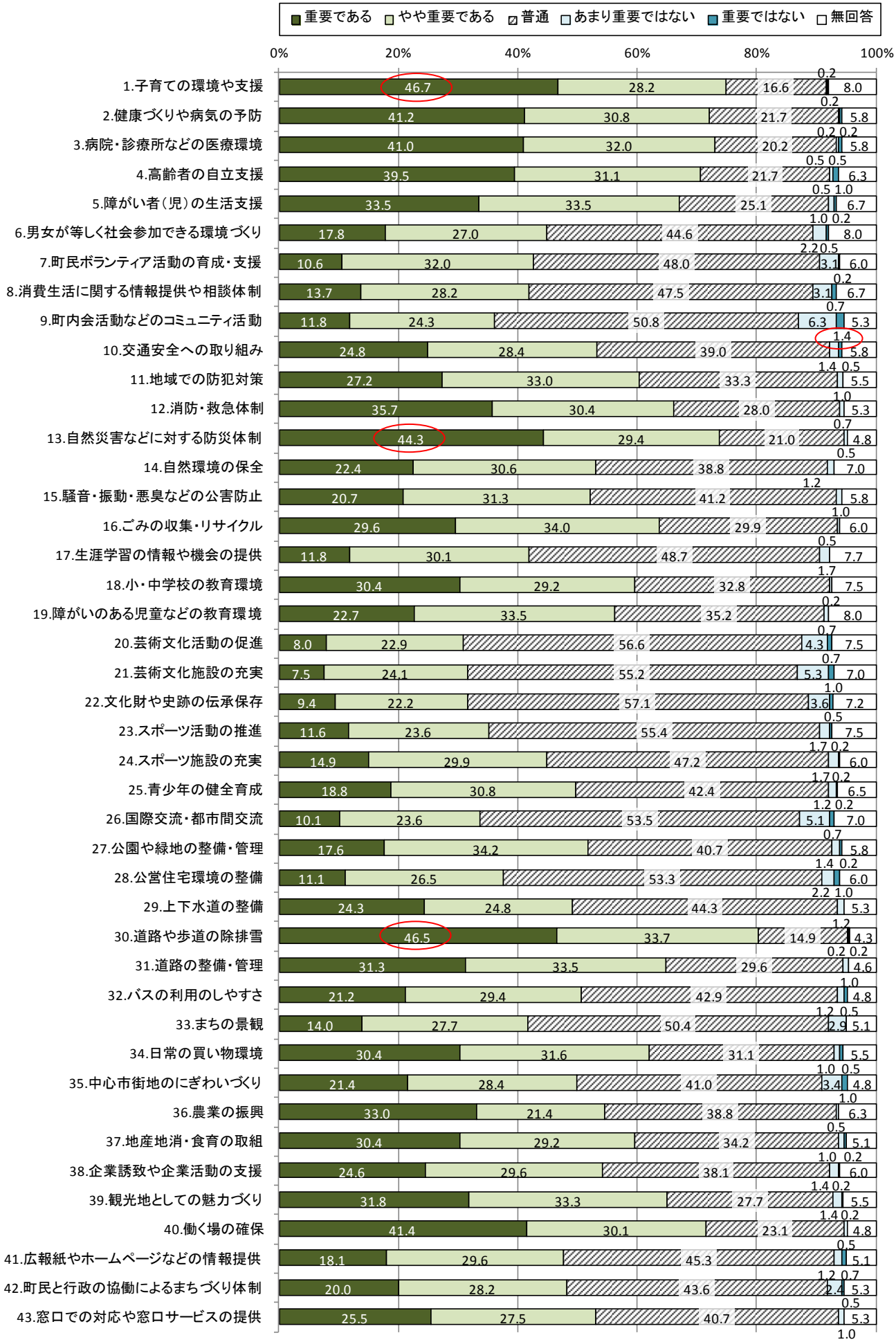
○「重要」が最も高いのは「1.子育ての環境や支援」（46.7%）で、「30.道路や歩道の除排雪」（46.5%）が僅差で続き、「13.自然災害などに対する防災体制」（44.3%）と続きます。

○「重要ではない」が最も高いのは「9.町内会活動などのコミュニティ活動」ですが、1.4%と低い数値です。

【問1】暮らしの満足度について（415人）



【問１】暮らしの重要度について（415人）



3）満足度・重要度について（加重平均値でのマトリックス分析）

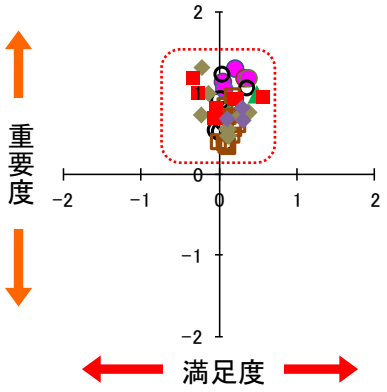
○満足度の加重平均値※が最も高いのは、「34.日常の買い物環境」で、最も低いのは「40.働く場の確保」です。

○重要度はすべてプラスで、最も高いのは「30.道路や歩道の除排雪」で、「1.子育ての環境や支援」が僅差で続きます。最も低いのは「21.芸術文化施設の充実」です。

※「加重平均値」とは回答者が選んだ選択肢から平均を算出した数値です。算出方法は次のとおりです。
満足度：｛(満足×2) +(やや満足×1)+(普通×0)+(やや不満×-1)+(不満×-2)｝ ÷回答者数
重要度：｛(重要×2) +(やや重要×1)+(普通×0)+(あまり重要ではない×-1)+(重要ではない×-2)｝ ÷回答者数
数値は－２から＋２の範囲で、－２に近いほど低く、＋２に近いほど高い、とみます。

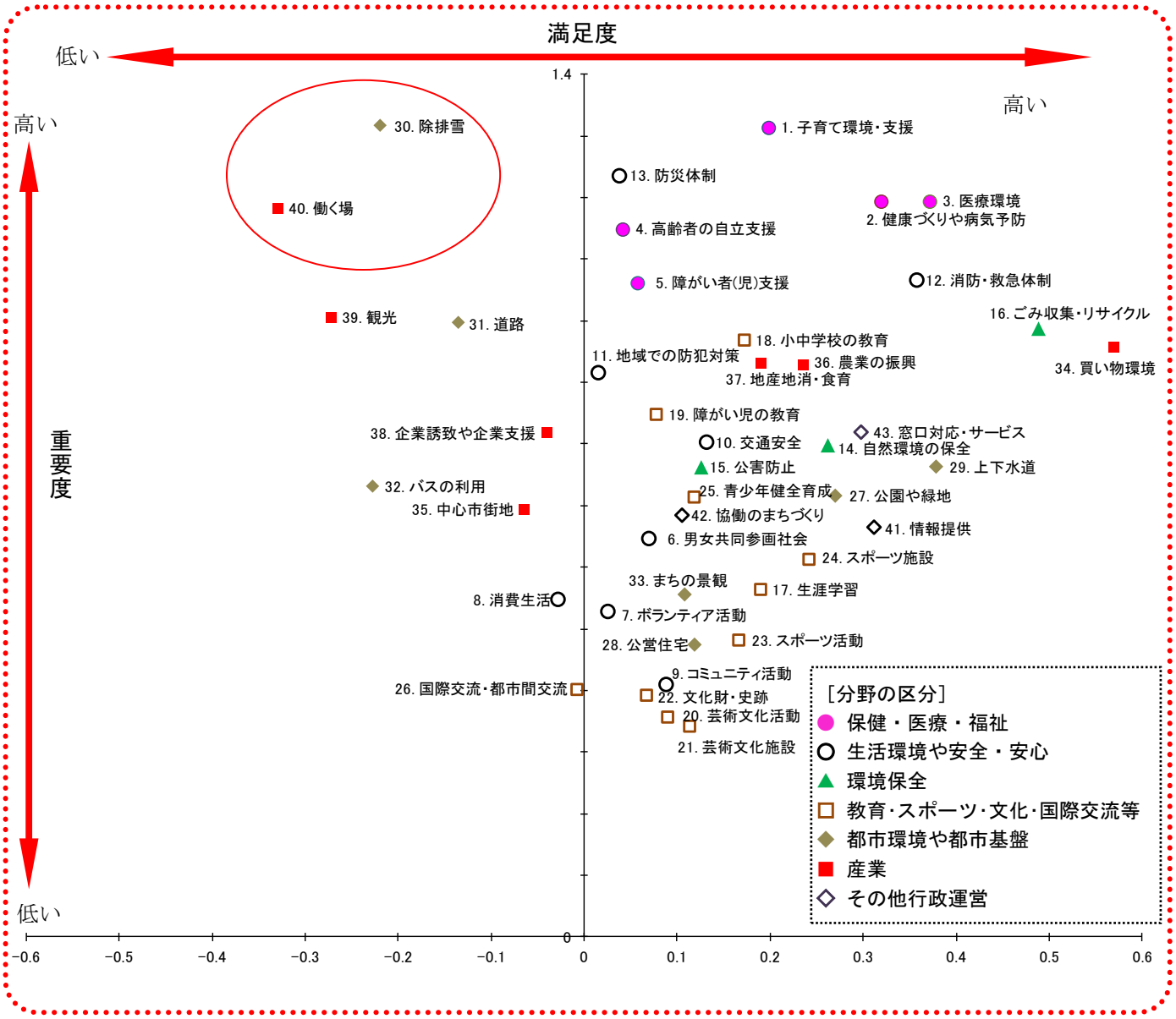
暮らしの項目	満足度	重要度
1. 子育ての環境や支援	0.20	1.31
2. 健康づくりや病気の予防	0.32	1.19
3. 病院・診療所などの医療環境	0.37	1.19
4. 高齢者の自立支援	0.04	1.15
5. 障がい者(児)の生活支援	0.06	1.06
6. 男女が等しく社会参加できる環境づくり	0.07	0.65
7. 町民ボランティア活動の育成・支援	0.03	0.53
8. 消費生活に関する情報提供や相談体制	−0.03	0.55
9. 町内会活動などのコミュニティ活動	0.09	0.41
10. 交通安全への取り組み	0.13	0.80
11. 地域での防犯対策	0.02	0.92
12. 消防・救急体制	0.36	1.07
13. 自然災害などに対する防災体制	0.04	1.24
14. 自然環境の保全	0.26	0.80
15. 騒音・振動・悪臭などの公害防止	0.13	0.76
16. ごみの収集・リサイクル	0.49	0.99
17. 生涯学習の情報や機会の提供	0.19	0.56
18. 小・中学校の教育環境	0.17	0.97
19. 障がいのある児童などの教育環境	0.08	0.85
20. 芸術文化活動の促進	0.09	0.36
21. 芸術文化施設の充実	0.11	0.34（最低）
22. 文化財や史跡の伝承保存	0.07	0.39
23. スポーツ活動の推進	0.17	0.48
24. スポーツ施設の充実	0.24	0.61
25. 青少年の健全育成	0.12	0.71
26. 国際交流・都市間交流	−0.01	0.40
27. 公園や緑地の整備・管理	0.27	0.72
28. 公営住宅環境の整備	0.12	0.47
29. 上下水道の整備	0.38	0.76
30. 道路や歩道の除排雪	−0.22	1.32（最高）
31. 道路の整備・管理	−0.14	1.00
32. バスの利用のしやすさ	−0.23	0.73
33. まちの景観	0.11	0.56
34. 日常の買い物環境	0.57（最高）	0.96
35. 中心市街地のにぎわいづくり	−0.06	0.69
36. 農業の振興	0.24	0.93
37. 地産地消・食育の取組	0.19	0.93
38. 企業誘致や企業活動の支援	−0.04	0.82
39. 観光地としての魅力づくり	−0.27	1.01
40. 働く場の確保	−0.33（最低）	1.18
41. 広報紙やホームページなどの情報提供	0.31	0.66
42. 町民と行政の協働によるまちづくり体制	0.11	0.68
43. 窓口での対応や窓口サービスの提供	0.30	0.82

○タテ軸を「重要度」、ヨコ軸を「満足度」としてグラフで示すと、タテ軸（重要度）では全てプラスの中に、ヨコ軸（満足度）は-４から+６の中に位置づけられます。



の部分を拡大すると、次のようなグラフになります。

○満足度が低くて重要度が高い位置にあるものは「30.除排雪」や「40.働く場」です。



4）満足度について（加重平均での比較）

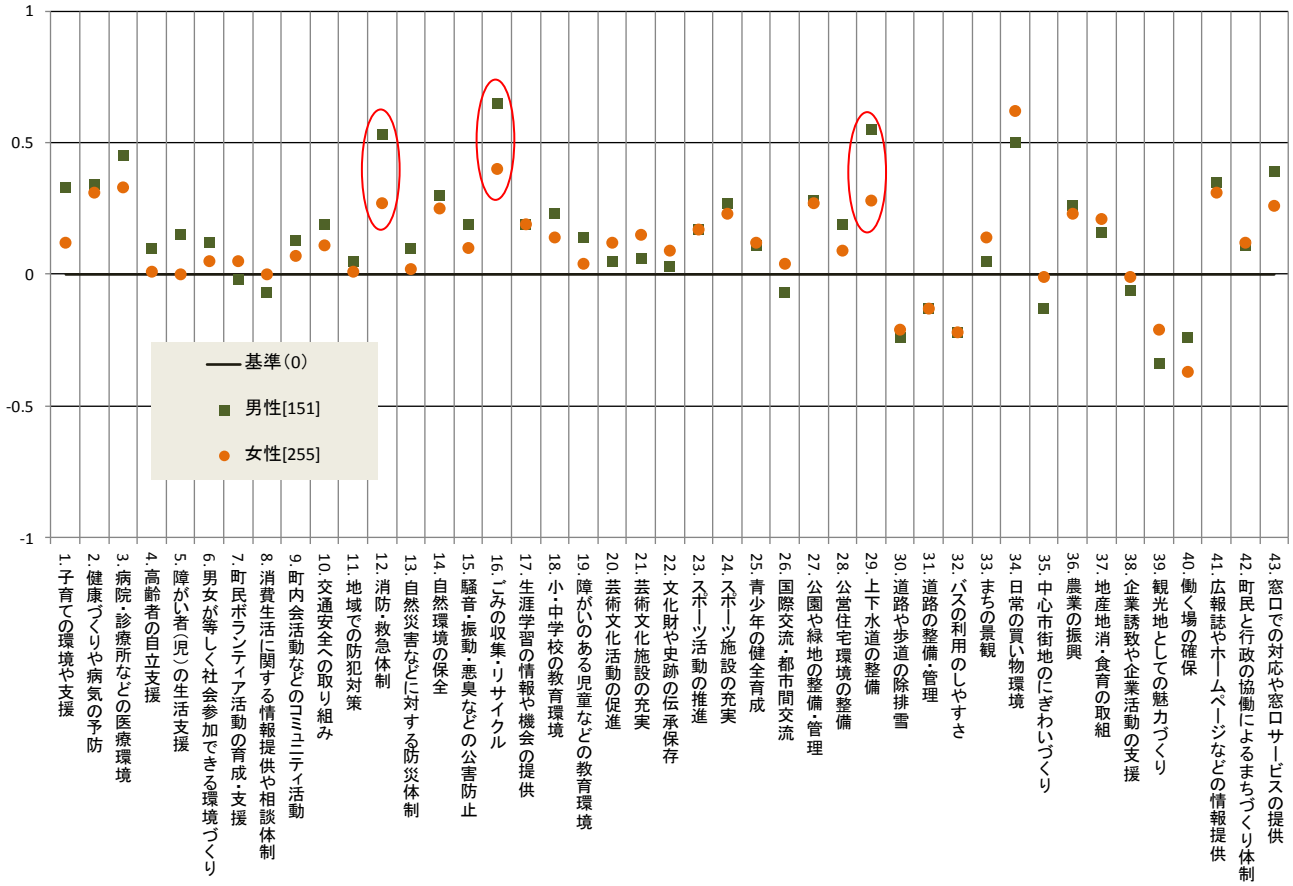
<性別での比較>

- 満足度が最も高い項目については、男性は「16.ごみの収集・リサイクル」、女性は「34.日常の買い物環境」です。最も低い項目については、男性は「39.観光地としての魅力づくり」、女性は「40.働く場の確保」です。
- 43 項目中、男性の方が高い項目は 25 項目、女性の方が高い項目は 15 項目で、男性の方が多いです。
- 男女で差がめだつ項目は「12.消防・救急体制」「16.ごみの収集・リサイクル」「29.上下水道の整備」などで、いずれも男性の方が高いです。

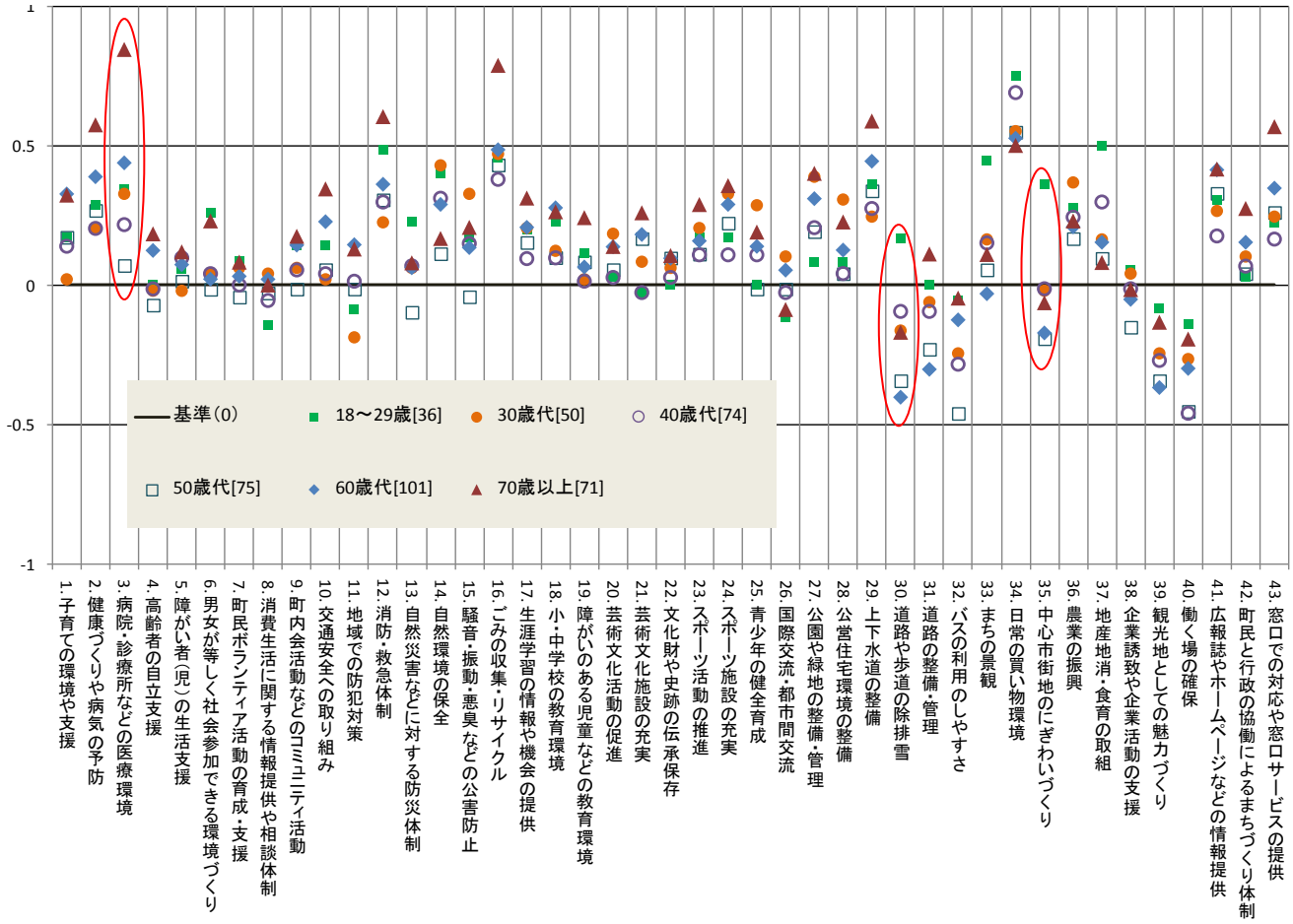
<年齢別での比較>

- 年齢別でみると、最も満足度が高い項目は、60 歳代より低い年代はすべて「34.日常の買い物環境」で、70 歳以上のみ「3.病院・診療所などの医療環境」です。
- 一方、最も満足度が低い項目は、18～29 歳は「40.働く場の確保」と「8.消費生活に関する情報提供や相談体制」（同率）、30 歳代・40 歳代・70 歳以上は「40.働く場の確保」、50 歳代は「32.バスの利用のしやすさ」、60 歳代は「30.道路や歩道の除排雪」です。
- 43 項目中各年齢の中で満足度が最も高い項目が多かった年齢は 70 歳以上で、43 項目中 21 項目を占めています。反対に、満足度が最も低い項目が多かった年齢は 50 歳代で、43 項目中 15 項目を占めています。40 歳代と 50 歳代は 43 項目中満足度が最も高かった項目はありませんでした。
- 年齢で差がめだつ項目は「3.病院・診療所などの医療環境（70 歳以上が最高で 50 歳代が最低）」、「30.道路や歩道の除排雪（18～29 歳代が最高で 60 歳代が最低）」「35.中心市街地のにぎわいづくり」（18～29 歳代が最高で 50 歳代が最低）などです。

満足度について（性別/加重平均）



満足度について（年齢別/加重平均）



前回との比較（満足度）

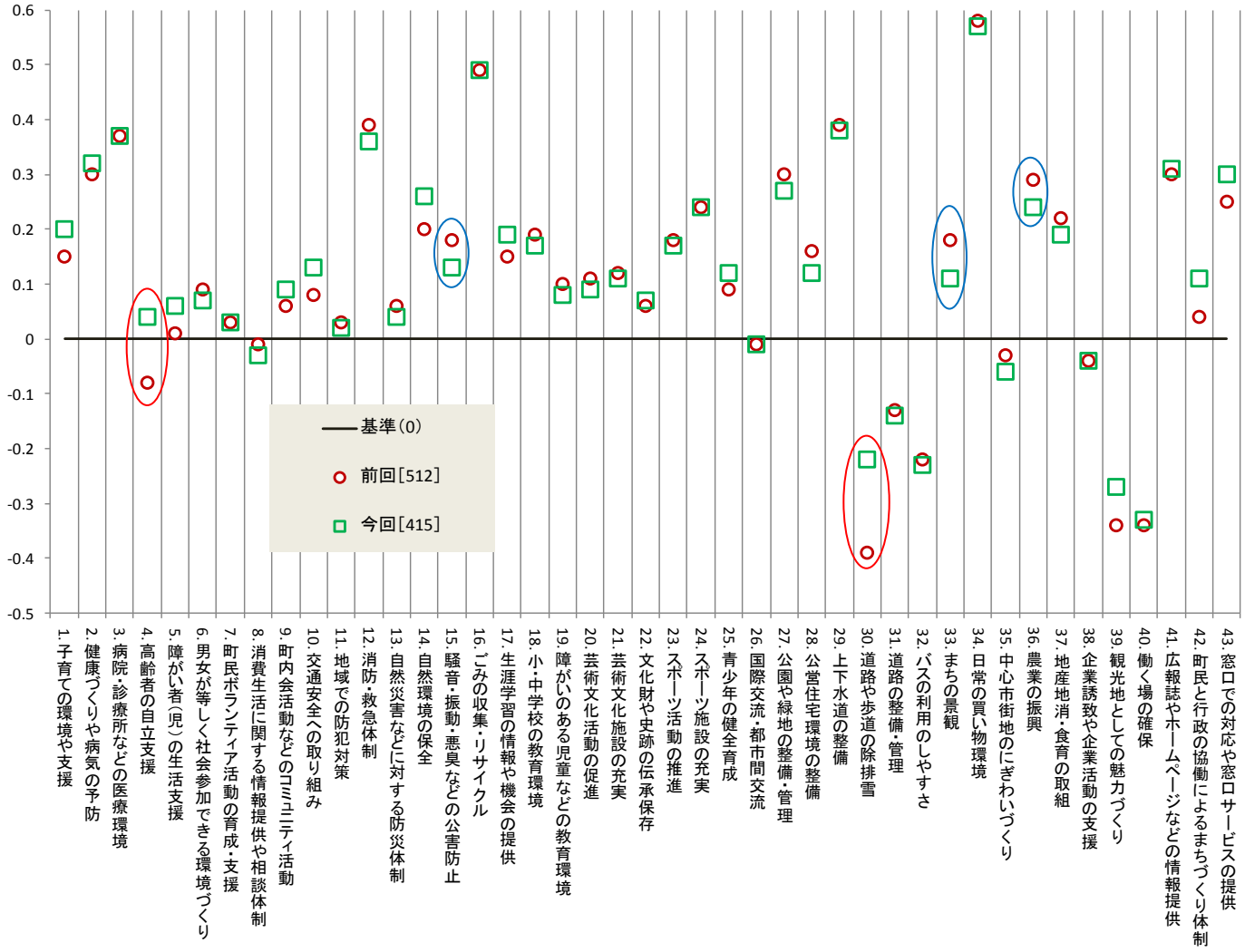
前回と比較すると、43 項目中 16 項目で、前回よりも数値が高く「4.高齢者の自立支援」や「30.道路や歩道の除排雪」※で差がめだちます。

一方、43 項目中 21 項目で、前回よりも数値が低く、「15.騒音・振動・悪臭などの公害防止」「33.まちの景観」「36.農業の振興」などで差がめだちますが、前回と比べて大きく値が落ち込んだ項目はありません。

前回と同じ数値だった項目は 43 項目中 6 項目です。

※一般的に除排雪の評価は、冬期にアンケートを実施した時の方が低く評価される傾向にあります。

満足度について（前回との比較/加重平均）



５）重要度について（加重平均での比較）

<性別での比較>

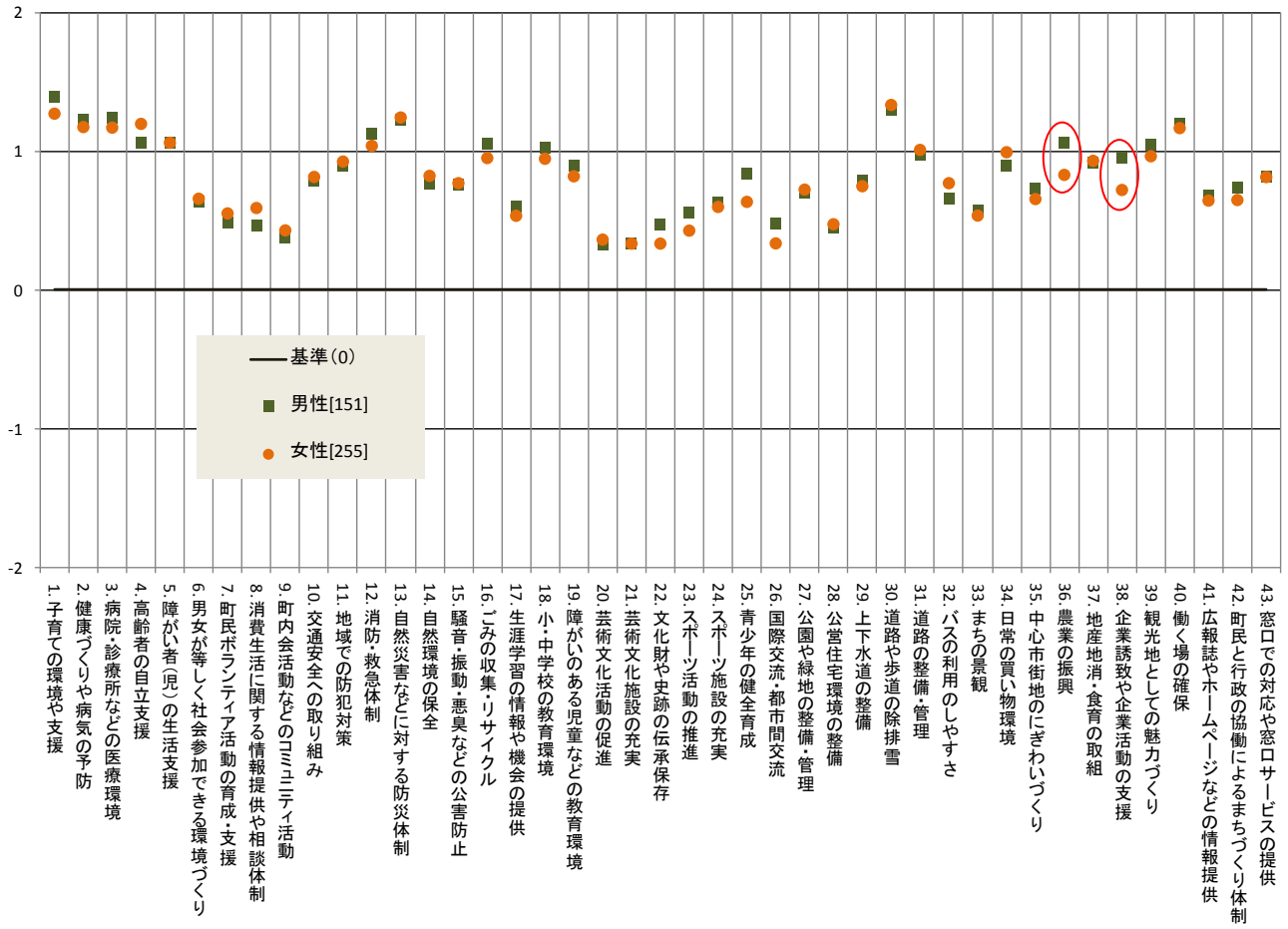
- 男性で最も重要度が高いのは「1.子育ての環境や支援」で、女性は「30.道路や歩道の除排雪」です。男女で最も差が大きいのは「36.農業の振興」と「38.企業誘致や企業活動の支援」で、いずれも男性の方が高いです。
- 性別でみると、男性の重要度が高い項目は 24 項目、女性の重要度が高い項目は 18 項目、同じ数値の項目が 1 項目です。

男性の重要度が高い項目（24 項目）	女性の重要度が高い項目（18 項目）
1. 子育ての環境や支援 2. 健康づくりや病気の予防 3. 病院・診療所などの医療環境 12. 消防・救急体制 16. ごみの収集・リサイクル 17. 生涯学習の情報や機会の提供 18. 小・中学校の教育環境 19. 障がいのある児童などの教育環境 21. 芸術文化施設の充実 22. 文化財や史跡の伝承保存 23. スポーツ活動の推進 24. スポーツ施設の充実 25. 青少年の健全育成 26. 国際交流・都市間交流 29. 上下水道の整備 33. まちの景観 35. 中心市街地のにぎわいづくり 36. 農業の振興 38. 企業誘致や企業活動の支援 39. 観光地としての魅力づくり 40. 働く場の確保 41. 広報誌やホームページなどの情報提供 42. 町民と行政の協働によるまちづくり体制 43. 窓口での対応や窓口サービスの提供	4. 高齢者の自立支援 6. 男女が等しく社会参加できる環境づくり 7. 町民ボランティア活動の育成・支援 8. 消費生活に関する情報提供や相談体制 9. 町内会活動などのコミュニティ活動 10. 交通安全への取り組み 11. 地域での防犯対策 13. 自然災害などに対する防災体制 14. 自然環境の保全 15. 騒音・振動・悪臭などの公害防止 20. 芸術文化活動の促進 27. 公園や緑地の整備・管理 28. 公営住宅環境の整備 30. 道路や歩道の除排雪 31. 道路の整備・管理 32. バスの利用のしやすさ 34. 日常の買い物環境 37. 地産地消・食育の取組
<男性、女性の重要度が同じ値> 5. 障がい者（児）の生活支援	

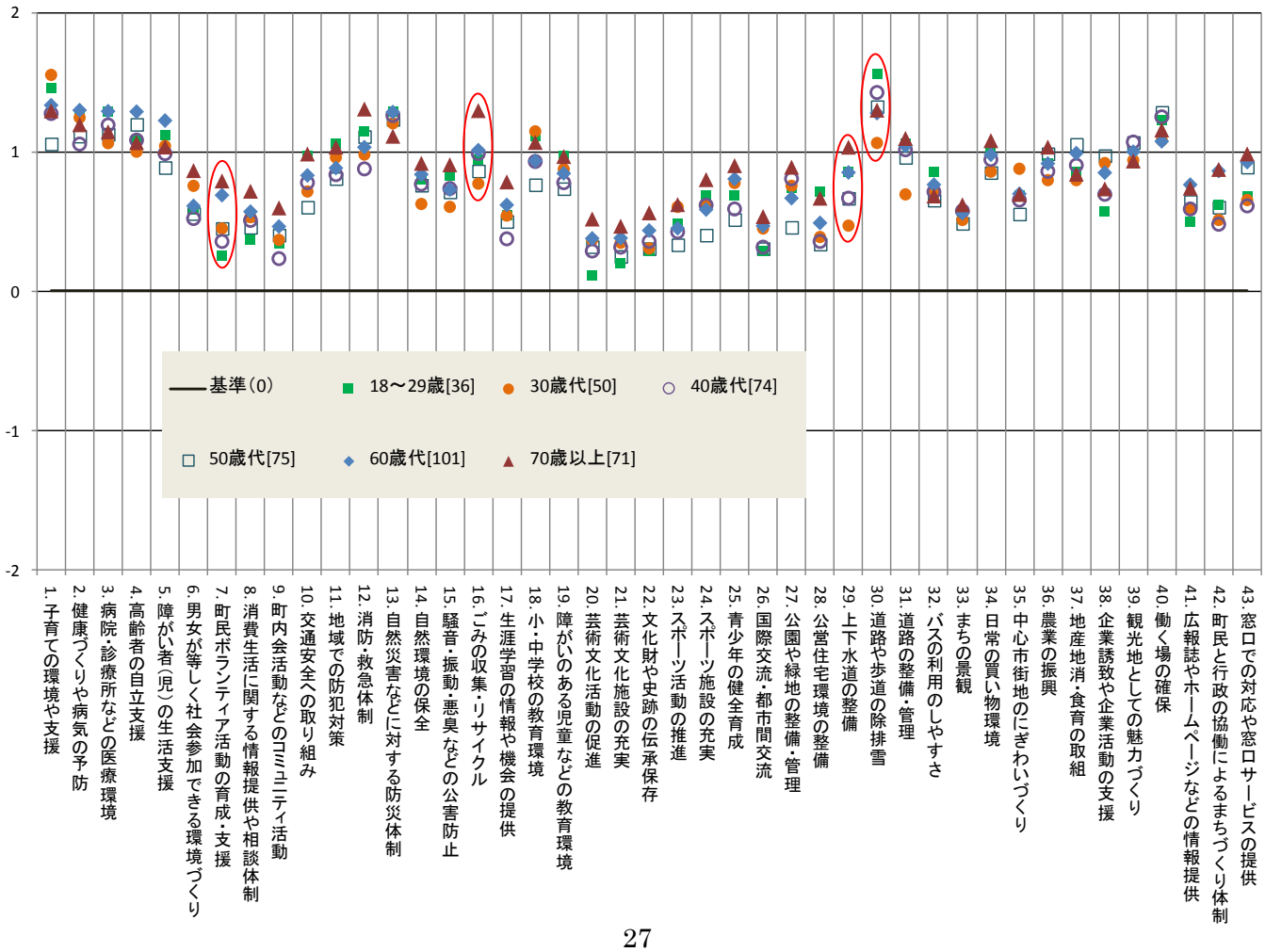
<年齢別での比較>

- 年齢別でみると、最も重要度が高い項目は、18～29 歳・40 歳代・50 歳代は「30.道路や歩道の除排雪」、30 歳代と 60 歳代は「1.子育ての環境や支援」、70 歳以上は「12.消防・救急体制」です。
- 43 項目中重要度が最も高い項目が多かった年齢は 70 歳以上で、43 項目中 25 項目です。次に多かったのは 18～29 歳で、43 項目中 7 項目です。
- 年齢で差がめだつ項目は「7.町民ボランティア活動の育成・支援」「16.ごみの収集・リサイクル」「29.上下水道の整備」「30.道路や歩道の除排雪」などです。

重要度について（性別/加重平均）

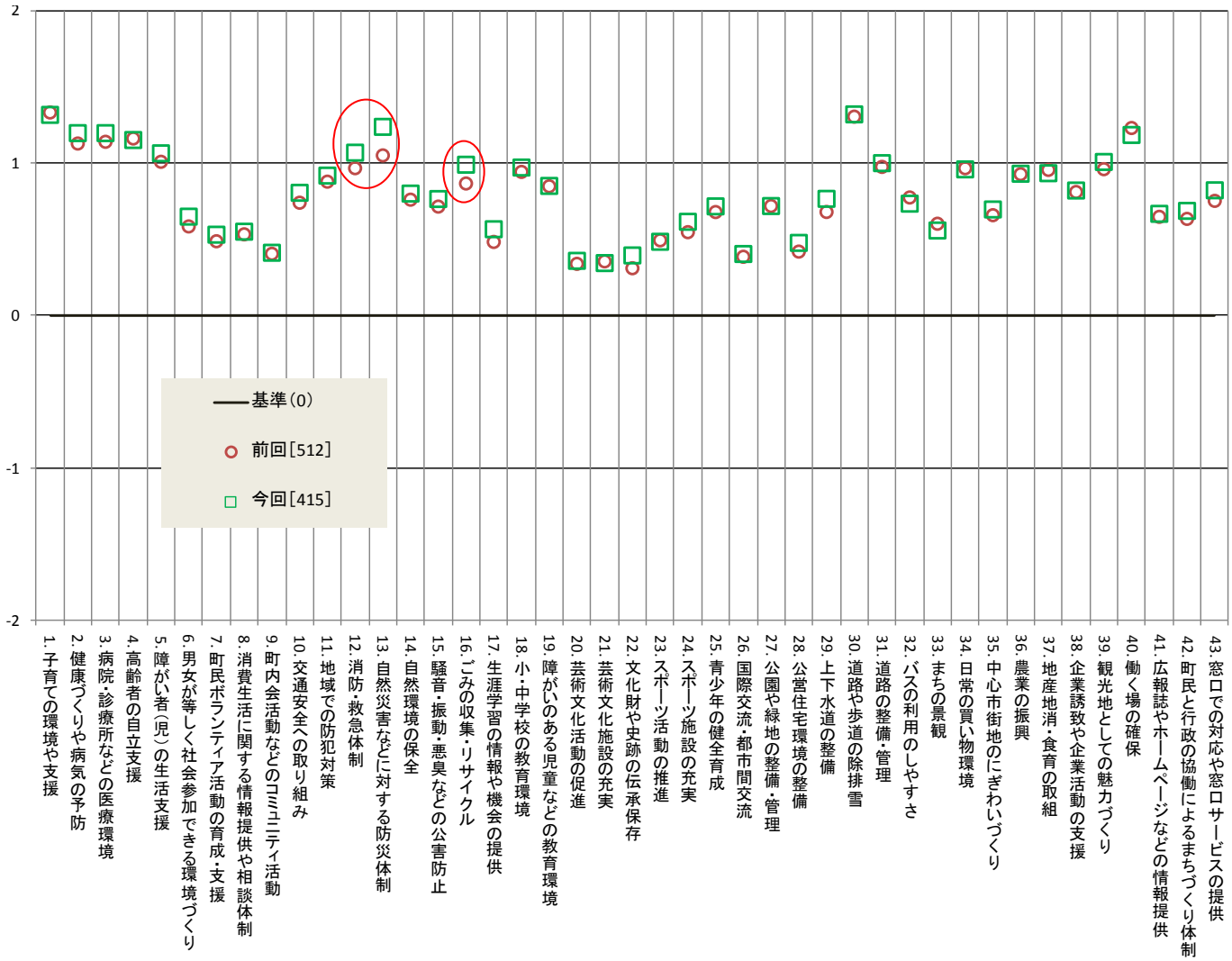


重要度について（年齢別/加重平均）



前回との比較（重要度）
前回と比較すると、43 項目中 31 項目で、前回よりも重要度が高く、「12.消防・救急体制」「13.自然災害などに対する防災体制」「16.ごみの収集・リサイクル」などで差がめだちます。

重要度について（前回との比較/加重平均）

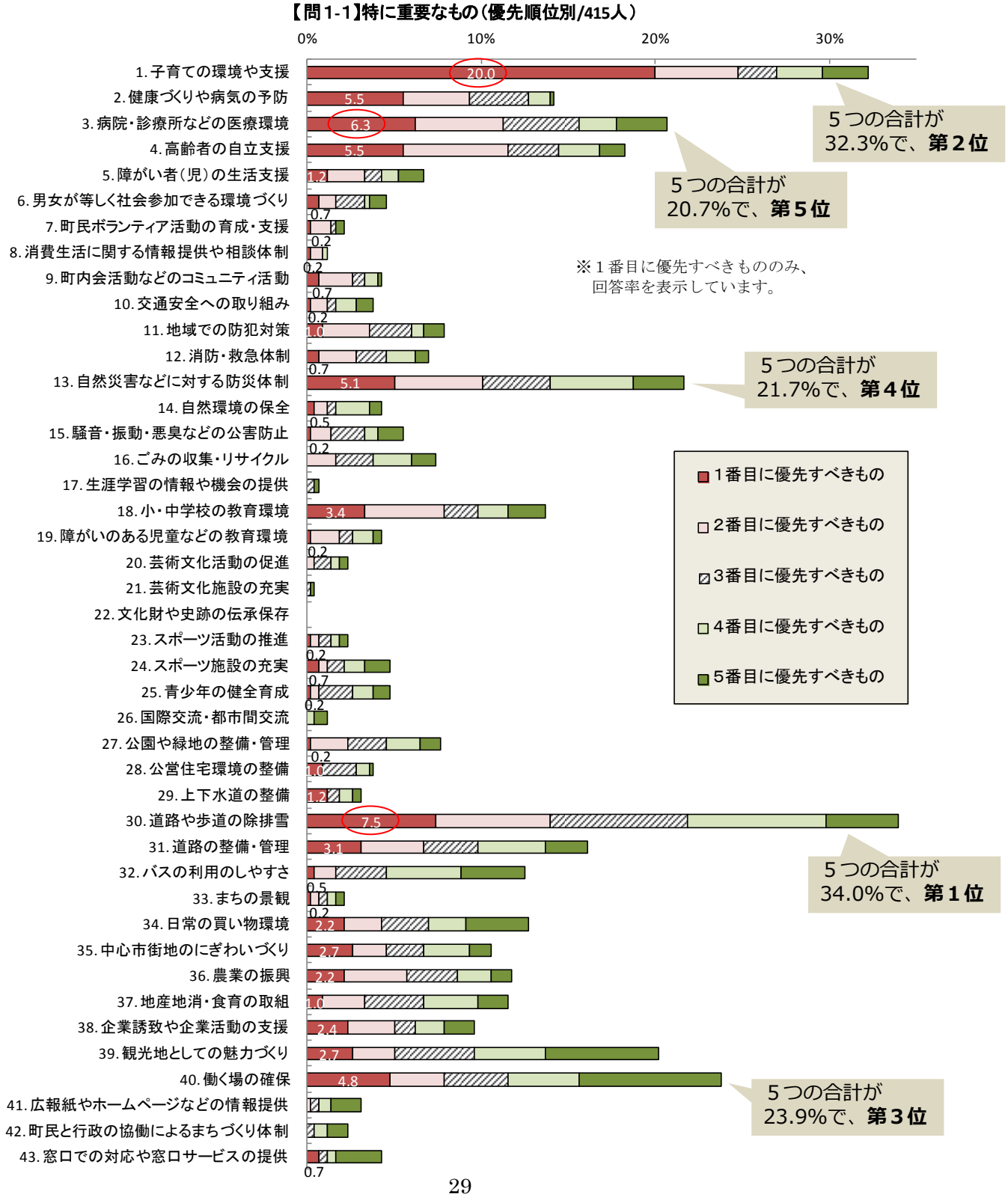


２　今後のまちづくりで特に重要だと思うもの（【問１】）

（２）これまでの全 43 分野の中で、今後のまちづくりに特に重要だと思うものを、優先順位の高いものから順に５つ以内でお知らせください。

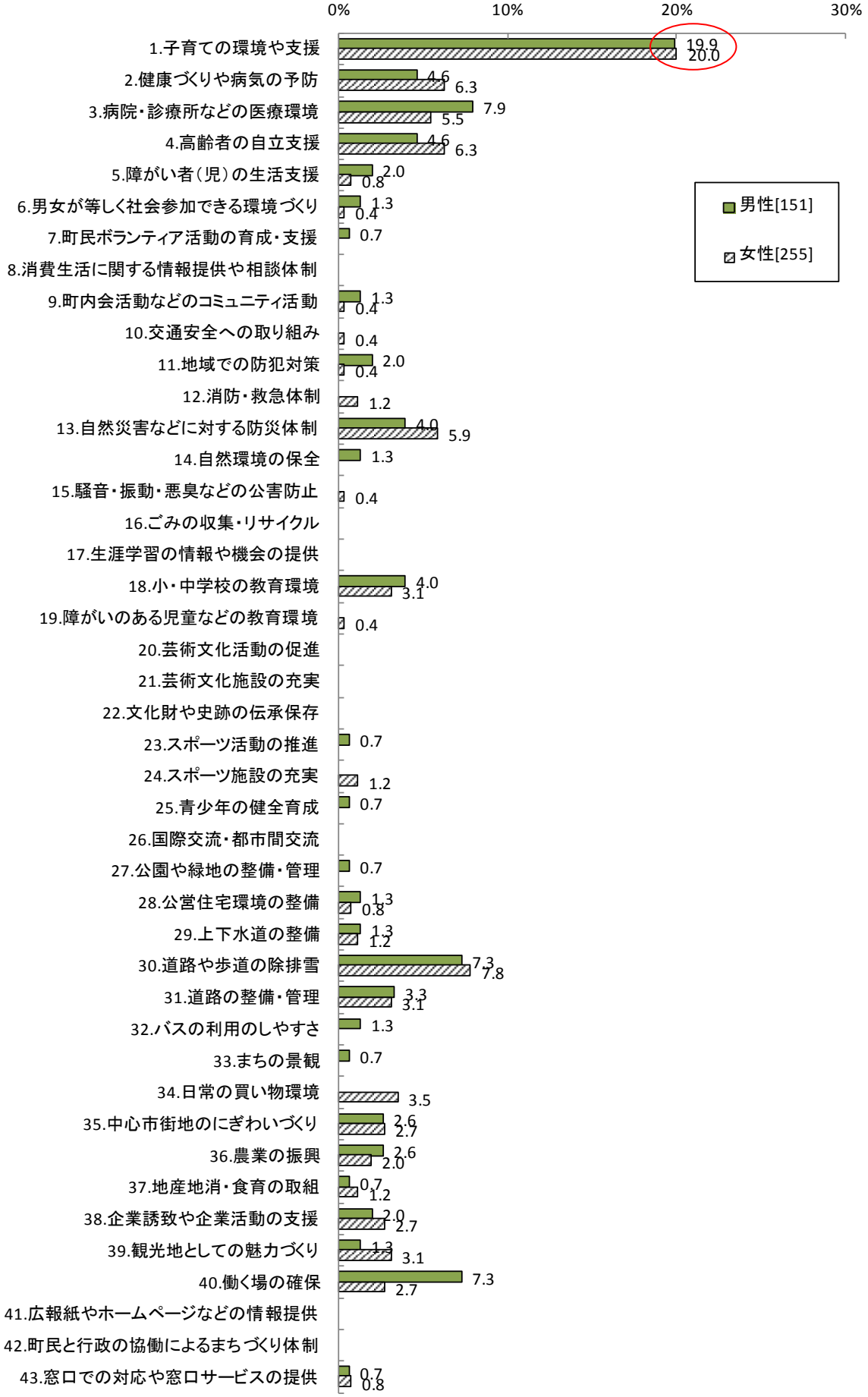
○１番目に優先すべきもので最も高いのは「1.子育ての環境や支援」(20.0%)で、「30.道路や歩道の除排雪」(7.5%)が第２位、「4.高齢者の自立支援」(6.3%)が第３位です。

○１番目から５番目までの合計で最も高いのは「30.道路や歩道の除排雪」で、「1.子育ての環境や支援」が２位、「40.働く場の確保」が３位、「13.自然災害などに対する防災体制」が４位、「3.病院・診療所などの医療環境」が５位です。

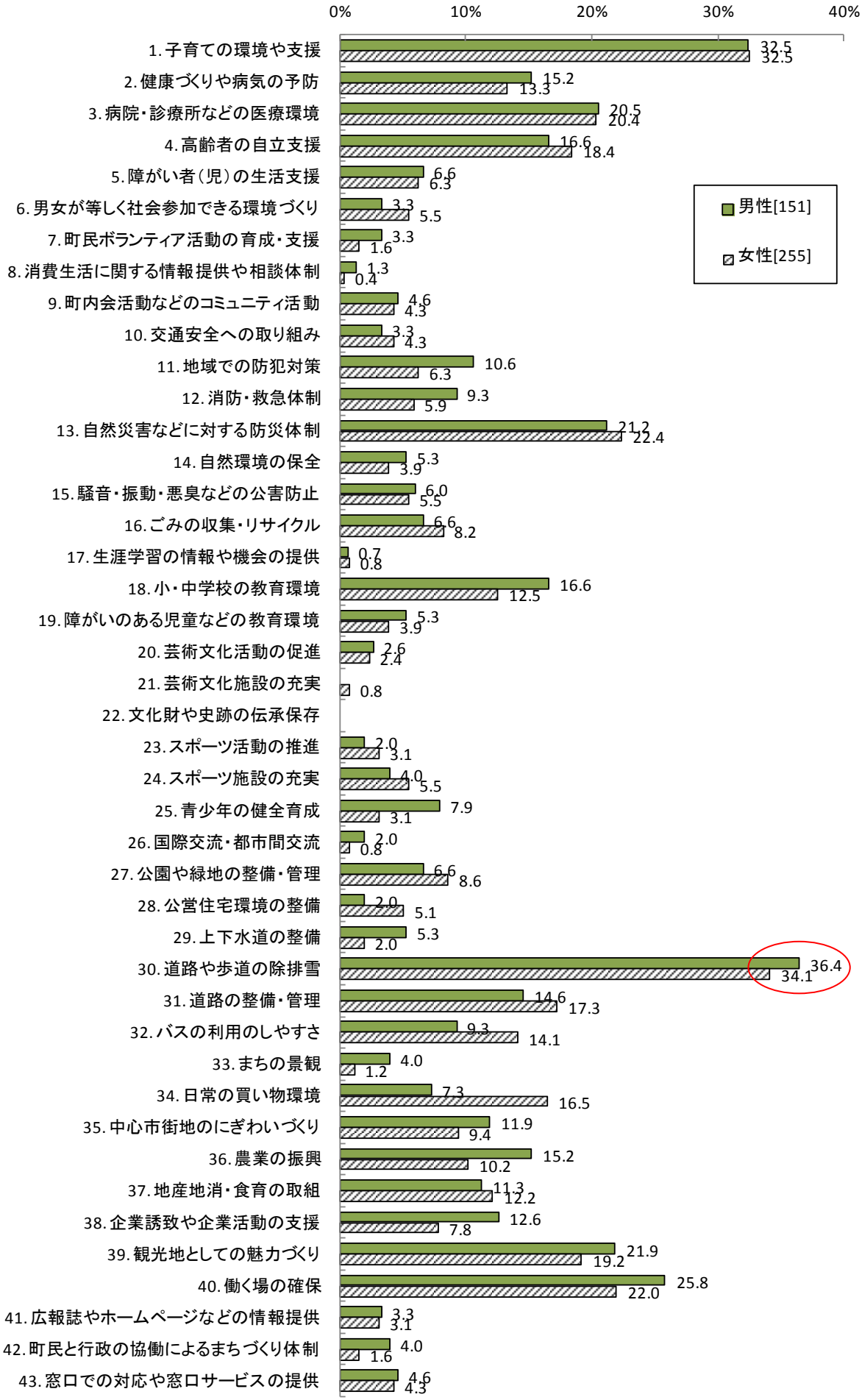


● １番目に優先すべきものを性別でみると、男女とも「1.子育ての環境や支援」ですが、１番目から５番目の合計を性別でみると、男女とも「31.道路や歩道の除排雪」です。

【問１】1番目に優先すべきもの（性別）



【問1-1】1番目～5番の目合計（性別）



Ⅲ-２　今後のまちづくりで特に重要だと思うもの

- １番目に優先すべきものを年齢別でみると、40 歳代以下の年齢と 60 歳代は「1.子育ての環境や支援」、50 歳代は「31.道路や歩道の除排雪」が第１位です。70 歳以上は無回答が最多です。
- １番目から５番目までの合計を年齢別でみると、40 歳代以下の年齢は「1.子育ての環境や支援」、50 歳代と 60 歳代は「31.道路や歩道の除排雪」が第１位です。70 歳以上は無回答が最多です。

「１番目に優先すべきもの」（年齢別、第５位までの順位表）

（　　）の数値は%

	１位	２位	３位	４位	５位
18～29 歳 [36]	1.子育て環境・支援	13.防災体制	3.医療環境　11.地域での防犯対策　14.自然環境の保全　31.道路　34.買い物環境　40.働く場　無回答		
	30.6	11.1	5.6		
30 歳代 [50]	1.子育て環境・支援	18.小中学校の教育	無回答	35.中心市街地	2.健康づくりや病気予防　4.高齢者の自立支援　30.除排雪　31.道路　40.働く場
	34.0	12.0	10.0	6.0	4.0
40 歳代 [74]	1.子育て環境・支援	40.働く場　無回答		4.高齢者の自立支援　30.除排雪	
	24.3	8.1		6.8	
50 歳代 [75]	30.除排雪	1.子育て環境・支援	無回答	3.医療環境	13.防災体制
	18.7	12.0	10.7	9.3	6.7
60 歳代 [101]	1.子育て環境・支援	無回答	2.健康づくりや病気予防	3.医療環境	4.高齢者の自立支援
	17.8	13.9	9.9	8.9	6.9
70 歳以上 [71]	無回答	1.子育て環境・支援	2.健康づくりや病気予防　4.高齢者の自立支援		36.農業の振興
	33.8	8.5	7.0		5.6

「１番目から５番目までの合計」（年齢別、第５位までの順位表）

（　　）の数値は%

	１位	２位	３位	４位	５位
18～29 歳 [36]	1.子育て環境・支援	30.除排雪	3.医療環境　13.防災体制　31.道路の整備・管理		
	47.2	36.1	22.2		
30 歳代 [50]	1.子育て環境・支援	18.教育環境	30.除排雪	40.働く場	3.医療環境　31.道路の整備・管理　37.地産地消・食育　39.観光地の魅力
	48.0	28.0	22.0	20.0	18.0
40 歳代 [74]	1.子育て環境・支援	30.除排雪	39.観光地の魅力　40.働く場		13.防災体制
	47.3	36.5	31.1		25.7
50 歳代 [75]	30.除排雪	40.働く場	1.子育て環境・支援	3.医療環境　13.防災体制	
	42.7	29.3	26.7	21.3	
60 歳代 [101]	30.除排雪	40.働く場	3.医療環境　4.高齢者の自立支援		1.子育て環境・支援　13.防災体制
	42.6	24.8	23.8		22.8
70 歳以上 [71]	無回答	13.防災体制　30.除排雪		4.高齢者の自立支援	2.健康づくりや病気予防
	33.8	21.1		19.7	16.9

（３）（２)で選んだ分野（番号）について、特に実施すべきと思われることがあれば、具体的にお書きください。

※（　）の数字は、複数回答の数です。

子育ての環境や支援	<遊び場、居場所> ・雨天の日に遊べる場所がない <医療費、健診> ・小学生まで医療費の援助を（５） ・中学生まで医療費を無料に（５） ・医療費控除の年齢を上げてほしい。 ・医療費補助の延長 ・夜中、専門医による診察 ・不妊治療の援助 ・低所得者世帯の子育て支援（医療費） <保育園、幼稚園> ・保育園の料金の公平化 ・保育園をもう少し作ってほしい ・保育士の確保、保育料減額、保育園の定員増加 ・保育士の労働条件の見直し。 ・幼稚園の無料化 <助成> ・どの職場でも子供を預け、みていてもらえるような施設。 ・保育園以外で預かってくれる、習い事の送迎、インフル・感染病時に 1 日預かってくれるところ等々、お母さんが働ける環境をつくってほしいです。 ・第 2 子以後の負担軽減 ・共働きの PTA 役員は大変そのあたりの改革を！！ ・高校も完全給食になればいいなあと思う ・子供が歩いていける図書館（分館）が必要。 ・子育て教室等の充実 ・返還なしの奨学金など低所得者世帯の子育て支援（学費等） <その他、子育て支援全般> ・子育て世帯に対する支援を手厚く！！ ・共働き世帯が増加していると思うので、それに対して子育て支援を。 ・子育て世代が移住したくなるような具体的な政策 ・町ぐるみ、又は地域ぐるみの支援が必要。 ・高齢者より子育てに支援がもっと必要である。 ・子供の住みよい環境をつくってほしい。 ・若い方が住みやすい環境づくりを配慮すべき ・若い人が子供をたくさん作れる様な環境作り ・未来のために、子育てしやすい環境や支援を続けてゆくべき。 ・今後を考えると重要 ・20 年～50 年先を見る支援をする必要がある。 ・少子化がすすんでいる。 ・少子・高齢者化社会への施策取組み活動が今後最重要になると思います。
健康づくりや病気の予防	・介護状態になる前に元気な人が参加できる予防のサービス。 ・高齢化になってくるので個人で健康維持のためのきっかけ作りをした方が良い。 ・予防医療の大切さ体力作りの大切さをいかに広めるか。 ・高齢者もデイサービスに行って何をしているのか少しは家の中の事をする事が脳に良いことで体をうごかして人の役に立つようにしてほしいです。

	・乳ガン PET の補助があればありがたい。自費で¥25,000 かかるので ・町で行う健康診断を少し増やす。 ・現状維持を願います。
医療環境	・北十勝地区に総合病院があると便利。 ・他市町に出向かなくてもレベルの高い医療を受けたい。 ・超高齢化が過ぎた後、どの様な医療環境が待つのか、有料施設の利用が出来ない場合どうするのか。 ・町内病院、クリニックの Dr.看護師の質の向上と対応のありかた。 ・沢山在る割には患者を待たせ過ぎ、段取り良く出来ないものか。 ・待ち時間の長さ。半日かかる。 ・待ち時間を減らす工夫
高齢者の自立支援	＜介護＞ ・介護保険でカバーできず、体力的にも弱っているのに、子供の扶養になっているが故に、様々なサービスを利用できない。 ＜施設＞ ・高齢者の終の住処や、それを介護する人が少ないと思います。 ・ホームの充実化と増設。 ・安く入れる施設を作ってほしい。 ＜交流＞ ・高齢者の集える場所を増す。 ＜交通＞ ・自立にあたって参加しやすい環境交通手段が良いこと。 ・高齢化が進む中で、車を利用しない方たちが、ひき込もりにならないよう、なれた路線をつなぐ短距離路線の作成を希望します。例えば木野地区には病院、スーパーがありますが、緑陽台地区、すずらん地区にはあまりバスが通っておらず（コミュニティバスが１日３本のみ）、外出を控えている高齢者が多い。通院や自立している高齢者の体力づくりのためにももっと便数を増やすことを提案します。 ＜高齢者の自立支援全般＞ ・高齢化に向かい、自立可能な年齢を高めていく。 ・高齢化の為、自立は必要です。 ・行政と医療機関との連携（スムーズに流れていない） ・音更町は子供に優しく老人に厳しい町と言われている。
障がい者(児)の生活支援	・障がい者の生活の見守り ・どの職場ででも子供を預け、みていてもらえるような施設をつくり、それらの施設等で必要な軽作業を介護認定と受けている方たちの機能訓練の一貫として行う。軽作業には町内で使用できる商品券を報酬として配布し、同居家族への経済的な支援とすることで孤立化を防ぎ、町内経済への貢献へとつなげる。
男女が社会参加できる環境	・女性の働く環境を充実させるべき。 ・小さい子供がいる家庭でも働きやすい環境。男性でも育休を取りやすい環境 ・町議や町内会長などにもっと多くの女性が必要 ・男女共に月程度の育休、時間休業のしくみづくりを行い、病児保育を充実させてほしい。 ・まだまだ男女が等しく社会参加できていないと思う。
町民ボランティア	・元気であれば、全ての町民が何か一つボランティアに参加できる体制 ・高齢者が気軽に参加出来る環境。 ・シルバー人材センター的なものはないのでしょうか（1 時間で、たとえば畑仕事とか家の片づけとかしてくれるような事） ・人材の確保（人材発掘）
コミュニティ活動	・町内会の中でも高齢化が進み心配！！

	・町内会といっても高齢者が多くなっている以上難しくなっています。時代に合った、もっと別のかたちを作っていかなくてはならない。 ・町内会など高齢化が進み、脱会者が増えている。町でもっと対策を考えるべき。 ・町内近隣同志の交流、あいさつ等 ・農村地域はあまりない。集まる場所も遠い。 ・役場業務の下請をさせている様だ。
交通安全	・十勝大橋の音更側の道路の改善。危険な場合が多い。 ・横断歩道のない所での横断（特に大人の方）梢⇔花園団地の横断歩道がほしい ・手押し信号、横断歩道の増化 ・危険な道路がありすぎです。 ・交通マナーをもう少し強化するべき ・ドライバーの教育、運転マナーの悪さが目立つ ・自動車だけでなく歩行者自身の意識向上や、自転車の半年に１度ほどの講習会
防犯対策	・人間関係が築けない時代の人たちが多くなっている昨今なので、カメラも考えてほしい。 ・他の住宅地に比べ宝来地区の街灯が少なく暗い！
消防・救急	・緊急なのに対応が遅い ・高齢者対策 ・今後独居老人が増えた場合、スムーズな体制が整えられているのか？
防災	＜河川対策＞ ・音更川の整備をもっとして下さい。 ・音更川付近の浸水の改善 ・河川敷の大木に憂慮 ・河川の氾濫 ＜災害時の体制、情報伝達＞ ・従来の自然災害の基準の見直し。 ・先日の洪水災害で情報の充実や避難場所の整備。 ・TV、ネット情報等以外に高齢者の避難するタイミングが分りやすいよう伝えてほしい。 ・避難所の収容人数がぜんぜん足りてない。即刻増やすべき。冬はどうするの？ ・無駄足に成ってもよい早目の指示を。 ・今回の台風の被害を機に、改めて防災体制を整えてほしい。 ・台風 10 号の教訓をもとに現体制の見直しをし、町民への啓蒙を続ける。 ・いつなにがおきるか分からないので、自然災害への警報、注意などをよりいっそう強化してほしい。 ・町内会等の防災体制が形だけで終わっている。 ＜日頃の啓発、情報提供＞ ・異常気象に対応する対策、心構え。 ・町としての防災訓練の実施に町民も参加して取り組んでは？ ・想定される被害をもとに、訓練するなどの、減災を考えた施策を。 ・ハザードマップはもらっているが、大雨で洪水などがあった時、具体的に何からすればよいかわからないので教えてほしい。 ・食料や日常品の備蓄情報など町民にアピールしてほしい。
自然環境の保全	・河川敷の木の高さの調節が必要だと思います。
騒音・振動・悪臭	・住宅地、空地の管理（雑草・ゴミが多い） ・となりでゴミを燃やしているので、くさい。 ・春先の畑の土の粉塵対策 ・吠える犬のいる家には個人ではなく行政が対応してほしい。 ・夜中にバイクの騒音がうるさい。

ごみの収集、リサイクル	・カラス対策 ・ゴミ収集場所が遠い。2K 以上アリ。 ・燃やせるゴミのより早い回収。来る時間が遅い。 ・高齢者がごみを出しやすいようにしてほしい。今の数では多すぎて混乱してしまい、ゴミを出せないでいる人も沢山いる。 ・もっと細かい分別でも良い。 ・スプレー缶などガスぬきをしないでも収集する方法は？ ・ごみの収集について中を開けて見ていました。
生涯学習	・大人一人でも参加できる生涯学習の企画が少ない。
小中学校教育	・少人数学級の実現 ・テレビなどの充実。 ・小学校の教室の窓に網戸がない所があり、暑い日は子どもたちが体調を崩しやすい。 ・鈴蘭小学校の支援教室の整備。どうして下音更小学校とあんなに違うのか。大至急鈴蘭小学校と下音更小学校の環境の違いを見学してほしい。見学すれば絶対その違いが理解出来ます。 ・古い校舎を、小手先の修復で乗り切ろうとする考え方が町民の側に立っているとは思えない。教育予算が少なすぎてはずかしい。 ・スケートリンクの当番を民間委託する。仕事で行けない為 ・塾へ行かずにもっと学習出来る場を！！ ・一部の若い先生が夜間商業施設の駐車場でたむろっている等ない様に。 ・教諭が生徒の見える所でスマホゲームをするのは良くないのでは？ ・教師の教育知識向上（ADHD などの障がいへの理解） ・勉強のレベルを上げるように、先生たちにもっと熱心になってほしい。 ・学校により児童、生徒数の片寄りが多い。 ・学校や保護者、子どもの意見の尊重 ・教育の原点に！教育は大切です、しかし教え方によっては bad にもなる ・教育予算を多くし、教材等の日常教育活動が豊かになる保障が必要 ・第 3 者による見直し、改善 ・教育委員会は学校現場をわかっていません。たくさんの子供達が支援を必要としています。 ・真に児童生徒の将来(未来)を考えた教育(特に教員) ・もう少し先生も親も勉強すべき。
障がいのある児童の教育	・障がい児童とその親に対する、ケアを含めた支援、支援する側の研修等の参加。療育病院との連携。 ・障がい児童のひろいあげ ・特別支援の先生以外の先生も一緒にあたり前に支援にあたる。 ・ハンデがある方への教育環境が整わないと子どもを産む事すらあきらめる人も居る。
芸術文化（施設・活動）	・新しい表現（デジタル映像等）の作品展示の場がない。 ・全道や全国で活躍している人達の公演、講演、実演を増やす。 ・幅広い世代が観る事の出来るものをたくさん来てほしいです。 ・文化活動に対する助成の充実
スポーツ（活動、施設）	＜活動＞ ・全道や全国で活躍している人達の公演、講演、実演を増やす。 ・大学、実行団の合宿誘致 ＜施設＞ ・少ない、空き施設の活用を考えて ・各種目スポーツに最低１か所ずつ競技施設を。 ・スポーツ施設が 1 か所に固まっているので子供の多い地区にも必要。歩いて行ける範囲に。

	・近くに、スポーツする所があれば良い。 ・既設施設への改修等による機能の更なる充実を。 ・室内球技場（木野地区健康増進センター）の施設が老朽化と地震によって、コートがデコボコになっている。整備願いたい。 ・体育館が小さい。 ・駐車場が少ない。室内練習場がほしかった。 ・病気や肥満予防、医療費削減の為に筋トレ施設を木野にも増やして下さい。サンドームへ通っていますが車を持ってない人は、利用しないですから、自転車で通える所に増やしてほしいです。
青少年の健全育成	・音更は全体的に教育に関して熱心ではない。 ・中学生が荒れすぎている。
国際交流・都市間交流	・町に住む外国人と交流できる場をたくさん作ってほしい、そこから語学も学べたらよい。
公園や緑地	・公園（特に水辺）を清潔にしてほしい。 ・水遊びの場の水が汚い。 ・公園近の街灯が暗いと思います。 ・公園にある簡易トイレが汚い。 ・遊具が少ない。トイレが汚い ・公園に鉄棒がほしい。管理の状態はとても良いと思います。 ・公園をもっと利用しやすく整えて！ ・鈴蘭公園の木が繁りすぎているので上の伐採をしてほしい。 ・整備がたりない。 ・誰もが利用する場所なので色々な形で整備されるといいと思います。 ・鉄道交通公園の機関車の管理、保存状態が展示機関車として日本一最低、最悪、はずかしい。 ・冬に室内で思いっきり遊べる場所がない。室内の公園みたいなものがほしい。管外にある、キャンプ場の近くにある室内アスレチックのようなもの。十勝川温泉の方にあるといいと思う。 ・宝来中央公園のバックネットの穴を直すべき。 ・利用されていない施設の利用と管理。
公営住宅	・古い公住の建替（柳町）。 ・もっと、公営住宅を増やしてほしい。 ・家賃が高い、戸数が少ない。 ・この地域では車がないと行動に支障があるので一家に一台ではなく、１人に１台にしてほしい。 ・公営住宅に住んでいる人自ら整頓清掃をする。
上下水道	・上下水道が出来てから年数を経ているので。維持のため整備必要。 ・水道水がおいしくない。特に大雨後カルキの入れ方がへたくそ。 ・水道水がまずい、日高山系の水に切替えるべき。 ・水道代がもう少し安くなるようにしてほしい。 ・水道料金が、全国的にみてもトップクラスで高い、見直してほしい。
除排雪	＜時間＞ ・除雪時間が遅い（２） ・通学の除雪をもっと早めの時間にする。 ・冬休みになると除排雪がとくに遅い。 ＜仕方、回数＞ ・家からの出入口を排雪で塞がないでほしい（４） ・家の前に雪をおいていくのをやめてほしい（４） ・業者によって、除排雪がきれいにされていない、ムラがある（３） ・除雪車が自宅の敷地に雪をまきちらす事の改善

	・狭い道の除排雪が悪い。 ・へたくそすぎる。 ・除雪の仕方が悪い。真夜中 1 回だけの除雪で終らせている。１回だけではなく２度（回）願いたい！ ・大きな通りは除雪されていても住宅街に入るとされていない事が多い。 ・高齢者が多くなり道路のわきに雪山が。きれいに雪をよけないのですべります。 ・小・中学生の通学路に積雪の山有り危険な場所にある。 ・住宅街の道路は 2 回除雪車が走っているのに片道分しか除雪されておらず、重い大量の雪を道路分まで住民が除雪することはできなくて、小学生が危険になっている。大変だとは思いますが細い住宅街の道路も手抜きしないで除雪していただきたいです。 ・町営住宅の除雪！！維持費等余っているのになぜ自分で除雪するの？ <排雪> ・除雪時裏通りの交差点各角に出来る雪山の排除（４） ・雪の捨て場がない。作ってほしい。 ・排雪を伴う除雪体制。 ・温暖化により降雪量も増えて来ている。排雪も必要 <除排雪全般> ・道路・歩道はかんぺきに。 ・除雪は歩道の確保をしっかりしてほしい。 ・冬場に通行できない歩道がある。除雪が入れない。 ・水はけが悪く、大きな水たまりができる。 ・除排雪時に電話を何度しても出ないって、どうゆうこと？ ・冬期除雪に不満はないが、路上駐車をなくし、現状維持することを望む。 ・音更は他の町に比べて、きれいだし早いと思う ・現状のままで充分、音更の除雪は早く、きれいだと思う。
道路、歩道	<渋滞> ・大通りを２車線に（３） ・大橋の渋滞を改善してほしい（２） ・国道の渋滞がひどい。 ・国道にゼブラ模様が描かれて以降、渋滞がひどい。 ・十勝大橋の渋滞解消 ・木野地区から十勝大橋への渋滞の解消を望む。 ・毎朝の渋滞何とかしてほしい <補修> ・穴があいた道路、段差のある歩道が多すぎる。補修を。 ・柏寿台の東西線（公園北側）が凸凹ひどく走りにくいです。 ・自宅横の道がデコボコ、振動がすごい。 ・住宅街の道路の起伏が激しいので整備してほしい。 <歩道> ・歩道のない道路をなくす。 ・歩道の草刈りで草地側は刈ってあるが道路脇の草が抜かれていないので雨の日は足もとがぬれます。 <その他> ・車社会なので道路整備は重要と考えますが、安全面でも対策していただきたい。 ・市街地につながる道路整備 ・自転車道路を作る。安全に自転車が乗れる様、通学、通勤の車利用を減らす。 ・町道の整備（柳町団地～国道） ・道路にまで個人所有の木の枝がはみ出している。
バス	・バスの利用者アンケートをとるべし

	・バスの本数を増やす。 ・バス本数、すくなく老後が心配なので ・高齢者になり車が使用出来なくなったら、福祉センターの前でバスに乗りたい。また切符を福祉センターで購入出来る様にしてほしい。 ・車の運転が出来なくなった時に、バスの本数が少ない。コミバスが利用できない地域についてもっと何か考えて。 ・通勤、通学時のバスの台数を多くしてほしい。 ・高齢者のバスの無料化。 ・バス運賃をやすくし、本数を増やせば、乗る人も増えると思う。 ・バス路線の見直し ・農村部に公共バスが通らない ・都市間バスの乗り場が屋根もなく、雨、雪の時ぬれる（福祉センター行きバスターミナルを作っては？） <コミュニティバス> ・コミニティバスの経路を増やしてほしい(冬季だけでも) ・コミュニティバスが一部地域で実施されていますが範囲を拡大するといいなと思います。 ・バス代が高いのでコミバスの最終時間帯に 1 本増便してほしい（7～9 月は特に）
まちの景観	・国道 241 号線をもっときれいに！木も花も少ない。 ・住む人も観光客も気持ちよく音更に滞在するには景観は重要だと感じます。新しい物ばかりでなく古いものも修繕し維持していただきたいです。 ・潰れそうな建物は危ない。
商業、買い物環境	・買物、病院、金融等に行くのに困る。 ・買い物弱者を出さない工夫 ・高齢化が進むなかで、交通手段の便を考えるべき。 ・住宅が増えている、宝来かひびき野あたりにスーパーがあれば便利。 ・集落内にお店が１件もなく、このままでは限界集落になってしまう。 ・ショッピングモールをつくる。 ・てっとり早く人を集めたいなら、魅力的なお店があればいいと思います。 ・本町にスーパーが１件しかない、農協スーパーが無くなったらどうするのか？ ・本町の商業施設の少なさ。 ・予定されていた商店もできず、近くにあったお店もなくなり、高齢者は不便。小さなお店が必要。
中心市街地	・どこが中心かな？ ・中心市街地は２分化している。 ・学生が遊べる施設を作る。 ・暗い、楽しめる所が無い。 ・町民が楽しめる場所を作ってほしいです。温泉の方にどうやって１人暮らしの人が行くんですか。 ・活動が消極的すぎる。１つのイベントを続けてみては。 ・帝繊の跡地開発（企業誘致等） ・プロスパの利用を考える必要がある、十勝川温泉水の活用を考えるべき。
農業	・農産物の地域差別化政策。 ・新産品の開発。 ・ブランドの確立。 ・食の安全についてをアピール or.教育を望む。 ・日本一の生産量や耕作地などについて町民にもっとアピールが必要。 ・農家があって町が成り立っている。
地産地消・食育	・地場産品を生かした食品の開発（しそジュース・ゼリー、ルバーブジャム・ソース）

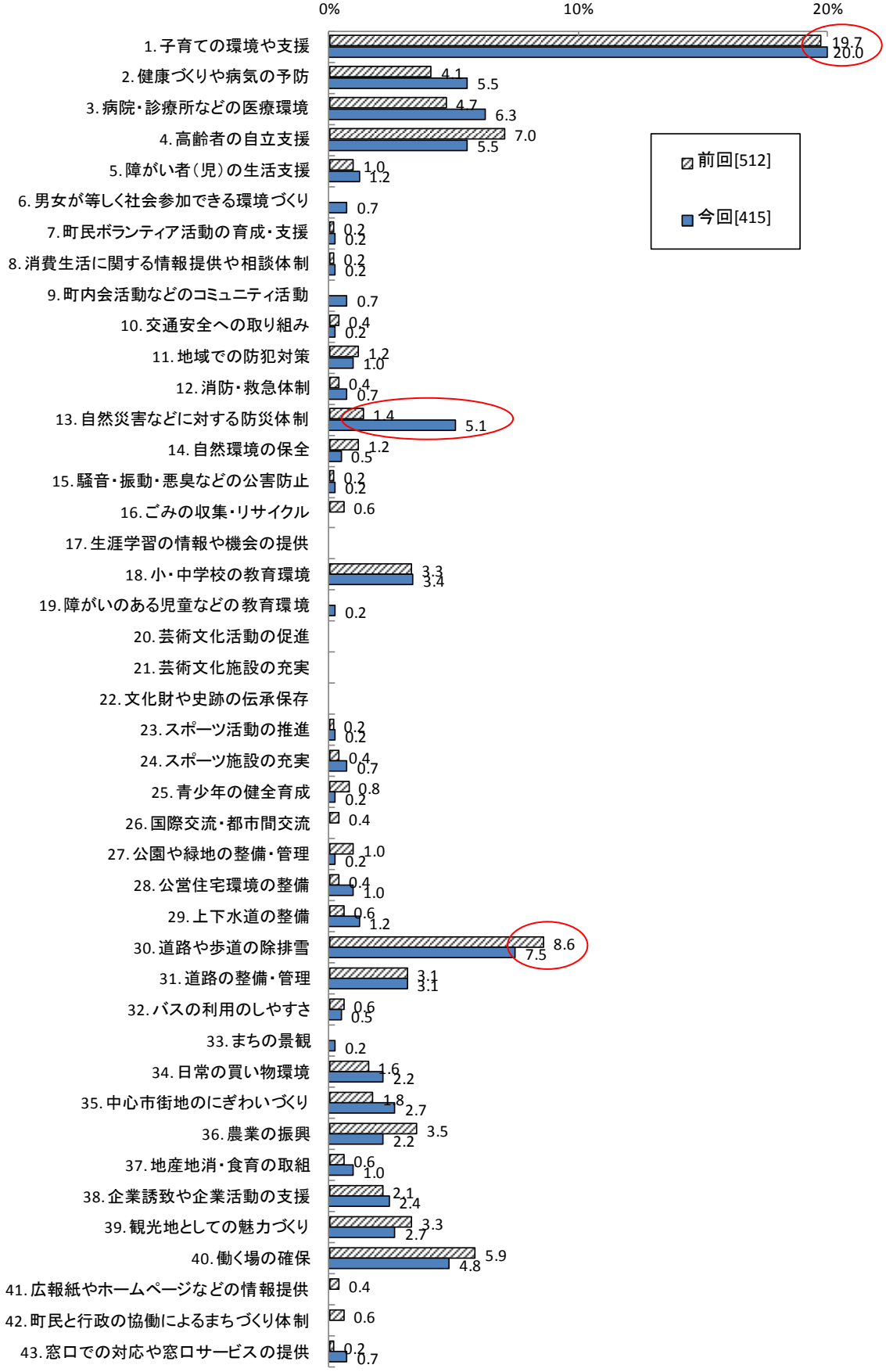
	・地元産をより多く店頭へ。道の駅の充実。 ・地元の農産物を安心して食せる様に、又買えること！ ・食堂とか。 ・第一次産業である農業のサポート（消費者として） ・良い物が沢山あるのに、地元なのに高い！！ ・地産地消は食育にもいいと思いますが、たまに同じ食材なのに他県の方が安いものがあります。消費者は安い方にいってしまいがちなので、できる限り他県よりも安く提供した方がいいと思います。 ・農業体験（実際の農家さんで） ・未来にむけて小学校での農業体験などをして食べ物の大切さを知る機会が必要 ・芽室町のアイサイ屋を見習うべし。
企業誘致 起業支援	・音更を代表する会社があることや大学を作ること ・企業が増えると若い働き盛り世代が増える、増えてほしい。 ・好条件の誘致（先に損して後で得を） ・地場産業の活性化による雇用の場確保が今後予想される人口減少社会においては重要と考えます。 ・本町から帯広へ働きに出ている方は多いと思うので。
観光地としての魅力づくり	＜ＰＲ、情報発信＞ ・アピール不足だと思います。 ・いまひとつ宣伝 PR が不足か？ ＜十勝川温泉＞ ・十勝川温泉をもっとアピールした方がいいと思います。 ・十勝川温泉をもっと全国にアピール ・温泉街に温泉水を利用して１年中果物を作るハウスを。 ・温泉街の復活 ＜観光資源、施設＞ ・エコパの様なアスレチックのある公園 ・大型商業施設を作る(アウトレットや遊園地など) ・町の特産品を使った農家レストランの設置。ファミリー的な。 ・道の駅等の整備を早急にすべきだと思う ＜その他＞ ・音更町の魅力がうすい、もっとアピールできるものを！ ・観光資源の発掘、広報活動 ・これからは観光にも力を入れて色々な地域から人が集まる町づくりをしていく事で住んでいる人も同時に意心地の良い場所になる様に思います。 ・施設や環境の整備、充実（集客） ・役場付近がさみしい。 ・周辺市町村と連係して十勝一体で魅力づくりを。 ・ふるさと納税につなげて子育て支援の予算にあててほしい
働く場	・若者の働く場が少ないように感じる。企業を誘致して町の活性化を望みます。 ・企業誘致等で若い人が安定して働ける職場の確保 ・高校卒の進学の場を町内に充実させてほしい。 ・大学を出ても道内で働く場が少ないので道外に出る子供が多いようです。 ・年配者の就職支援や子育てをしている人が働きやすくなるようにしてほしい。 ・音更での、正社員の採用、大手企業の誘致。 ・町内で正社員として働く場があると助かる。 ・最低賃金の底上げ（町独自に） ・冬場の仕事の確保など。 ・特産物等の開発による新規雇用。 ・働き先が少ない。

	・働く場所は帯広で音更にはあまりない。 ・本町の職場があれば、多方面で良いと思う。
広報紙や ホームページ	・広報を発行していても、手元に届かないと意味がない。
役場窓口・ サービス	・土曜日 AM だけでも窓口を開けるか平日の時間延長してほしい。 ・一町民の声が一担当者の耳に入るだけで、役所全体で共有されていない ・高齢者は書類等、理解出来ない為出向いてくれる事も必要と思う。 ・わかりやすい説明を！！ ・嫌な気持ちになる対応があります。接客業であるという自覚！！ ・支所の対応はいいが、本庁は最悪最低ひどい。 ・窓口職員の職務内容への精通。 ・窓口での対応は自分の仕事に対して研究を。 ・利用者の多い時の対応のあり方！

前回との比較（１番目に重要なもの）

前回と同様「1.子育ての環境や支援」が最も高く、「30.道路や歩道の除排雪」が続きます。「13.自然災害などに対する防災体制」は、前回に比べて回答率が高く、差がめだちます。

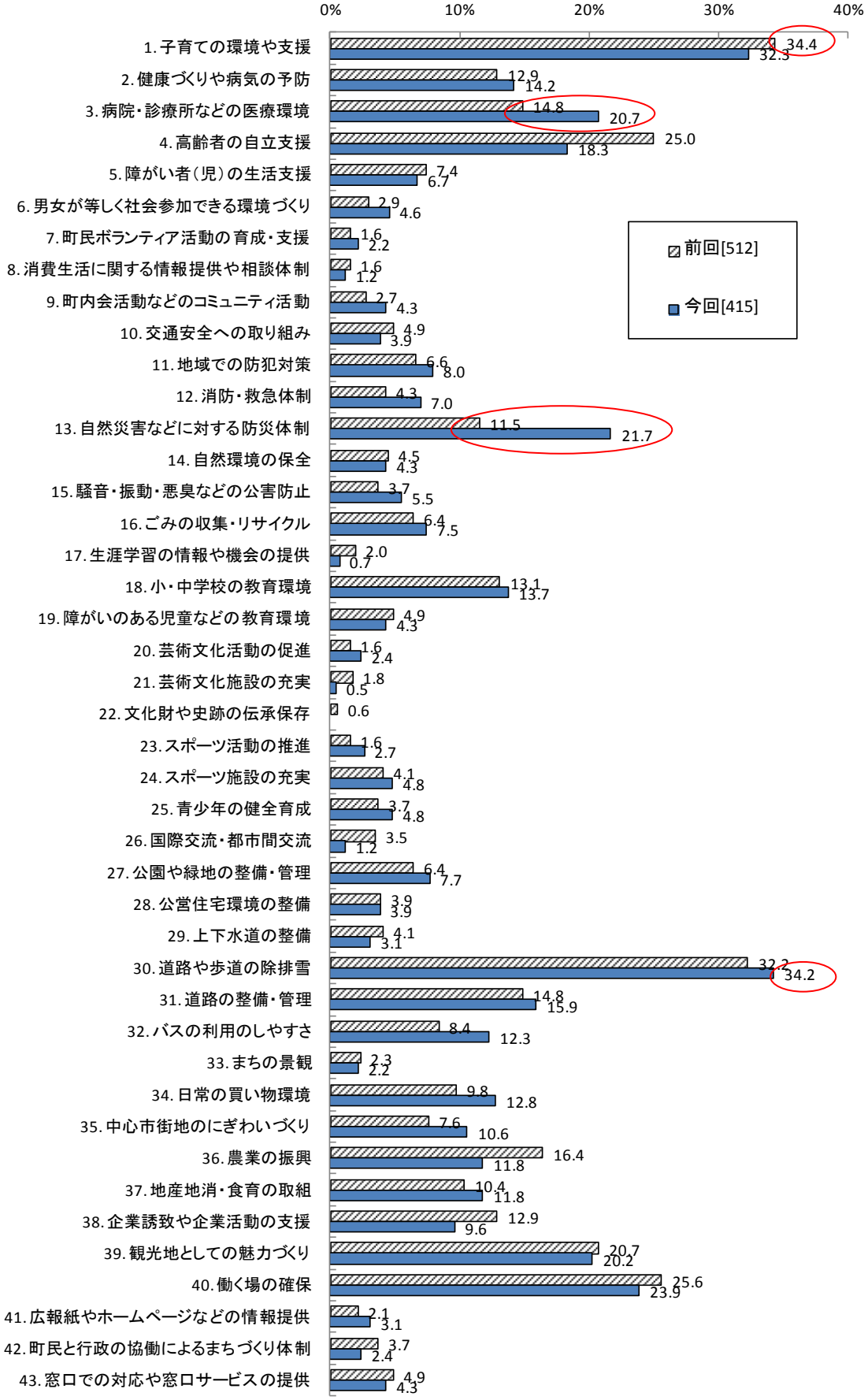
【問1-1】1番目に優先すべきもの（前回との比較）



前回との比較（１番目～５番目の合計）

前回は「1.子育ての環境や支援」が最も高かったですが、今回は「30.道路や歩道の除排雪」が第１位です。「3.病院・診療所などの医療環境」や「13.自然災害などに対する防災体制」は、前回に比べて回答率が高く、差がめだちます。

【問1-1】1番～5番までの合計（前回との比較）



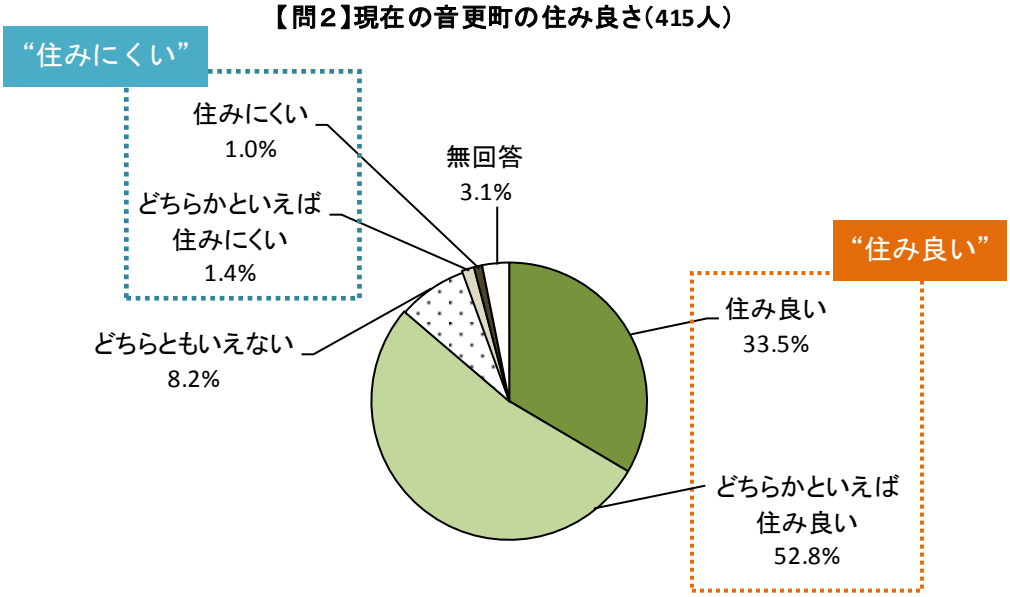
３　住み良さ（【問２】）

【問２】総合的にみて、現在の音更町の住み良さはいかがですか。次の中から１つだけお知らせください。（○は１つ）

○「どちらかといえば住み良い」が 52.8%と過半数を占め、「住み良い」（33.5%）が続きます。この２つを合計すると 86.3%で、程度の差はありますが９割弱は“住み良い”と感じています。

○一方、「どちらかといえば住みにくい」は 1.4%で、「住みにくい」（1.0%）と合わせると、2.4%が“住みにくい”と感じています。

【問２】現在の音更町の住み良さ（415人）

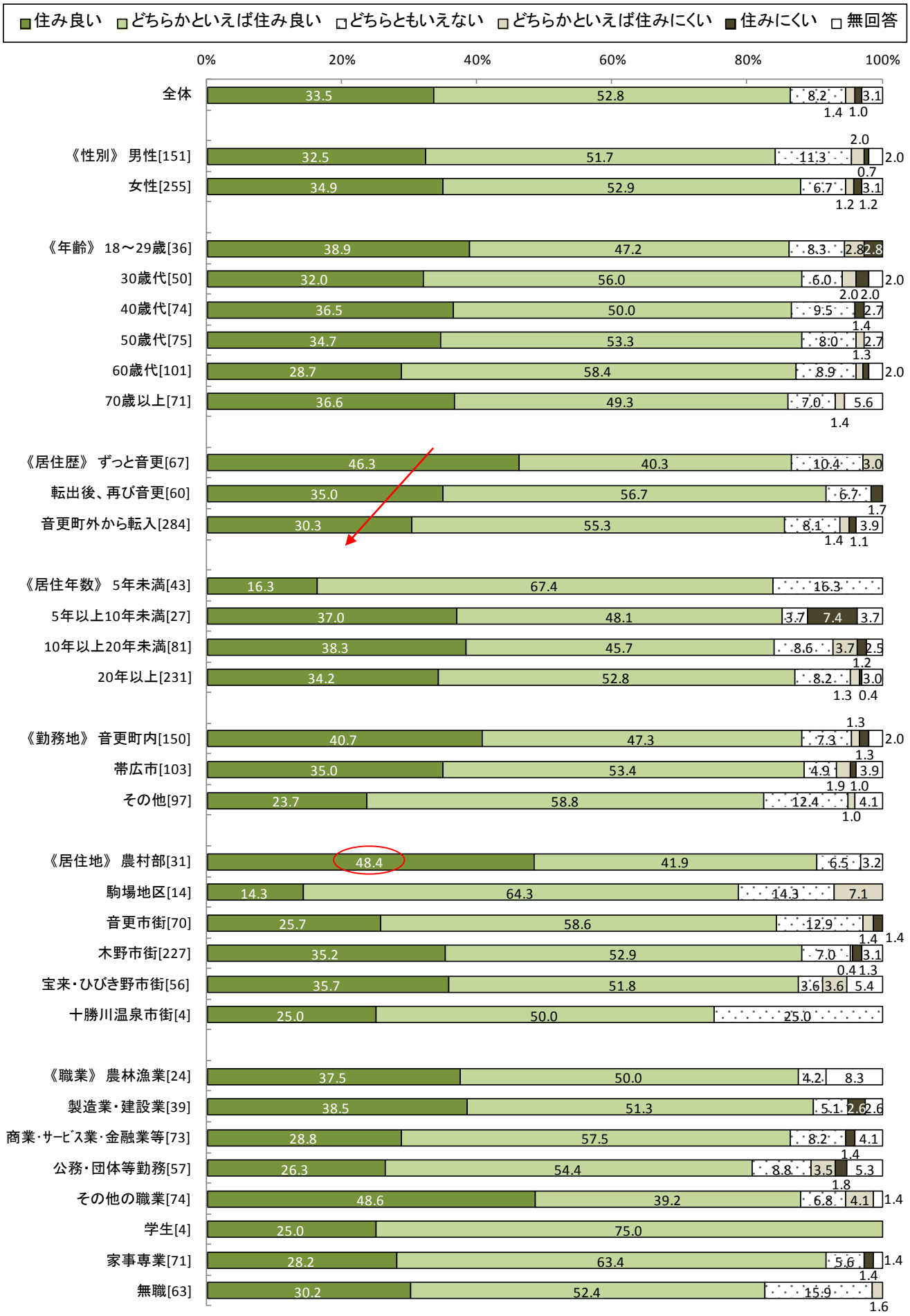


●年齢別でみると、「住み良い」が最も高いのは 18～29 歳ですが、大きな差はみられません。「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の合計が最も高いのは 30 歳代と 50 歳代ですが、大きな差はみられません。

●居住歴別でみると、「住み良い」が高い順番は、ずっと音更→転出後再び音更→音更町外から転入、の順です。

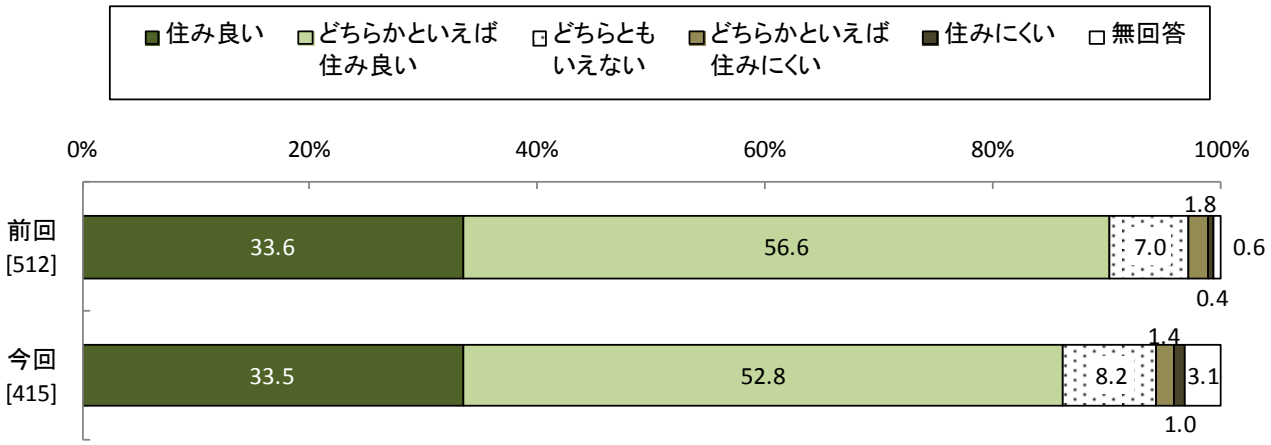
●居住地別でみると、「住み良い」は農村部で高くなっています。

【問２】現在の音更町の住み良さ（属性別）



前回との比較
「住み良い」は前回とほぼ同率ですが、「どちらかといえば住み良い」がやや低くなっています。

【問２】現在の音更町の住み良さ（前回との比較）



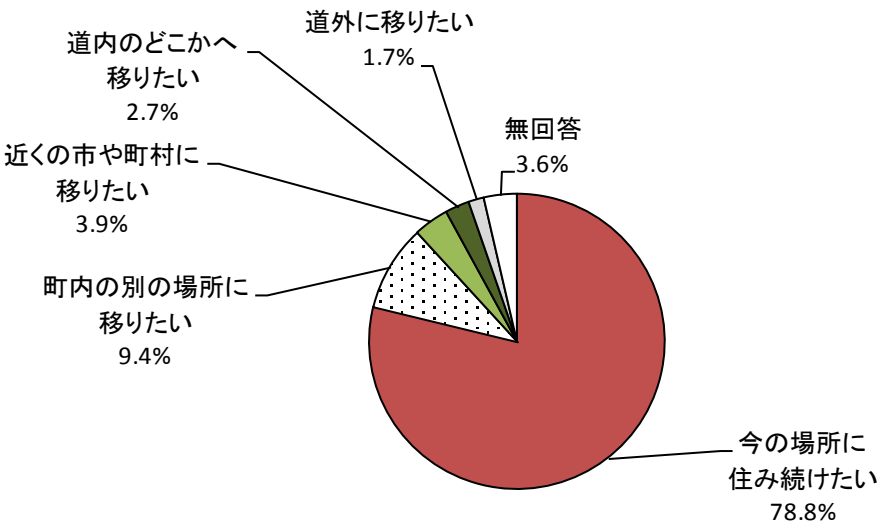
４　定住意向（【問３】【問４】）

【問３】これからも、音更町に住み続けたいと思いますか。次の中から１つだけお知らせください。（○は１つ）

○「今の場所に住み続けたい」が 78.8%と最も高く、「町内の別の場所に移りたい」（9.4%）が続きます。以下、「近くの市や町村に移りたい」（3.9%）、「道内のどこかへ移りたい」（2.7%）、「道外に移りたい」（1.7%）の順です。

○「今の場所に住み続けたい」と「町内の別の場所に移りたい」を合わせると 88.2%で、約９割は音更町内に“住み続けたい”と考えています。

【問３】音更町への定住意向（415人）



＜「例えば」の記載＞
近くの市や町：帯広市（４）、芽室町（２）、池田町、幕別町、鹿追町、上士幌町
道内のどこか：札幌市（10）、登別市
道外：関東（２）、神奈川県、長野県、大阪、沖縄、ジョホールバル市

●性別でみると、「今の場所に住み続けたい」は、男性がやや高くなっています。

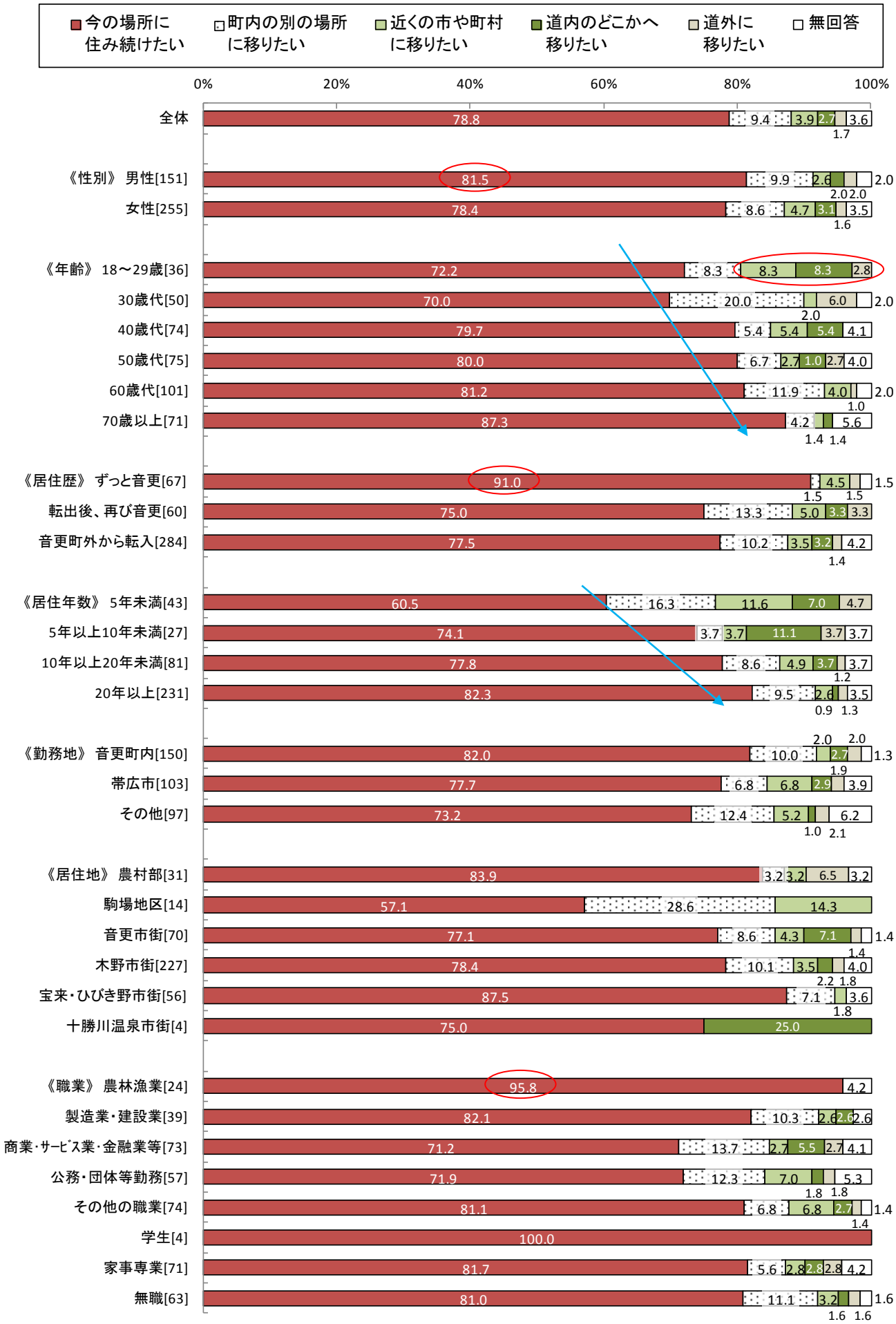
●年齢別でみると、年齢が高いほど「今の場所に住み続けたい」が高まる傾向にあります。一方、18～29 歳は「近くの市や町村」や「道内のどこか」が他よりもやや高く、「道外に移りたい」も含めた“町外に移りたい”割合は約２割を占めます。

●居住歴別でみると、ずっと音更の回答者は「今の場所に住み続けたい」が９割を越え、他に比べて高いです。

●居住年数別でみると、居住年数が長いほど「今の場所に住み続けたい」が高まります。

●職業別でみると、農林漁業は 95%以上、学生は全員が「今の場所に住み続けたい」と回答しています。

【問3】音更町への定住意向

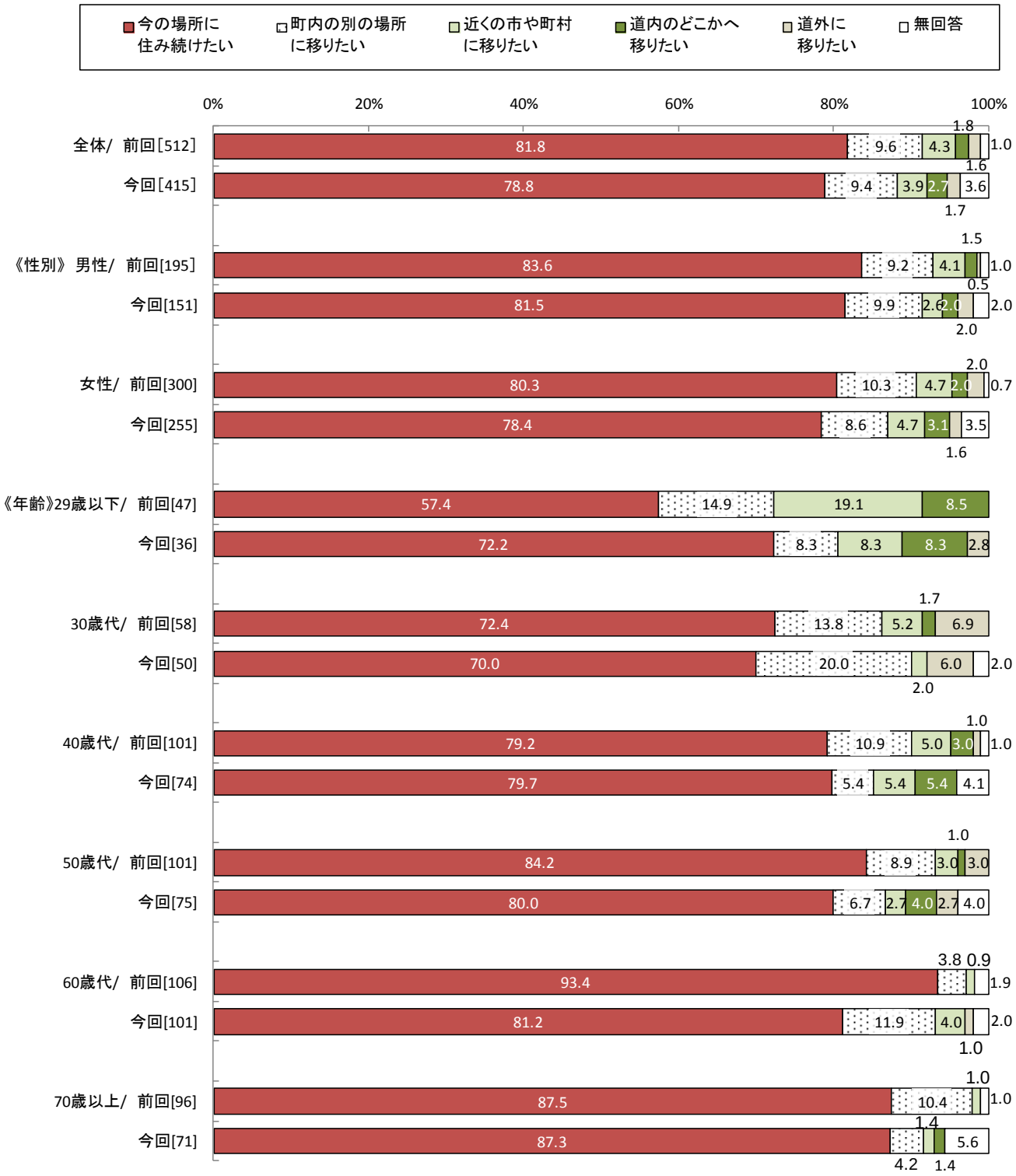


前回との比較

「今の場所に住み続けたい」「今の場所に住み続けたい」ともに、前回よりもやや低くなっており、近くの市町村、道内のどこか、道外を合計した“町外に移りたい”割合はやや高くなっていますが、大きな差はありません。

また、年齢別で比較すると、29 歳以下では「今の場所に住み続けたい」が高くなり、60 歳代では低くなっています。

【問3】音更町への定住意向（前回との比較）

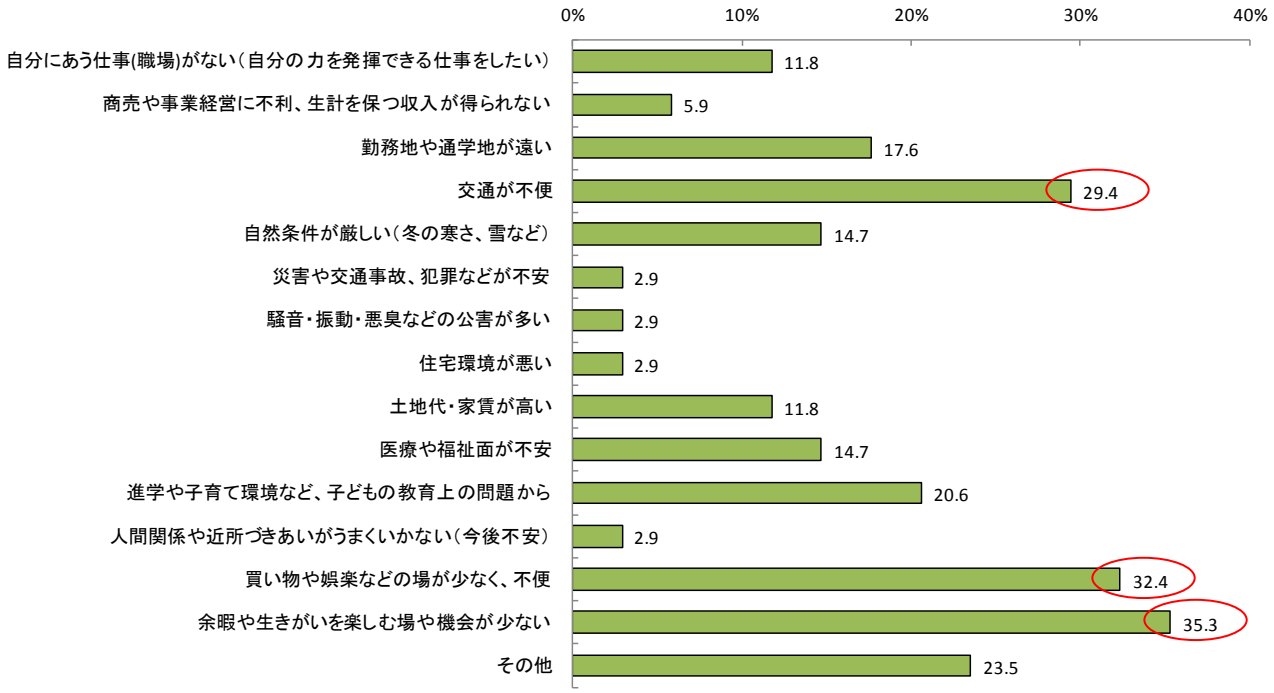


【問４】前問（問３）で、３～５※に○印をつけられた方におたずねします。町外に移りたいと思うのは主にどのような理由からですか。次の中から３つ以内でお知らください。（○は３つまで）

※３～５の選択肢とは「近くの市や町村に移りたい」「道内のどこかへ移りたい」「道外に移りたい」の３つのことです。

○「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」（35.3%）が最も高く、「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」（32.4%）、「交通が不便だから」（29.4%）と続きます。

【問４】町外に移りたい理由（3つまで選択/34人）

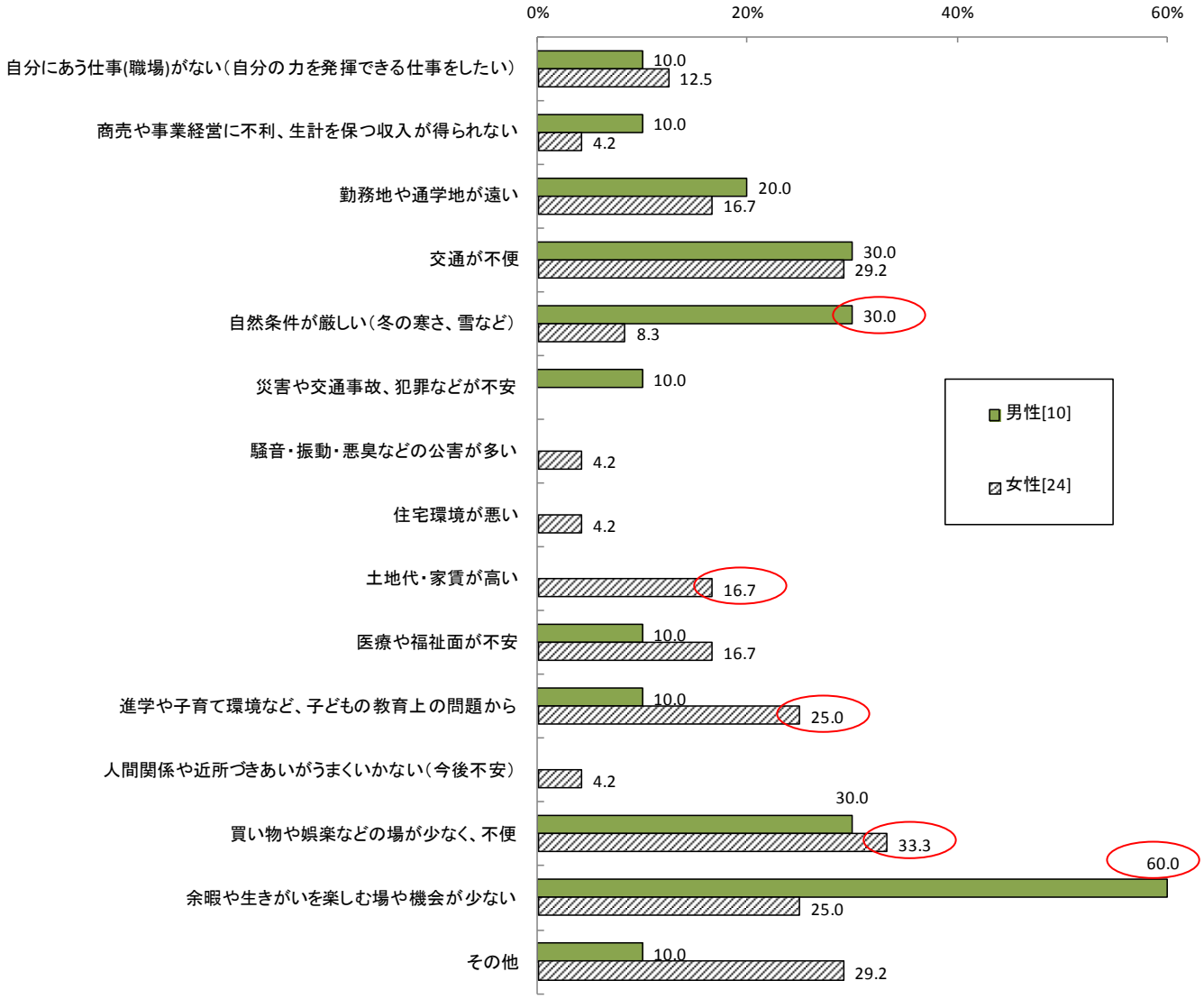


＜「その他」の記載＞
- 両親の面倒を見るため。
- 娘と住む。
- 地元へ帰りたいから。
- 出身が札幌なので。
- 音更町は税金が高い。
- 転勤のため。
- 水道水がカルキ臭でおいしくない。
- 人間関係が希薄すぎる。
- 病気になった時、帯広の病院まで通うのが遠くて不便。
- 町営住宅の除雪！！身体が悪いのに出来ない！！でもやらなきゃ言われる！！無理です。

●性別でみると、男性は「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」、女性は「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」が第１位です。

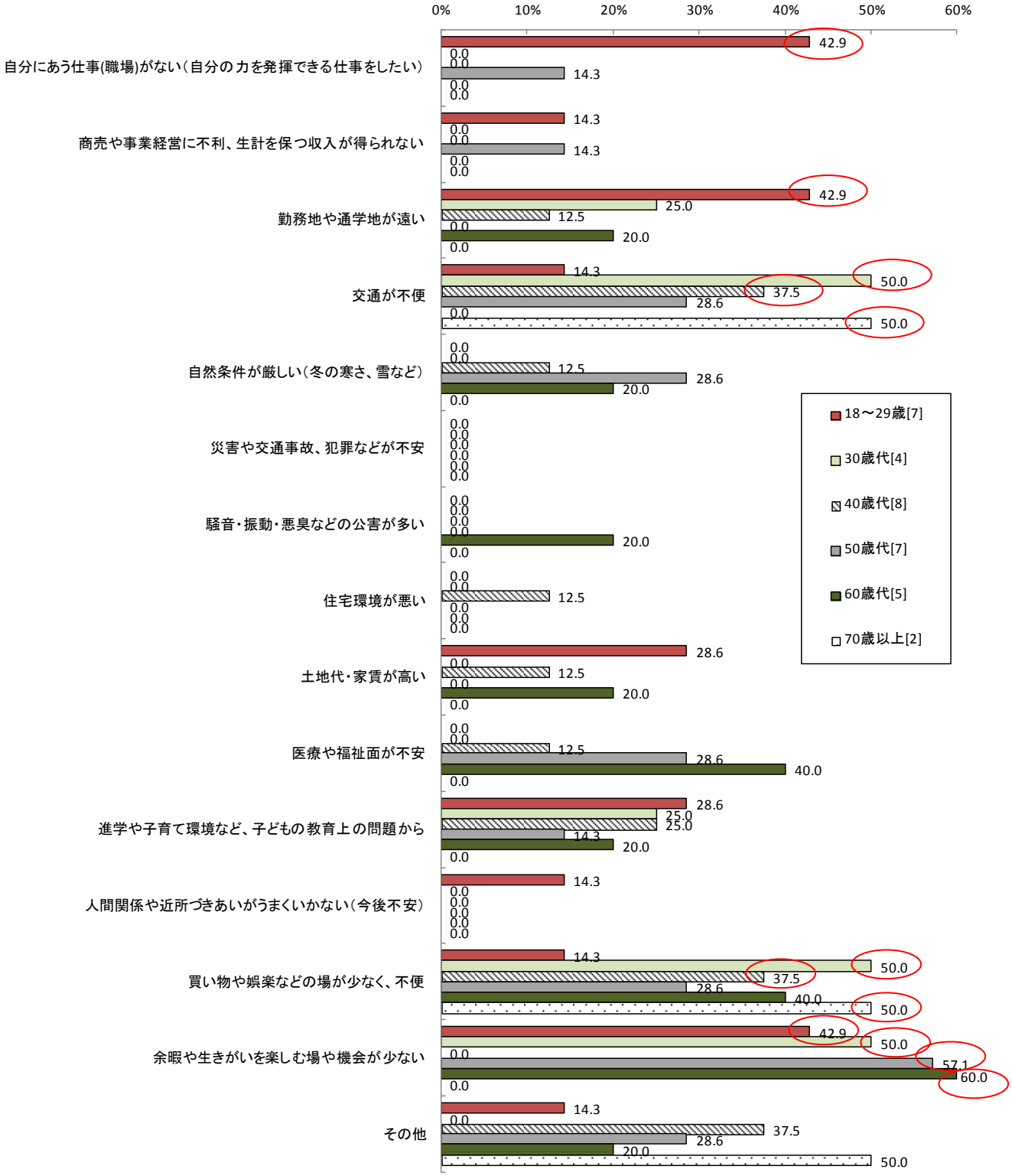
●「自然条件が厳しい（冬の寒さ、雪など）」は男性、「土地代・家賃が高い」「進学や子育て環境など、子どもの教育上の問題から」は女性の回答率が高く、差がめだちます。

【問４】町外に移りたい理由（3つまで選択/性別）



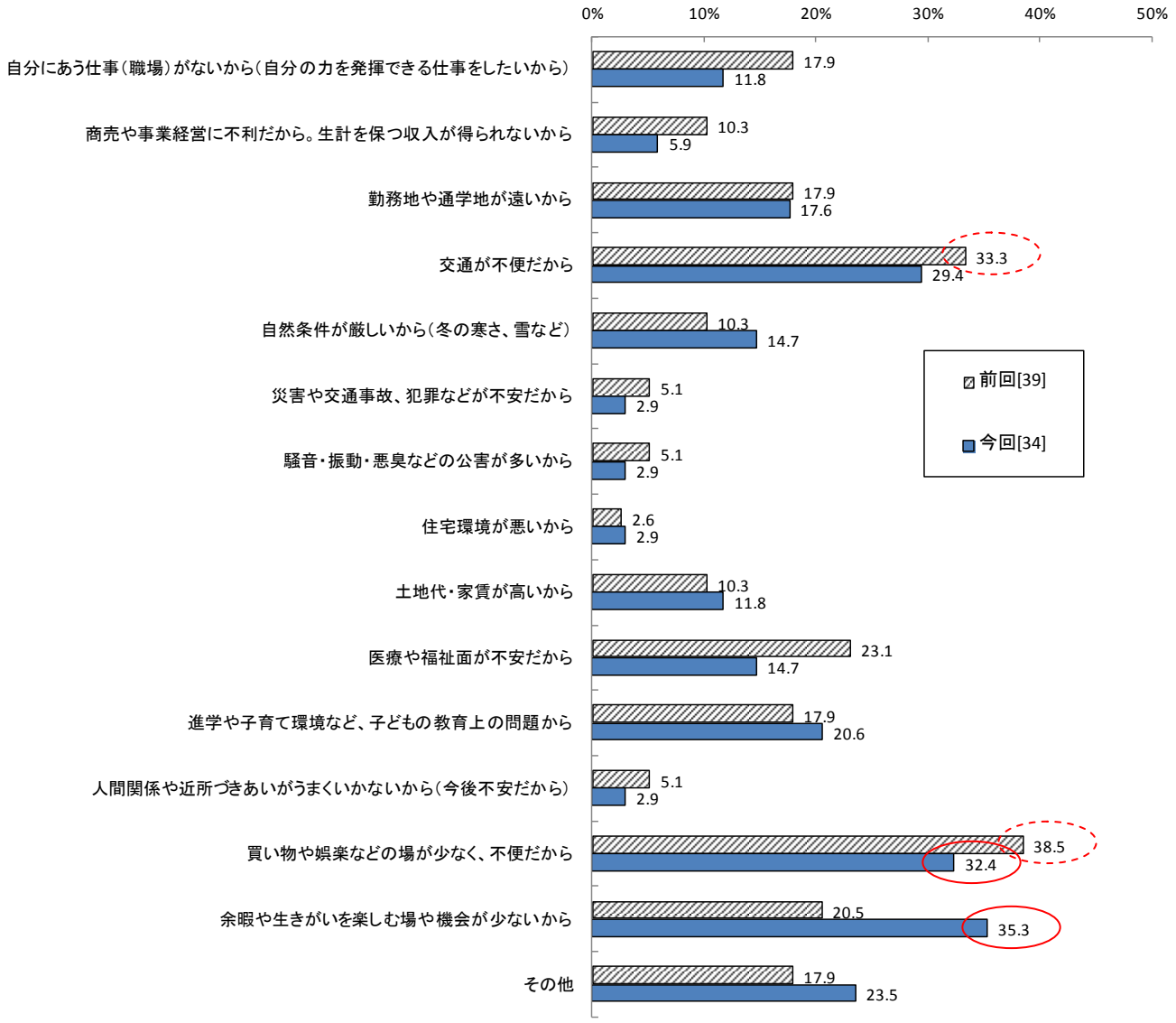
●年齢別に第１位をみると、18～29 歳は「仕事」「通勤地や通学地」「余暇や生きがい」、30 歳代は「交通」「買い物」「余暇や生きがい」、40 歳代は「交通」「買い物」、50 歳代と 60 歳代は「余暇や生きがい」、70 歳以上は「交通」を第１位にあげています（それぞれ、その他は除く）。

【問４】町外に移りたい理由（3つまで選択/年齢別）



前回との比較
今回は「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」が第１位、「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」が第２位で、前回（「買い物」が第１位、「交通」が第２位）と順位が変わっています。 今回第１位である「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」は、前回よりも高く、差がめだちます。

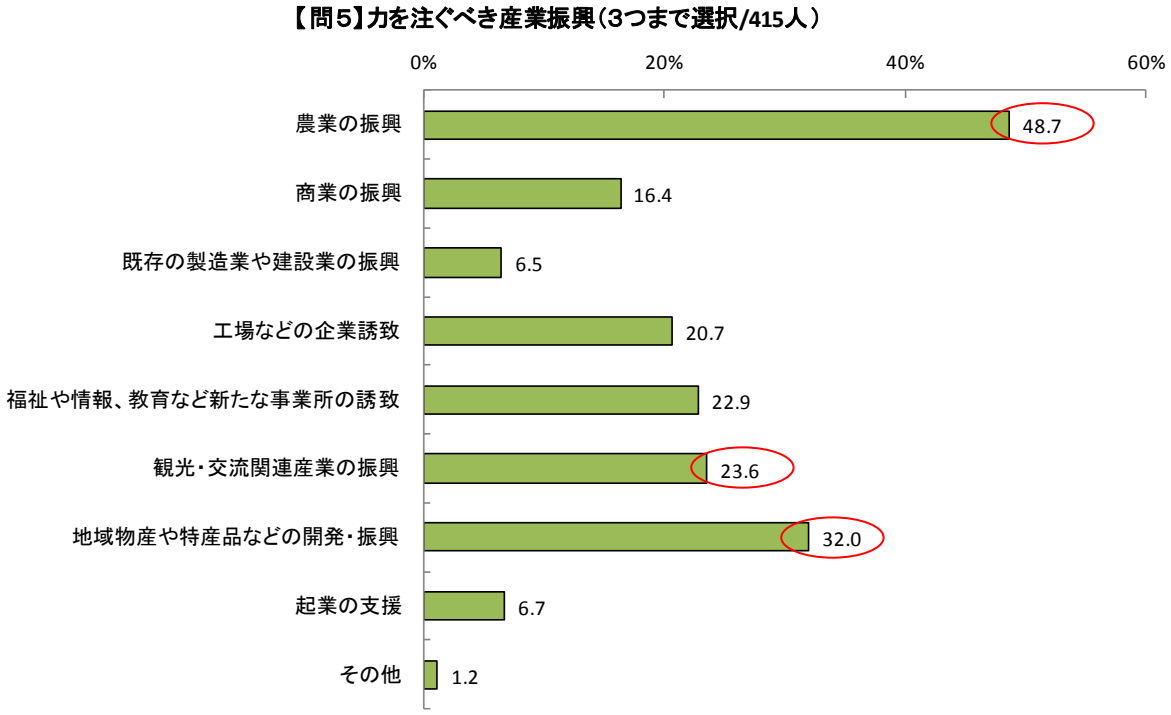
【問４】町外に移りたい理由（3つまで選択/前回との比較）



５　産業の振興（【問５】【問６】【問７】）

【問５】音更町の産業を振興するために、どの分野に力を注ぐべきだと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

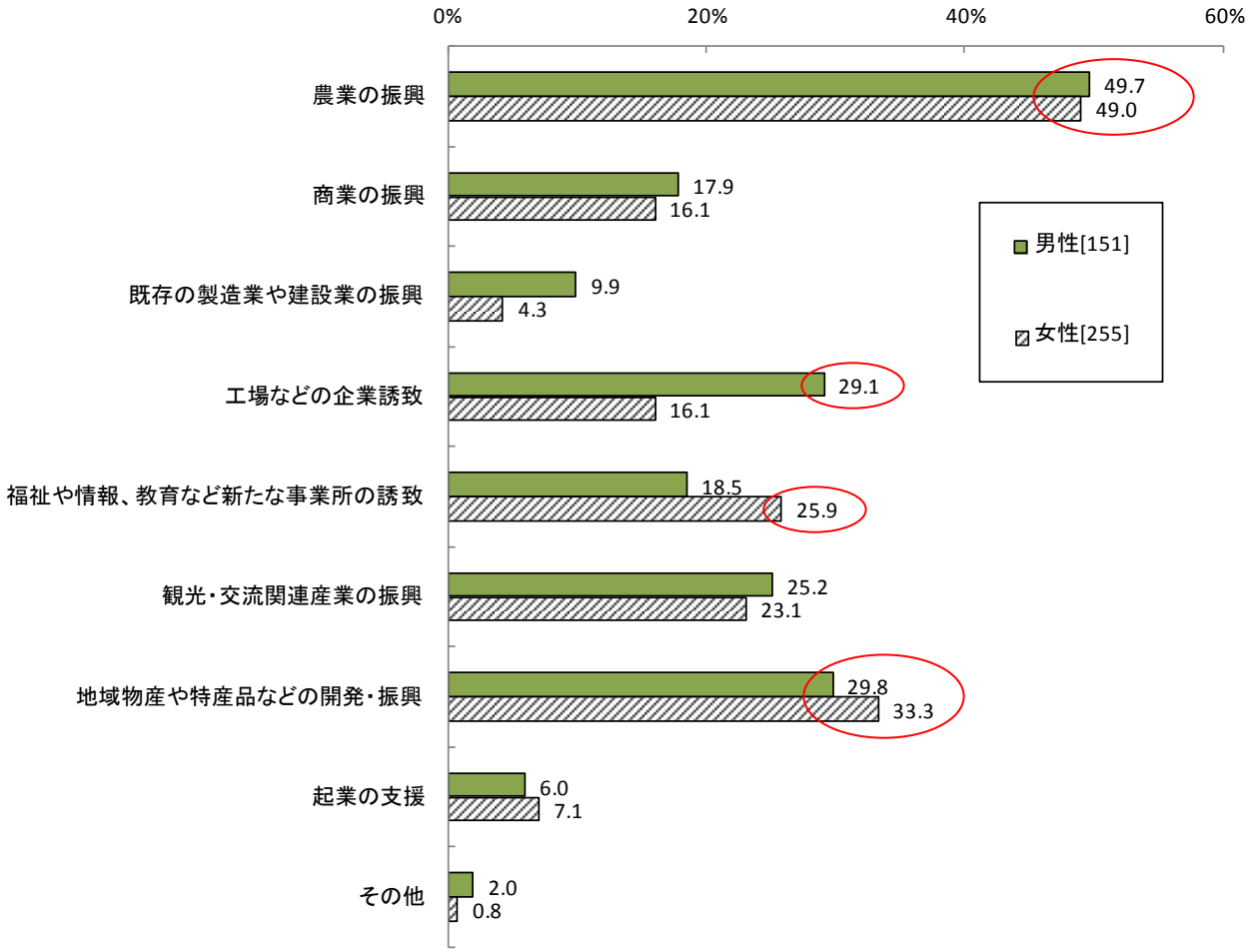
○「農業の振興」（48.7%）が最も高く、「地域物産や特産品などの開発・振興」（32.0%）、「観光・交流関連産業の振興」（23.6%）と続きます。



＜「その他」の記載＞
・今ある事業所の能力を結集し、「音更町」という企業として活動すること。
・町内発の企業、店等の発展。
・農業は大切だが、冬の間使わない畑を利用して振興に使えたら良いと思う。
・ピーアールが弱いと思う。音更町が知られてない！！

●性別でみると、男女とも「農業の振興」が第１位、「地域物産や特産品などの開発・振興」が第２位です。第３位については、男性は「工場などの企業誘致」、女性は「福祉や情報、教育など新たな事業所の誘致」をあげています。

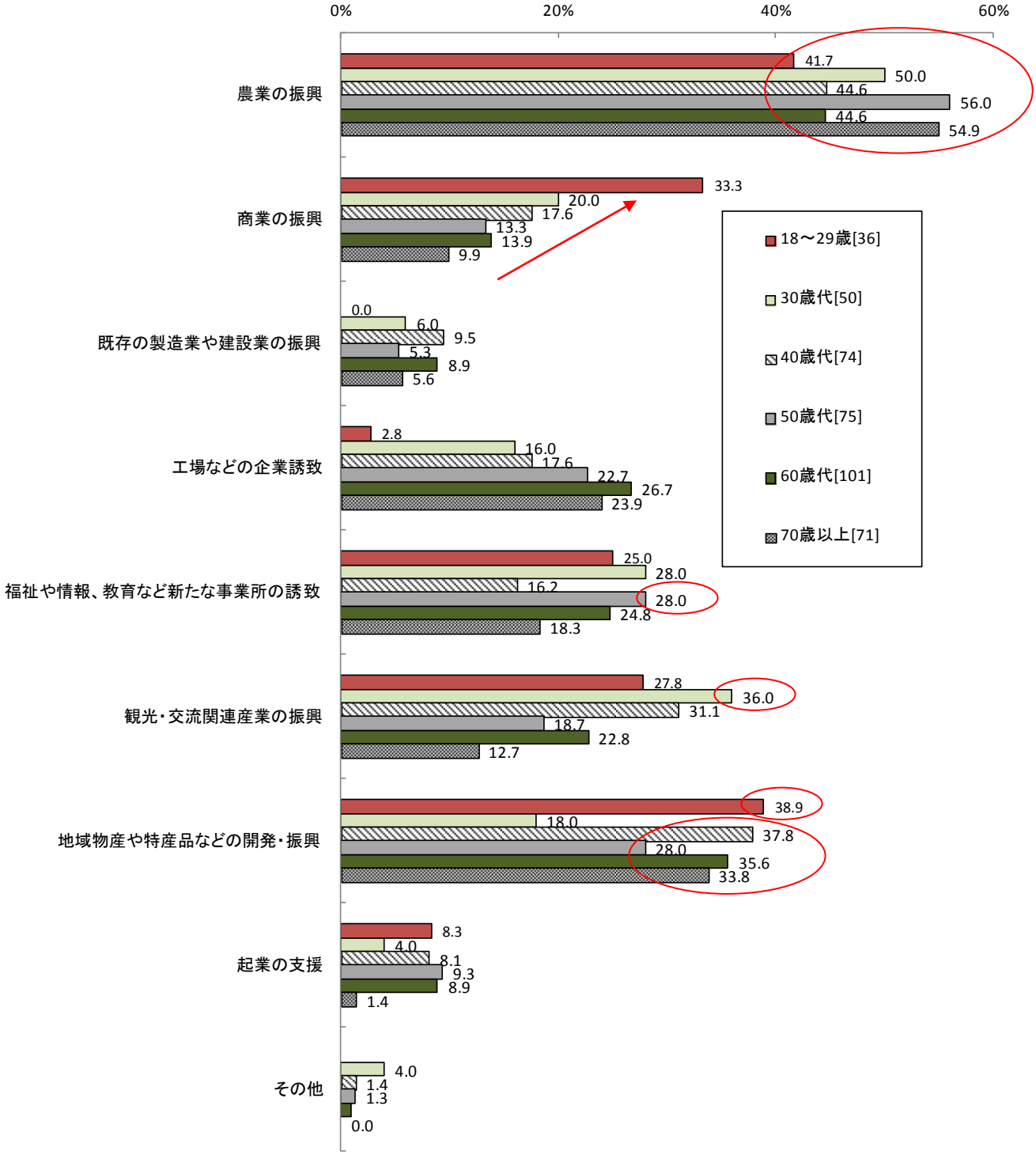
【問5】力を注ぐべき産業振興（3つまで選択/性別）



●年齢別でみると、いずれの年齢も「農業の振興」が第１位です。第２位については、30歳代以外の年齢は「地域物産や特産品などの開発・振興」、30 歳代は「観光・交流関連産業の振興」をあげています。50 歳代は「福祉や情報、教育など新たな事業所の誘致」も同率で第２位にあげています。

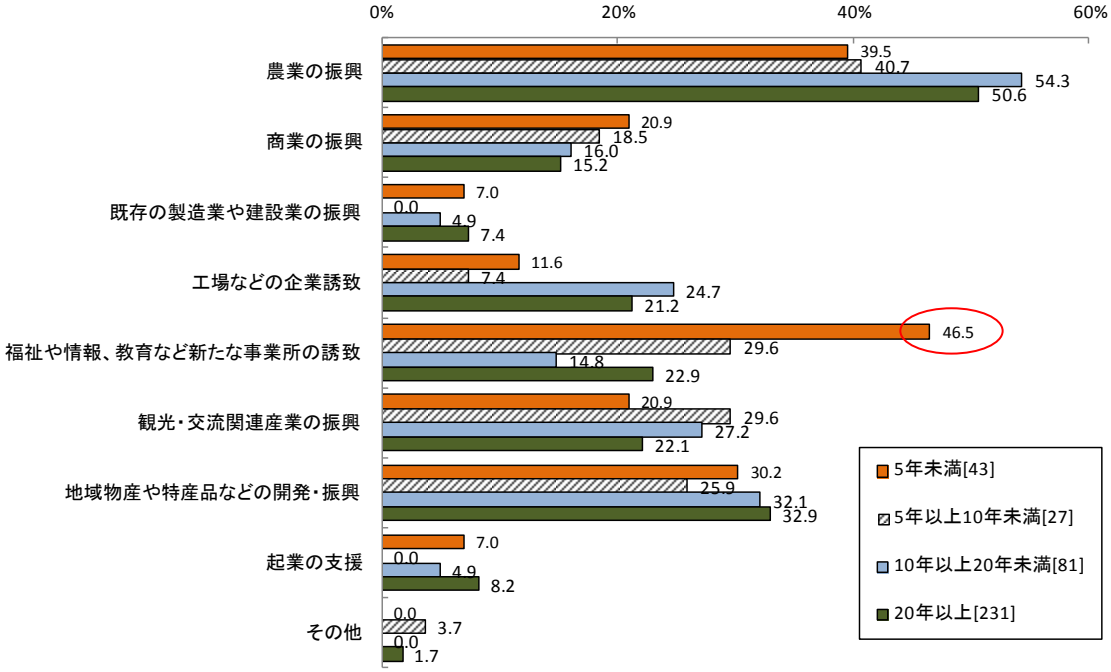
●「商業の振興」は年齢が低いほど回答率が高まる傾向にあります。

【問５】力を注ぐべき産業振興（3つまで選択/年齢別）



●居住年数別でみると、「福祉や情報、教育など新たな事業所の誘致」は５年未満の回答率が高くなっています。

【問５】力を注ぐべき産業振興（3つまで選択/居住年数別）

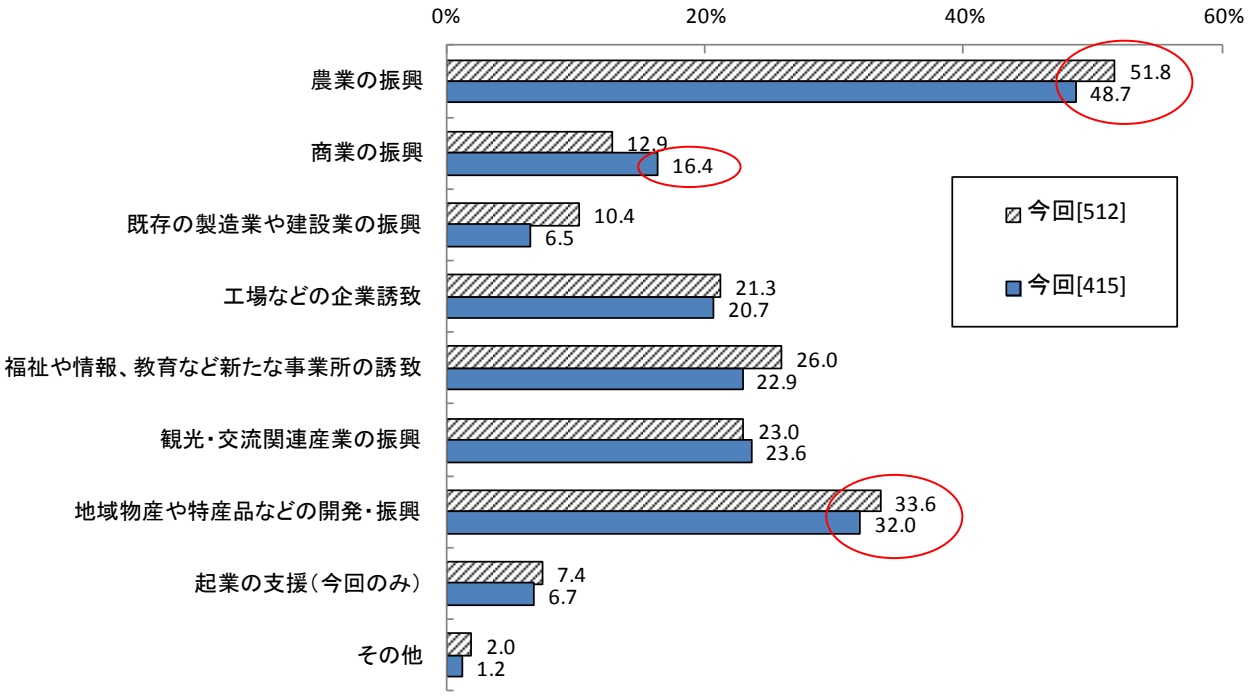


前回との比較

前回と同様「農業の振興」が第１位、「地域物産や特産品などの開発・振興」が第２位ですが、いずれも今回の方が、回答率がやや低くなっています。

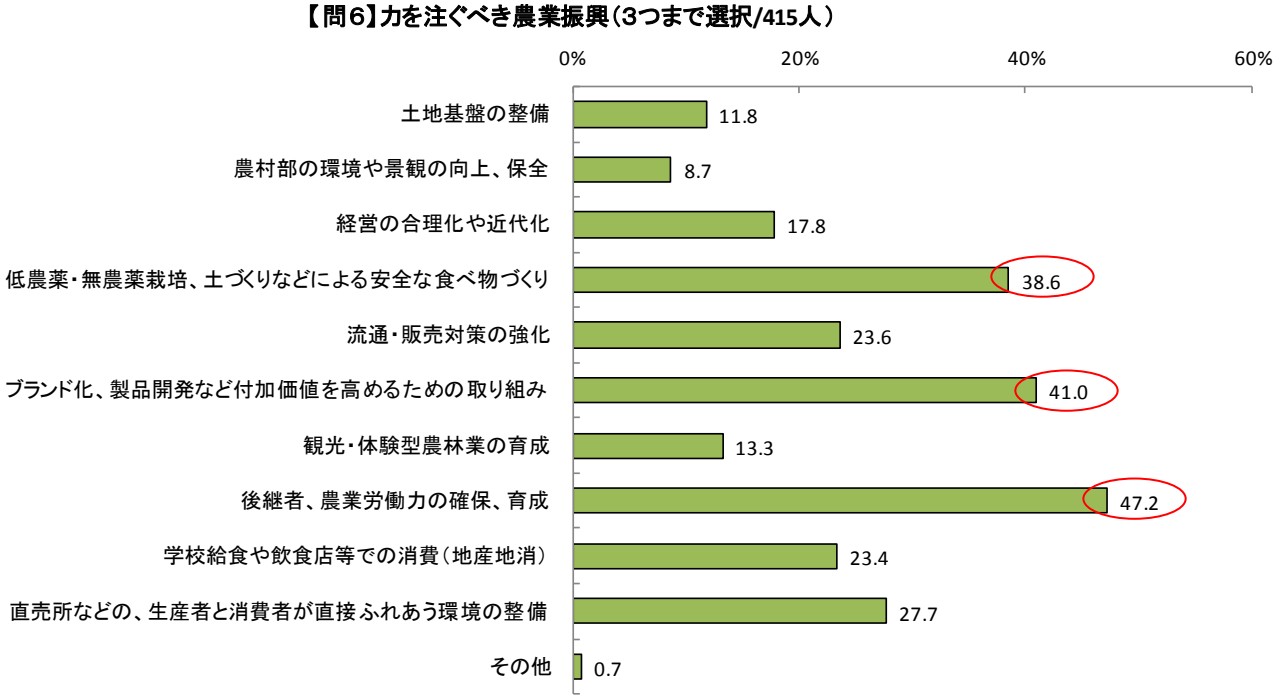
全体的に、大きな違いはありませんが、「商業の振興」は前回よりもやや高くなっています。

【問５】力を注ぐべき産業振興（3つまで選択/前回との比較）



【問６】音更町の農業を振興するために、どのようなことに力を注ぐべきだと思いますか。次の中から３つ以内でお知らせください。（○は３つまで）

○「後継者、農業労働力の確保、育成」（47.2%）が最も高く、「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」（41.0%）、「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」（38.6%）と続きます。

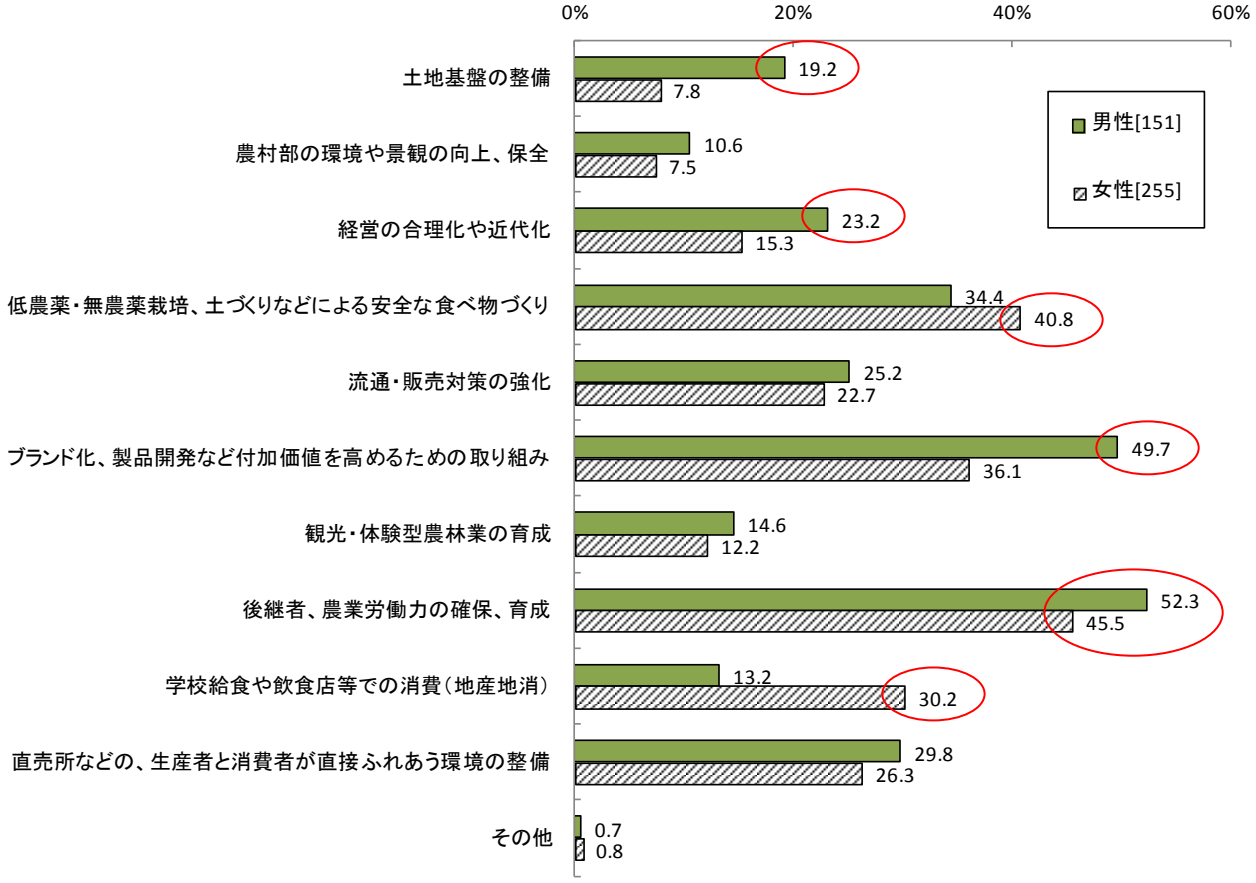


＜「その他」の記載＞
・新規就農者の支援。
・農業者の向上心と独自のアイデアが必要だと思う。
・農業に対する補助金が多すぎる。

●性別でみると、男女とも「後継者、農業労働力の確保、育成」が第１位ですが、第２位については、男性は「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」、女性は「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」をあげています。

●「土地基盤の整備」や「経営の合理化や近代化」は男性、「学校給食や飲食店等での消費（地産地消）」は女性の回答率が高く、男女の差がめだちます。

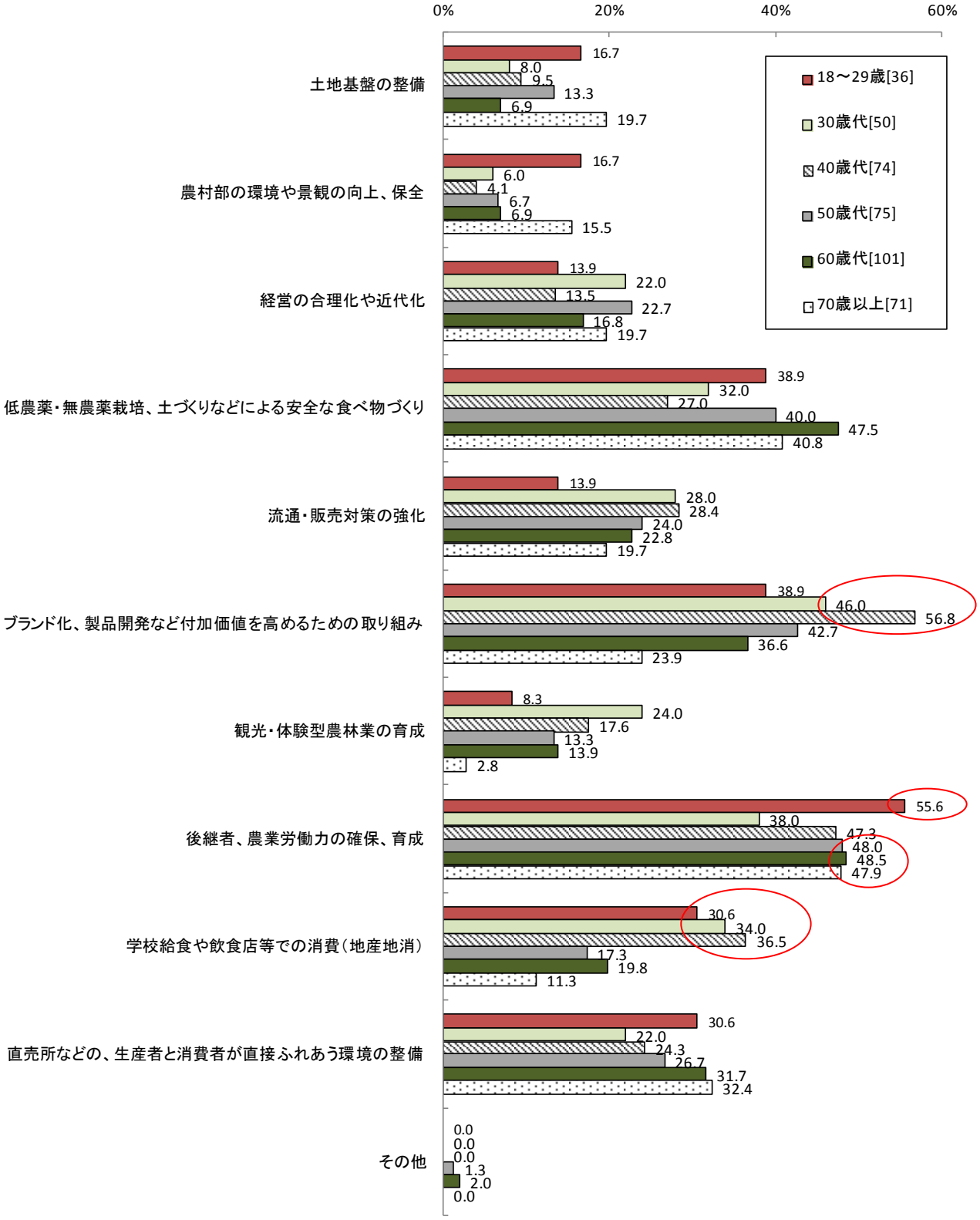
【問６】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/性別）



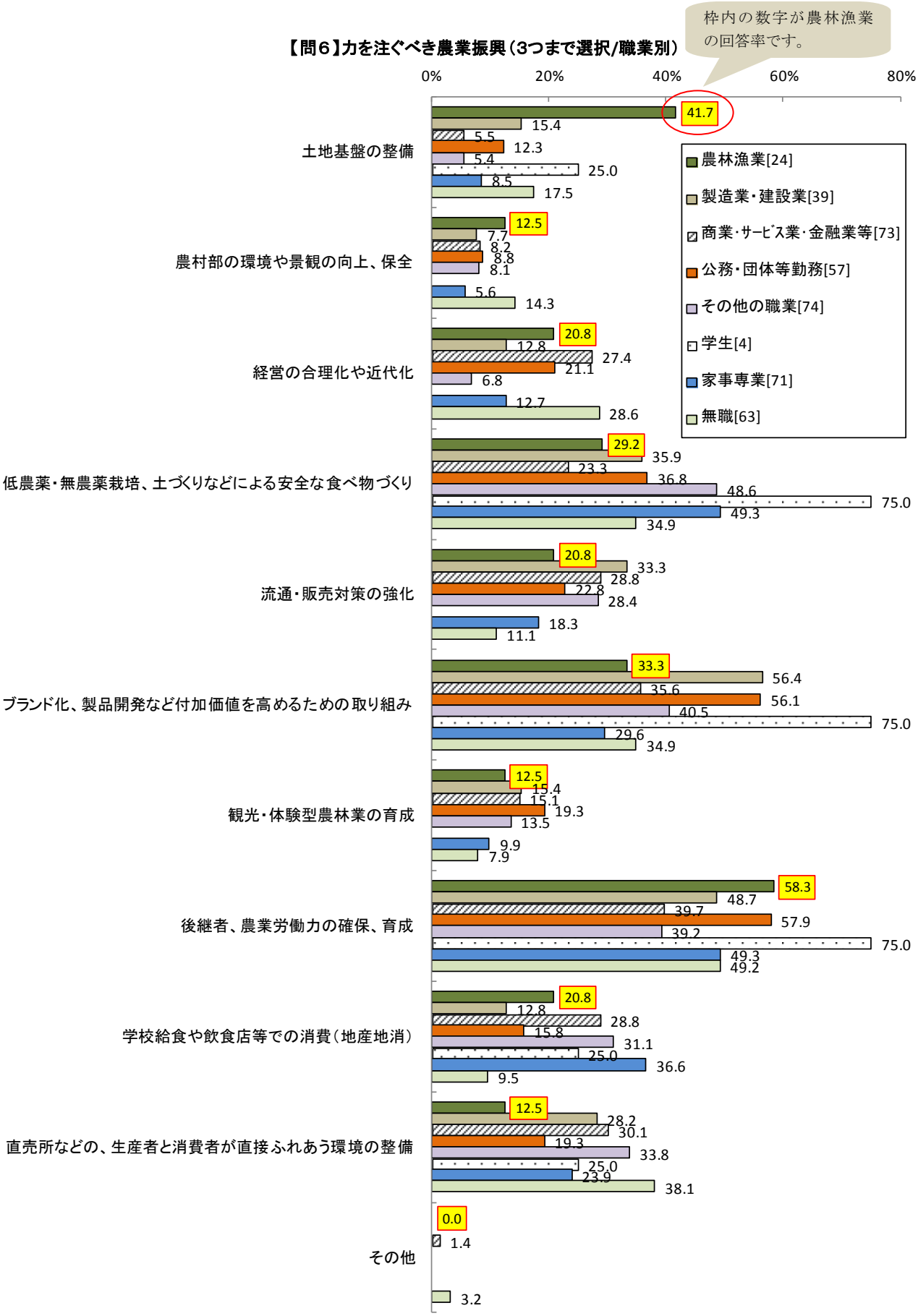
●年齢別に第１位をみると、18～29 歳と 50 歳代以上の年齢は「後継者、農業労働力の確保、育成」ですが、30 歳代と 40 歳代は「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」をあげています。

●「学校給食や飲食店等での消費（地産地消）」は 40 歳代以下の若い世代で回答率が高くなっています。

【問６】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/年齢別）

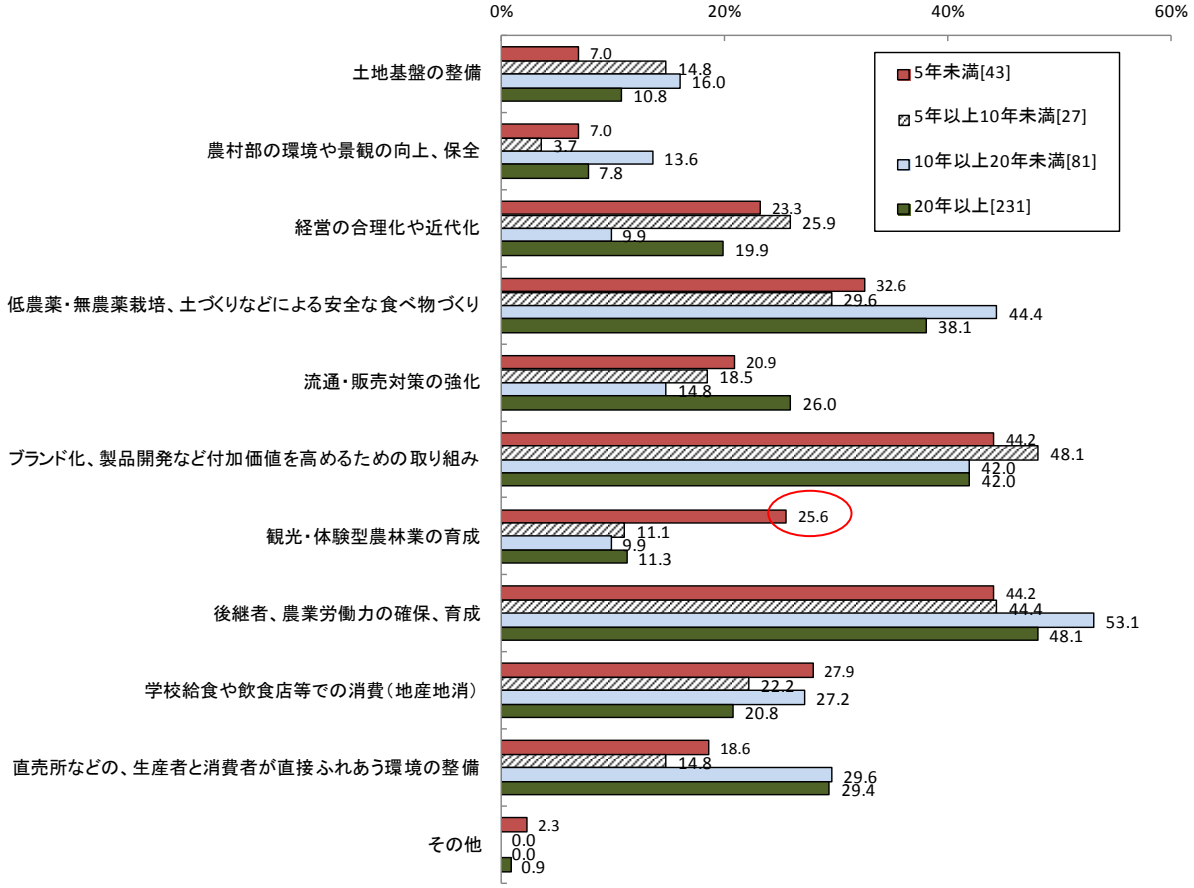


●職業別でみると、農林漁業は「土地基盤の整備」が第２位で、他の職業に比べて高く、差がめだちます。



●居住年数別でみると、「観光・体験型農林業の育成」は５年未満の回答率が高く、他との差がめだちます。

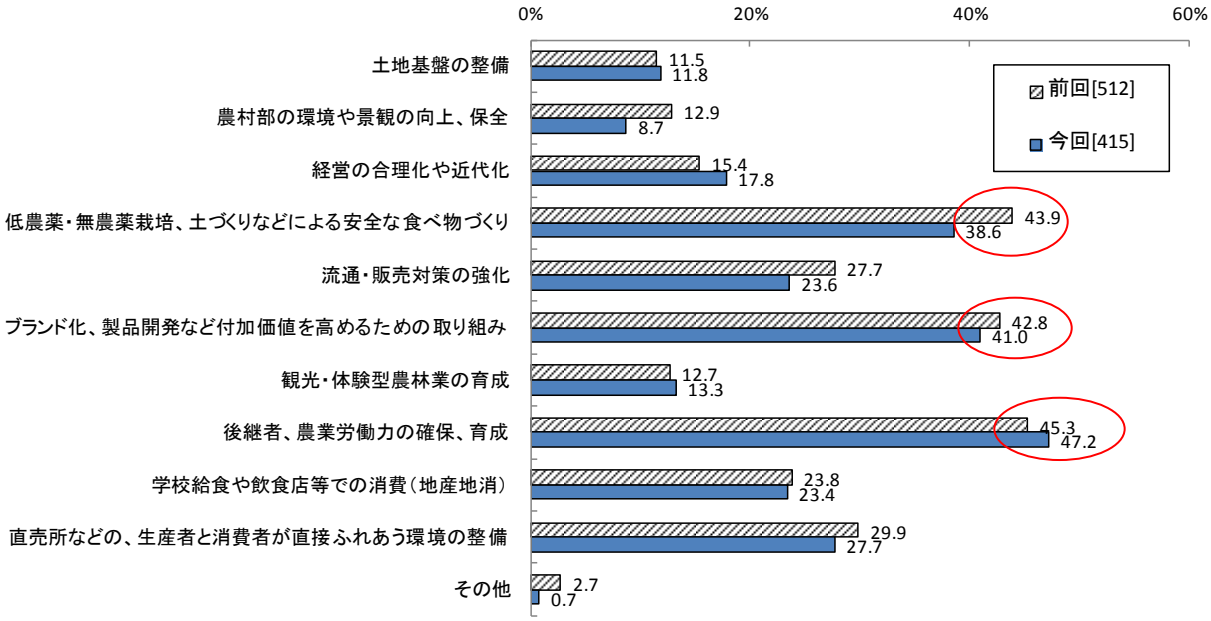
【問６】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/居住年数別）



前回との比較

前回と同様「後継者、農業労働力の確保、育成」「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」が上位３位です。

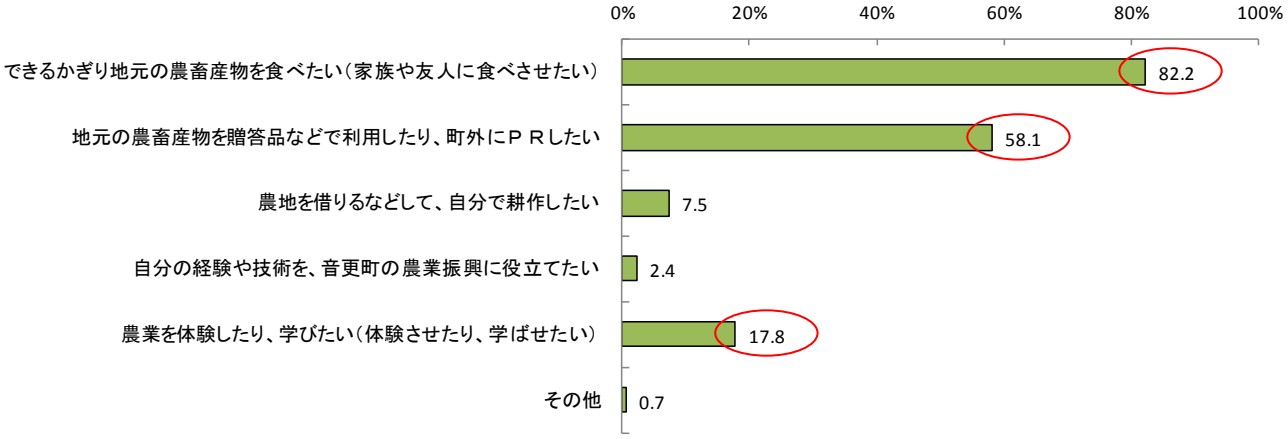
【問６】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/前回との比較）



【問７】音更町で農業とのかかわりを深めるために、どのようなことがしたい（できる）と思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

○「できるかぎり地元の農産物を食べたい（家族や友人に食べさせたい）」（82.2%）が最も高く、「地元の農産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい」（58.1%）、「農業を体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」（17.8%）が続きます。

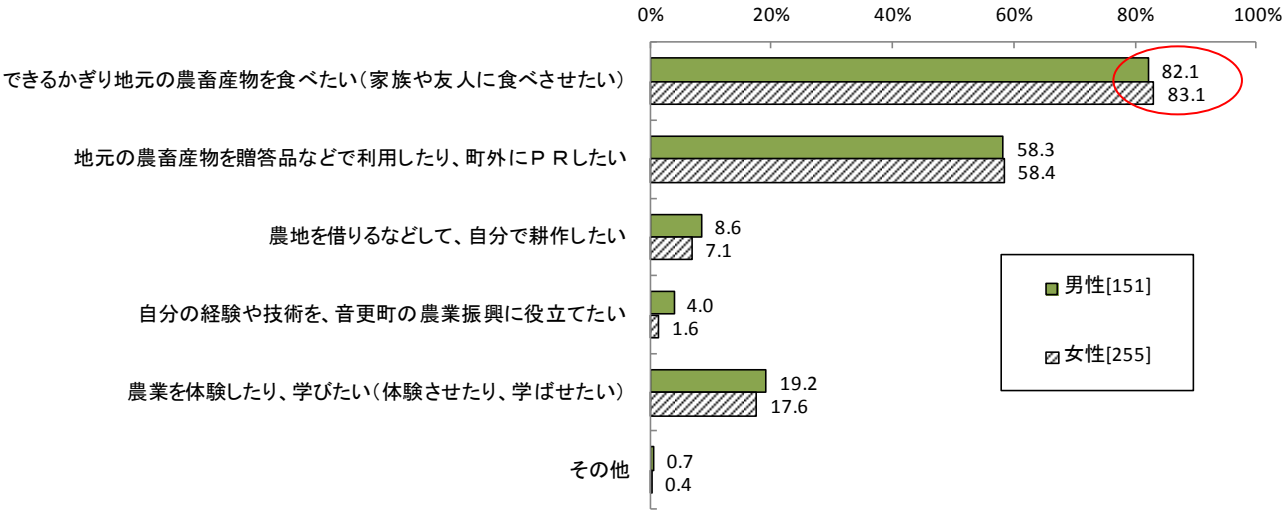
【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/415人）



＜「その他」の記載＞
・農家さんたちが作物をどこに卸しているいるのかなどの現状を知りたい。

●性別でみると、男女ともに「できるかぎり地元の農産物を食べたい」が第１位です。全体的に、大きな差はみられません。

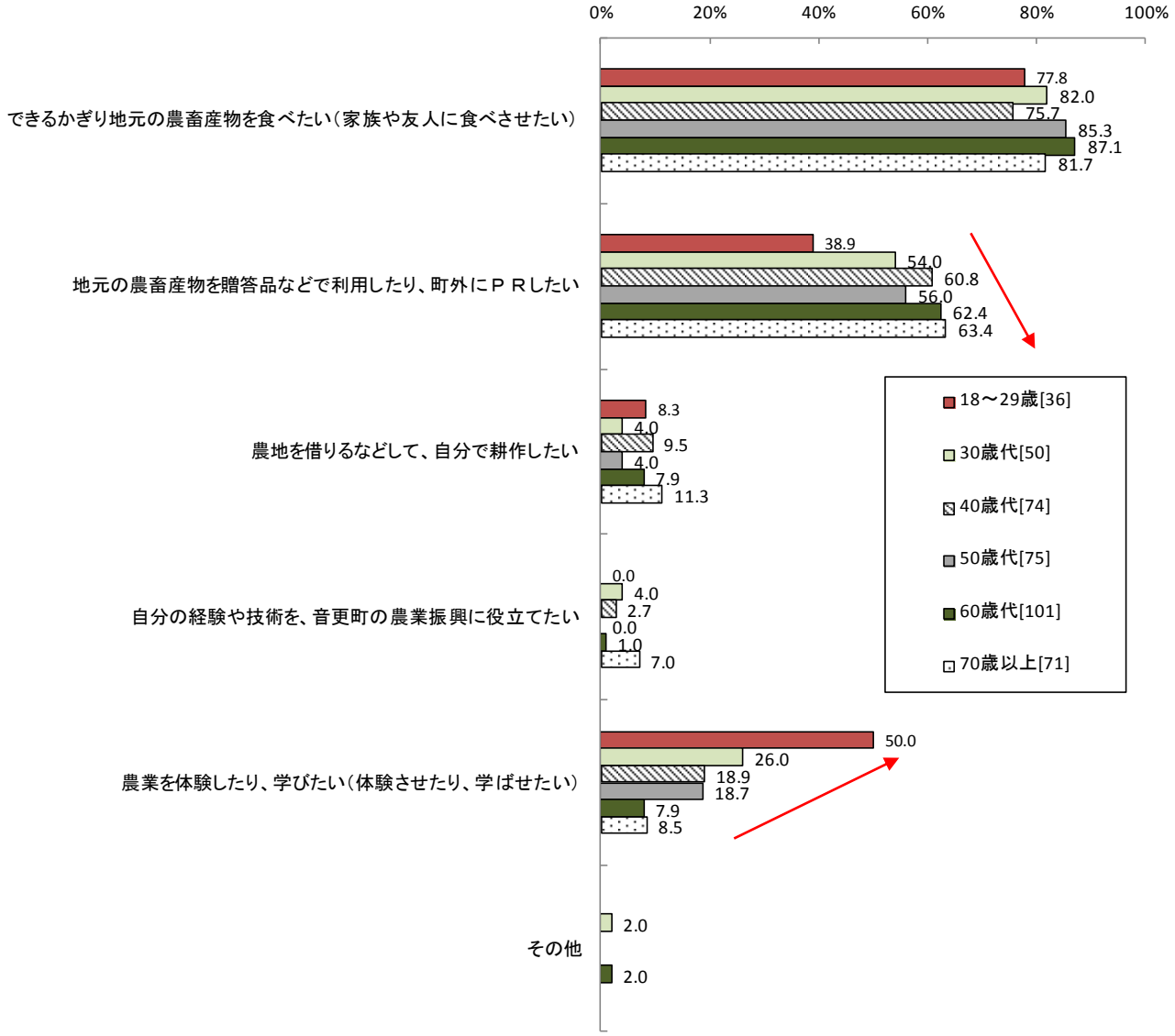
【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/性別）



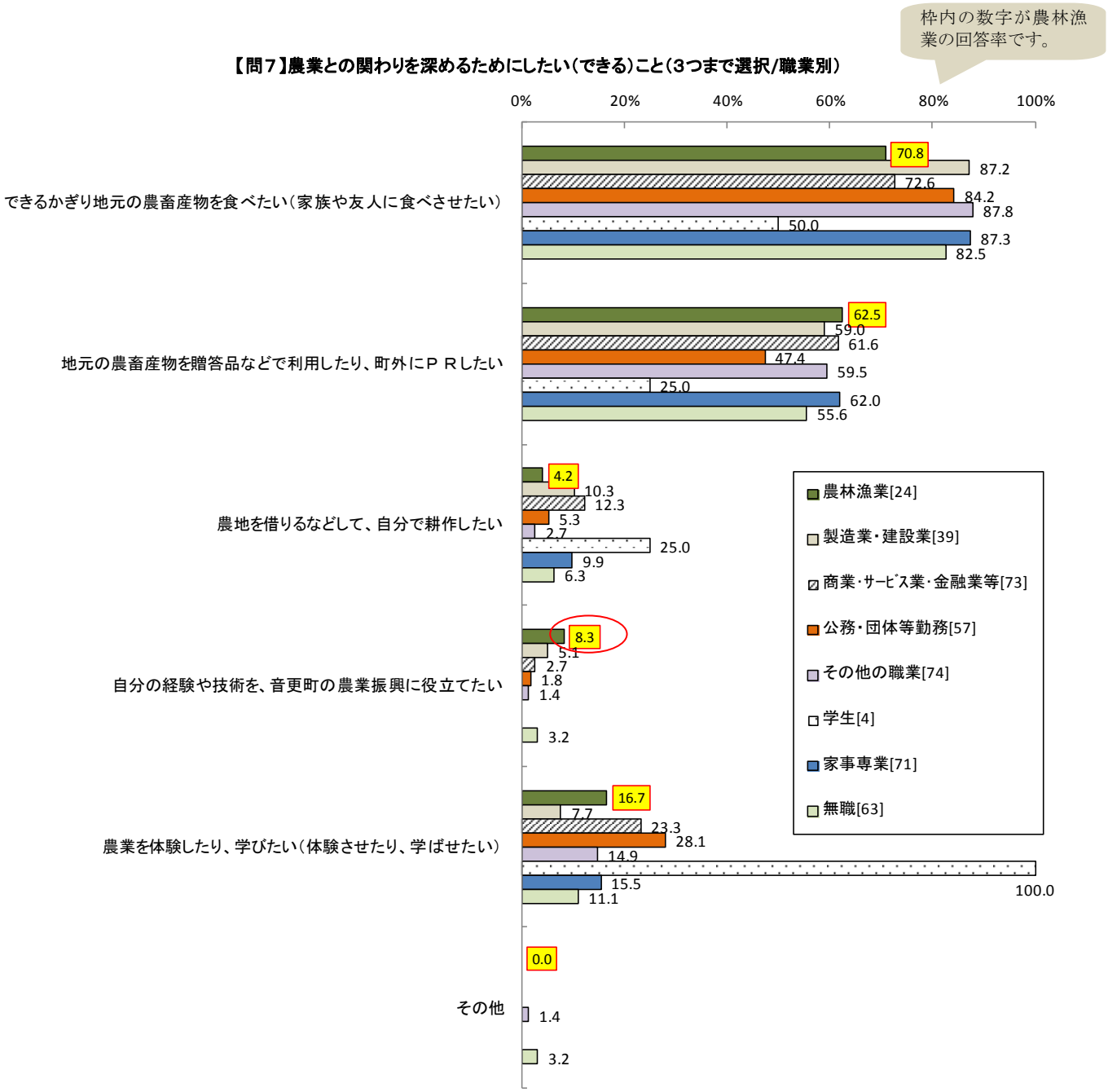
●年齢別でみると、いずれの年齢も上位３項目は同じです。18～29 歳のみ「農業のことを体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」が第２位です。

●「地元の農産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい」は、年齢が高いほど、また、「農業のことを体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」は、年齢が低いほど、それぞれ、回答率が高まる傾向にあります。

【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/年齢別）

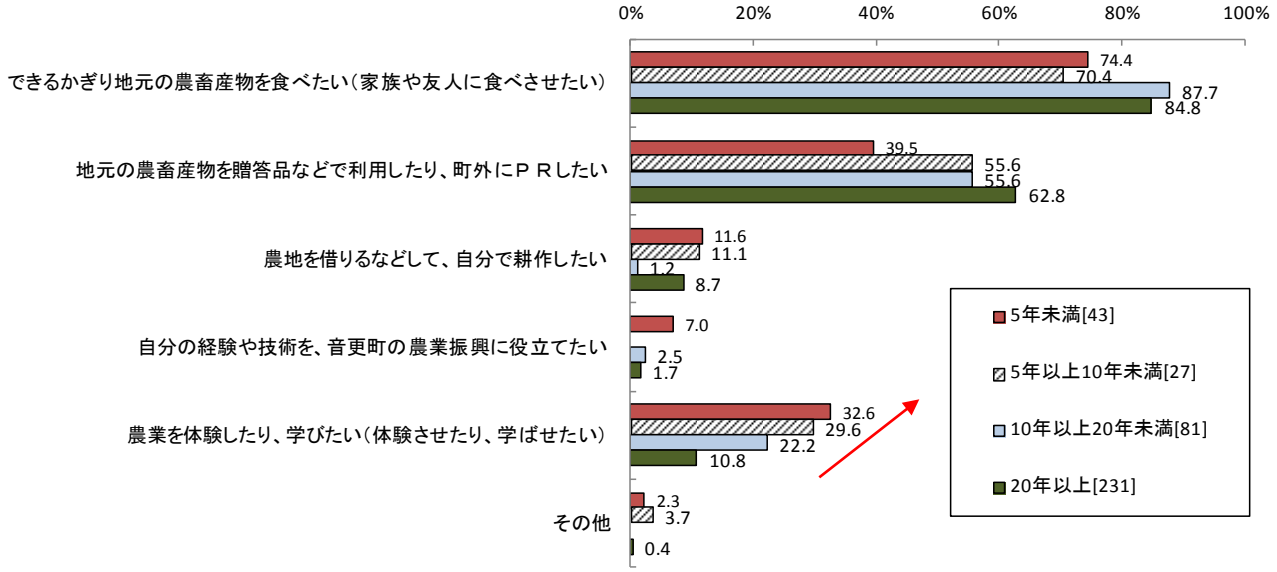


●職業別でみると、農林漁業と他の職業に大きな差はありませんが、「地元の農畜産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい」や「自分の経験や技術を、音更町の農業振興に役立てたい」は、他の職業より高くなっています。



●居住年数別でみると、「農業のことを体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」は居住年数が低いほど回答率が高くなっています。

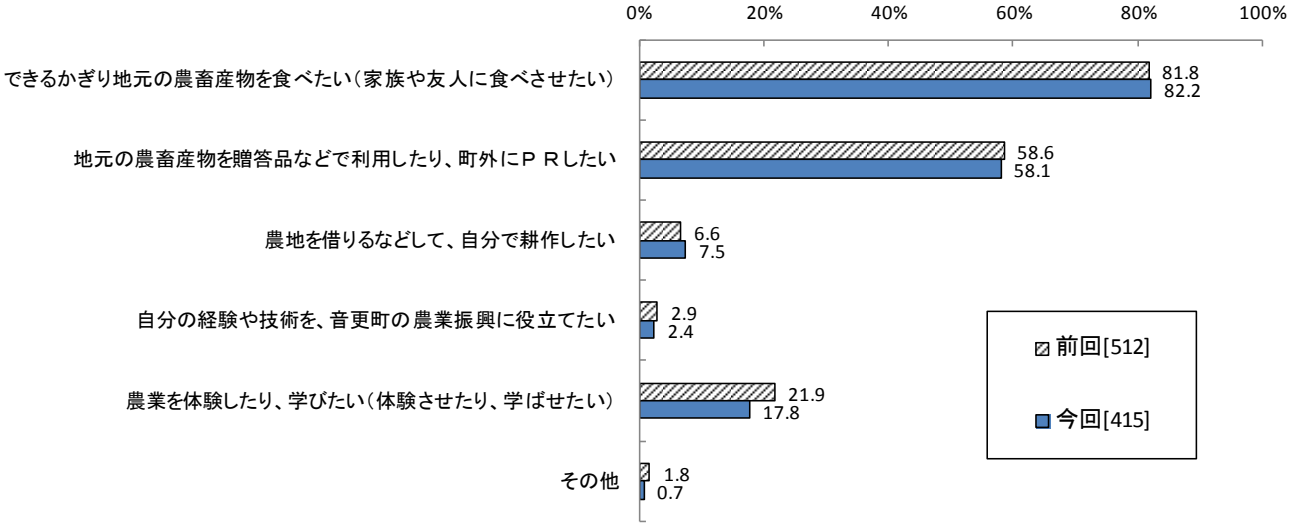
【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/居住年数別）



前回との比較

前回と同様「できるかぎり地元の農産物を食べたい（家族や友人に食べさせたい）」「地元の農産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい」「農業のことを体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」が上位３位です。

【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/前回との比較）



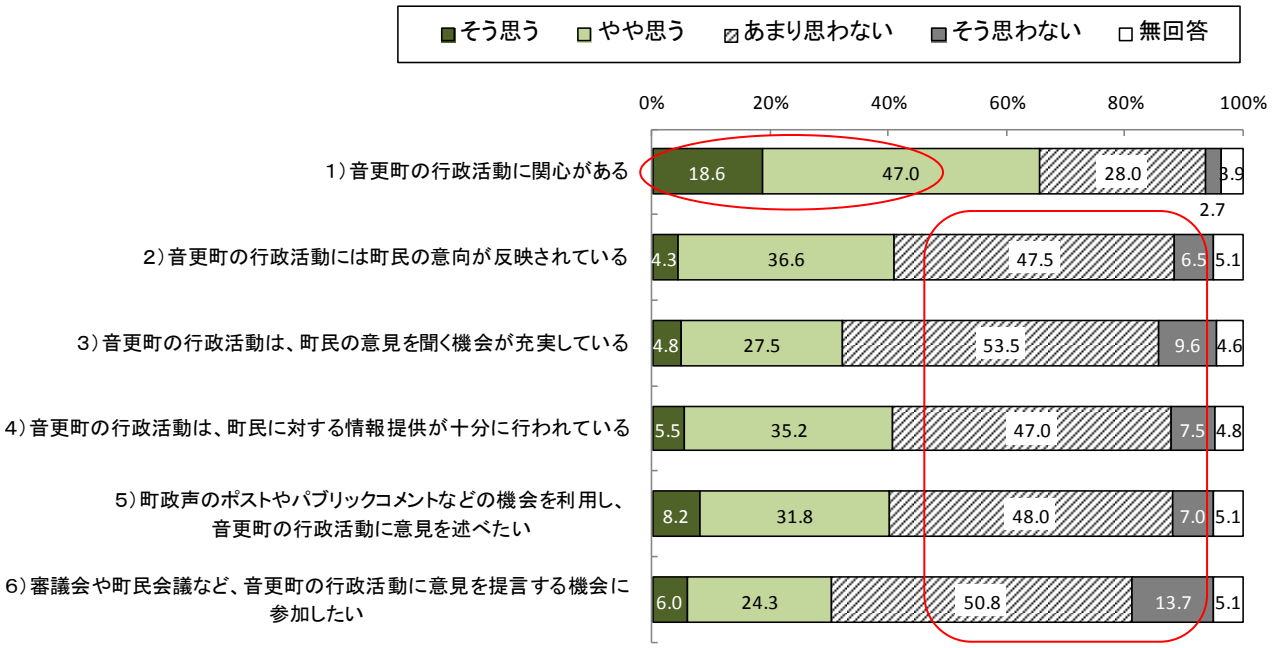
6　まちづくりへの関心や参加（【問８】【問９】【問 10】）

【問８】音更町のまちづくり（行政活動）や町民参加に関する次の項目について、それぞれどのようにお考えですか。各選択肢からお知らせください。（各項目○は１つ）

○「そう思う」「やや思う」ともに高いのは「1）行政活動（まちづくり）に関心がある」で、合計すると 65.6%になります。

○一方、2）～6）の項目は、いずれも「あまり思わない」が最も高く、「そう思わない」との合計が過半数を占めます。

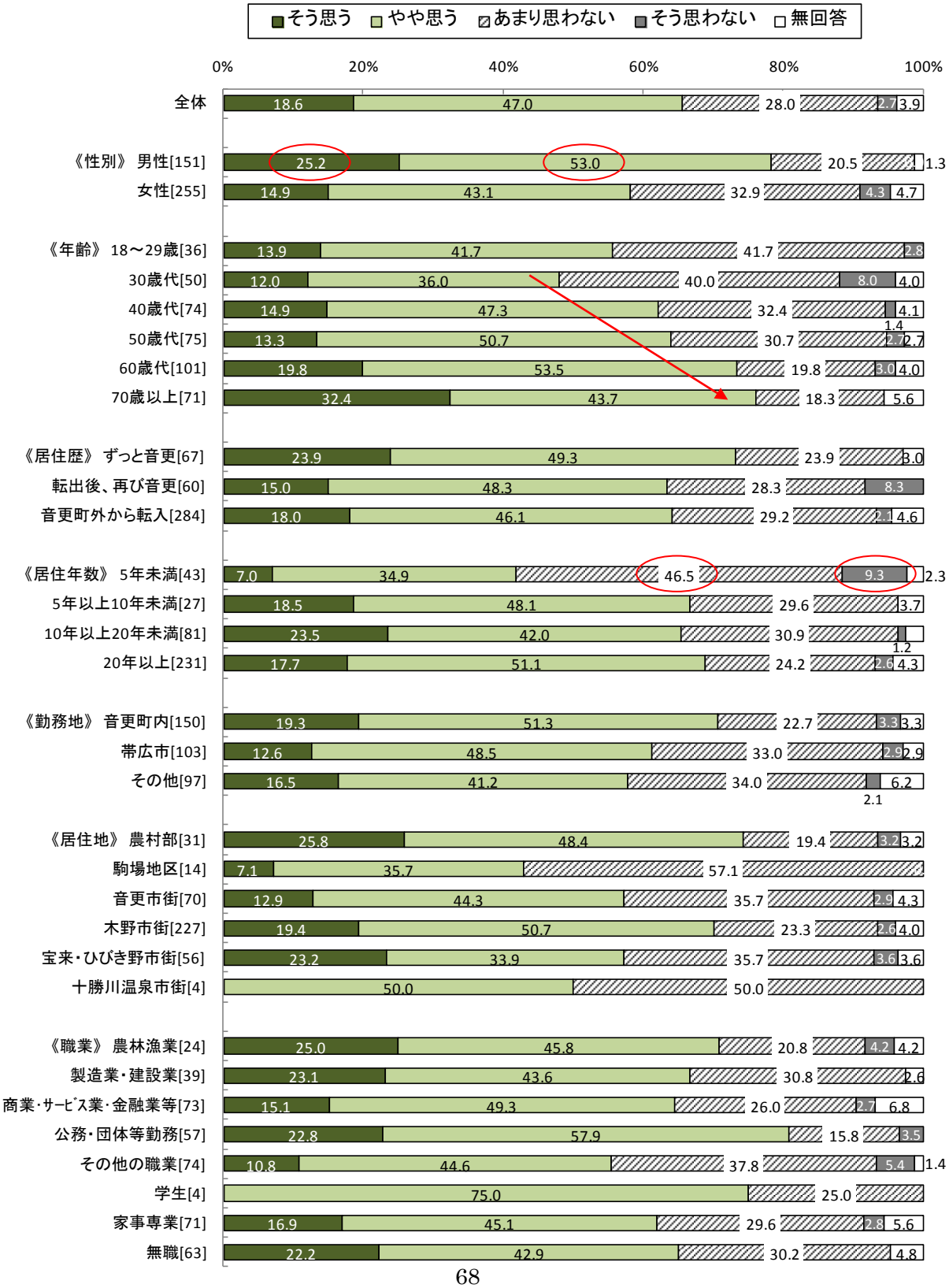
【問8】行政運営（まちづくり）や町民参加について（512人）



1）行政活動（まちづくり）に関心がある

- ●性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。
- ●年齢別でみると、「そう思う」「やや思う」という肯定的な回答の割合は、30 歳代が最も低いですが、その他の年齢は、年齢が高いほど高まる傾向にあります。
- ●居住年数別でみると、５年未満は「あまり思わない」「そう思わない」が高く、合計が過半数を占めます。

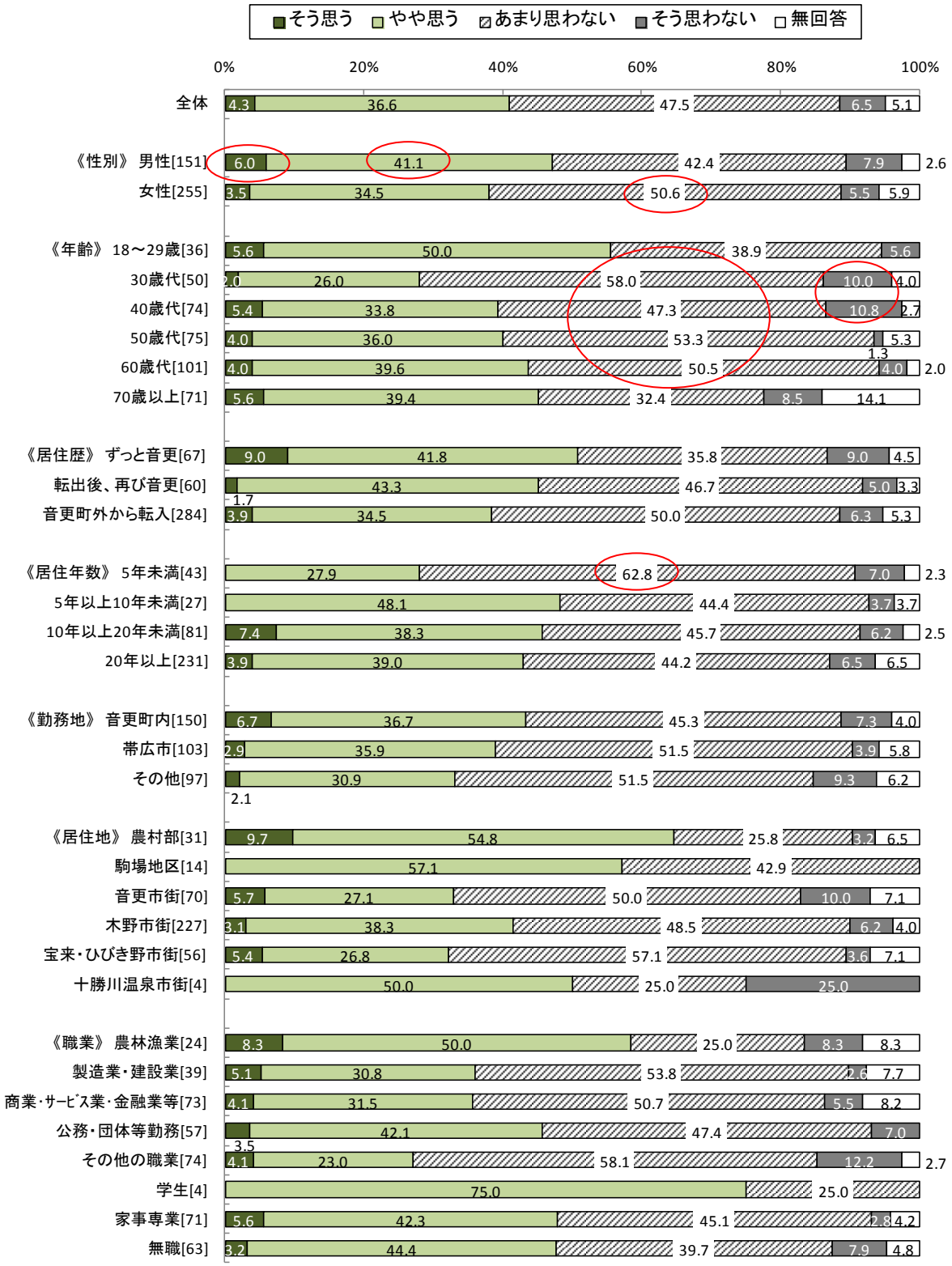
【問8】1）音更町の行政活動に関心がある



2）行政活動には町民の意向が反映されている

- 性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。女性は「あまり思わない」が約半数を占めます。
- 年齢別でみると、30 歳代から 60 歳までの年齢では「あまり思わない」が半数前後を占め、30 歳代と 40 歳代は「そう思わない」が約 1 割を占めます。
- 居住年数別でみると、５年未満は「あまり思わない」が６割を越えます。

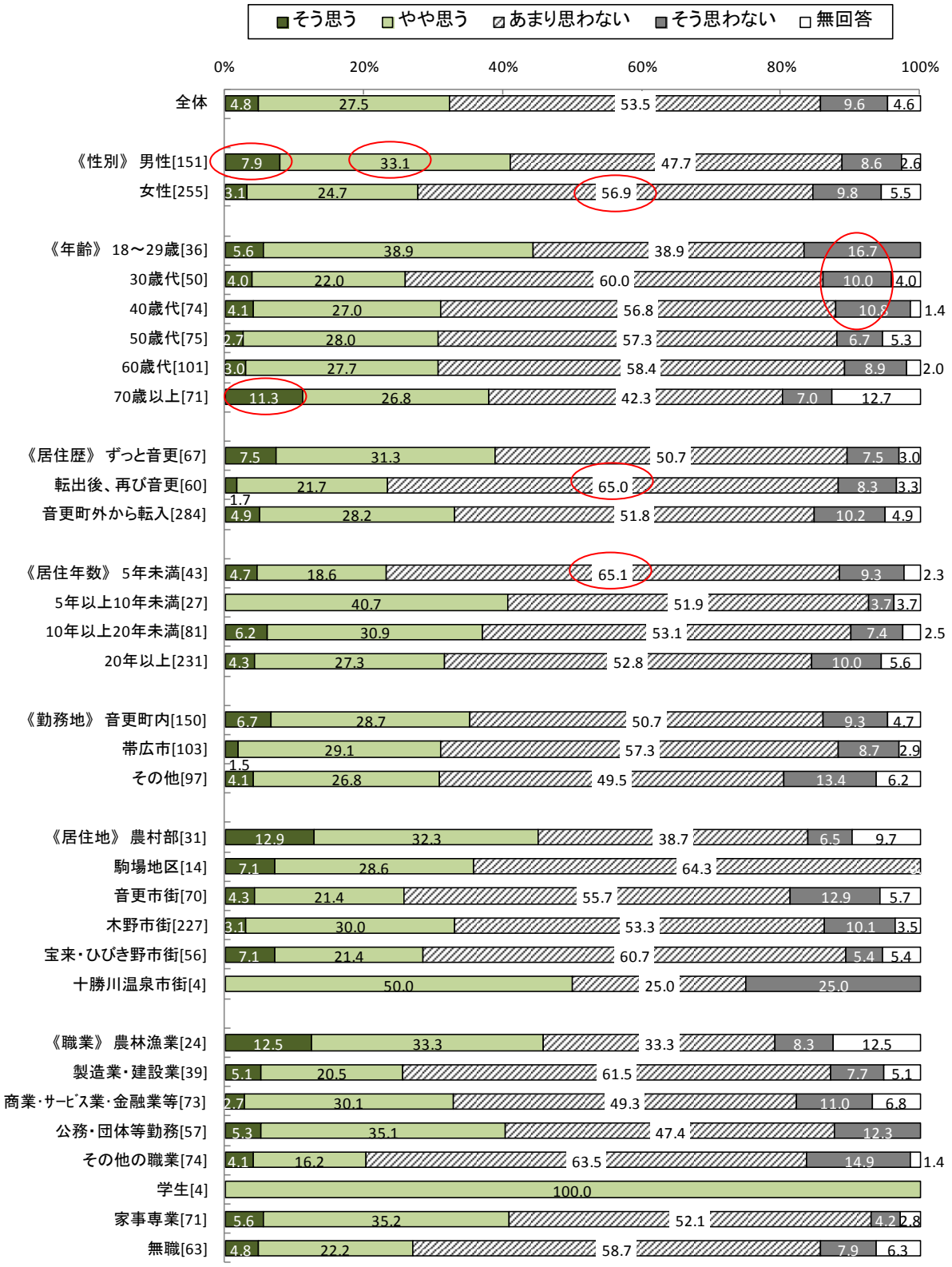
【問8】2)音更町の行政活動には町民の意向が反映されている



3）行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している

- ●性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。女性は「あまり思わない」が過半数を占めます。
- ●年齢別でみると、「そう思う」は 70 歳以上で１割を越えます。一方、40 歳代以下の若い年齢では「そう思わない」が１割を越えます。
- ●居住歴別でみると、転出後再び音更の回答者は「あまり思わない」が６割を越えます。
- ●居住年数別でみると、５年未満は「あまり思わない」が６割を越えます。

【問8】3）音更町の行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している

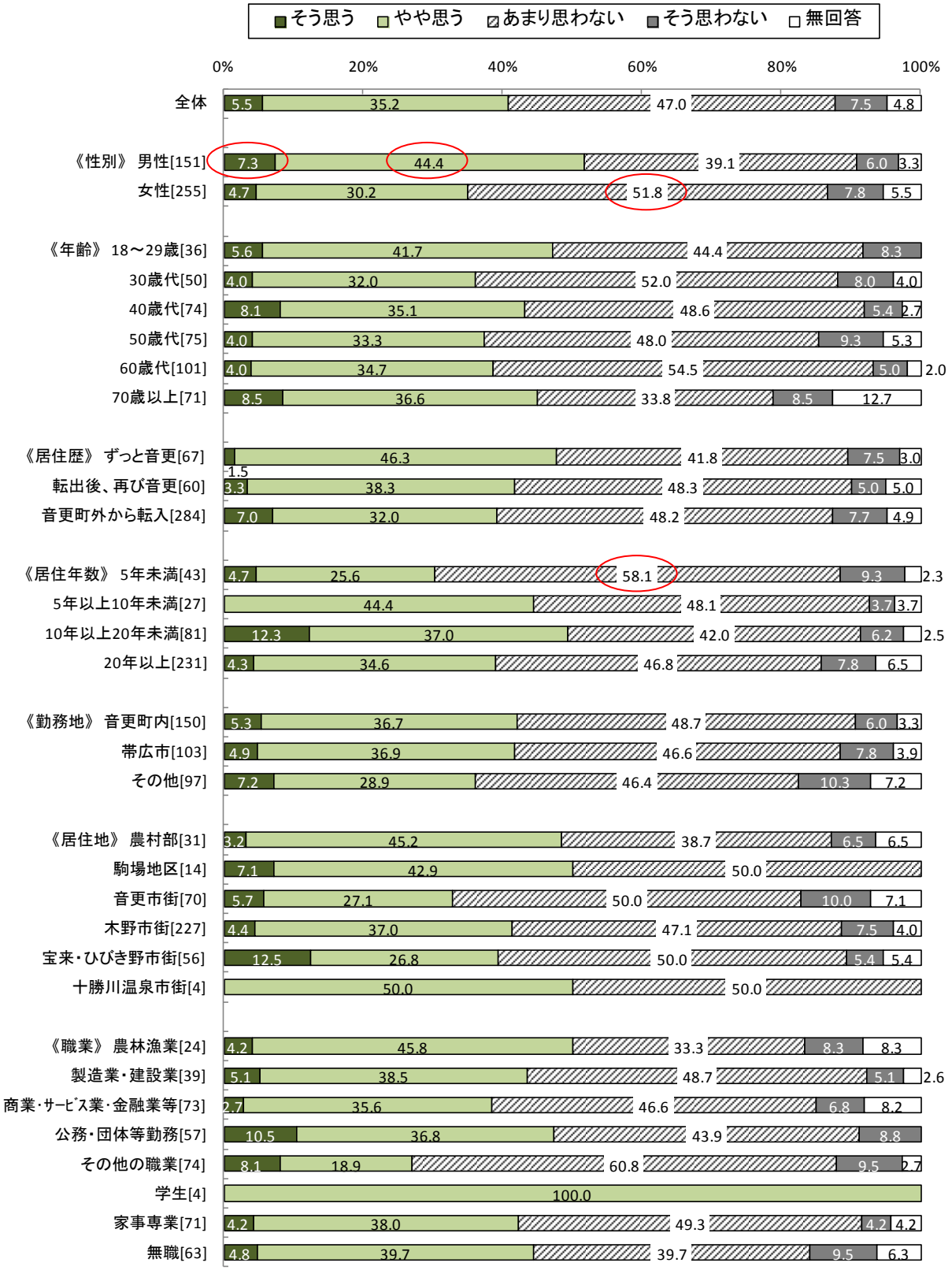


4）音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている

●性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。女性は「あまり思わない」が過半数を占めます。

●居住年数別でみると、５年未満は「あまり思わない」が約６割を占めます。

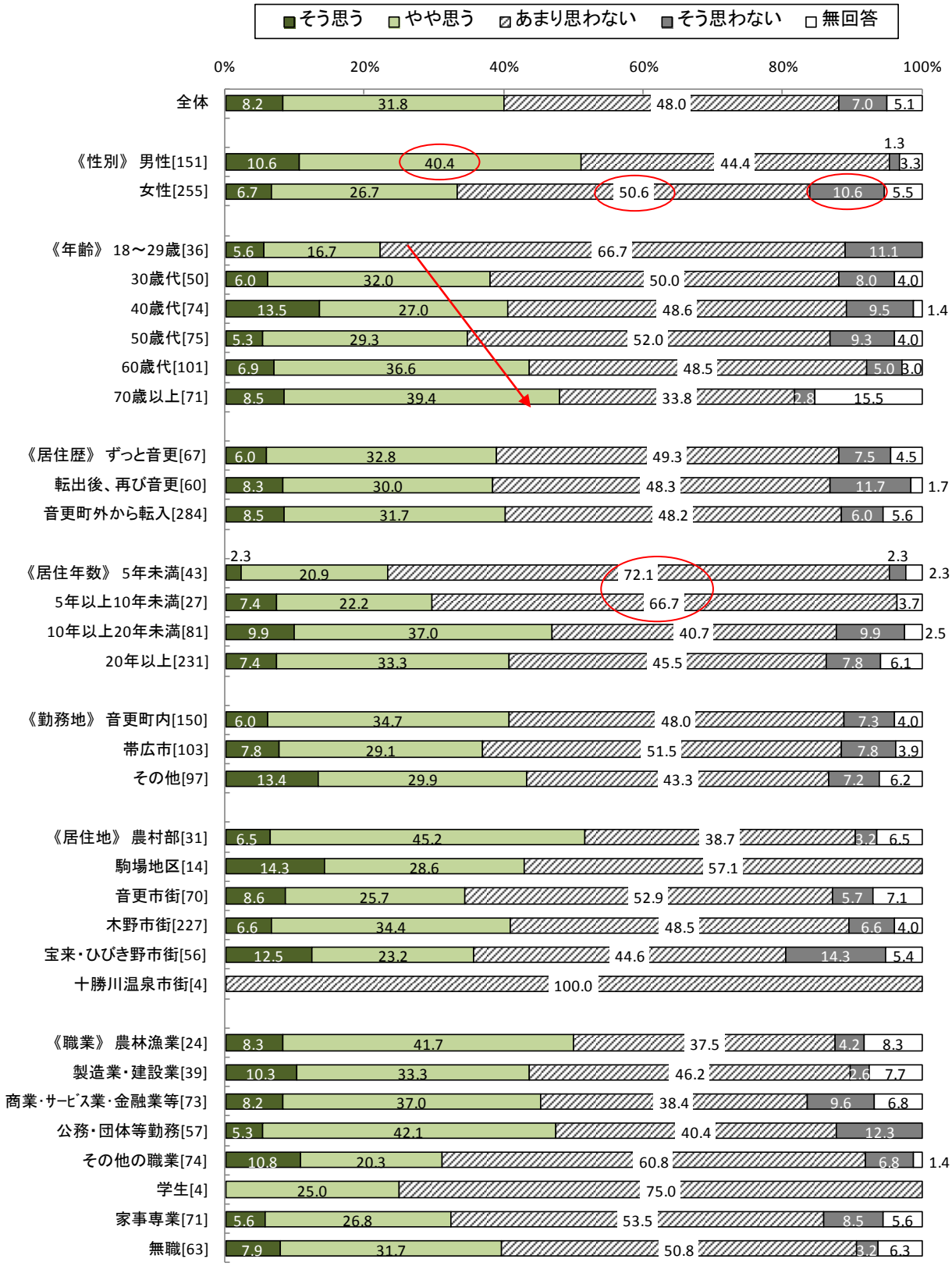
【問8】4）音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている



5）「町政声のポスト」やパブリックコメントなどで行政活動に意見を述べたい

- 性別でみると、男性は「やや思う」が４割以上を占めます。女性は「あまり思わない」が約半数、「そう思わない」が１割を占めます。
- 年齢別でみると、50 歳代を除くと年齢が高まるほど「そう思う」と「やや思う」の合計が高まる傾向にあります。50 歳代は 30 歳代と 40 歳代よりも合計は低いです。
- 居住年数別でみると、５年未満と５年以上 10 年未満は「あまり思わない」が７割前後を占めます。

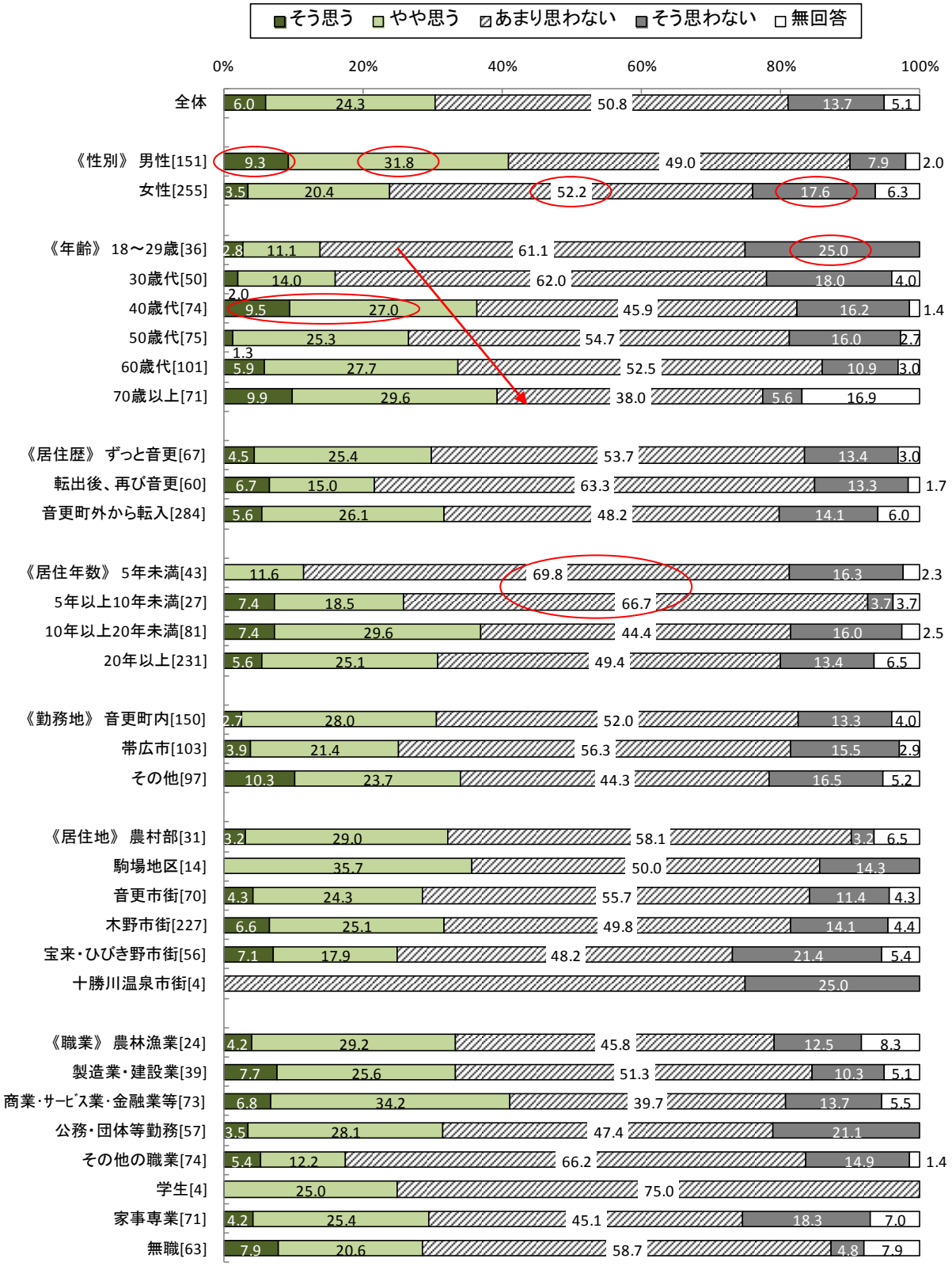
【問8】5）町政声のポストやﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ等を利用し、音更町の行政活動に意見を述べたい



6）審議会や町民会議など、行政活動に意見を提言する機会に参加したい

- 性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。女性は「そう思わない」が過半数を占め、「そう思わない」が２割弱を占めます。
- 年齢別でみると、40 歳代を除くと年齢が高まるほど「そう思う」と「やや思う」の合計が高くなります。40 歳代は 60 歳代より「そう思う」と「やや思う」の合計は高いです。一方、18～29 歳は「そう思わない」が４分の１を占めます。
- 居住年数別にみると、５年未満と５年以上 10 年未満は「あまり思わない」が６割以上を占めます。

【問8】6）審議会や町民会議など、音更町の行政活動に意見を提言する機会に参加したい



前回との比較

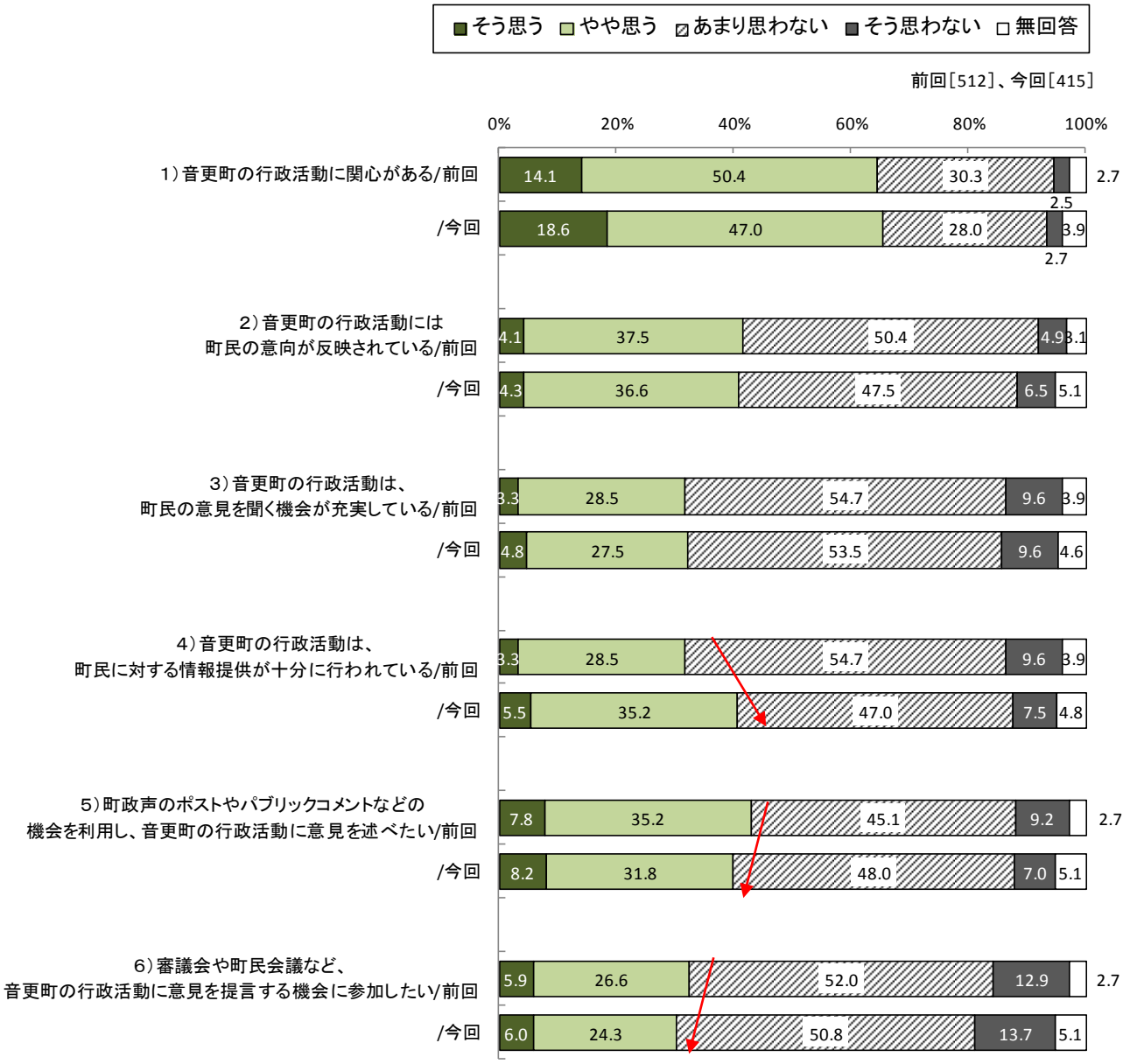
前回と同様、「そう思う」が最も高いのは「1）行政活動（まちづくり）に関心がある」です。今回は「そう思う」が若干高くなっていますが「やや思う」との合計に、大きな違いはありません。

「2）行政活動には町民の意向が反映されている」と「3）行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している」については、「そう思う」「やや思う」の合計と「あまり思わない」「そう思わない」の合計に、大きな違いはありません。

「4）行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている」については、「そう思う」「やや思う」の合計が、ともに少しずつ高くなっています。

「5）「町政声のポスト」やパブリックコメントなどで行政活動に意見を述べたい」と「6）審議会や町民会議など、行政活動に意見を提言する機会に参加したい」については、「そう思う」「やや思う」の合計が、ともに少しずつ低くなっています。

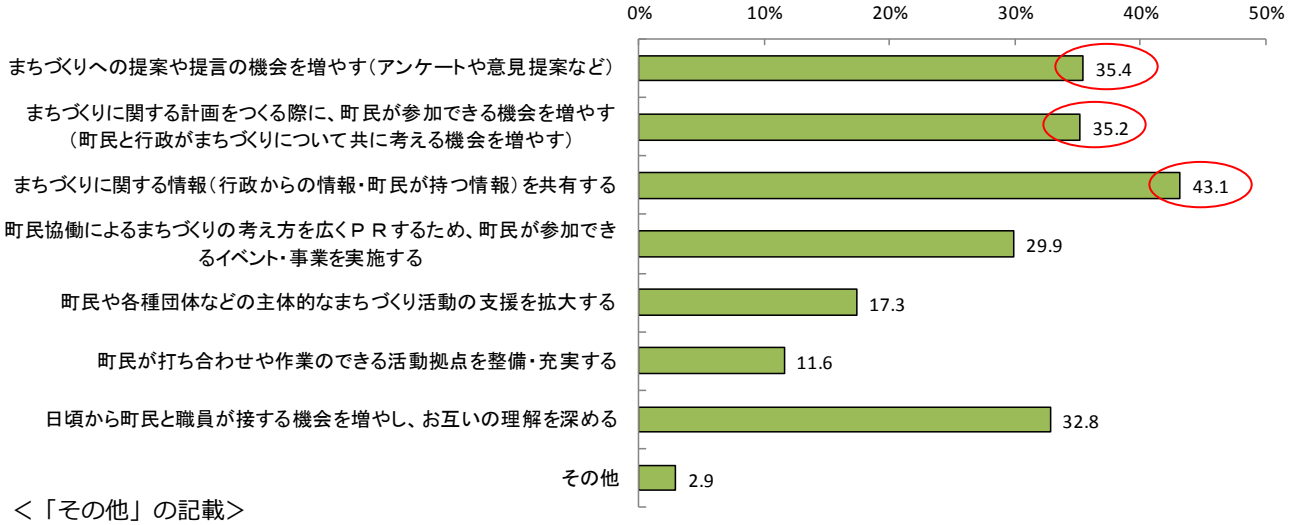
【問8】行政運営（まちづくり）や町民参加について（前回との比較）



【問９】音更町では、「まちづくり基本条例」を定め、『町民協働によるまちづくり』を進めています。このような「町民協働によるまちづくり」を進めるうえで、重要だと思うことをお知らせください。（○はいくつでも）

○「まちづくりに関する情報を共有する」（43.1%）が最も高く、「まちづくりへの提案や提言の機会を増やす」（35.4%）と「まちづくりに関する計画をつくる際に、町民が参加できる機会を増やす」（35.2%）がほぼ同率で続きます。

【問9】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/415人）



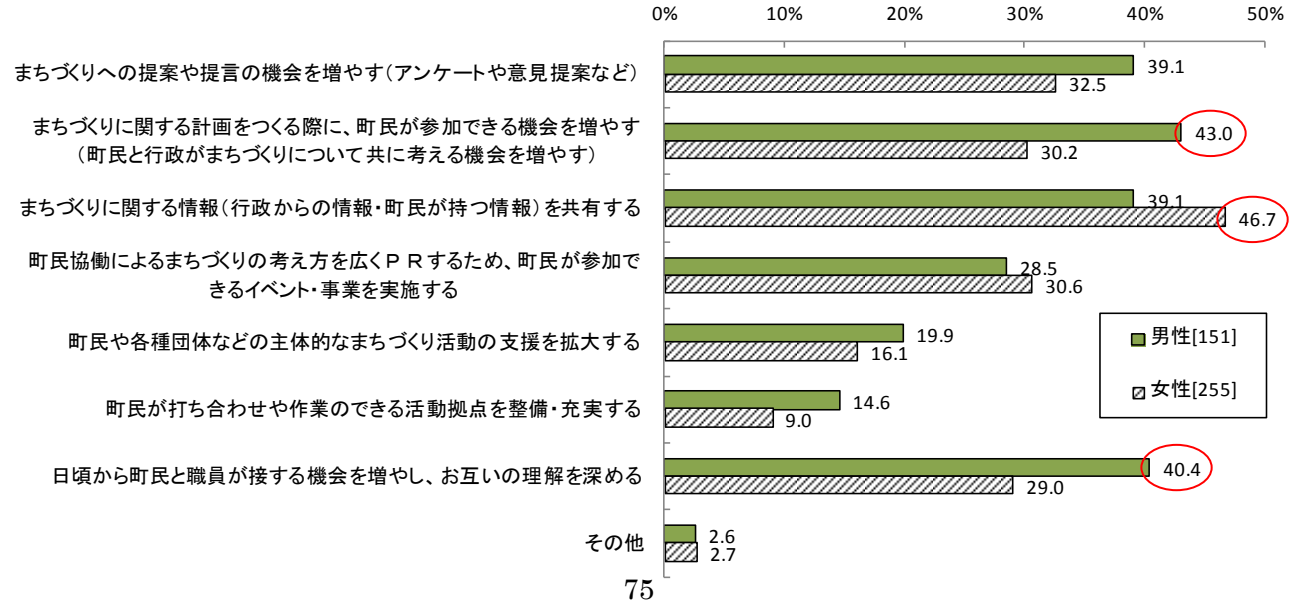
＜「その他」の記載＞

・実際に進める際、頭の固い人達だけでなく若い人も参加してもらう。　・10 代・20 代がもっと発言できる機会を。
・アンケートなどはホームページ等に公開する。　・優先順位を把握し取り組む。　・音更町産業祭りの復活。
・若い職員であろうと町内会の役員をやるべき。　・職員はあぐらをかかずもっと町民のために勉強すべし。
・職員の意識を変え町民に寄りそう気持ちサービス業である自覚を持つことは大切。
・特定の団体やグループが優遇されるのではなく、志のある新規者が参加できやすい環境づくり。
・行政と有議者で専門的な話をし、その後町民の意見などを取り入れて行くと更に充実すると思います。突然、行政と有議者の中に一般の方が参加しても、何を発言して良いのかわからない気がします。

●性別でみると、男性は「まちづくりに関する計画をつくる際に、町民が参加できる機会を増やす」、女性は「まちづくりに関する情報を共有する」が第１位で、それぞれ、男女の差がめだちます。

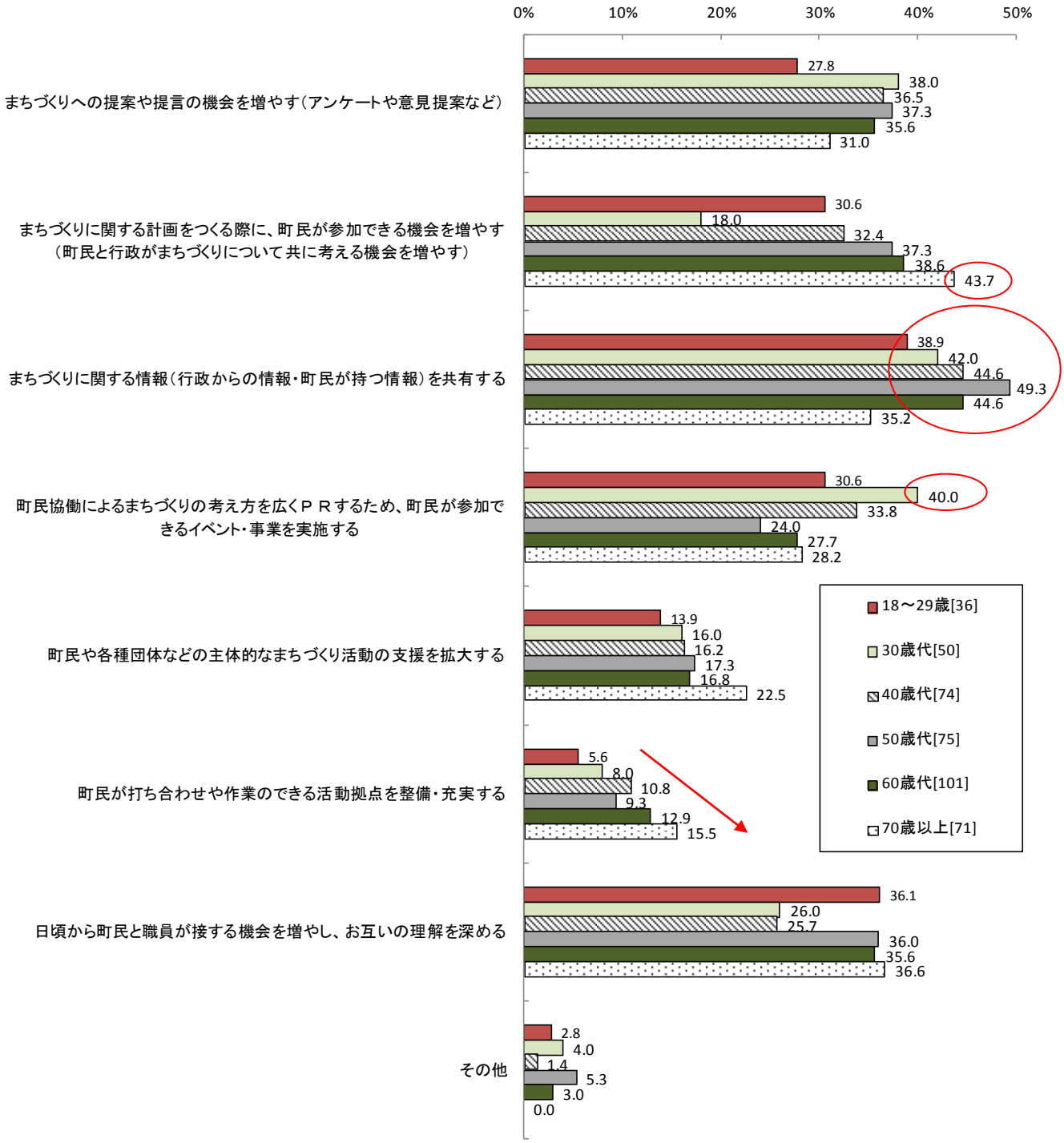
●「日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める」は男性の方が高く、女性との差がめだちます。

【問9】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/性別）



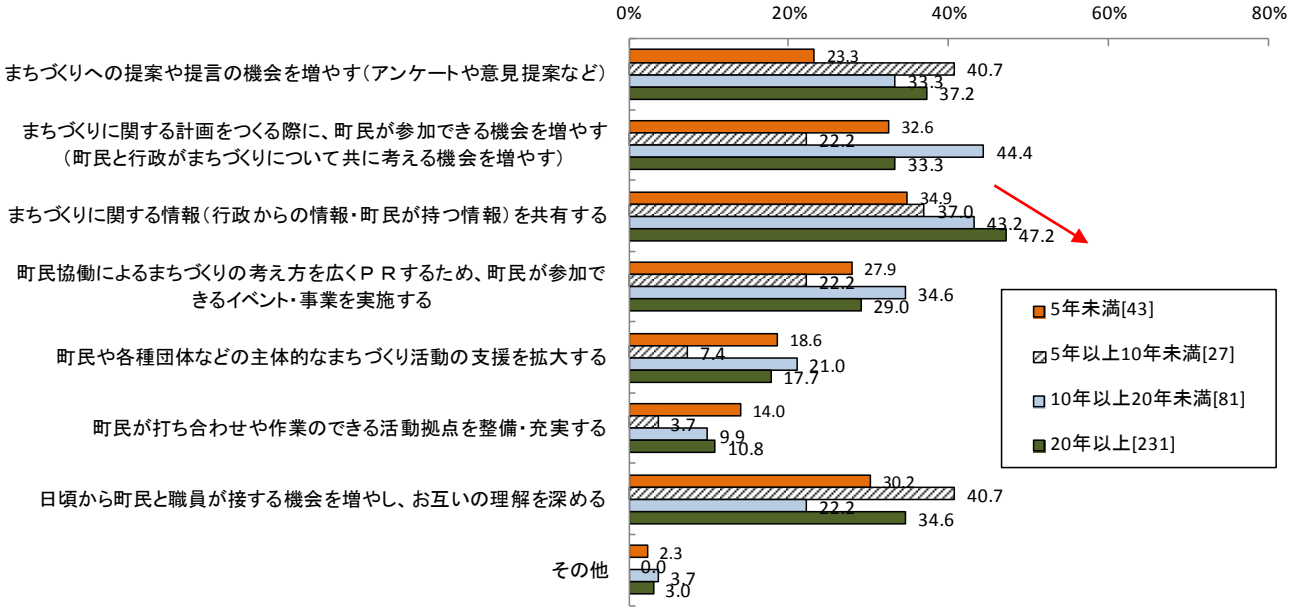
- 年齢別に第１位をみると、60 歳代以下の年齢は「まちづくりに関する情報を共有する」、70 歳以上は「まちづくりに関する計画をつくる際に、町民が参加できる機会を増やす」です。
- 「町民協働によるまちづくりの考え方を広くＰＲするため、町民が参加できるイベント・事業を実施する」は 30 歳代の回答率が高く、他の年齢との差がめだちます。
- 「町民が打ち合わせや作業のできる活動拠点を整備・充実する」は年齢が高くなるほど回答率が高まる傾向にあります。

【問９】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/年齢別）



●居住年数別でみると、「まちづくりに関する情報を共有する」は、居住年数が長くなるほど回答率が高まります。

【問９】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/居住年数別）

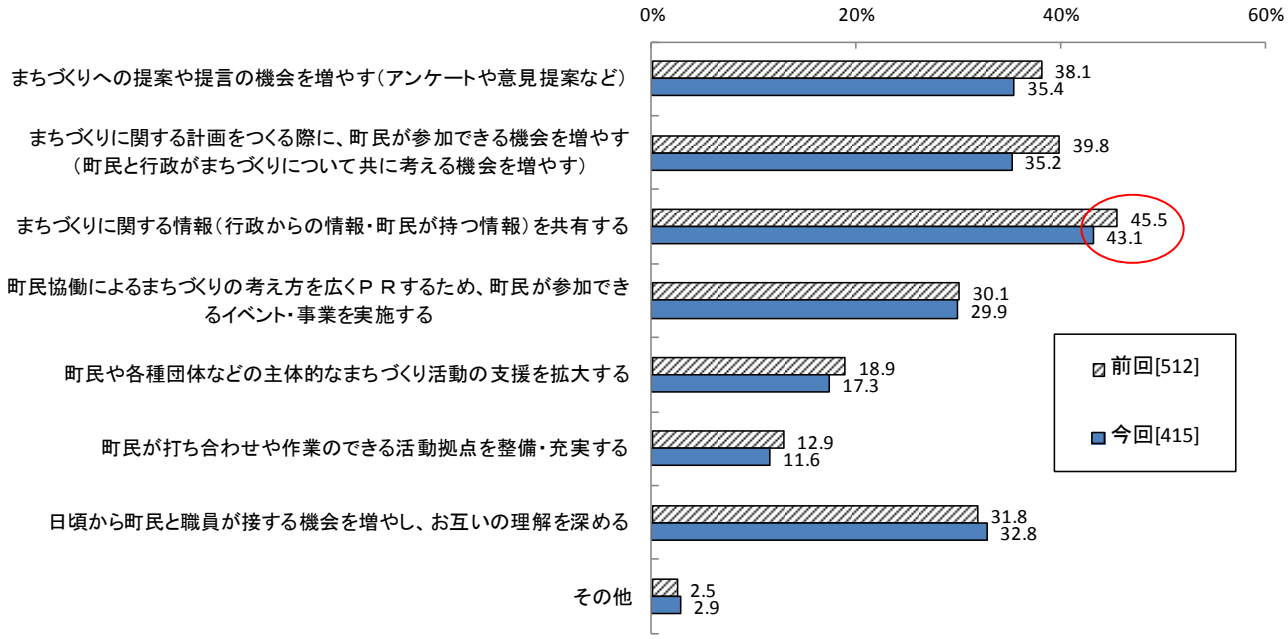


前回との比較

前回と同様「まちづくりに関する情報を共有する」が第１位で、上位３位は前回と同じですが、いずれも今回の方が、回答率が低くなっています。

全体的に回答傾向に大きな差はありませんが、「日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める」と「その他」以外は、今回の方が、回答率が低くなっています。

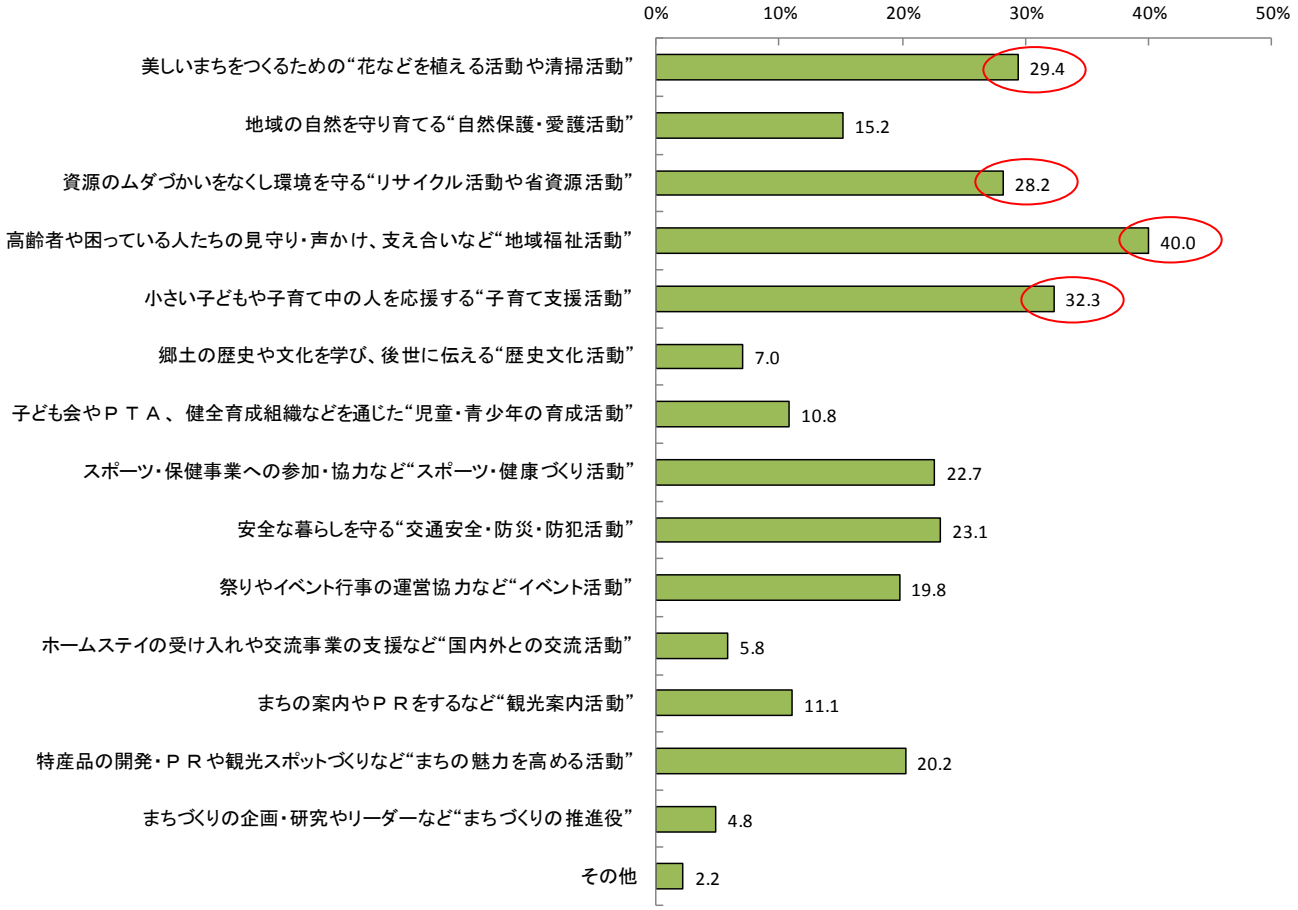
【問９】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/前回との比較）



【問 10】まちづくり活動に参加するとしたら、どのような活動に参加したいですか。現在参加されているものも含めてお知らせください。（○はいくつでも）

○「高齢者や困っている人たちの見守り・声かけ、支え合いなど"地域福祉活動"」（40.0%）が最も高く、「小さい子どもや子育て中の人を応援する"子育て支援活動"」（32.3%）、「美しいまちをつくるための"花などを植える活動や清掃活動"」（29.4%）、「資源のムダづかいをなくし環境を守る"リサイクル活動や省資源活動"」（28.2%）と続きます。

【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/415人）

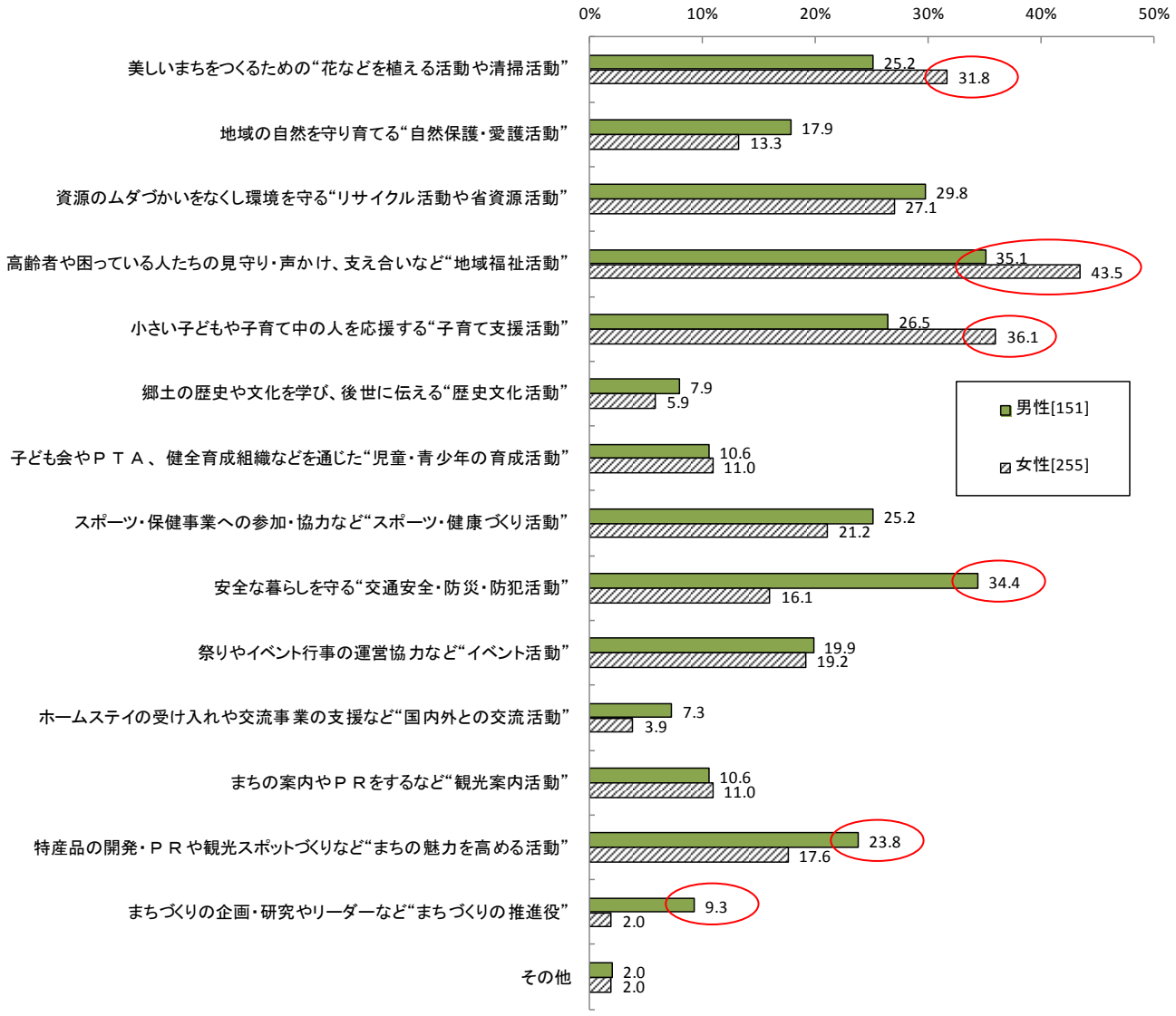


＜「その他」の記載＞
・水道水をおいしくする。
・型にはまらない自由な活動。活動をしなくちゃいけないからとしている様な活動ではなく町民が進んで参加したくなる活動なら参加したい。
・自分の経験をほかの人に伝えられ、それにより地域でのコミュニケーションの場となれば良い。

●性別でみると、男女とも「高齢者や困っている人たちへの"地域福祉活動"」が第１位ですが、女性の方が高くなっています。第２位は、男性は「安全な暮らしを守る“交通安全・防災・防犯活動”」女性は「小さい子どもや子育て中の人を応援する"子育て支援活動"」で、それぞれ、男女の差がめだちます。

●「美しいまちをつくるための"花などを植える活動や清掃活動"」は女性、「特産品の開発・ＰＲや観光スポットづくりなど“まちの魅力を高める活動”」や「まちづくりの企画・研究やリーダーなど“まちづくりの推進役”」は男性の回答率が高く、男女の差がめだちます。

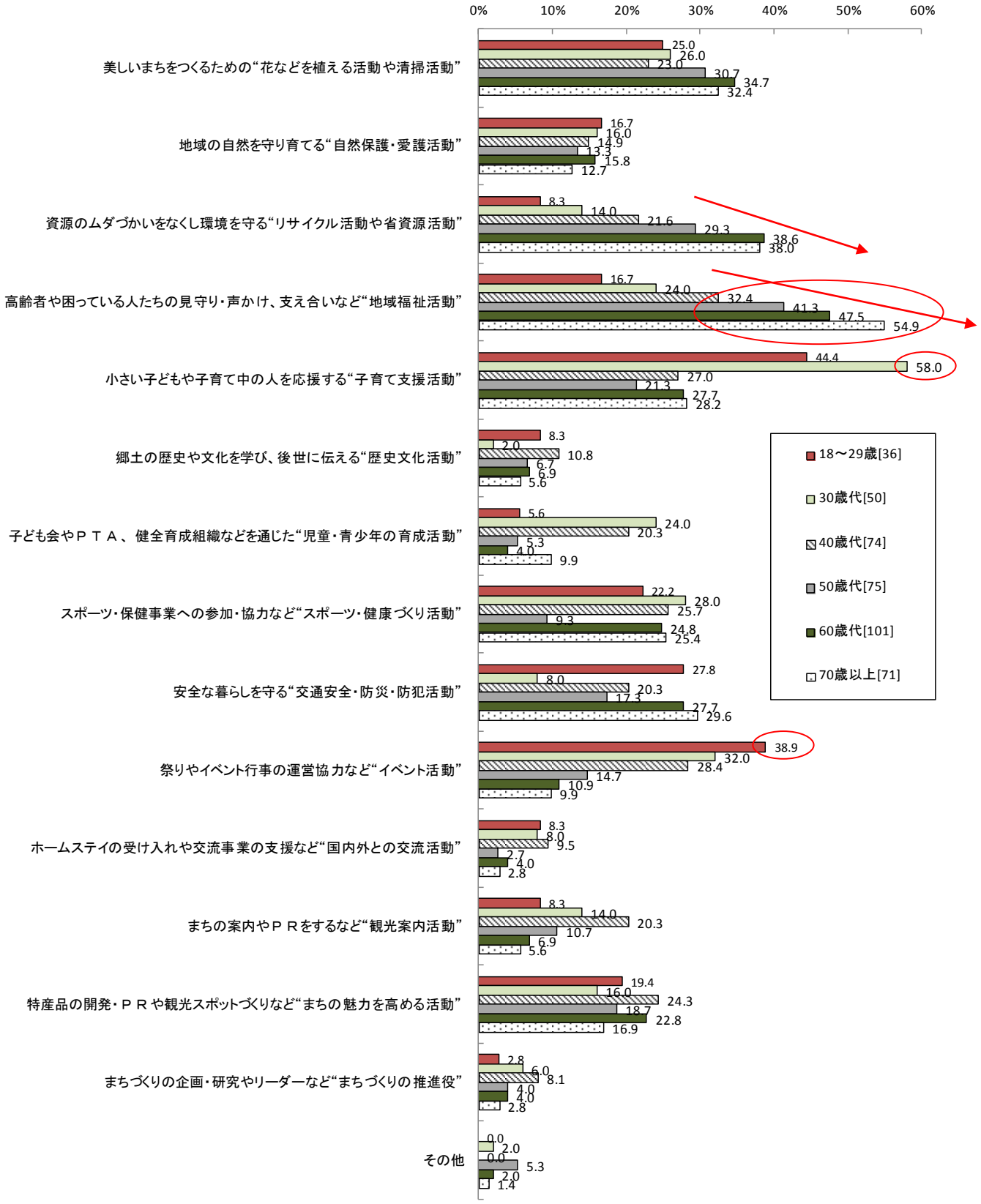
【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/性別）



●年齢別に第１位をみると、18～29 歳は「祭りやイベント行事の運営協力など“イベント活動”」、30 歳代は「"子育て支援活動"」、40 歳代以上の年齢は「"地域福祉活動"」をあげています。

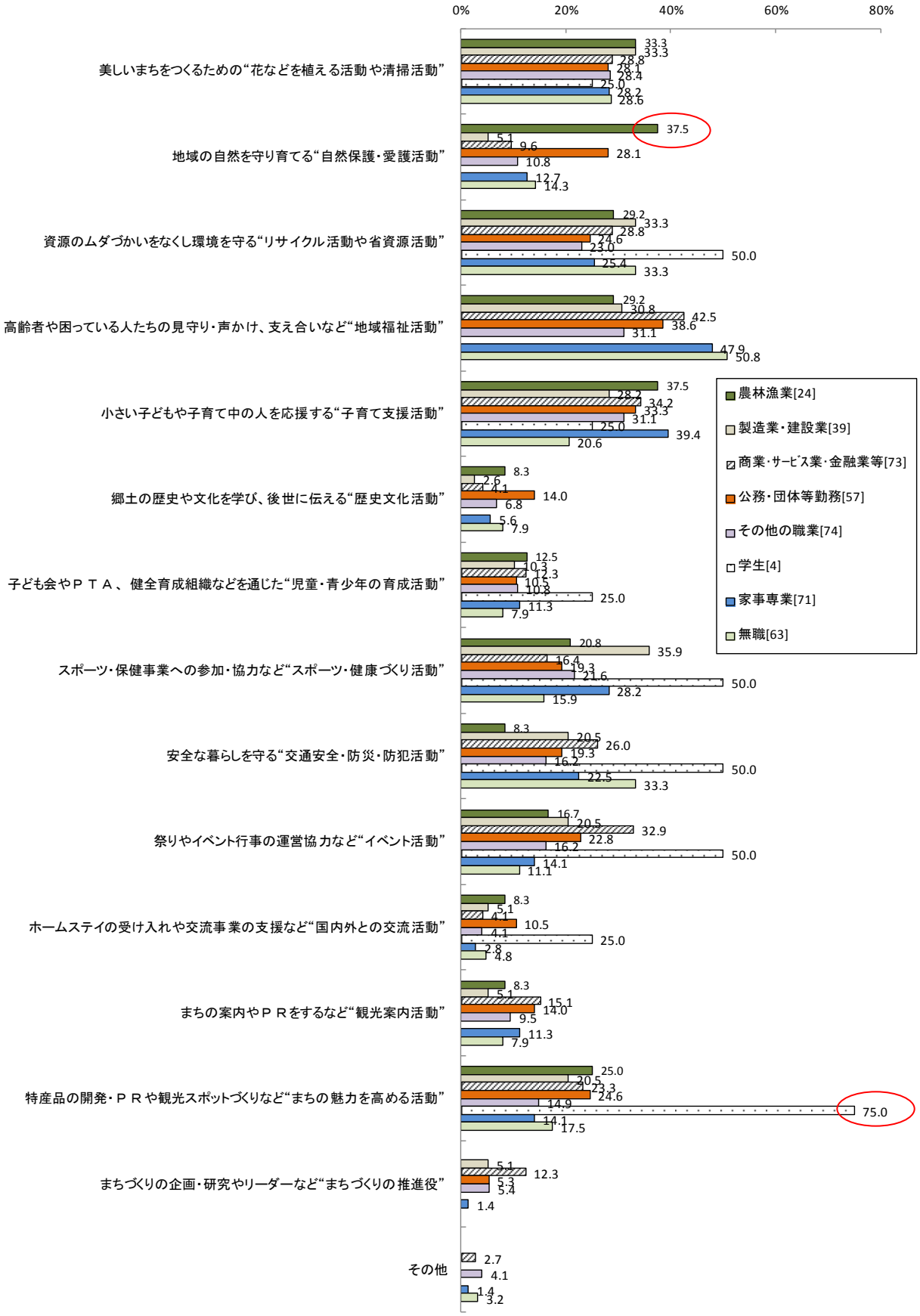
●「"リサイクル活動や省資源活動"」や「"地域福祉活動"」は、年齢が高くなるほど回答率が高まる傾向にあります。

【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/年齢別）



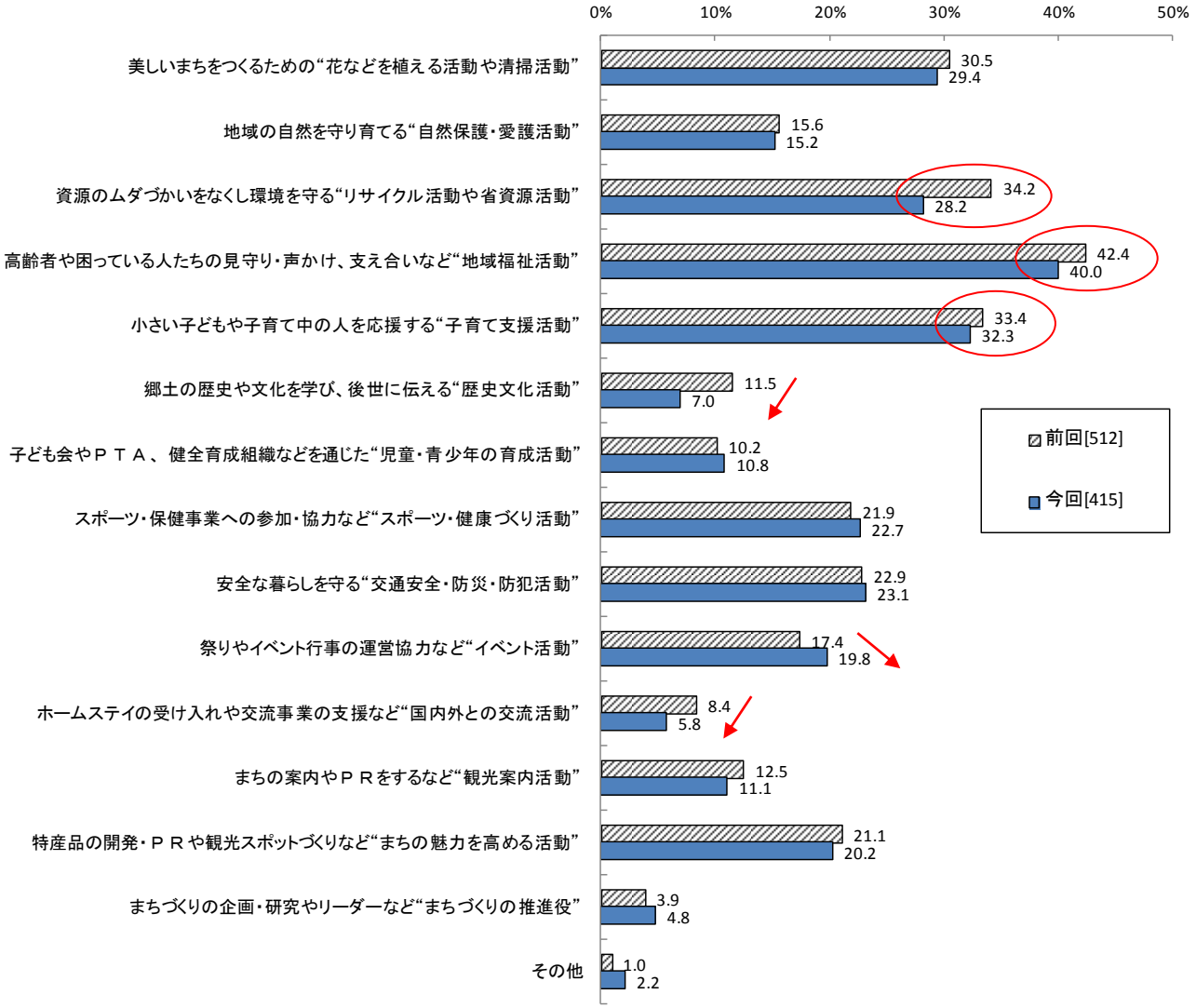
●職業別でみると、「地域の自然を守り育てる"自然保護・愛護活動"」は農林漁業、「"まちの魅力を高める活動"」は学生の回答率が高くなっています。

【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/職業別）



前回との比較
前回と同様、第１位は「"地域福祉活動"」で、上位３位は前回と同じですが、いずれも今回の方が、回答率が低くなっています。 「"イベント活動"」は前回よりやや高く、「"歴史文化活動"」や「"国内外との交流活動"」は前回よりやや低くなっているなどの違いはありますが、全体的に大きな差はみられません。

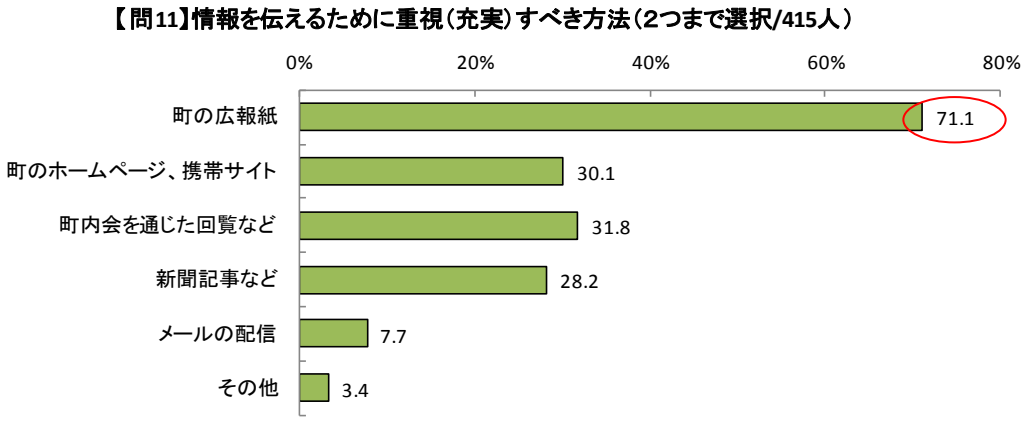
【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/前回との比較）



７　広報、情報提供（【問 11】【問 12】【問 13】）

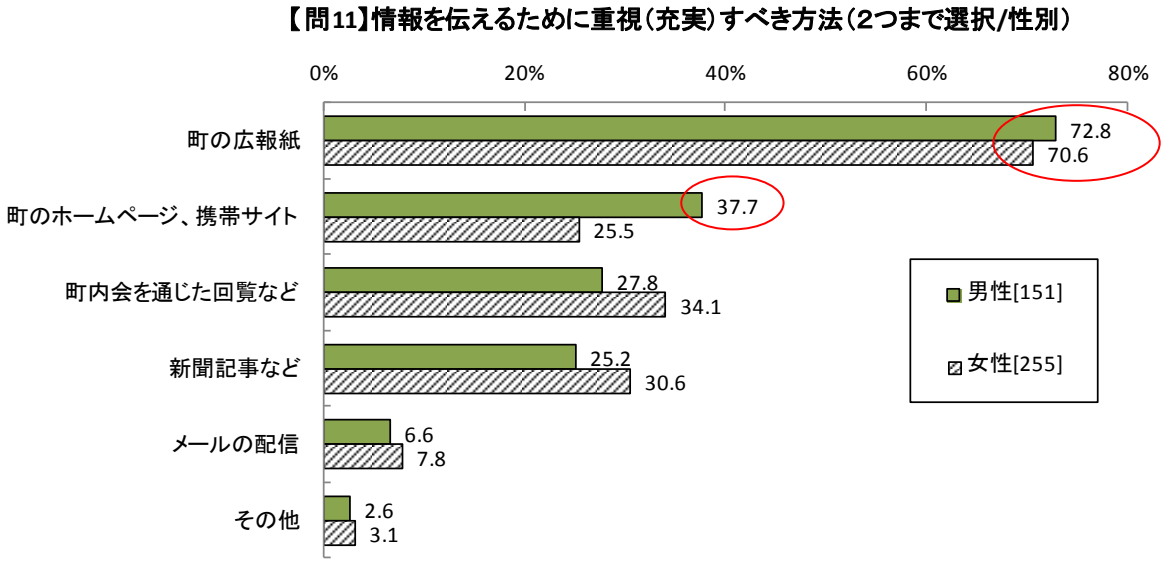
【問 11】まちづくり（町政）や地域に関する情報を伝える方法として、何を充実（重視）すべきだと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

○「町の広報紙」（71.1％）が最も高く、間をあけて、「町内会を通じた回覧など」（31.8％）、「町のホームページ、携帯サイト」（30.1％）、「新聞記事など」（28.2％）、「メールの配信」（7.7％）と続きます。



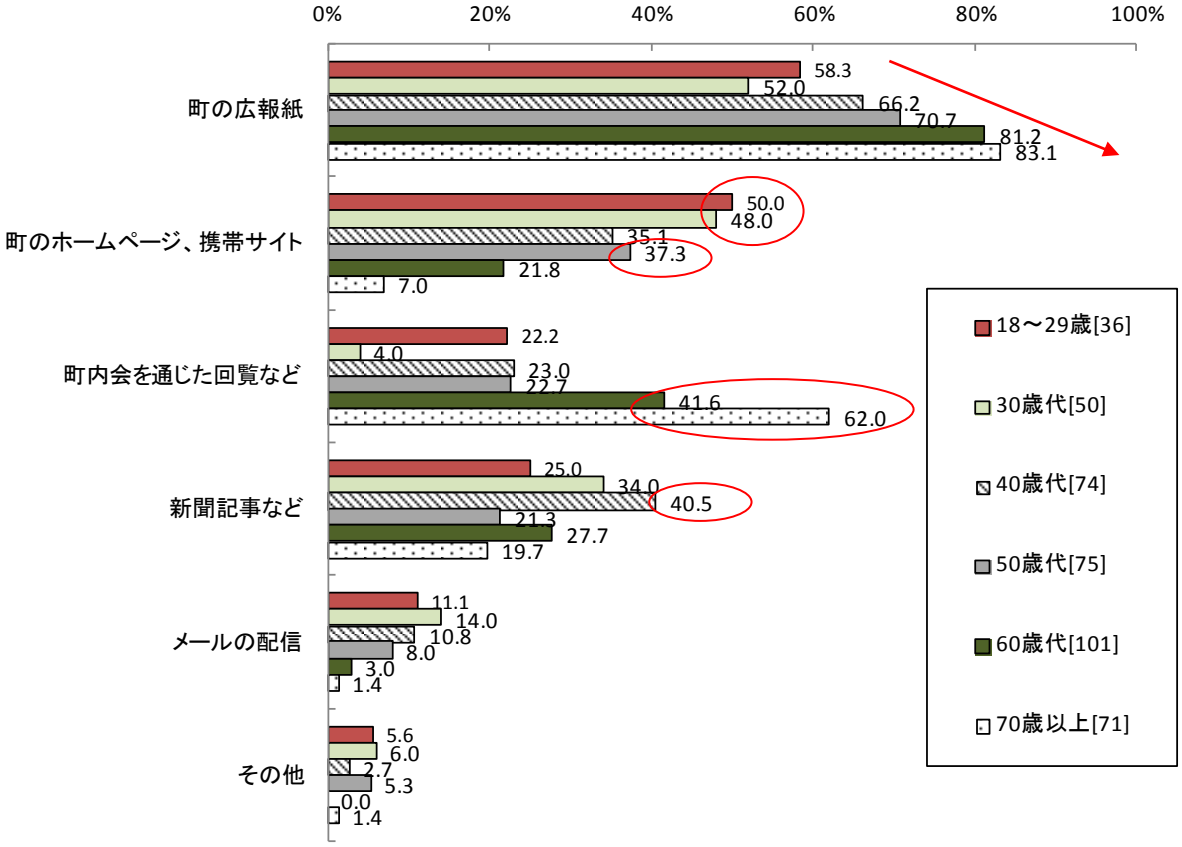
＜「その他」の記載＞
・フェイスブック（２）　・Twitter など　・映像広告　・ちらし　・街角ティッシュ配り
・フリーマガジン形式（町広報紙の簡易版のイメージ。町内会入会有無や年代問わず目に留まるもの）
・広報誌を置く所を増やしてほしい（スーパー等）。
・内容が重要。町民が参加したく、知りたくなる様な、年齢別に合わせた内容興味が沸く内容など。
・見やすくわかりやすくする事ですね。

●性別でみると、男女とも「町の広報紙」が第１位です。「町のホームページ、携帯サイト」は男性の回答率が高く、男女の差がめだちます。



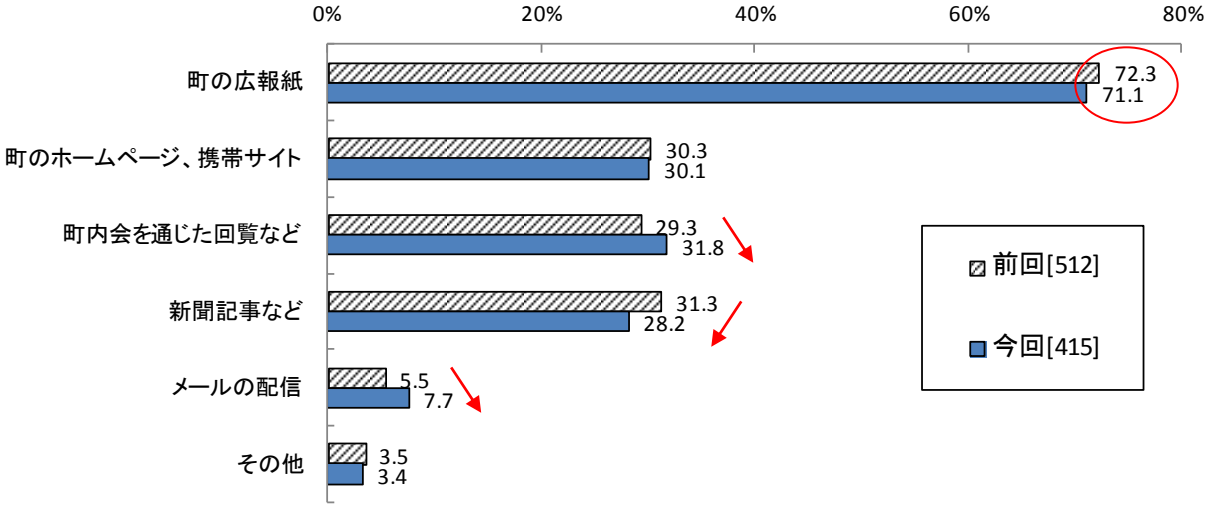
●年齢別でみると、いずれの年齢も「町の広報紙」が第１位で、30 歳代を除くと、年齢が高くなるほど回答率が高まります。第２位については、18～29 歳、30 歳代、50 歳代は「町のホームページ、携帯サイト」、40 歳代は「新聞記事など」、60 歳代、70 歳以上は「町内会を通じた回覧など」をあげています。

【問11】情報を伝えるために重視（充実）すべき方法（2つまで選択/年齢別）



前回との比較
前回と同様「町の広報紙」が第１位です。 「町内会を通じた回覧など」や「メールの配信」は今回の方がやや高く、「新聞記事など」は今回の方がやや低くなっていますが、全体的に、大きな違いはみられません。

【問11】情報を伝えるために重視（充実）すべき方法（2つまで選択/前回との比較）

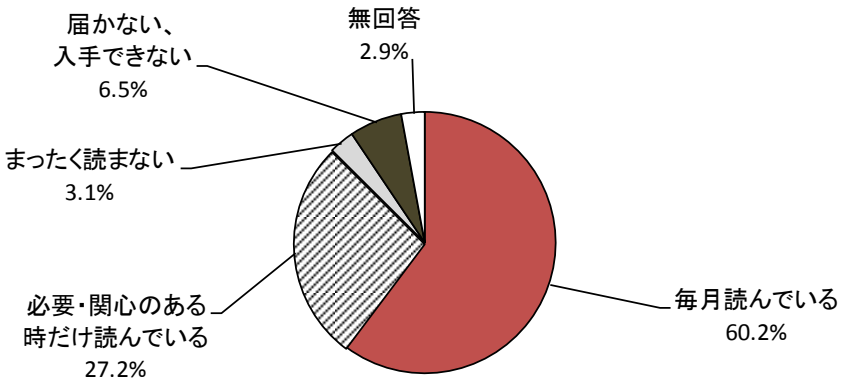


【問 12】音更町では、毎月１回発行の「広報おとふけ」と町のホームページで、町に関する情報をお伝えしています。これらをどのぐらいの頻度でご覧になっているかお知らせください。（各項目○は１つ）

１）「広報おとふけ」について

○「広報おとふけ」を読む程度については、「毎月読んでいる」（60.2%）が約６割を占め、「必要・関心のある時だけ読んでいる」（27.2%）が続きます。「まったく読まない」は3.1%で、「届かない、入手できない」は 6.5%です。

【問12】1)「広報おとふけ」を読む頻度（415人）

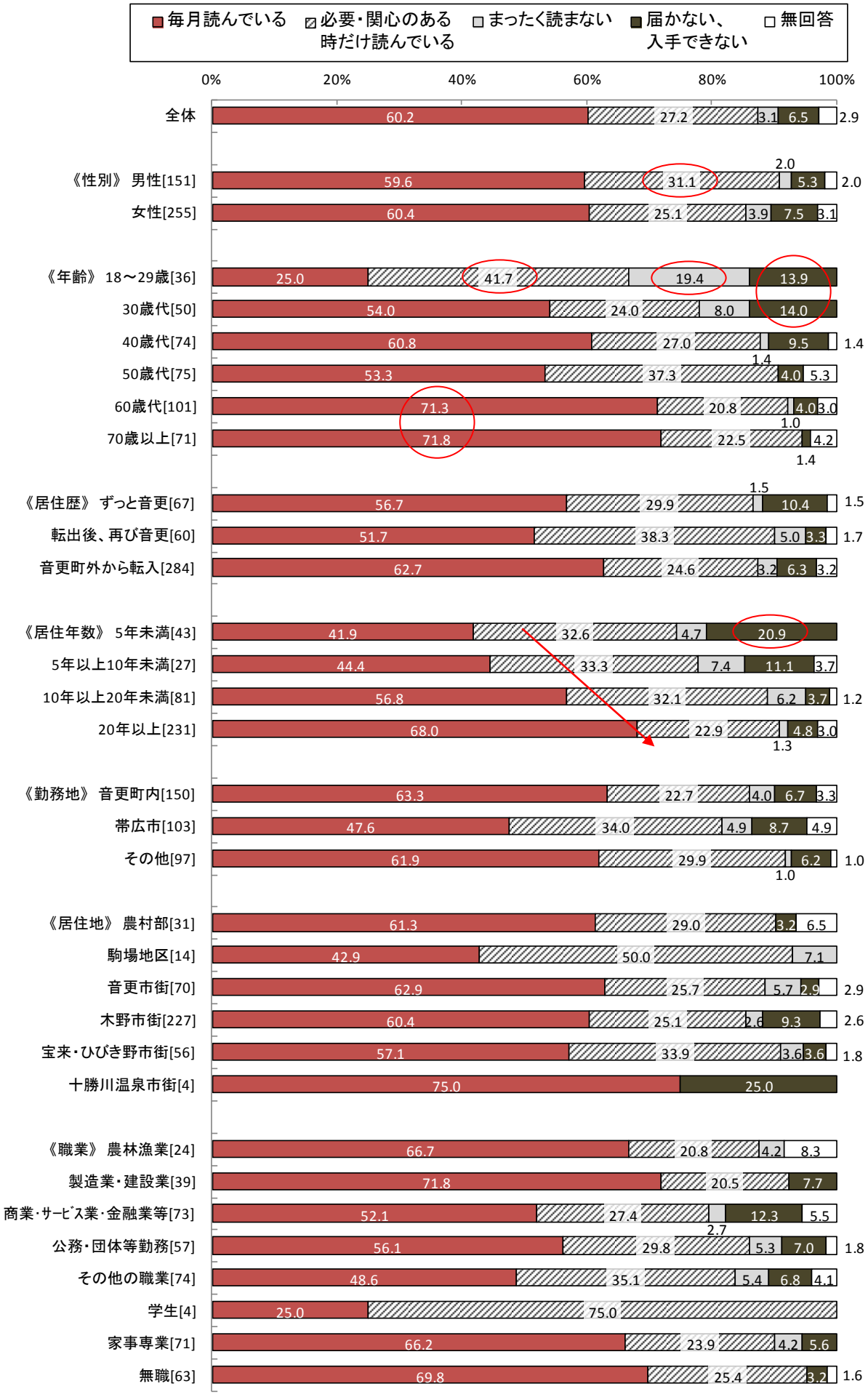


●性別でみると、「必要・関心のある時だけ読んでいる」は、男性の方が高くなっています。

●年齢別でみると、60 歳代、70 歳以上は「毎月読んでいる」が７割以上を占めます。一方、18～29 歳は、「必要・関心のある時だけ読んでいる」が約４割、「まったく読まない」が約２割を占めます。また、18～29 歳と 30 歳代は「届かない、入手できない」が１割以上を占めます。

●居住年数別でみると、年数が長くなるほど「毎月読んでいる」が高くなります。一方、５年未満は「届かない、入手できない」が約２割を占めます。

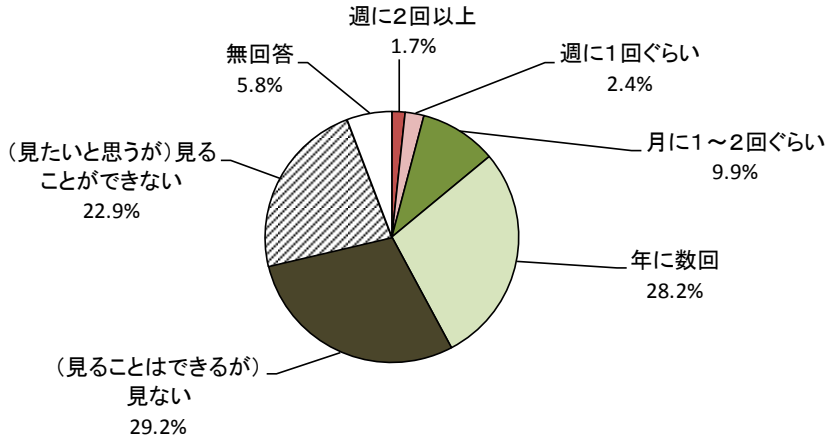
【問12】1)「広報おとふけ」を読む頻度（属性別）



２）町のホームページについて

○音更町のホームページを見る程度については、「（見ることはできるが）見ない」が29.2%で最も高く、「年に数回」（28.2%）が僅差で続きます。次に、「（見たいと思うが）見ることができない」（22.9%）が続きます。「月に１～２回ぐらい」（9.9%）や「週に１回ぐらい」（2.4%）、「週に２回以上」（1.7%）は、それぞれ１割以下です。

【問12】2）音更町のホームページを見る頻度（415人）

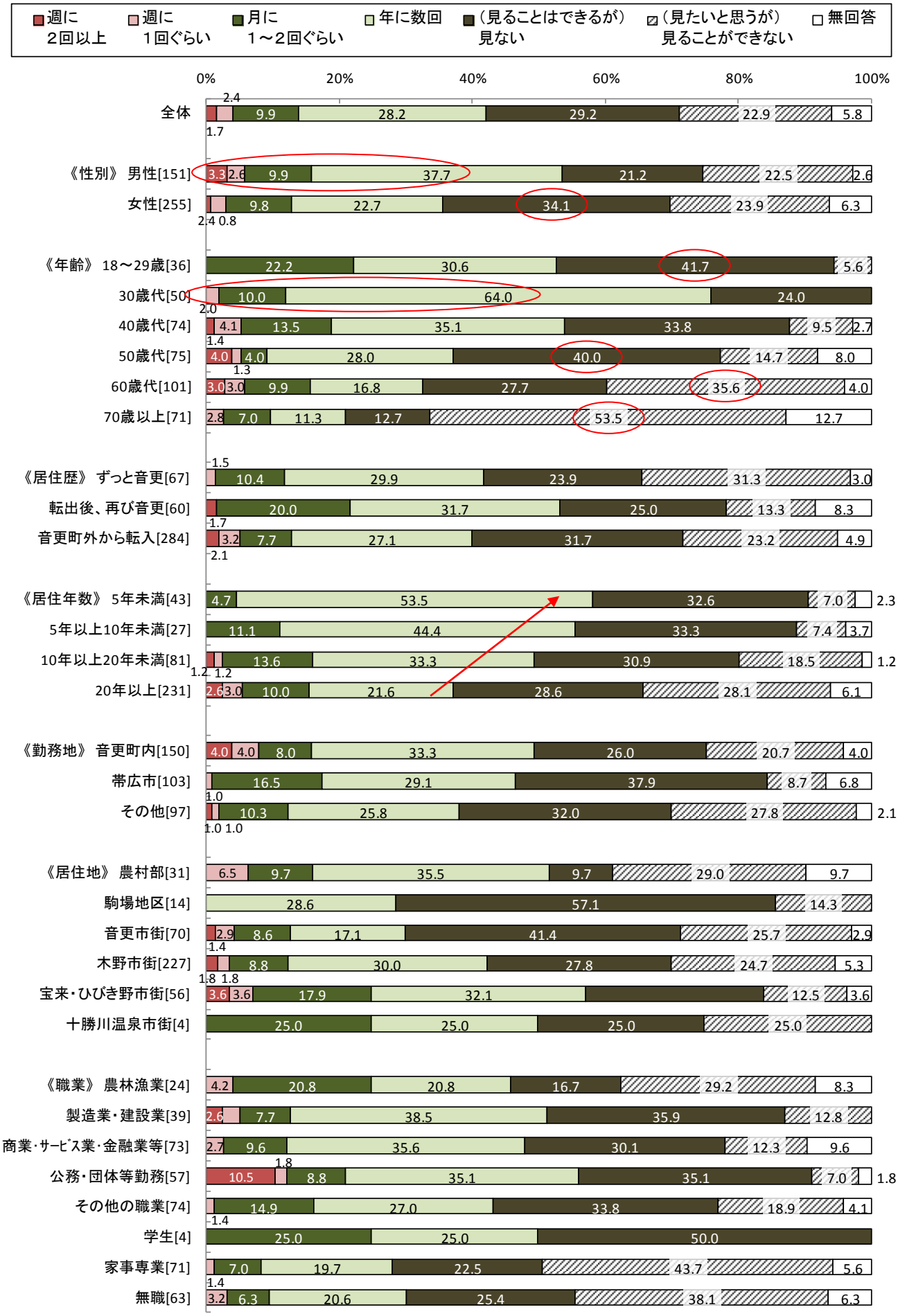


●性別でみると、回数に関わらず見ている割合が高いのは男性です。「（見ることはできるが）見ない」は女性が高くなっています。

●年齢別でみると、回数に関わらず見ている割合が最も高いのは 30 歳代です。18～29 歳と 50 歳代は「（見ることはできるが）見ない」が４割以上を占めます。60 歳代は「（見たいと思うが）見ることができない」が３分の１以上、70 歳以上では過半数を占めます。

●居住年数別でみると、回数に関わらず見ている割合は、居住年数が短いほど高まります。

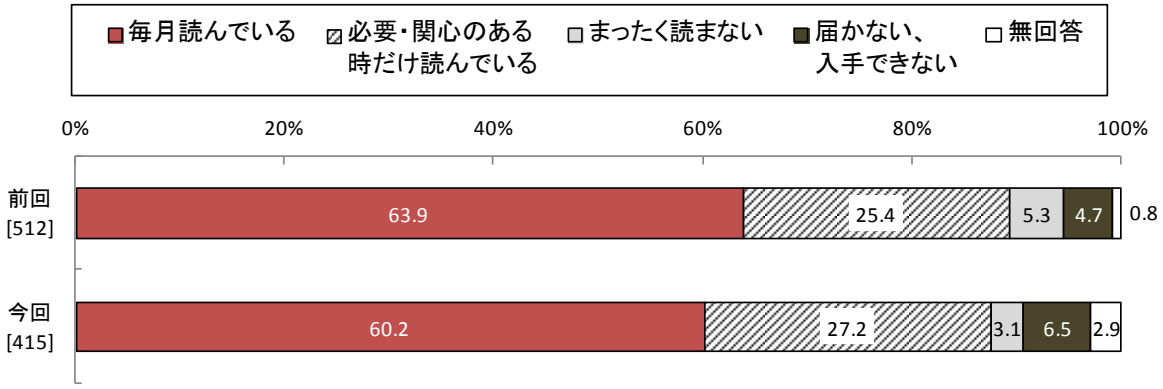
【問12】2）音更町のホームページを見る頻度（属性別）



前回との比較（「広報おとふけ」について）

「毎月読んでいる」がやや低くなったものの、「まったく読まない」もやや低くなっています。「必要・関心のある時だけ読んでいる」「届かない、入手できない」はやや高くなっています。

【問12】1）「広報おとふけ」を読む頻度（前回と今回の比較）

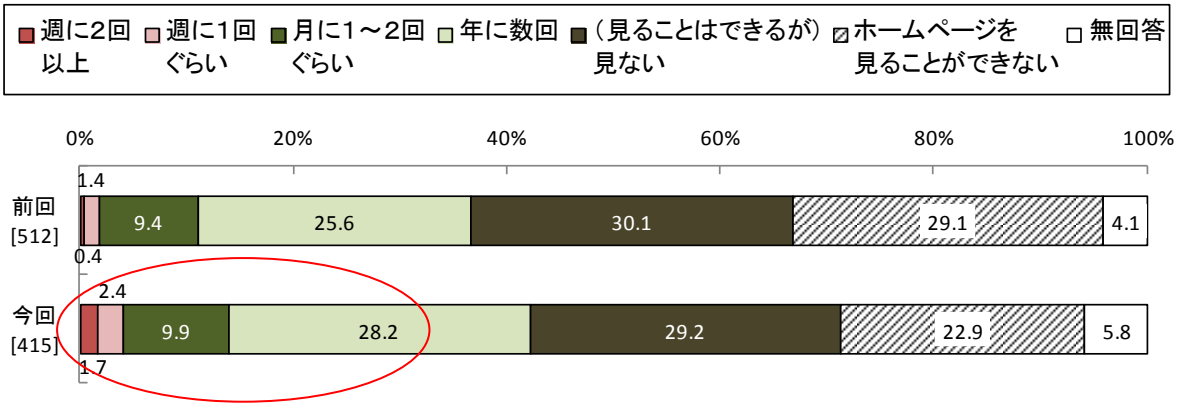


前回との比較（町のホームページについて）

回数に関わらず見ている割合については、前回より高くなっています。

「（見ることはできるが）見ない」は前回とほぼ同率ですが、「（見たいと思うが）見ることができない」は、前回より低くなっています。

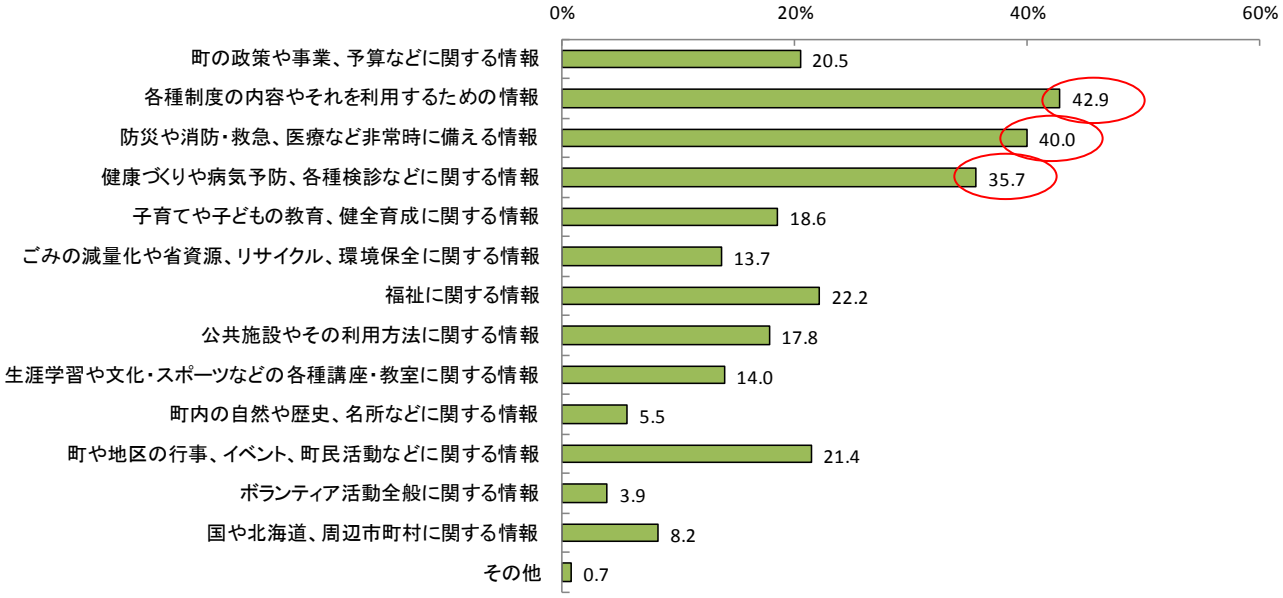
【問12】2）音更町のホームページを見る頻度（前回と今回の比較）



【問 13】まちづくり（町政）や地域に関する情報として、どのような内容を望みますか。次の中から３つ以内でお知らせください。（○は３つまで）

○「各種制度の内容やそれを利用するための情報」（42.9%）が最も高く、「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」（40.0%）「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」（35.7%）、が続きます。

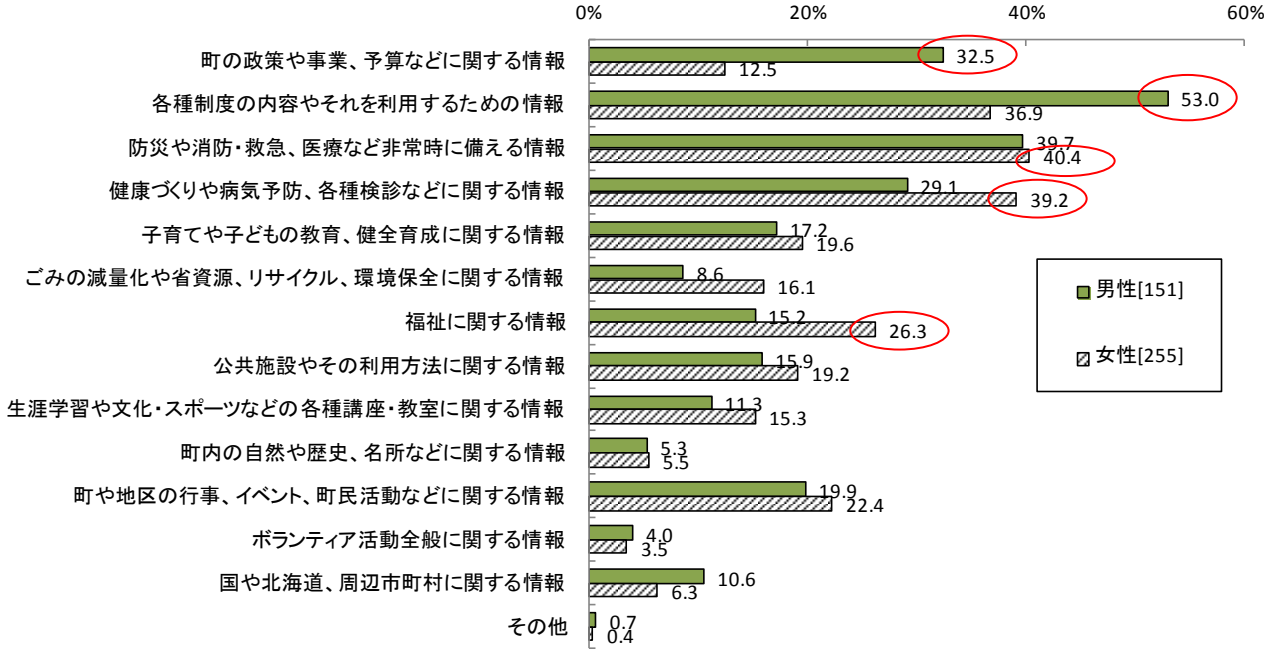
【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/415人）



●性別でみると、男性は「各種制度の内容やそれを利用するための情報」が第１位ですが、女性は「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」が第１位です。

●「各種制度の内容やそれを利用するための情報」や「町の政策や事業、予算などに関する情報」は男性、「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」や「福祉に関する情報」は女性の回答率が高く、男女の差がめだちます。

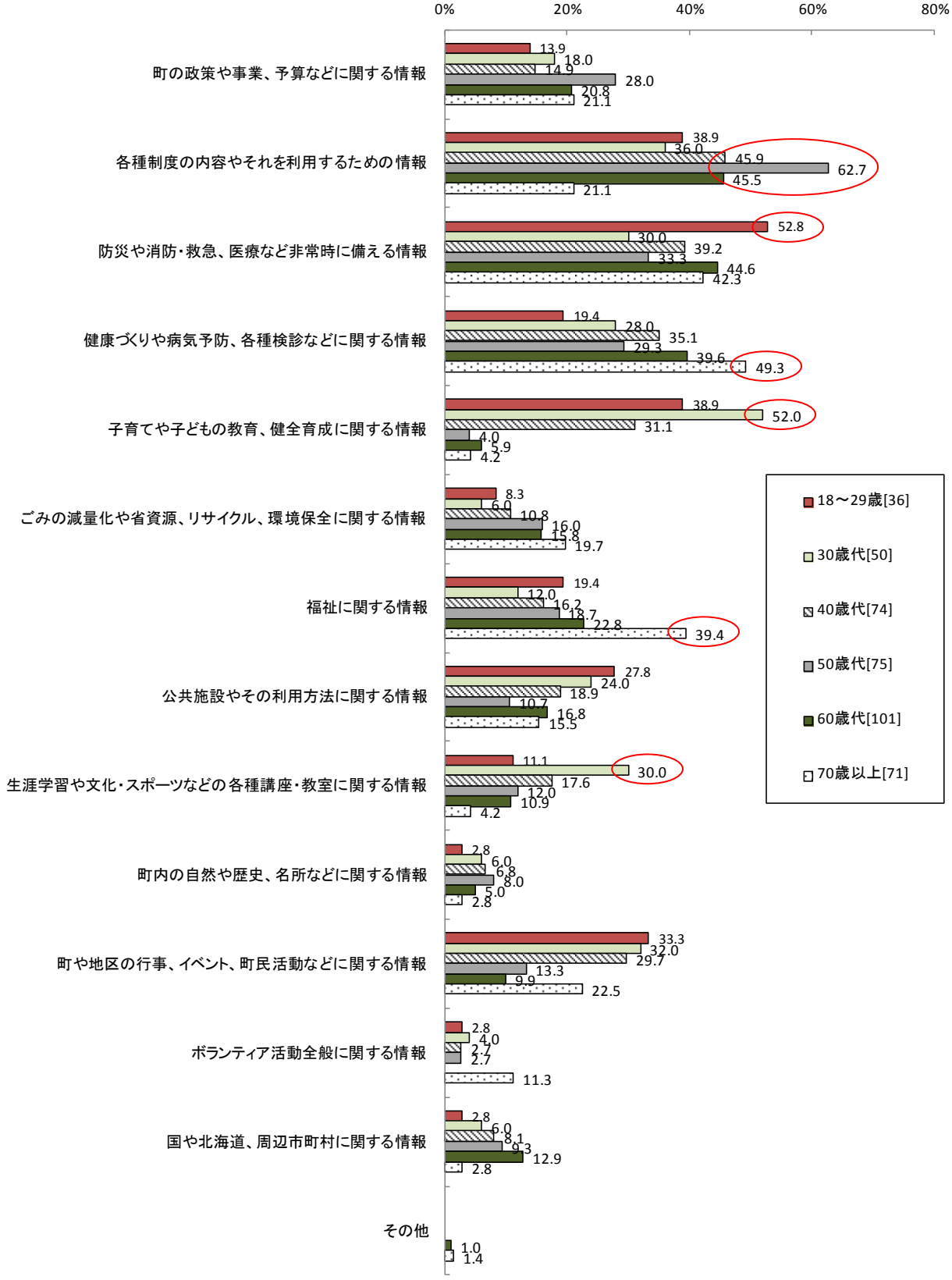
【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/性別）



●年齢別に第１位をみると、18～29 歳は「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」、30 歳代は「子育てや子どもの教育、健全育成に関する情報」、40～60 歳代は「各種制度の内容やそれを利用するための情報」、70 歳以上は「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」です。

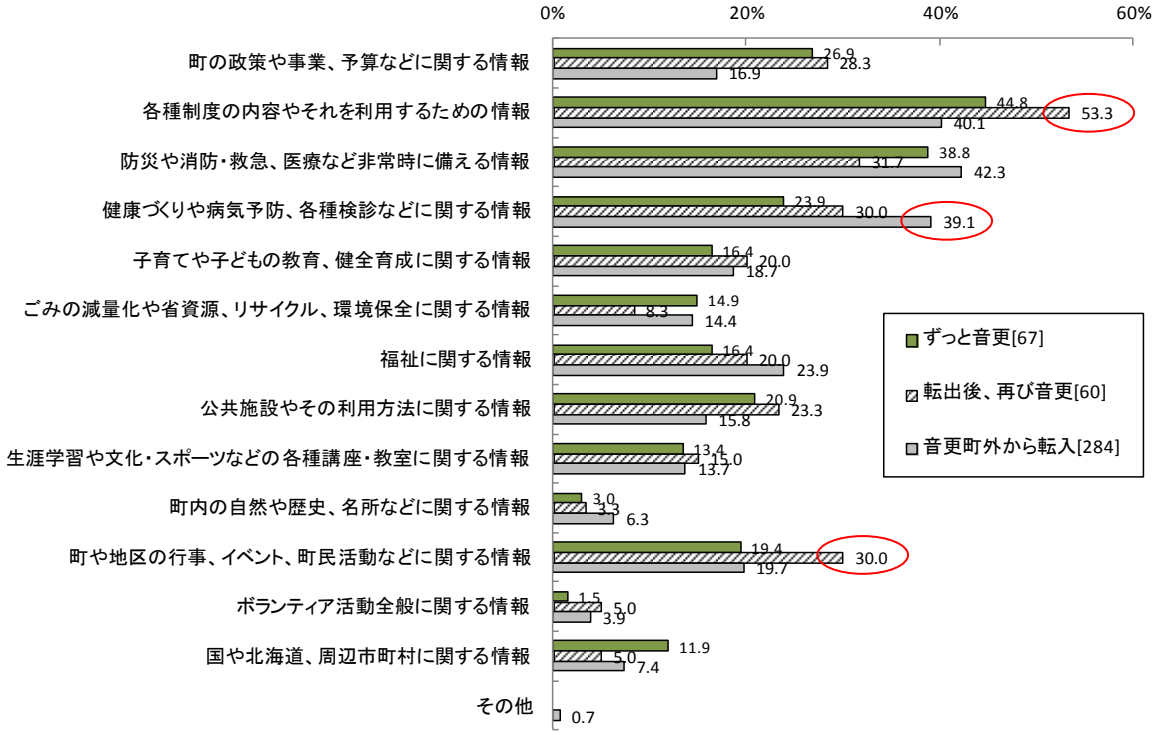
●「福祉に関する情報」は 70 歳以上、「生涯学習や文化・スポーツなどの各種講座・教室に関する情報」は 30 歳代で高く、他の年齢との差がめだちます。

【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/年齢別）



●居住歴別でみると「各種制度の内容やそれを利用するための情報」や「町や地区の行事、イベント、町民活動などに関する情報」は転出後、再び音更の回答者、「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」は音更町外から転入の回答者の回答率が高くなっています。

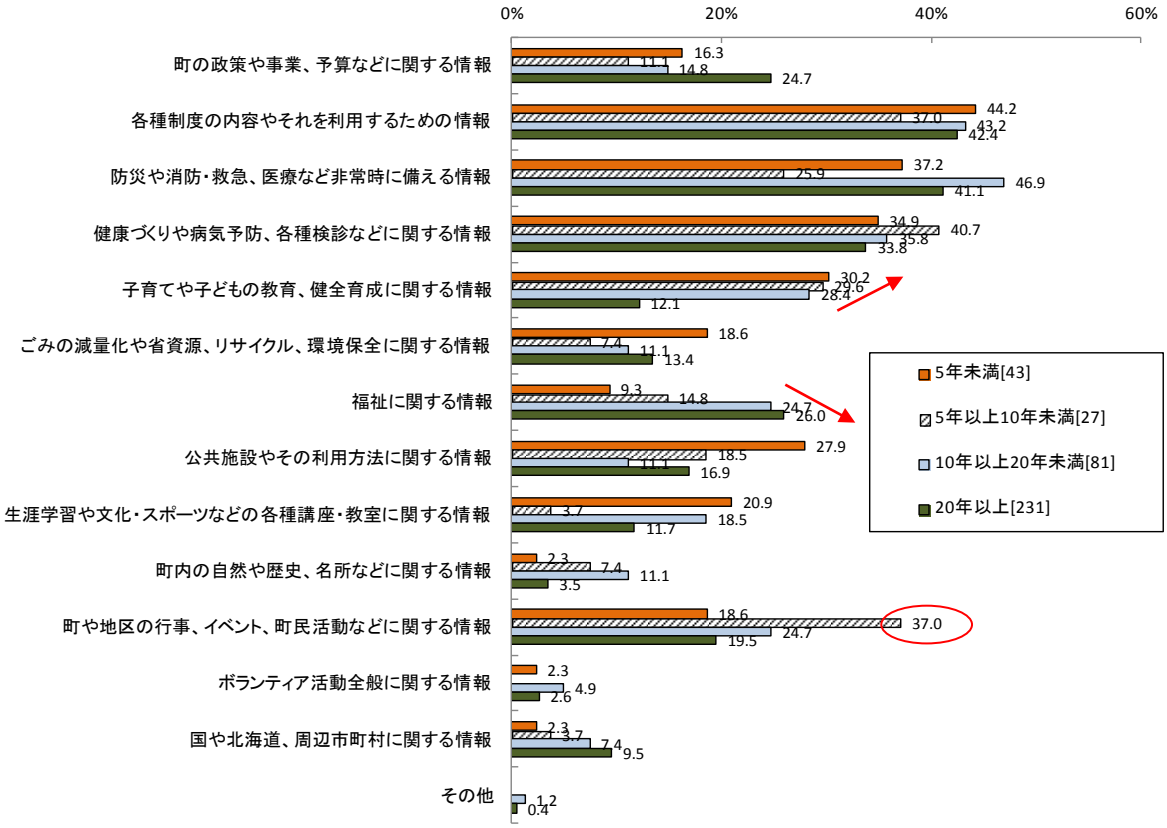
【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/居住歴別）



●居住年数別でみると、「子育てや子どもの教育、健全育成に関する情報」は居住年数が短いほど、「福祉に関する情報は」居住年数が長いほど、それぞれ回答率が高まります。

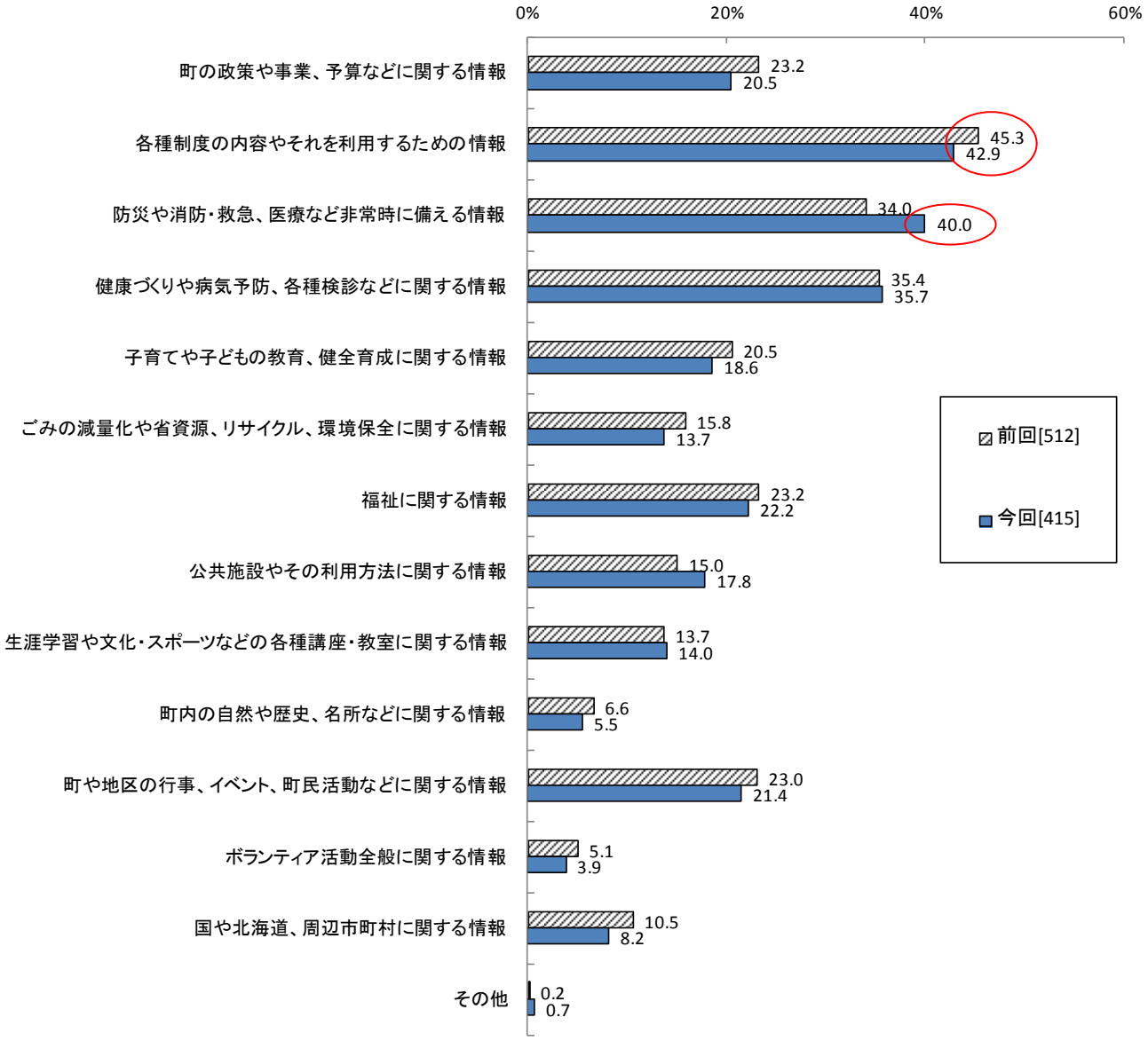
●「町や地区の行事、イベント、町民活動などに関する情報」は５年以上 10 年未満の回答率が高く、他との差がめだちます。

【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/居住年数別）



前回との比較
前回と同様「各種制度の内容やそれを利用するための情報」が第１位ですが、第２位については、前回３位の「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」があげられ、前回に比べて回答率が高くなっています。

【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/前回との比較）

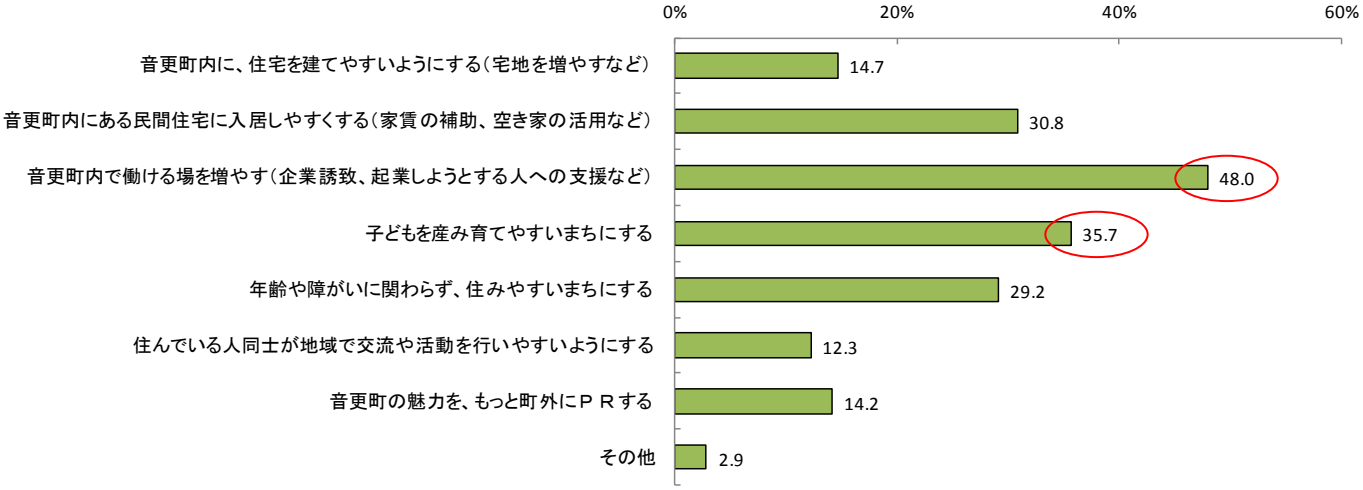


８　移住・定住（【問 14】）

【問 14】音更町では、「住み続けたい、住んでみたいまち」をめざし、住環境の整備や働く場の確保、コミュニティ活動の支援などを行っています。今後、さらに「本町への移住・定住」を促進するために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

○「音更町内で働ける場を増やす（企業誘致､起業希望者への支援など）」（48.0%）が最も高く、「子どもを産み育てやすいまちにする」（35.7%）が続きます。

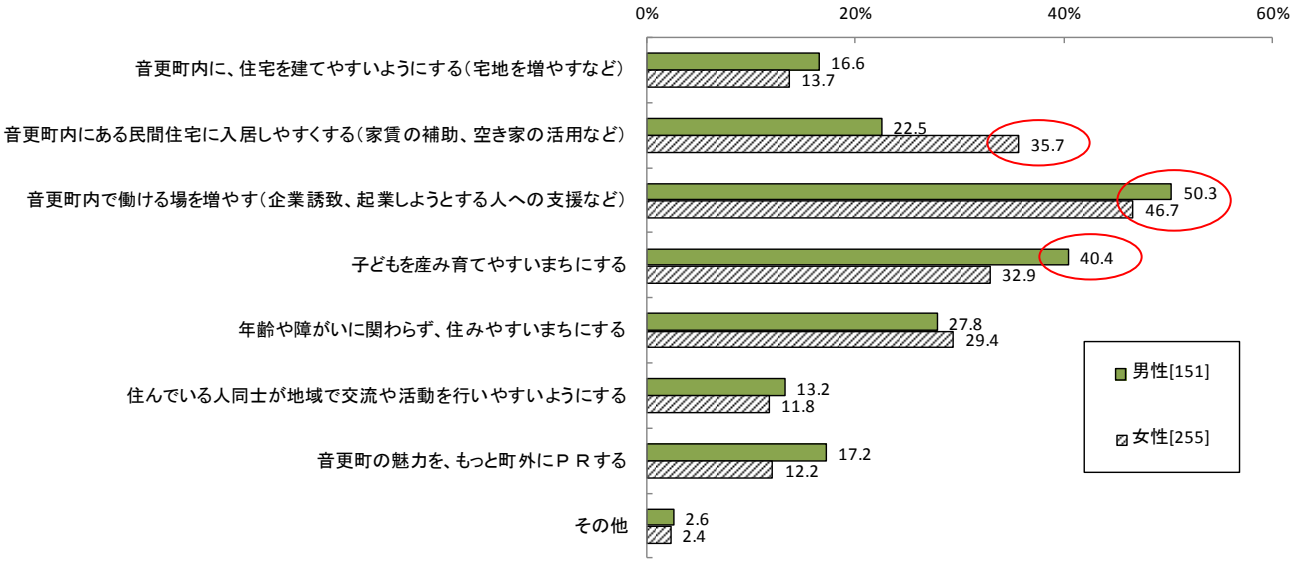
【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/415人）



＜「その他」の記載＞
- 交通の不便を解消。
- 道路整備による交通網の整備
- 子供の遊び場の充実。
- スーパーの誘致。
- 農地の貸し出し無料か低価格で。
- 町外より転入する人へ低金利貸付、資金補助等。
- 上下水道料金の引き下げ。
- 水道水をおいしくする。
- 十勝川温泉利用しやすく町民へ一部還元。
- 日本人の島国根性を改め、フレンドリーを心がけること。
- 町民アンケートに頼らないまちづくり。

●性別でみると、男女とも第１位は「音更町内で働ける場を増やす」ですが、第２位については、男性は「子どもを産み育てやすいまちにする」、女性は「音更町内にある民間住宅に入居しやすくする」をあげ、それぞれ、男女の差がめだちます。

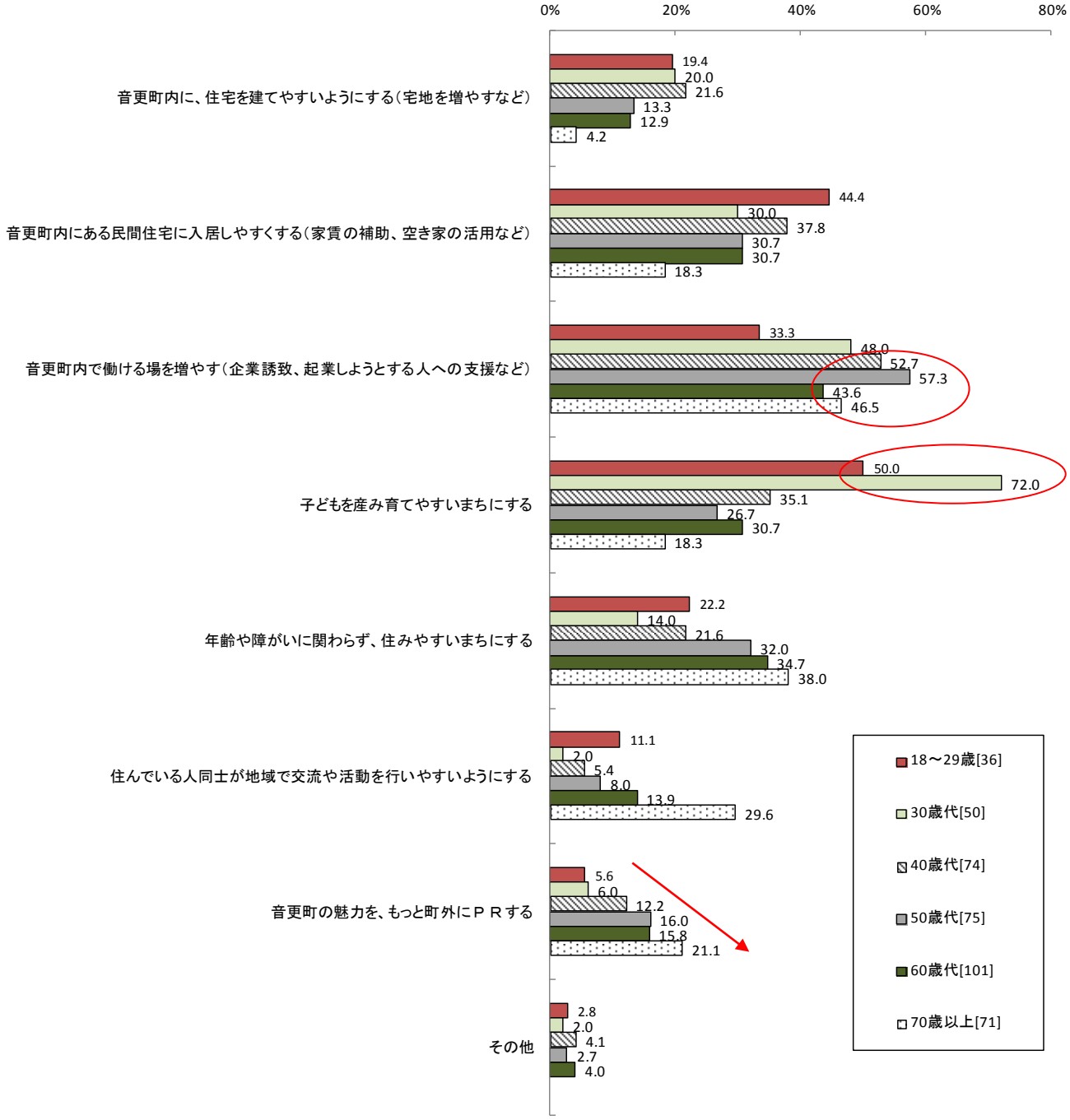
【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/性別）



●年齢別に第１位をみると、18～29 歳と 30 歳代は「子どもを産み育てやすいまちにする」、40 歳代以上の年齢は「音更町内で働ける場を増やす」です。

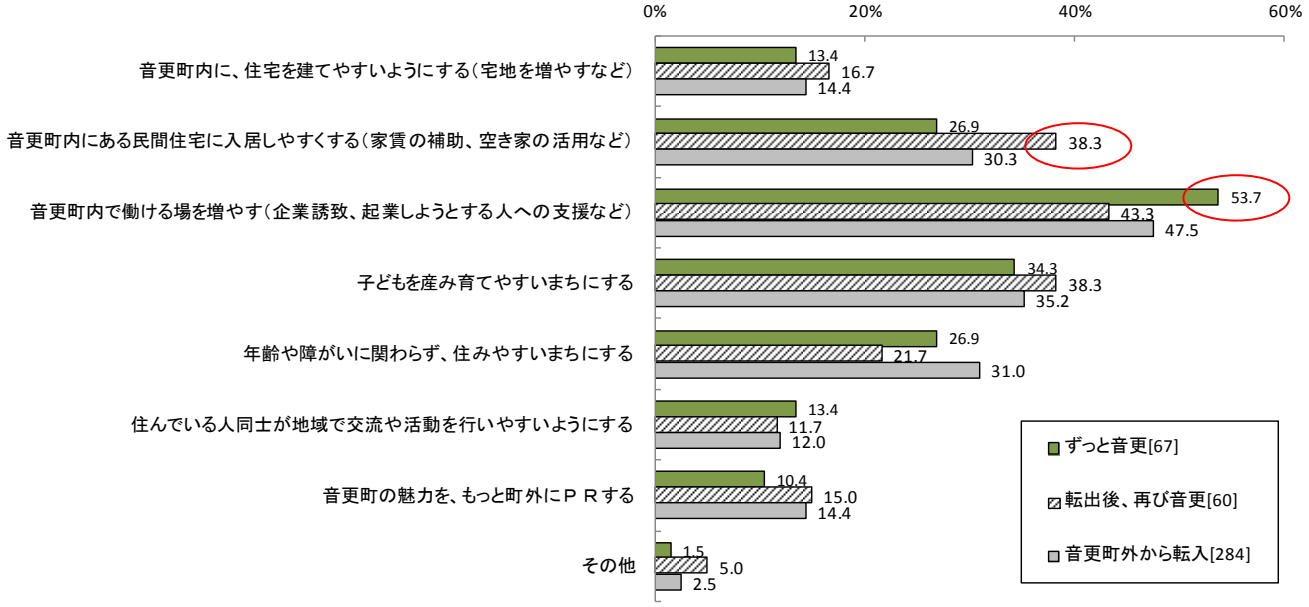
●「音更町の魅力を、もっと町外にＰＲする」は年齢が高いほど回答率が高まる傾向にあります。

【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/年齢別）



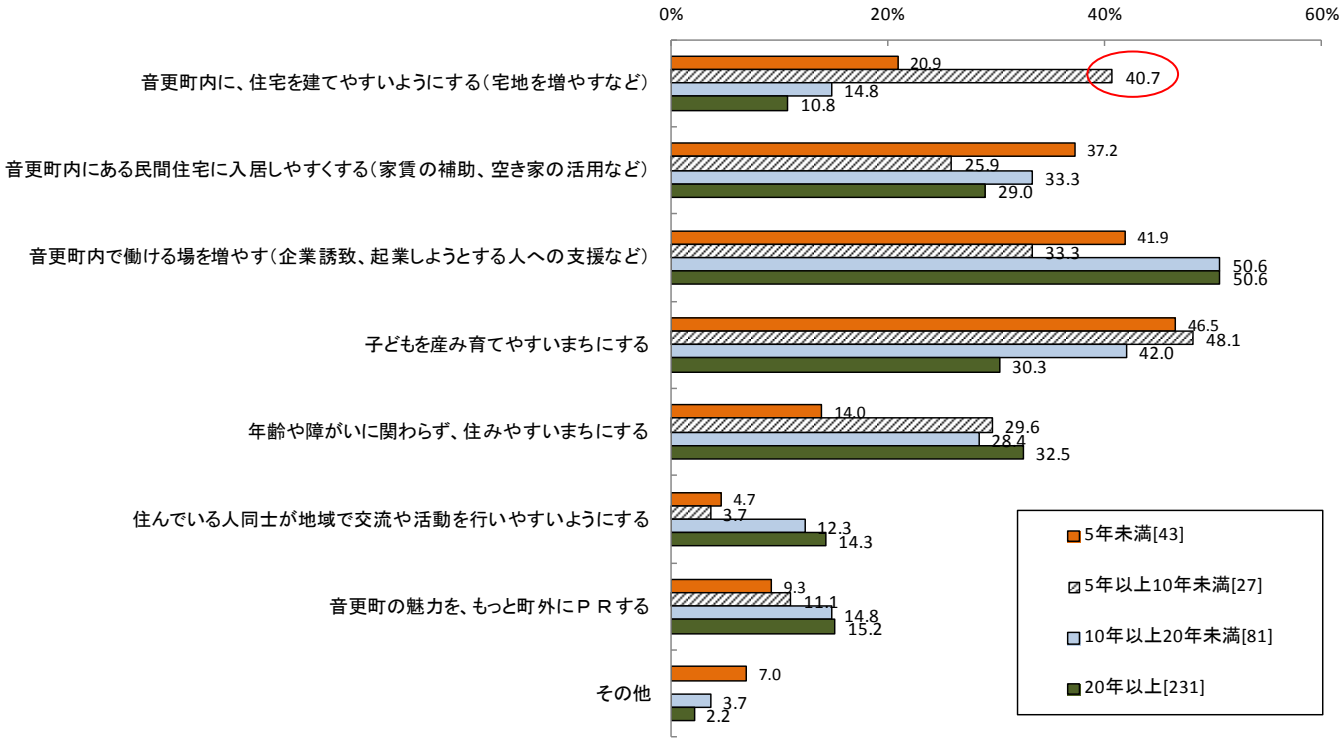
●居住歴別でみると、「音更町内にある民間住宅に入居しやすくする」は転出後、再び音更の回答者、「音更町内で働ける場を増やす」はずっと音更の回答者の回答率が、それぞれ高くなっています。

【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/居住歴別）

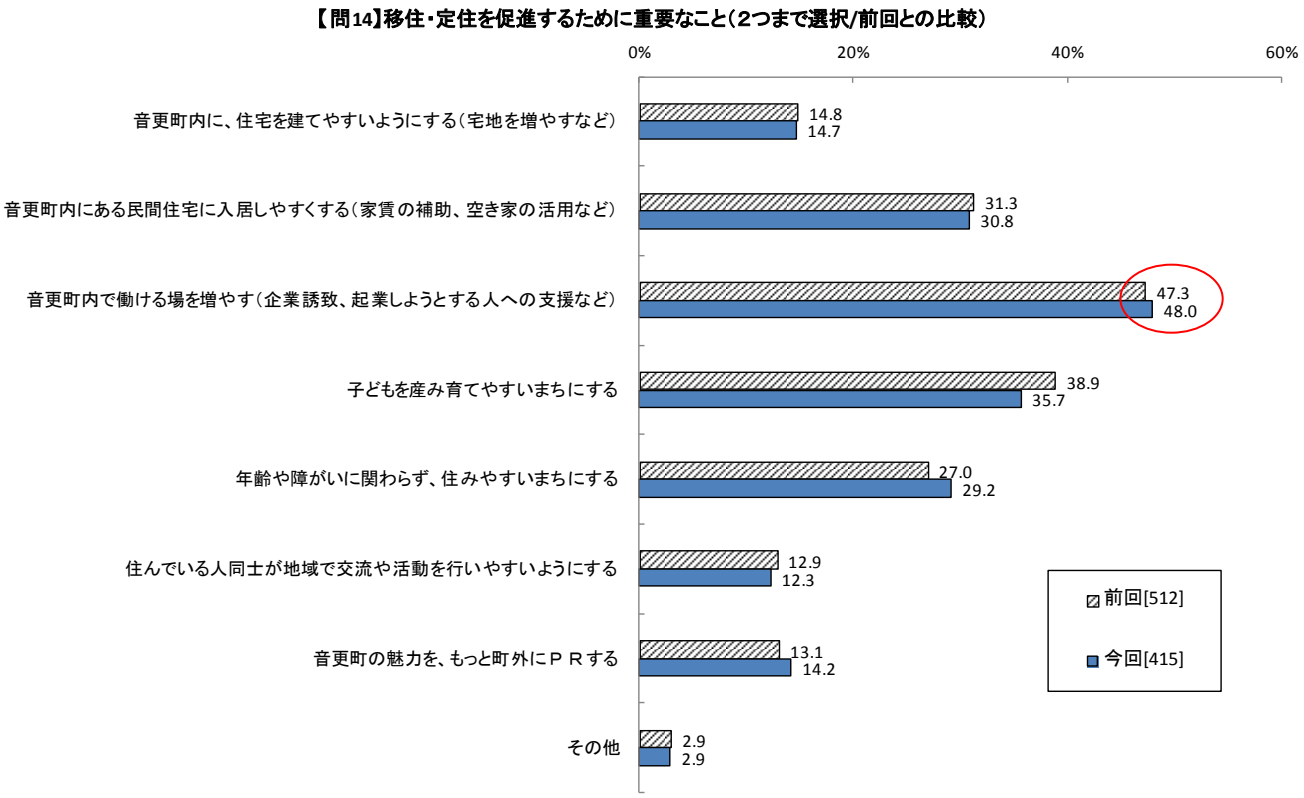


●居住年数別でみると、「音更町内に、住宅を建てやすいようにする」は５年以上 10 年未満の回答率が高く、他との差がめだちます。

【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/居住年数別）



前回との比較
前回と同様、「音更町内で働ける場を増やす」が第１位、「子どもを産み育てやすいまちにする」が第２位です。 全体的に、大きな差はみられません。

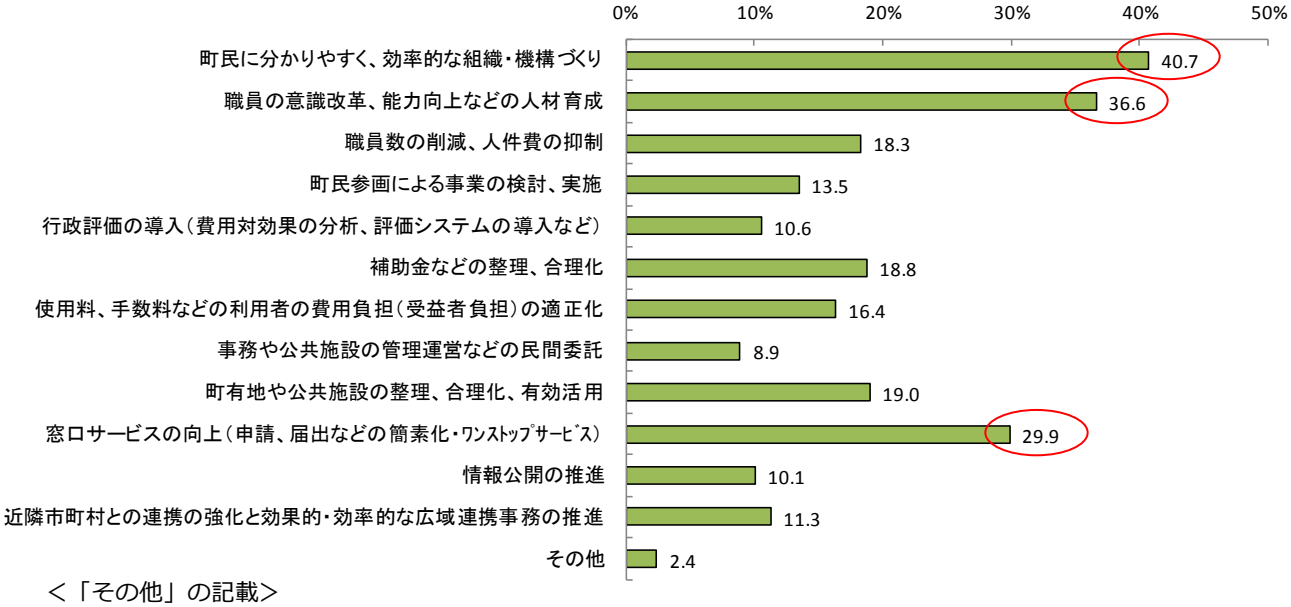


９　行政改革（【問 15】【問 16】）

【問 15】音更町の行政改革を進めるうえで、重点をおくべき項目をお知らせください。（○は３つまで）

○「町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり」（40.7%）が最も高く、「職員の意識改革、能力向上（人材育成）」（36.6%）、「窓口サービスの向上（申請、届出などの簡素化・ワンストップサービス）」（29.9%）が続きます。

【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（3つまで選択/415人）



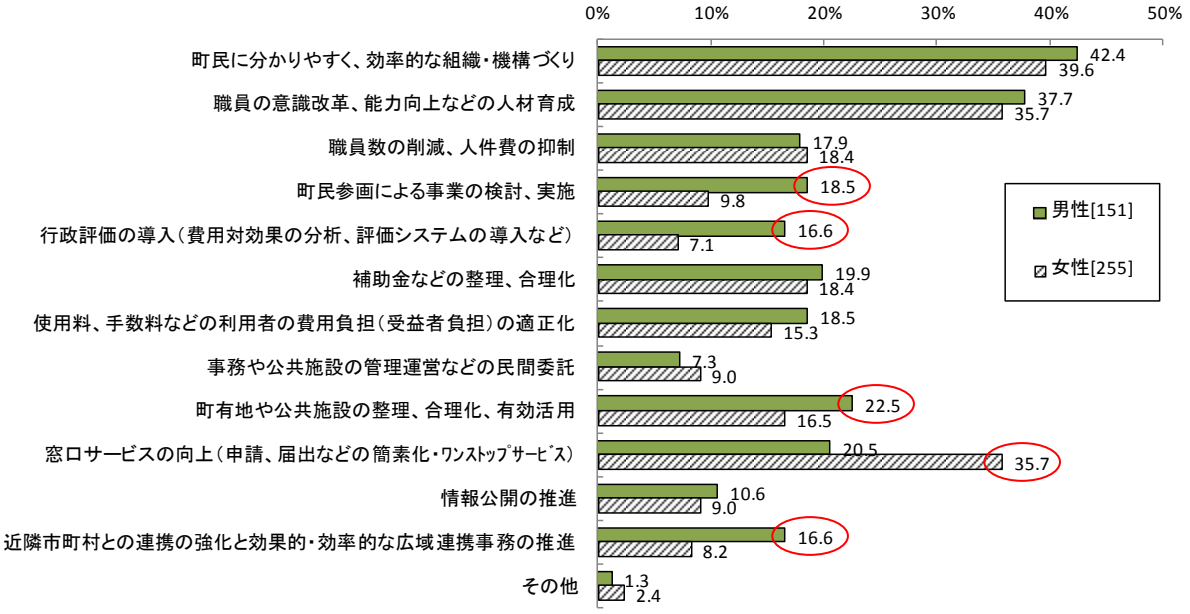
＜「その他」の記載＞

・議員の削減。　・特に専門職の町職員は、常に勉強してほしいです。　・行政改革の問題点が不明。
・職員は町内会の役員をやるべき。　・職員を町民の方（籍のある方）を採用する。
・無理に予算を消化せず来年度に繰越ことも必要。　・能力のある民間人の起用。
・水道水が売り物になるくらいおいしくする。帯広市の水道水は１本 100 円で売っていますよ。

●性別でみると、第１位、第２位は同じです。第３位については、男性は「町有地や公共施設の整理、合理化、有効活用」、女性は「窓口サービスの向上」です。

●「町民参画による事業の検討、実施」「行政評価の導入」「近隣市町村との連携の強化と効果的・効率的な広域連携事務の推進」は男性、「窓口サービスの向上」は女性の回答率が高く、それぞれ、男女の差がめだちます。

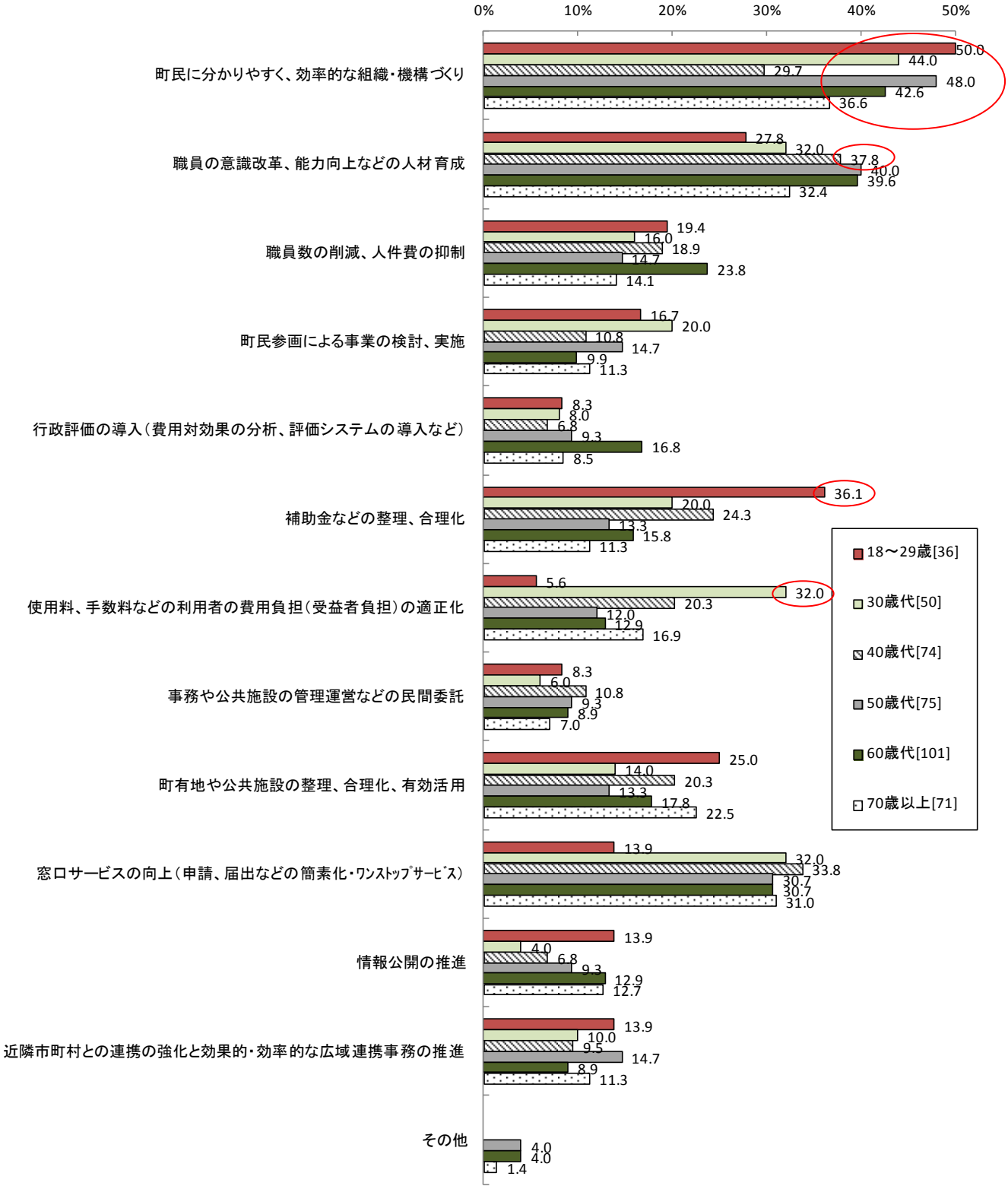
【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（3つまで選択/性別）



●年齢別に第１位をみると、40 歳代以外は「町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり」、40 歳代は「職員の意識改革、能力向上」です。

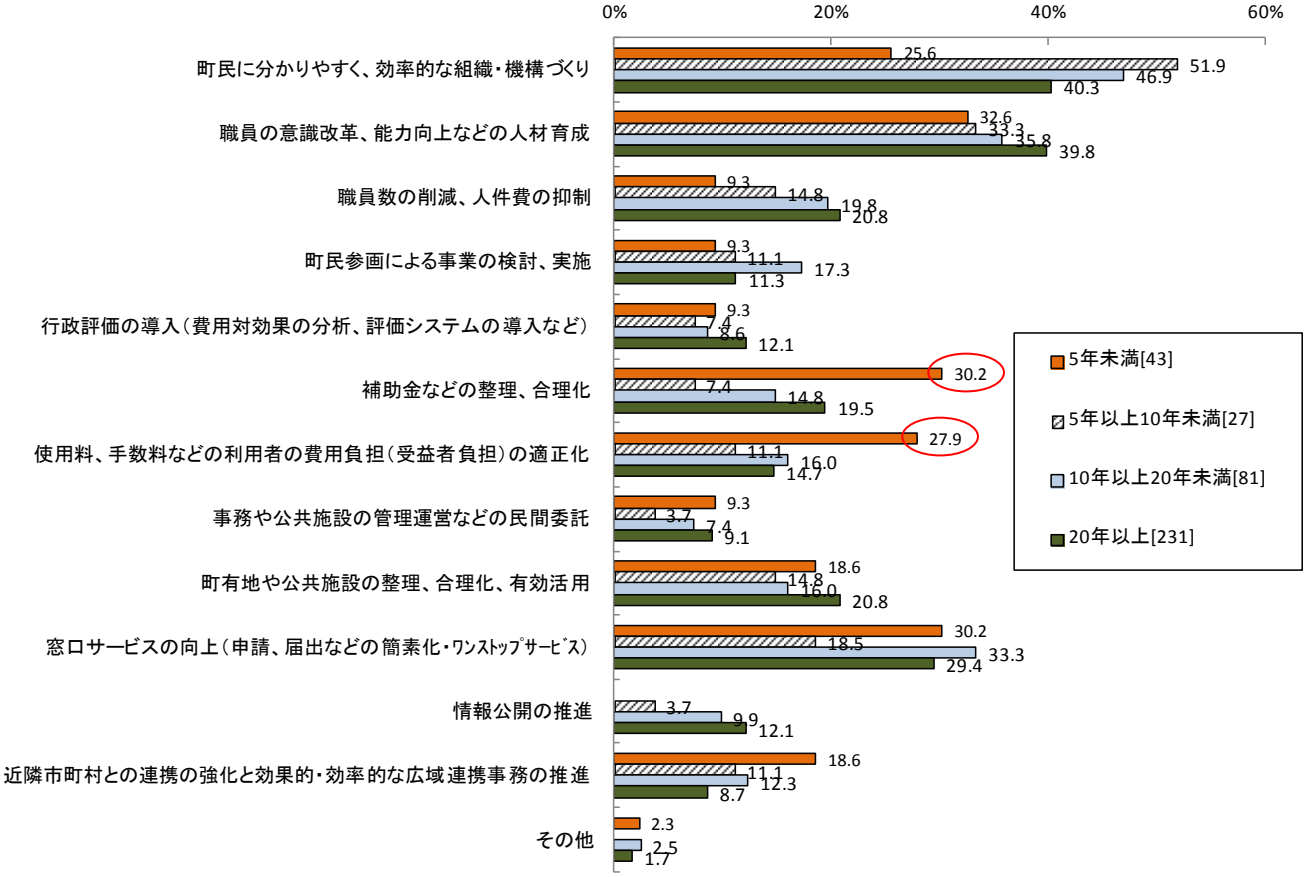
●「補助金などの整理、合理化」は 18～29 歳、「使用料、手数料などの利用者の費用負担（受益者負担）の適正化」は 30 歳代で高く、他の年齢との差がめだちます。

【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（3つまで選択/年齢別）



●居住年数別でみると、「補助金などの整理、合理化」や「使用料、手数料などの利用者の費用負担（受益者負担）の適正化」は５年未満の回答率が高く、他との差がめだちます。

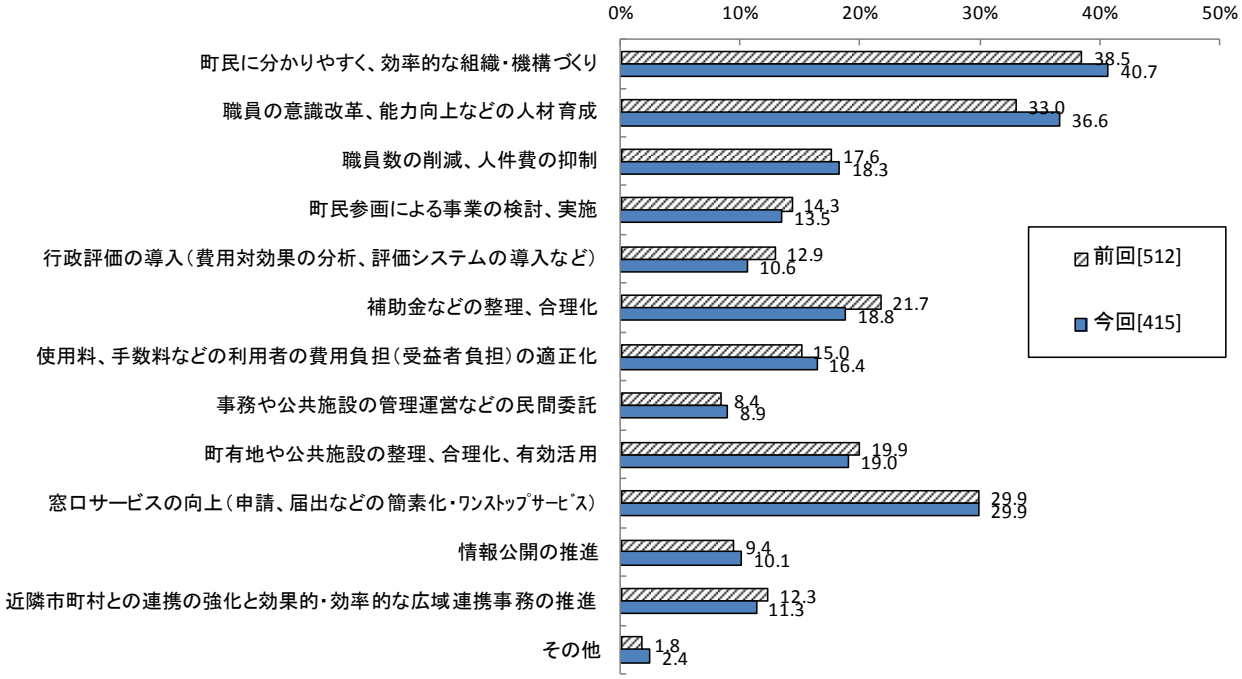
【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（3つまで選択/居住年数別）



前回との比較

上位３位まで同じ項目で、第１位と第２位は今回の方がやや高いですが、全体的に大きな差はみられません。

【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（前回との比較）



【問 16】将来にわたり持続可能なまちづくり（行政運営）を進めるために、大胆な見直しも必要です。音更町の今の制度や施設、事業など、今後、なくしたり廃止しても良いと思うものがあれば、具体的にご記入ください。

分類	内　　容
保健、医療、福祉	・竹の子子供会は廃止してもよいのでは ・町独自の児童手当 ・高齢者学級（行事、講師など予定を組んでも出席少ない）
ごみ	・町内会への助成（ゴミ拾い etc）は各自でやることにして、美化活動は町が負担してやるべきでは？
住宅、土地	・そこそこ収入のある人達の公営住宅
道路 水道	・どの町村でも言える事だと思うのですが、整備されている道路をより良くするよりも、整備が必要な道路に手を加える方が良いと思う。 ・水道事業の民営化（受付など）
イベント	・イベント全般。イベントがあり過ぎて、それにかかる経費（直接経費、補助金等）がもったいない。もっと少なくするべきと思う。 ・家畜祭→一般町民の関心が低い。
産業	・農協（JA）はいらない
施設、設備	・1 ヶ月の利用者数が 20 人を下回る施設の廃止 ・築 30 年以上経過した会館等。 ・各地区にある公園。誰も利用しておらずガラーンとしていて、犬の散歩コースの様になりつつある。草木等の手入れなど人件費の無駄。少し削減してもよいのでは。 ・公園の廃止、避難場所の確保（車での駐車場） ・図書館、文化センターなど民間委託は考えられないか？ ・施設、事業で収益の少ない又は赤字の所は民間に委託する等、早い対応が必要。 ・不要な看板、標識、モニュメント（高速道路下公園の温度計？）
職員、議員	・役場職員の配置、給与を能力主義にする。年功序列の廃止。 ・役場の職員を縮小（できるかぎり） ・町議の数をへらし、若い世代の税金を軽くしてあげたら子育てにまわせるのでは。 ・町議のボーナス。
その他	・町内会活動費 ・回覧板が多すぎて面倒なので減らしてほしい。HP を充実させてほしい。 ・広報に入っているお正月用の門松の写真（近所で使用している家を見ません） ・新しく進める事は、古くからの人と若い新しい人と、意見が合わない事がむずかしいので、中立的に間に入る人が大切。 ・学校の施設を使用した時、手続きがむずかしい。 ・町予算の健全な執行、急ぐ事業を優先し、余った予算は今年度で使わなくても、来年度以降に残す事も必要 ・人口比率に応じた町職員・議員の人数増減を毎年行う。その上で、足りない労力、アイデアは町民、企業から広く求め町民主体の自治体とする。例えば音更町の除雪はかなり丁寧で他市町村から羨ましがられる程だが、一部住民からは身勝手あるいは過剰な要求がなされており、対応部署の労力をムダに費やしている。町内会毎に対応できるものは全て町内会に任せ、居住地住民の自己責任で行い、大きな組織、資金が必要な事業のみ町が対応するようしていくべき。自己責任による行政はかなりリスクを伴い、町と町内会の役割を明確に分け、一から仕組みを作り、周知させなければならないので相当な費用、労力、時間がかかるが、町財政を充分健全にしてから、一刻も早く議論されることを望む。

10　まちづくりへのアイデアや提案（【問 17】）

【問 17】今後のまちづくりに対し、新たな取組み、重点的に行うべき取組み、アイデアやご提案、その他、ありましたらご記入ください。

○106 人の回答者から意見を頂戴しました。１人が複数記載されているものも多く、分野ごとに区分して示すと次のとおりです。

※問１の項目の区分、順番を基本に掲載しています。

［保健、医療、福祉］

子育て支援	・保育園へ全員(希望者)入れることは大切。	女性	45～49 歳
	・子どもが中学生になる位までは、祭日や日曜日も預けられる所がほしい。無認可ならあるが、（カレンダーが）赤い日が（みんな）休みとはかぎらない。	女性	35～39 歳
	・子育て支援・料金の適正化。もっと保育料の差を少なくしてほしい。子供が保育園に通っていた頃、我が家は 3 万以上、月に払っていたが、数千円の方もいた。あまりにも差がありすぎる。	女性	30～34 歳
	・全国的に少子化なので、子育てや、出産のしやすい町づくり。定住に向けて住みやすい町づくりが必要。	男性	35～39 歳
	・子どもをつれて遊ばせる公園が整備されていない。子育てし易い町と思えないのでは。	女性	60～64 歳
	・私は 50 代女性ですが、私の子育て（20 数年前に初めての子を出産）の頃より今の方がずっと手厚く補助なりしている気がします。子供を育てやすい様に地域一体となれる様な街づくり等、お金ばかりでなく地域で子育てに参加できる様な…というのは、今は無理な世の中なのでしょうか？	女性	50～54 歳
保健 健康づくり	・健康診断の申し込みや利用病院の制約→利用実績に応じた補助金とすべき。病院の選択はなるべく希望に沿った形に。帯広市内にある大規模病院（特に補助金を出している厚生病院）への通院、利用を支援すべき。→区域外ではあるがコミバスの朝昼夕の往復（足の確保）（3 回/日程度）	男性	65～69 歳
	・「ふまねっと」のようにお金があまりかからず楽しい運動を増やしてほしい。	女性	65～69 歳
	・祖母が住んでいる町では、インフルエンザの接種でかかったお金が、領収書を役場に持っていくと全額もどってきたり 65 才以上はバスで温泉までつれていってくれたり（料金は多少、かかったと思いますが）医療、福祉がすごく充実していると聞いています。音更町は税金が高いわりには、そういう所が、気がつかないと思う。	女性	25～29 歳
福祉	・高齢者にやさしい町づくり。	男性	40～44 歳
	・高齢者、介護者へのケア。老老介護がますます増加することは明らかであるため、それについての対応を今から町全体で考える必要があると思います。	女性	25～29 歳
高齢者支援	・1 人で住んでいる高齢者の家に行って、声かけ、見廻りができる活動が進められるといいと思います。	女性	65～69 歳
	・自家を自分が老いた時に、子供たちは近くにいない場合、その家を使用することがなくなった場合の対策なども、老いた時の健康だけでなく、その人を取り巻く日常生活全般についての援助について考えてほしい。健康を害した時、子供もいない独居の老後にとても不安がある、経済的にゆとりのある人なら、どこの施設でも利用できるだろうが、病院にも入ることもできない施設も無理となったら・・・老後が不安である。	女性	50～54 歳
	・高齢者が増加するので、介護施設等の増加を。	男性	60～64 歳
	・老人ホームなどの待機ゼロを目指し、もっと施設をつくるべき。	男性	50～54 歳
	・親は今は元気ですが、これから何かあっても入れる施設がないと聞きます。町内の人間が町内に入れない不安を金銭的な不安の解消をしてほしいです。	女性	50～54 歳

[生活環境安全・安心]

コミュニティ	・町内会に依存している街路灯負担など各種団体の寄付金負担金は全て行政負担にする。⇒負担の公平性から＜補助をしているが、不明瞭な仕組み＞	男性	65～69 歳
	・人と関わりやすい地域づくりのために、交流出来る機会を増やす。学生なら体験学習が出来るイベントや施設。子育て中なら子育て支援センターに行きやすくするためにイベント等で機会を作る。主婦（夫）なら料理教室や、家庭の話しが出来る機会。高齢者なら、学生の体験学習としての独居している方への訪問や、福祉サービスを知ってもらうための機会を作る。自分でほしい物を探すのも必要だが、町からの呼びかけがないと、イベント、サービス等ある事すら知らない事が多い。	男性	35～39 歳
	・地域での交流が少ないと思うので、町からの声かけは重要だと思います。	男性	35～39 歳
	・現在、ひびき野地区に居住していますが、若い人達が多く、マンションに住まれている方も多く、町内会の役員をする方が極端に少ない。町職員や公務員である方は、若い人達であろうと時間的に余裕があるはずですので、積極的に役員をやるべきだと思います。ボランティア精神で役員を引き受け町内会の活動に少しでも多くの方が参加し、充実させるべきだと思う。町内会の活動が楽しく、明るく多くの会員が参加することによって、まちづくりの発展基盤になると思います。	男性	65～69 歳
	・自分の町内会では、子供の減少により子供会がなくなりました。若い人が少なく 60 才以上が半数以上になりつつあります。	女性	65～69 歳
交通安全	・開進通（北 8 線）を西進し、新しい道路との交差点の一時停止は、ガードレールの鉄柵と目線が重なり、大変見通しが悪いです。改善を！！	女性	55～59 歳
	・国道がスムーズに流れる様になるといいです。冬の朝のスクールバスは、1 シーズンに 3，4 回は必ず 1 時間位遅れて着きます(学校に)大橋に行くまで 1 時間以上かかるみたいでなんとかならないかと思います。	女性	45～49 歳
	・大通 15 丁目から国道に交わるカーブの所が直進者と接触になりそうになりとても危険だと思います。	女性	18～24 歳
	・国道の渋滞、国の管轄であることは承知しておりますが、ゼブラ模様が描かれた日以降一変しましたね。朝、夕はもちろんのこと、スムーズに流れていた平日の昼間さえ渋滞がおきている。朝は救急車すら走れない。通勤時のイライラがかさなり、もうガマンの限界かな？	女性	50～54 歳
	・こんな場所や道路で、と思うところの交通事故が多いので、行政は歩いて改善に向け調査を望みます。	男性	70～74 歳
防犯	・街灯の整備。	女性	60～64 歳
消防・救急	・堤防整備。	女性	70～74 歳
	・災害時の準備。	女性	70～74 歳
	・先日、10 号台風十勝川増水の時、平原大橋を渡った。川が増水し、帯広側、音更側の堤防の下側を水が流れるのを見て愕然とした。堤防の高さが帯広側と音更側で約 3m 近く音更側が低い!!通常目で堤防の高さの違いを見ることはできないが今回、はっきりと川が水平になったので見えた。十勝川の音更側の堤防は帯広側と同じか、それ以上でなければならない。音更を愛する町民からの最も重要な要望です。	女性	60～64 歳
	・災害時の早目の指示、勧告など。1 か所に時間を費やしていられないのも分りますが、丁寧に伝えてほしい。	女性	65～69 歳

[環境保全]

環境保全	・道路近くに牛がかわれているのですがいつ見ても水の中にいて、病気の心配、におい、カラスがいつもいて不快です。また、団地内にもきつねが出没しており、野菜などを植えているので、エキノコックス対策などをしてほしいです。	女性	60～64 歳
ごみ、リサイクル	・ゴミのポイすての取り締まり、罰則化	男性	40～44 歳
	・農村部でのゴミ(不法投棄)が近年ふえているように見えるので、春先に路上だけでも片付けることはできませんでしょうか。	男性	18～24 歳
	・ゴミの集積場にフェンスがなく、ネットだけの所があり、カラスに荒らされている所があります。（北明地区の小、中学校の教員住宅の近くの集積場）フェンスを作ってほしいです。	女性	18～24 歳
	・まだゴミを燃やしている人がいて、風向きによっては臭みが出ています。	女性	55～59 歳

	・個人のゴミの収集場所はどうなっていますか？個人のモラルの悪さには困っています。広報おとふけなどで注意をうながす文章などで強く指導してください。	女性	65～69 歳
	・地球温暖化が叫ばれている昨今、個人新築住宅でも庭を新に作る事が無くなっています。小さな事ですが緑が減少し、小鳥の声、虫の音も減少している様な気がします。芝生の天然から人工芝の普及と年々変わりつつあります。個人住宅の庭維持もたいへんな事と思います。せめて樹の剪定から出る枝等無償回収を考えても良いのではと思います。	男性	70～74 歳

［教育・スポーツ・文化・国際交流］

教育全般	・子供達はじめ、町民の教育が大切だと思います。町民一人一人がもっと広い心を持てるようなまちづくりを考えていただきたいです。	女性	60～64 歳
生涯学習	・資格の取り組み。研修、講習など補助や無料で行ってほしい。	女性	55～59 歳
図書館	・図書館がもっと近くにあったらと思うお年寄りが多くいると思います。もっと本に触れたいと思っても、足が無い人も数多くいるのではないでしょうか。（移動図書館はありますか？）	女性	70～74 歳
	・よく図書館を利用させてもらいます。本・雑誌を見ていますが、季節の変わり目などは特にアレルギーが出やすく、セキ込んでしまいます。うがいがしたいのですが、水飲み場がありません。お手洗いに行って、すればよいけれど、水もひと口飲みたいのです。水飲み場の設置をお願いします。また、常識の範囲で図書館での飲食をできるようにしてほしい。	女性	
小中学校	・中学英語教科書（教育出版）の変更。	男性	55～59 歳
	・音更に住んで 10 年になりますが、ビックリしたのは子供達です。特に音更中学校の生徒のあいさつ皆おはようございます、こんにちは、かならず生徒さんから、あいさつしてくれるのです。良い子達ですネ、町づくりには関係ないですが、一言。	女性	60～64 歳
	・道ですれ違う、小中学生の中に「こんにちは」とあいさつをしてくれる生徒さんがいらっしゃいます。これからもそのような生徒さんが増えると、住みよい町になると思いました。	女性	40～44 歳
	・子育て世代中心に考えると将来が安泰なのでは？税金を納める世代を第一に考えたら良いと思います。鈴蘭小学校の支援学級と、下音更の支援学級の差は何でしょうか？もし見ても何も感じないのなら現場の先生方、親御さんの意見を聞いて下さい。費用等出来ない事も沢山あるとは思いますが、どうしたらコストを下げられるのか考えるのが仕事なのでは？出来ない理由づけではなくどうしたら出来るかを考えられる人で考えて下さい。まずは見学を。今すぐを望んでいる訳ではなく、少しずつ努力してほしい。まずは現場を見に行って下さい。机の上に答えはありません。改善されることを願います。足を使って下さい。	女性	40～44 歳
奨学金	・子どもが進学したり、資格を取りたいと思った時に、選べる道があればいいなと思っています。	女性	40～44 歳
	・ふるさと納税で得たお金を、経済的理由で大学進学を諦めるような若者に、給付型の奨学金を充ててほしい。老人や幼児に対する支援が多い割には未来のある若者に 1 人でも多くの人が学ぶ道があったらと痛切に感じます。	女性	65～69 歳
スポーツ	・ジョギング、ウォーキングに適したクッション性の歩道が多くあったら良いなと思っています。	女性	55～59 歳
	・大学等のスポーツ合宿誘致。	女性	65～69 歳
	・30 才の頃からスポーツをしています。今のところ病院へかよったり薬を飲んだりはしていません。会館でスポーツをしていますが、カーテンが古くなってボロボロ、ネットもきつく張れません。もう少し施設にお金をかけて頂きたいと思います。	女性	65～69 歳
	・体育館の建て直し。全国大会など出来る様に大きくして沢山の人に来てもらい音更を知ってもらう！！合宿などの施設の建築。	女性	55～59 歳
	・音更本町市街地には、野球場、アクリナちゃっぽ、サンドーム等の様々な施設が設けられているが、これ以上の施設は不要。維持管理費も多額だと思うので、これに見合った、料金設定をするべき。パークゴルフ場も町内に沢山あるがこれも同じ。	男性	40～44 歳
国際交流	・国際交流、都市間交流の活性化として、姉妹都市に海外の都市を増やすべき。岩手県軽米町も悪くはないが外国と提携することでより英語学習や異文化理解を発展させることができると考える。芽室や豊頃など他の町はすでに提携しているが、実際	男性	18～24 歳

	にアメリカやカナダに学生時に行った人の話を聞くと非常に有意義なものに感じた。異文化への興味関心も強く、英語力も他の生徒に比べて高かったことから効果があったという印象を受けている。自分自身、将来外国と姉妹都市提携を結べないかと模索しているが、是非１度検討してみて頂きたい。		

［都市環境、都市基盤］

公園、緑地	・鈴蘭公園の整備。木が繁りすぎて昼間でも薄暗いので高くなった木を伐採して明るい公園にしてほしい。	女性	55～59 歳
	・公園の充実、エコパとかむつみ公園とは広さはあっても、子供が喜んで夏の暑い日に涼める様に！！たとえばグリーンパークとか芽室公園等のように考えてほしいものです。むつみはムダに汚い小池があってみぐるしいです。		60～64 歳
墓地	・合同墓が出来れば良いと思っています。	女性	65～69 歳
住宅	・住居者（新築）に対しての助成金を出してほしい（条件なしに）。若い世代が家を建てる＝永住となるので、人口増になり、町の活性化につながるので。	女性	30～34 歳
上下水道など	・下水道等々インフラの整備（市街地として細部にわたり）。	男性	70～74 歳
	・上下水道の料金について。家族が自立し、２人、１人になった場合、5 立方ミリメートルでは足りず、10 立方ミリメートルまでにはならず、でも料金は払うことになるので、5 立方からは 1 立方ずつの料金も考えてほしい。	女性	50～54 歳
	・帯広で生まれ、26 年前音更の住人となった第 1 日目から「水がまずい」と感じました。当時水道係に TEL したら「新築の家でしたら、しばらく流しっぱなしにしてください」と。あれから 26 年、未だに塩素臭。帯広では 365 日塩素臭がすることはありません。帯広の水道水はペットボトルでおみやげ用に売っていますよ。家族の健康を考え、実家のある帯広から水をくみ運び生活しています。私が過敏すぎるのかもしれませんが人間にとって水の安心安全は大切ですよ。音更に、そば屋が少ないのも水のせいかもしれませんね。この 26 年の間に十勝のあちこちの町村をドライブしながら廻り、水道水の味見もしてきました。一番おいしかったのは士幌町ですね。公園の水飲場の水を飲んでみましたけど、甘味すら感じましたよ。	女性	50～54 歳
除排雪	・町営住宅の住みよい団地にして下さい。なぜ、維持費をはらっているのに自分で除雪をしなくちゃならないんですか。身体が悪いのにどうして？素早い除雪を願う。大きな道路からやるのは分かりますが、とても大変です。お願いしますから、身体の悪い人間を少し考えて一分一秒、早い除雪を願う。そのために仕事を選ばなきゃダメなんですか。あの人は除雪しないなどそういうのはやめてほしい。精神不安定になっています。これから冬がとってもこわいです。	女性	50～54 歳
	・鈴蘭公園でウォーキングをしていますが、夏は歩くのはとても良いのですが冬は道幅がせまく、交差するのが困難な時が有るので雪がふった後は早目に道をつけてほしいです。20 年以上公園の中を歩いています。	女性	65～69 歳
	・大雪時の脇道路枝線の除雪も一度ではなく二度は押していってほしい。	女性	65～69 歳
	・除雪等して頂いているのですが、角地なのでなぜか何mにも除雪されます。子ども達が通学路なのに、朝全く見えません。危ないのでやめてほしいです。	女性	40～44 歳
道路	・歩行者に優しい道路づくり。	女性	45～49 歳
	・道路保全。	男性	35～39 歳
	・国道の整備。二車線化が無理ならばそれに変わる道路を作る国道に沿った道路を 2 車線化するのもいい。	男性	40～44 歳
	・道路がせまいので二車線にしてはとは思います。	女性	55～59 歳
	・十勝大橋に行くまでの国道がいつも混んでいます。2 車線になる予定はないでしょうか。	女性	35～39 歳
	・早く木野大通を 2 車線にして下さい。	男性	18～24 歳
	・十勝大橋の渋滞解消の為、宝来地区から帯広東地区、または札内への橋があるとよいと思います。	女性	55～59 歳
	・大橋から木野に入る道路の拡幅を早急にすべきである。三路（大通り・西２条・西３条）から来る車の量を１本の車線ではどう考えても無理があると思う！！	女性	55～59 歳
	・音更市街につながる道路の整備	女性	65～69 歳

	・道東道音更インタから帯広市内に行く道路の拡張、すずらんを植えましょう。	女性	65～69 歳
	・国道を 2 車線にしないと入口が増えても更に通勤時間は混み合うばかりです。早急に希望します。		60～64 歳
	・国道以外の主要道を作る（帯広で言う白樺みたいな）。	男性	45～49 歳
	・高速道路から本町・木野のアクセスを良くする。	男性	45～49 歳
	・高速道路ができ交通網は良くなったが、インターチェンジのない市町村は、観光客が少なくなっているように思われる。長流枝にスマートインターチェンジが出きる話しはあるが早くインターチェンジをつくるように町も話しかけてほしい。	女性	55～59 歳
	・道路の管理状態がここ数年大変悪くなっている。草刈は年 1 回、道路下水路入口は草でぼうぼう。熊牛腺、下水路側溝破損（万年地域）。最低でも町内、同様の維持管理お願いしたい。	男性	70～74 歳
橋	・帯広との橋の数を増やす！！	女性	55～59 歳
公共交通	・交通網の再検討。	男性	70～74 歳
	・町内をぐるぐる回るバスを作る。今ある路線だけでなく本数も増やす。	女性	55～59 歳
	・高齢者のバス賃補助、帯広迄援助してほしい。	女性	70～74 歳
	・高齢者のバスの無料化。	男性	40～44 歳
	・コミバスの路線が長すぎて、乗っている時間・ルートは、必要としている人が便利なのかが大事であり、多額のお金で運行するだけの必要性があるのか是非もう一度検討してほしい。春・夏・秋はバス停まで行けるのが冬は別な交通手段が必要。車が使用できない音更町の方をリストアップして、代行と提携して、病院やスーパー、役場などに行けるようにできると良い。	女性	
	・温泉がオープンするのはとても楽しみですし、レジャーランド的に楽しめそうなので期待していますが、ただの箱にならないようにお願いします。ぜひ、コミバスを運行してほしいです。お酒飲めるし、宴会できるし、200 円か 300 円でも乗って行きたい。朝 1 番と夕方の 1 番で送迎してもらえば、しょっちゅう行きたい。	女性	
	・バス停、特に利用の多い都市間バスの本町の停留所が不便である。ほとんどのバスは福祉センター前を通るのに、ここを活用する事で雨天、降雪、寒いのにバスを外で待たなくてはならない。なぜ福祉センター内で待つ様にできないのか？又はセンター横にバスターミナルを作れば札幌や旭川に行くのが楽になるではないか？また切符も購入するのをどうして農協店舗前の電気屋に行かなくてはならないのか？福祉センターをバスターミナルとしても使用してそこで購入出来る様にすればバスを有効に活用出来るし、環境にもやさしく、高齢者にもやさしい（室内で待つことが出来れば･･･）いつまで放置したままにするのですか？	男性	65～69 歳
景観	・新通 15 丁目あたりの工業用地として何年も放置された所が、景観も悪いし、あまり良いものではないと思います。改善をしてほしいです。	女性	18～24 歳
	・空地、空き家の管理を強化したら良と思う。草刈・枝払いをお願いしても、なかなか行って頂けない。	女性	55～59 歳
	・大通りの歩道ブロックが汚くみすぼらしいです。きれいにしてほしいです。（清掃、汚れ落）	男性	45～49 歳
	・鈴蘭公園の北側（南鈴蘭地区）の高いひょろひょろの松の木を伐採して東西にかけ桜の木を植え替へて桜並木にしてはどうでしょうか。それでなくても帯広との中間にあってもっともっと名物の公園になると思います。	男性	75 歳以上
	・民間企業の外観をきれいにする様補助金を出す。国道脇の外観があまりきれいではないので統一的に音更らしくなれば良いと思う。	女性	40～44 歳

［産業の振興］

商業、買い物環境	・よつ葉乳業から北と、本町の活気のなさ、木野地区に商業施設が集中しており、買い物などに不便。	女性	40～44 歳
	・年配者の買い物等の助け。	女性	45～49 歳
	・商業施設の誘致。	女性	25～29 歳
	・車のない人のための買物の援助（交通機関の充実・宅配のサービス等）	男性	55～59 歳

	・低価格のファミリーレストランや商業施設の建設	女性	30～34 歳
	・商店街の活性化と充実。	男性	40～44 歳
	・大型店、アウトレットモールを勧誘。	男性	45～49 歳
	・ケンタッキーフライドチキンを建ててほしい。	男性	35～39 歳
市街地	・音更町の中心地はどこなのか？求心力のある地域作りを希望します	男性	70～74 歳
	・役場近辺はあまり出向く事がない。道の駅から本町の方はあまり行く用事がない。魅力がない。	女性	40～44 歳
空き地 空き店舗 空き家	・帝繊コンクリート跡地の開発。	女性	65～69 歳
	・空き店、家のすばやい撤去。	女性	40～44 歳
	・急ぎで空き家空き倉庫をさがしているが、空き家、空き倉庫、空き店舗をさがすのに町のＨＰ内の情報を見ても、古すぎて話にならない。町は本気で考えている気がしない。保育園も空き、旧信金も空き、本町は空き率が高い様に見えるが、そのまま安く借りられるなら、これからの事業にも活用できる。ライダーハウスなどの宿泊施設もない、ホテルもない、なのにお酒や飲食のイベントをやっても、足がないのでつまらない。イベントが中途半端で終わる。だれを呼びたいのか目的は、ＰＲか、お金か、町外の人か、子供か大人かよくばりすぎても、誰も来ない。イベントを行っている人達は楽しいのか？義務なのか？楽しい所、笑顔に人は集まる。行っている人が楽しんでいない。	女性	45～49 歳
農業	・今後の農業で、どこに重点を置くか考えること。	女性	25～29 歳
	・農作業に、障害のある方（療育手帳、精神手帳にかかわらず）、働くことに困難をかかえる方を雇用する取組みを考えてほしいです。	女性	50～54 歳
特産品	・物産、特産品の充実。音更本町で供給、消費がうまれる。	男性	40～44 歳
	・地場産品を利用し、研究開発に取り組むグループの育成。	女性	75 歳以上
	・音更は農産物が豊富に有るのでそれをいかしてほしい。	女性	70～74 歳
	・芽室のように野菜の直産を１ヶ所に集めて大きくして（愛菜屋のように）音更産の野菜をもっと知ってもらうといいと思う。	女性	25～29 歳
	・ふれあい交流館のアドバイザーは、以前は 1 人で行っていたのが今３人になり充実したように見えますが、殆ど事務所にいて調理の手伝いアドバイザー役が出来ていない。実際 3 人も必要なのか。複数人いる事によって逆に責任感に欠けるような気がする。	女性	65～69 歳
企業誘致	・農業・土木以外にも、IT 関係の企業誘致。主に中・高生を対象に、デジタルメディア・プログラム・ワークショップを実施する。町内の空店舗等を活用して、作品展示場所にし、教育と起業の土壌づくりをする。農業と IT の親和性を高める試み。首都圏の IT 企業誘致の呼び水。インターネットを通して世界に PR。IT 文化が根付く町となり、若者たちの活気が出る。	男性	50～54 歳
観光	・自然を活かしたリゾート化。ニセコの様にペンション街だと人が集まるのでは？ニセコは海外からも多く来ており、伊達大滝区北湯沢の野口観光のホテルは周りに何も無いのに客が多い。参考になるのでは？まずは全国、海外から来てもらう様にして町にお金をおとしてもらうのが良いと思う。	男性	45～49 歳
	・広い十勝平野のパッチワークを空から見えるようにしたらどうでしょう。春夏秋冬さまざまな空からの風景を観光の目玉にする。150～200m 高の鉄塔を 300～500m ピッチで設置し、3～5 人乗りの超軽量ゴンドラを運行。約 60～100m の大がかりな物を町が主体で作る。人が集まれば宿泊施設が必要になり、十勝川温泉は民官によりかってに活生化していく。最初の起爆剤は官で行い、民が追随するか、官民共同で立ち上げるか？	女性	60～64 歳
	・音更町のイメージカラーを考案してはいいのではないか、観光としての魅力が足りないし、もう一度来てみたい町づくりを！メーンストリートに統一した美観がほしいと思う。	女性	60～64 歳
十勝川温泉	・温泉地区の開発が気付いたら冬にオープンと聞きました。冬期に雪の中でプール浴をしたいでしょうか！？町民の意見はあったのでしょうか。業者間だけの話なのではないでしょうか。オープン時に、町民に、何か利用しやすい制度があるのでしょうか！？町民に対して発信されていないように思えます。	男性	45～49 歳

	・十勝川温泉に新たに施設はオープン予定だが、他の温泉ホテルの老朽化が目立つ。客がかたより過ぎるのではないか。土産屋などホテル以外の商業施設ももっとあった方が良いのでは。	女性	40～44 歳
	・十勝川温泉に観光客を来るように工夫をしていただきたいと思います。	女性	70～74 歳
	・十勝川温泉の活用。かんぽも無くなり新しい施設が出来ましたが、一時的にならぬよう考えていってほしい。室内で利用出来る施設がもっとあってもよいのでは。子どもから－お年寄りまで利用出来る…	女性	55～59 歳
	・十勝川温泉の魅力アップを図る。温泉街の構築等、観光客を呼び込む工夫がほしい。	女性	50～54 歳
	・十勝川温泉の周りをリゾート化（自然を中心に）自給自足が出来る街を目指す。	男性	45～49 歳
観光施設・スポット	・音更町が力を入れている中で農業や農作物（特産品）がありますが、現在もイベント実施などで活動を多く見ることがあります。今後も引続き実施していただきたいと思う反面、地元人や観光客に向けた施設が少ない（目新しいものがない）と感じます。もっと観光客も地元の人も集まる様な施設があるといいと思います。そこから音更町の特産品だけでなく町の PR を行う事で町が活性化されるのではと思っています。東川町や富良野町に並ぶ住み良く観光地としても魅力ある町に音更町もなれると期待しています。	女性	45～49 歳
	・音更町をアピールする観光スポットを作るべきだと思います。大人や子供も遊べる遊園地や商業施設を固めて作るなど。あと、札幌の地下歩行空間のように、雪や雨のときでも利用できる場所。そういう施設を増やせば、子供たちも、十勝を離れず、そこに住み続け、人口も増えると思います。	女性	45～49 歳
	・音更らしい、町民に親しまれる、新しい取組み、企画があればいいと思います。例えば、芽室町の「愛菜屋さん」の様な。「道の駅」の充実も、必要なのでは！「十勝川温泉」をもっと利用、活用して、「音更町」をＰＲしていければいいと思います。	女性	65～69 歳
	・新産物を開発、「道の駅」等を利用し産地直売・食堂等の広いエリアを造成、併せて「インターチェンジ」・「スイートピア・ガーデン」などとの連絡・連携も図る。一例として集客力のある果樹園（苺・ぶどう・サクランボ等）、あるいは養殖場（虹鱒・鯉等）を併設する。更にオートキャンプ場も設置、電気・水道・トイレ・流し台等の整備をして集客を図る。出きれば、テニス・コート、パークゴルフ、バッティング・センター、ゴルフの打放しや、子供用の遊具施設も望ましい。補足として親子で楽しめる新しいイベントを設ける。（池田ワイン祭り・新得そば祭り等）。～パスタ・うどん？蛇足として「綱引き大会」、（各町内会など対抗、出きれば年令別として、将来、他町も招致して開催）。	男性	65～69 歳
	・今、音更町の道の駅をどこに作るかという構想があるようですが、単に道の駅だけじゃなく、複合施設的なものの方がいいと思う。たとえば、音更の歴史がわかる博物館など併設されていると、観光客にもいいのではないかと思う。ゆったり地場のものが購入できる、そして休める場が必要だと思います。	女性	75 歳以上
	・農家レストランの設置。適した場所を探求し、始めたい人に補助金を。	女性	75 歳以上
	・ハーブ園の設置（カフェがあるとなお良い）ハーブティー、ハーブの販売、利用の促進。費用があまりかからないと思うので早期実現を望む。	女性	75 歳以上
	・ハナックをもっと有名にしてほしい。日本一大きな遊具を作るとか、室内アスレチック(ブログなどで記事にしてもらえるようなおもしろいもの）等を作り、温泉街をもっと楽しめるようにしてほしい。エコパばかり有名でもったいない。	女性	30～34 歳
道の駅	・道の駅の改修。場所は良いが古くなっていたり狭かったりと利用しにくい。	女性	40～44 歳
	・道の駅は町民がまた行きたいと思える場所、物産品の開発にと力を入れて頂きたいです。ただ、物を陳列している。きなこアイスは良いアイデアで美味しいですね。		60～64 歳
イベント・祭り	・デジタルメディア・アーティストのアーティスト・イン・レジデェンスの実施。幼少期から作品にふれる環境づくり。夕張映画祭のデジタル版。町民のイベントから、世界のイベントへ。新しい視点で、既存の産業に新しい発想・価値の創造や刺激を与えるキッカケになる。	男性	50～54 歳
	・もう少し町の中でのイベントがあって良いのでは。100 円バスにのって行ける場所で、高齢者や１人ぐらしの方、足腰の悪い方なども気軽に行ける場所やイベント地域に人々の行流の場所が少ないです。温泉でイベントをするのは良いですが、高齢	女性	55～59 歳

	者はつかれると早く家に帰って横になりたがります。分散してイベントを行ってほしいですね。		
	・夏祭り等のイベントは本町でなく、木野等の市街地で行ったほうが、盛り上がるのではないか。	女性	40～44 歳
	・個人的にはスイーツ好きなので音更町に楽しいスイーツが大集合するようなイベントがあると嬉しいです。	女性	40～44 歳
	・過去の町内のイベント（例：産業まつり・花見・一万人踊り・雪まつり等）を多少なりとも復活してほしい。予算を削らなければならない事情もあると思うが、町内外の人々が音更町は"楽しい"と感じてもらう事が、音更町の発展に繋がって行けるのではないかと考えます。それらの行事により、子供達が大人になり、更にその子供達に伝承されて行く事が、音更町の発展の一端となるのではと考えます。	女性	70～74 歳
働く場	・人口を減らさない行政政策を最重点に行うべきと考えます。現在、国は地方創生といってバラマキ政策に近いものを行っている様に感じますが、雇用創設につながるものを実施していただけたらと思います。	男性	55～59 歳
	・役場職員の雇用を増やし臨時雇用は出来る限り少なくすべきである。また、幼稚園や保育所も出来る限り正職員とすべきと考えている。役場や、団体職員の身分を確保し、若い人達が希望を持って仕事に就けるよう取り組み、中小企業の模範となるべきと考える。	男性	75 歳以上
	・働く世代の方が働きやすい環境支援の充実。	女性	65～69 歳
協働のまちづくり、住民参加	・町内在住の人材を調査把握し、積極的に行政運営等に参加協力を求める。	男性	70～74 歳
	・町民が参加できる企画会議。（このアンケートのようなもの）。このようなざっくりとしたアンケートを取らず、もう少し的をしぼった形にしてほしい。意見が取りいれられなくても、町民の意見を聞く事に意味がある。	男性	35～39 歳
	・会社で働いている人を社会へひきだして、町を盛り上げる。どこもそうかもしれないけれど、会社員（特に男性）は、会社の仕事に特化していて、独身者は、仕事と自分の事、家庭を持つ人も、会社と家のこと…という方が多いと思います。もっと社会にひきだして、町内会活動や、学校での活動を活発にやっていけたらいいと思います。	女性	45～49 歳
	・自分ではなくだれかのために何かをする。そういう考えを持った人が増えれば増えるほど町としても町民としても必ず良くなると思います。一人一人の意識を変えるためのセミナー、講演会等町主催で行う等あるといいと思います。そしてそれを確実に周知できるともっといいと思います。	男性	30～34 歳
	・今の音更町の取組みを応援しています。微力ではありますが、町民としてできるかぎりの活動に参加させていただきたく思っています。	男性	18～24 歳

［その他行政運営］

広報 情報提供 案内	・広報にしろ、何にしろ、思わず読みたくなる様なもの作って！！見るからにつまらなさそうで見る気にならないし、年をとって老眼が進めば、更に見る気にならないなー。	女性	45～49 歳
	・町の掲示板はどこにあるのですか？（さがしてもみつからなかったから）	男性	70～74 歳
	・なかなか広報等を読まない人や興味のない人でも、町の方針、制度、等々知ることができるように民間企業の協力をうけて、知らせることができるといい。（例えばスーパー等に掲示させてもらう等）	男性	30～34 歳
	・IT の時代であるが誰もが PC を活用している理由でないので考えてほしい。	女性	50～54 歳
	・案内標識の充実（市街地の地番表示を含）。市街地の地番が分かりづらい	女性	65～69 歳
広聴	・アンケートよりも本当の声（町民）を聞いてほしいと思います。なぜそう考えるのか。感じているか等具体的な物が伝わると思います。	女性	45～49 歳
行政 町議	・支所の役目を役場と同じく。	女性	55～59 歳
	・職員の初級職・上級職の給与の差を少なくし、能力のある職員はどしどし管理職にすべき。また、女性の管理職を増やす。ガンバっている職員は給与アップ。そして、職員増と能力のある臨時職員を正職員にしては！残業は少なく職場も家庭も大切だ。	男性	60～64 歳

	・職員の人材開発。能力のある人の登用。民間の感覚を持った人の重用。持続的にまちづくりをしていくなら、まず、人材が大切だと思う。本当に音更のことを思い他利益で動ける人やチーム作りが基盤になっていくと思う。④天下りは無くても良いと思う。あると仕事に対する意識や金銭感覚が普通の人達と乖離するので、人材育成の妨げに、長い目でみたら、なるのではないかと思う。	女性	50～54 歳
	・音更町が他の市町村に先がけて新しいサービスを始めたという、記憶がありません。職員が保守的というか、現状に満足しすぎるのでしょうか、アイデアが足りません。人材育成に力を入れ(既得権の行使ばかりを追及する職員ばかりでは困ります)てほしい。「前例がない、前例がない」ばかり言わないことです。もっと能力のある人を採用してください。	女性	60～64 歳
	・民間委託と人員削減はやめるべき。民間委託しても、結局はチェック体制ができていないと、間違った方向へ作業が進んでしまう恐れがある。（勝毎に帯広市の事務処理ミスが出ることがあるが、民間委託をした結果がミスにつながる。）本来、直営でやるべき。人員削減して仕事量が増え、職員一人一人にかかる負担が重くなっては、アイデアも、やさしい窓口対応もできない。きちんとした人員を確保すれば、仕事の質も高くなる。音更町には、帯広市の失敗をまねしてほしくはない。	男性	50～54 歳
	・町政のトップに立つ方々が、重点化できるかが問題ではないですか？羅列的に町政を語るのではなく、今年度はこれをやりますと町民に大々的に語りかける情熱が見えないし、やろうとしていないことにさみしさを感じます。	男性	65～69 歳
	・町の職員の仕事に見合った賃金なのか？町議は何をしているのか？私達には全く見えてきませんが、税金だけは、払い続けております。	女性	40～44 歳
	・町議会議員を年代別で入れる。政党からの推薦はなし！（全員無所属）	男性	45～49 歳
	・町議についてのアンケートを。	男性	

［その他］

町のＰＲ	・音更町民は”おとふけ”と読めますが、一歩外に出ると読めない人が多いと思います。日本全国民に”おとふけ”と読み十勝、帯広市の北側に隣接する町だと言うことをアピールしてほしい、その一つ考えられるのは十勝川温泉ですね。音更町だと知っている人は？帯広だと思っている人の方が多いのではないかと思います。	女性	60～64 歳
	・三笠市みたいに CM を作ってみてはどうか？	女性	25～29 歳
その他	・退職教職員等による自動車パトロールは、単なるパトロールだけしていればいいという発想がある。道路等の不良箇所、街路樹等の危険箇所にも目を配らせて担当部署へ速やかに対応を連絡するようにしてほしい。	男性	65～69 歳
	・犬、猫の殺処分ゼロ。	男性	30～34 歳
	・町から市への移行。	男性	55～59 歳
	・民生委員の資質向上。働く意識もなく、酒とギャンブルで生活している生活保護受給者が多数いる。減額した方がよい。とり消しか指導の向上を、月 2 回以上は町又は民生委員の訪問が必要だと思う。	男性	60～64 歳
	・ペット税、脂肪税(一定の体脂肪を越えた人)を。ペット税－環境保全にもなる。脂肪税－保険料を抑え病気予防にもなる。		
	・廃校を利用して介護と育児を両立。	男性	45～49 歳
	・町の各施設やサービスは、どれだけ利用度が高まっているかを重視すべきと思うが、単なる管理に重きを置いて、なるべく利用されて荒らされないなどの発想が一部に見られる。	男性	65～69 歳
	・本町と木野地区の一本化。	女性	60～64 歳
	・音更町以外の方から見た音更の印象を受けとめたり音更の情報を受信してほしい。	女性	
	・住むところや健康面、子育てにお金が沢山かかると不安なので、支援が充実するほど安心できると思います。	女性	40～44 歳
	・年少者や一人親世帯、手厚い老人対策ばかりでなく、実際に沢山納税し働いている現役世代の人が、今後も住み続けたくなる街づくりをして下さい。	男性	40～44 歳
	・お年寄より、若者にやさしい町を目指してほしい。	男性	40～44 歳
	・自分に都合の良い時は歩くのに、何か役所がする事には、いたれり、つくせりして	女性	55～59 歳

	いただく事をあたりまえに思っているのではと感じます。少しはこれからの子供達や若い方にお手本になる大人がふえるような町にしていただきたいですね。		
	・移住者を受け入れれば人口がふえるのではないかと思います。	女性	70～74 歳
	・人口増は次の段階になると思います。魅力ある町づくりの実現に期待します。本町にも殆んどいきませんし、本町を拠点に考える必要はないと思います。		60～64 歳
	・先日、クラス会があり参加した際、音更町は自分の住む町より福祉面が充実しているので音更町に住みたいと思っているとの事。誰もが少しでも安心して住めるよう、多くの人が音更町に住みたいと思う町づくりをお願いします。保育所、老人施設等低所得者の事も含めお互いに考えて行きたいと思います。	女性	75 歳以上
	・人口流出の歯止め、新規住民の呼びこみ、産業の創出、雇用の維持、地域ブランドの普及、農業ほか後継者いないままになる高齢化対策、子育て対策、育児施設のシステム化。	男性	60～64 歳
	・型にはまった考え方ではなくて臨機応変に対応できる様に初めから上手くは行かなくても失敗から得られる事も沢山あると思われます。こうしたいと考えるのではなくてこうやってみたらどうなるかな？と実験も必要だと思いますが。お試しして見ると言う様な柔軟な考えを持った人が集まっていると良いのですが。年齢別にアンケートをとってもよかったのでは。無作為に選ぶのは良いですが、行政に感心のある人なら良いですが。無い人なら残念な結果にならなければ。	女性	55～59 歳
	・誰の物かわからない山林が沢山増えるなか、納税されない土地と誰の土地か分からなくなる土地がふえるであろう。納税書のコピーと土地の権利書を役場に提出しなければ消える財産になる。法務局員にすべて自分の目で確認すべしと一言。	女性	65～69 歳
	・町という単位で、道政にも国政にも大きな声をあげてほしい。特に原発の問題。一度の事故で、何百年もの子孫にまでその影響が及ぶ。「原発」をなくすという活動を大いに進めてほしい。そのためなら多少の我慢は出来ると思う。太陽光発電等に取り組む町民に対しての補助をもっとふやしても良いのではないか。	男性	70～74 歳
	・比較的色々とやってくれていると思っています。	男性	35～39 歳
	・住居を持ち 50 数年間住んでおります。お世話になっています。今後共宜しくお願い申しあげます。	女性	75 歳以上
	・音更町(特に木野地区)は医療関係病院に関しましては、わざわざ帯広へ行く必要性もなく、とてもすみやすい所だと思います。	男性	75 歳以上
	・アンケート分析や具体的な対策案を考え、行動に移すのは大変だと思いますが、がんばって下さい。	女性	25～29 歳
アンケート	・アンケートの回答覧に「わからない」を付けてほしかったです。	女性	60～64 歳
	・アンケートは漠然として、特に問 1 は何を答えていいのか、身近なことではなく、まったく私には関係のない事ばかり。子育てしてないし、回りも子供いる人いないし、誰に何を質問したいのですか？私は 60 代の普通の主婦ですが、自分の生活の中に音更の今後もないし、ただ音更に住んでいるだけなのです。このアンケートに本当に意味があるんですか。	女性	60～64 歳
	・どこにも当てはまりませんが…今回のアンケートをするまで”音更町”について深く考えるようなことはありませんでした。アンケートに書きこむ中で、少し、考えるキッカケをもらったように思いました。	女性	30～34 歳
	・このアンケートについて。A 満足、B やや満足と 5 択ありましたが、「わからない」という項目をプラスしてほしい。自分の生活に関係ない項目には応えられないと思うけど。	女性	45～49 歳
	・このようなアンケートは大変良いことと思う。アンケートが生かされる行政を望む。	男性	70～74 歳

Ⅳ　調査票

まちづくり町民アンケート

町民の皆さまには、日ごろから町政に対するご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、音更町では、現在、平成２３年から３２年までの１０年間を計画期間とする「第５期音更町総合計画」（※）をもとに、まちづくりを進めております。

この計画を推進していく上で、音更町での暮らしや課題など、皆さまのご意見をお聞かせいただくため、この度「まちづくり町民アンケート」を送付させていただきました。

このアンケートは、町民の皆さまと行政が一体となってまちづくりに取り組んでいくため、皆さまの、まちづくりに対する将来の方向性や考え方をうかがう大変重要な機会であり、毎年実施しているものです。

この度、音更町にお住まいの１８歳以上の町民約３７,０００人の中から、無作為に１,０００人を選ばせていただきました。

時節柄お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ぜひこの機会にまちづくりに対するお考えをお聞かせいただきたく、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

平成２８年８月
音更町長　　寺　山　憲　二

※「第 5 期音更町総合計画」は、まちづくり全般にかかわる町の最上位計画です。この中で、まちの将来像を掲げ、産業の振興や環境、教育、福祉など、まちづくりの全分野にわたって取り組む内容を示しています。内容は、音更町のホームページでご覧いただけます。

http://www.town.otofuke.hokkaido.jp/town/zaisei-keikaku/keikaku/otofuke-soukei5-minaoshi.html

＜このアンケート・回答について＞

◆ 名前を書く必要はありません
回答はすべて統計的に処理します。回答により個人が特定されることはありません。

◆ 事情により回答できないとき
封筒の宛名の方に回答いただきたいと思いますが、その方が事情により回答できない場合は、他のご家族の方（１８歳以上の方）などが回答してください。

◆ ８月２３日（火）までにご回答ください
回答後は、同封の「返信用封筒」に入れて、郵送してください。切手は不要です。
お手数ですが、このページの左右にある ▶を目安に、３つ折りで封入してください。

◆ お問合せ先
音更町役場 企画財政部企画課企画調整係　TEL (0155)42-2111(内線 212･213)

【問１】音更町での暮らしについておたずねします。

（１）次の分野について、「①現在の満足度」と、「②今後の重要度」を各選択肢（Ａ～Ｅ）からお知らせください。（各項目○は１つ）

「①満足度」「②重要度」に、それぞれ○を１つ。

《記入例》

項　目	①現在の満足度					②今後の重要度				
	Ａ 満足	Ｂ やや満足	Ｃ 普通	Ｄ やや不満	Ｅ 不満	Ａ 重要である	Ｂ やや重要である	Ｃ 普通	Ｄ あまり重要ではない	Ｅ 重要ではない
各種イベント	A	(B)	C	D	E	A	B	(C)	D	E

保健・医療・福祉について

1. 子育ての環境や支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
2. 健康づくりや病気の予防	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
3. 病院・診療所などの医療環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
4. 高齢者の自立支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
5. 障がい者（児）の生活支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

生活環境や安全・安心について

6. 男女が等しく社会参加できる環境づくり	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
7. 町民ボランティア活動の育成・支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
8. 消費生活に関する情報提供や相談体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
9. 町内会活動などのコミュニティ活動	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
10. 交通安全への取り組み	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
11. 地域での防犯対策	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
12. 消防・救急体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
13. 自然災害などに対する防災体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

環境保全について

14. 自然環境の保全	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
15. 騒音・振動・悪臭などの公害防止	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
16. ごみの収集・リサイクル	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

教育・スポーツ・文化・国際交流などについて

17. 生涯学習の情報や機会の提供	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
18. 小・中学校の教育環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
19. 障がいのある児童などの教育環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
20. 芸術文化活動の促進	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
21. 芸術文化施設の充実	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
22. 文化財や史跡の伝承保存	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
23. スポーツ活動の推進	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
24. スポーツ施設の充実	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
25. 青少年の健全育成	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
26. 国際交流・都市間交流	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

項　　目	①満足度					②重要度				
	A 満足	B やや満足	C 普通	D やや不満	E 不満	A 重要である	B やや重要である	C 普通	D あまり重要ではない	E 重要ではない
都市環境や都市基盤の整備について										
27. 公園や緑地の整備・管理	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
28. 公営住宅環境の整備	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
29. 上下水道の整備	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
30. 道路や歩道の除排雪	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
31. 道路の整備・管理	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
32. バスの利用のしやすさ	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
33. まちの景観	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
産業の振興について										
34. 日常の買い物環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
35. 中心市街地のにぎわいづくり	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
36. 農業の振興	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
37. 地産地消・食育の取組	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
38. 企業誘致や企業活動の支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
39. 観光地としての魅力づくり	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
40. 働く場の確保	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
その他行政運営について										
41. 広報紙やホームページなどの情報提供	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
42. 町民と行政の協働によるまちづくり体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
43. 窓口での対応や窓口サービスの提供	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

（２）これまでの全43分野の中で、今後のまちづくりに特に重要だと思うものを、優先順位の高いものから順に５つ以内でお知らせください。（③に「1～43」の番号を記入）

（３）（２)で選んだ分野（番号）について、特に実施すべきと思われることがあれば、具体的にお書きください。（④に記入）

優先順位	③（1～43の番号を記入）	④特に実施すべきことがあればお書きください
１番目		
２番目		
３番目		
４番目		
５番目		

【問２】総合的にみて、現在の音更町の住み良さはいかがですか。次の中から１つだけお知らせください。（○は１つ）

1. 住み良い
2. どちらかといえば住み良い
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みにくい
5. 住みにくい

【問３】これからも、音更町に住み続けたいと思いますか。次の中から１つだけお知らせください。（○は１つ）

1. 今の場所に住み続けたい
2. 町内の別の場所に移りたい
3. 近くの市や町村に移りたい　⇒　［例えば：　］
4. 道内のどこかへ移りたい　⇒　［例えば：　］
5. 道外に移りたい　⇒　［例えば：　］

【問４】前問（問３）で、３～５に○印をつけられた方におたずねします。
町外に移りたいと思うのは主にどのような理由からですか。次の中から３つ以内でお知らください。（○は３つまで）

1. 自分にあう仕事（職場）がないから（自分の力を発揮できる仕事をしたいから）
2. 商売や事業経営に不利だから。生計を保つ収入が得られないから
3. 勤務地や通学地が遠いから
4. 交通が不便だから
5. 自然条件が厳しいから（冬の寒さ、雪など）
6. 災害や交通事故、犯罪などが不安だから
7. 騒音・振動・悪臭などの公害が多いから
8. 住宅環境が悪いから
9. 土地代・家賃が高いから
10. 医療や福祉面が不安だから
11. 進学や子育て環境など、子どもの教育上の問題から
12. 人間関係や近所づきあいがうまくいかないから（今後不安だから）
13. 買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから
14. 余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから
15. その他（　　）

【問５】音更町の産業を振興するために、どの分野に力を注ぐべきだと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

1. 農業の振興
2. 商業の振興
3. 既存の製造業や建設業の振興
4. 工場などの企業誘致
5. 福祉や情報、教育など新たな事業所の誘致
6. 観光・交流関連産業の振興
7. 地域物産や特産品などの開発・振興
8. 起業の支援
9. その他（　　）

【問６】音更町の農業を振興するために、どのようなことに力を注ぐべきだと思いますか。次の中から３つ以内でお知らせください。（○は３つまで）

1. 土地基盤の整備
2. 農村部の環境や景観の向上、保全
3. 経営の合理化や近代化
4. 低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり
5. 流通・販売対策の強化
6. ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み
7. 観光・体験型農林業の育成
8. 後継者、農業労働力の確保、育成
9. 学校給食や飲食店などでの消費（地産地消）
10. 直売所などの、生産者と消費者が直接ふれあう環境の整備
11. その他（　　）

【問７】音更町で農業とのかかわりを深めるために、どのようなことがしたい（できる）と思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

1. できるかぎり地元の農畜産物を食べたい（家族や友人に食べさせたい）
2. 地元の農畜産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい
3. 農地を借りるなどして、自分で耕作したい
4. 自分の経験や技術を、音更町の農業振興に役立てたい
5. 農業を体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）
6. その他（　　）

【問８】音更町のまちづくり（行政活動）や町民参加に関する次の項目について、それぞれどのようにお考えですか。各選択肢（Ａ～Ｄ）からお知らせください。（各項目○は１つ）

項　　目	Ａ そう思う	Ｂ やや思う	Ｃ あまり思わない	Ｄ そう思わない
１）音更町の行政活動に関心がある	A	B	C	D
２）音更町の行政活動には町民の意向が反映されている	A	B	C	D
３）音更町の行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している	A	B	C	D
４）音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている	A	B	C	D
５）「町政声のポスト」やパブリックコメント（意見募集）などの機会を利用し、音更町の行政活動に意見を述べたい	A	B	C	D
６）審議会や町民会議など、音更町の行政活動に意見を提言する機会に参加したい	A	B	C	D

【問９】音更町では、「まちづくり基本条例」を定め、『町民協働によるまちづくり』を進めています。このような「町民協働によるまちづくり」を進めるうえで、重要だと思うことをお知らせください。（○はいくつでも）

1. まちづくりへの提案や提言の機会を増やす（アンケートや意見提案など）
2. まちづくりに関する計画をつくる際に、町民が参加できる機会を増やす（町民と行政がまちづくりについて共に考える機会を増やす）
3. まちづくりに関する情報（行政からの情報・町民が持つ情報）を共有する
4. 町民協働によるまちづくりの考え方を広くＰＲするため、町民が参加できるイベント・事業を実施する
5. 町民や各種団体などの主体的なまちづくり活動の支援を拡大する
6. 町民が打ち合わせや作業のできる活動拠点を整備・充実する
7. 日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める
8. その他（　　）

【問 10】まちづくり活動に参加するとしたら、どのような活動に参加したいですか。現在参加されているものも含めてお知らせください。（○はいくつでも）

1. 美しいまちをつくるための“花などを植える活動や清掃活動”
2. 地域の自然を守り育てる“自然保護・愛護活動”
3. 資源のムダづかいをなくし環境を守る“リサイクル活動や省資源活動”
4. 高齢者や困っている人たちの見守り・声かけ、支え合いなど“地域福祉活動”
5. 小さい子どもや子育て中の人を応援する“子育て支援活動”
6. 郷土の歴史や文化を学び、後世に伝える“歴史文化活動”
7. 子ども会やＰＴＡ、健全育成組織などを通じた“児童・青少年の育成活動”
8. スポーツ・保健事業への参加・協力など“スポーツ・健康づくり活動”
9. 安全な暮らしを守る“交通安全・防災・防犯活動”
10. 祭りやイベント行事の運営協力など“イベント活動”
11. ホームステイの受け入れや交流事業の支援など“国内外との交流活動”
12. まちの案内やＰＲをするなど“観光案内活動”
13. 特産品の開発・ＰＲや観光スポットづくりなど“まちの魅力を高める活動”
14. まちづくりの企画・研究やリーダーなど“まちづくりの推進役”
15. その他（　　）

【問 11】まちづくり（町政）や地域に関する情報を伝える方法として、何を充実（重視）すべきだと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

1. 町の広報紙
2. 町のホームページ、携帯サイト
3. 町内会を通じた回覧など
4. 新聞記事など
5. メールの配信
6. その他（　　）

【問 12】音更町では、 毎月１回発行の「広報おとふけ」と町のホームページで、町に関する情報をお伝えしています。これらをどのぐらいの頻度でご覧になっているかお知らせください。

（各項目○は１つ）

１）「広報おとふけ」について	1. 毎月読んでいる 2. 必要・関心のある時だけ読んでいる 3. まったく読まない 4. 届かない、入手できない
２）音更町のホームページについて	1. 週に２回以上 2. 週に１回ぐらい 3. 月に１～２回ぐらい 4. 年に数回 5. （見ることはできるが）見ない 6. （見たいと思うが）見ることができない

【問 13】まちづくり（町政）や地域に関する情報として、どのような内容を望みますか。次の中から３つ以内でお知らせください。（○は３つまで）

1. 町の政策や事業、予算などに関する情報
2. 各種制度の内容やそれを利用するための情報
3. 防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報
4. 健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報
5. 子育てや子どもの教育、健全育成に関する情報
6. ごみの減量化や省資源、リサイクル、環境保全に関する情報
7. 福祉に関する情報
8. 公共施設やその利用方法に関する情報
9. 生涯学習や文化・スポーツなどの各種講座・教室に関する情報
10. 町内の自然や歴史、名所などに関する情報
11. 町や地区の行事、イベント、町民活動などに関する情報
12. ボランティア活動全般に関する情報
13. 国や北海道、周辺市町村に関する情報
14. その他（　　）

【問 14】音更町では、「住み続けたい、住んでみたいまち」をめざし、住環境の整備や働く場の確保、コミュニティ活動の支援などを行っています。今後、さらに「本町への移住・定住」を促進するために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

1. 音更町内に、住宅を建てやすいようにする（宅地を増やすなど）
2. 音更町内にある民間住宅に入居しやすくする（家賃の補助、空き家の活用など）
3. 音更町内で働ける場を増やす（企業誘致、起業しようとする人への支援など）
4. 子どもを産み育てやすいまちにする
5. 年齢や障がいに関わらず、住みやすいまちにする
6. 住んでいる人同士が地域で交流や活動を行いやすいようにする
7. 音更町の魅力を、もっと町外にＰＲする
8. その他（　　）

【問15】音更町の行政改革を進めるうえで、重点をおくべき項目をお知らせください。
（○は３つまで）

1. 町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり
2. 職員の意識改革、能力向上などの人材育成
3. 職員数の削減、人件費の抑制
4. 町民参画による事業の検討、実施
5. 行政評価の導入（費用対効果の分析、評価システムの導入など）
6. 補助金などの整理、合理化
7. 使用料、手数料などの利用者の費用負担（受益者負担）の適正化
8. 事務や公共施設の管理運営などの民間委託
9. 町有地や公共施設の整理、合理化、有効活用
10. 窓口サービスの向上（申請、届出などの簡素化・ワンストップサービス※）
    ※ワンストップサービスとは、１つの場所で手続きなどが済むようにすることです。
11. 情報公開の推進
12. 近隣市町村との連携の強化と効果的・効率的な広域連携事務の推進
13. その他（　　）

【問 16】将来にわたり持続可能なまちづくり（行政運営）を進めるために、大胆な見直しも必要です。音更町の今の制度や施設、事業など、今後、なくしたり廃止しても良いと思うものがあれば、具体的にご記入ください。

【問 17】今後のまちづくりに対し、①新たな取組み、②重点的に行うべき取組み、③アイデアやご提案、④その他、ありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
いただいた回答をより有効に活用するため、回答された方についておたずねします。
この回答から個人を特定することはありませんので、ご協力よろしくお願いします。

（各項目○は１つ）

1）性別	ア．男性　　イ．女性
2）生まれたところなど	ア．音更町で生まれ、ずっと音更町に住んでいる イ．音更町で生まれ、その後町外に引っ越したが、現在音更町に住んでいる ウ．音更町外で生まれたが、現在音更町に住んでいる
3）音更町に住んでいる年数	※一度町外に転出後、戻って来られた方は合計の年数で選んでください。 ア．5 年未満　　イ．5 年以上 10 年未満 ウ．10 年以上 20 年未満　　エ．20 年以上
4）勤務先又は通学先	ア．音更町内　　イ．帯広市　　ウ．その他
5）居住地	※区分が分からない方は「キ」の（　　）に、行政区名や町内会名を直接お書きください。参考に、裏面（P.11）に「ア～カ」の詳しい行政区・町内会名を掲載しています。 ア．農村部 イ．駒場地区 ウ．音更市街 エ．木野市街（鈴蘭地区・緑陽台地区・共栄台地区を含む） オ．宝来・ひびき野市街 カ．十勝川温泉市街 キ．区分が分からない（　　）
6）年齢	ア．18～24 歳　イ．25～29 歳　ウ．30～34 歳　エ．35～39 歳 オ．40～44 歳　カ．45～49 歳　キ．50～54 歳　ク．55～59 歳 ケ．60～64 歳　コ．65～69 歳　サ．70～74 歳　シ．75 歳以上
7）職業	※アルバイト・パート等の方も、仕事の業種で選んでください。 ア．農林漁業　　イ．製造業・建設業 ウ．商業・サービス業・金融業など　　エ．公務・団体等勤務 オ．その他の職業　　カ．学生 キ．家事専業（主婦・主夫）　　ク．無職

「居住地」の詳細（音更町内の行政区・町内会名）

※○は、裏面（P.10）にある「５）居住地」のア～キのどれかにつけてください。

「ア. 農村部」の行政区・町内会

（農村東部）豊秋、柏葉、東豊田、光、東平和、元林、北林、富士、忍、武儀、南武儀、勲、稲穂、瑞穂、南中新政、八千代、報徳、錦、稔、北昭和、西昭和、東昭和、中昭和、元昭和、昭和、福平、共和、音幌、長流枝、栄、北進、桜田、春日、相生、富丘、東旭、旭、栄進、栄進南

（農村西部）住吉、大和、東士狩、矢部、朝日、門前、東昭栄、昭栄、鎮錬、万年、高倉、鈴蘭、然別、南大和、（晩成園/東士狩）、上然別、北上、誉、東中音更、共進、大牧、西大牧、更生、共力、友進、西中、上牧、牧、北柏、南柏、大盛、下牧、北栄、光和

「イ. 駒場地区」の行政区・町内会

中駒場、北駒場、西駒場、駒場、牧場、高校

「ウ. 音更市街」の行政区・町内会

北開進、北明、新生、双葉、三交、親和、にこにこ、六新、七福、新緑、東新緑、東栄北、東栄南、東泉、泉、新泉、若葉、弥生、梢、花園、南花園、
北花園、北陽台、柏寿台、桜が丘、雄飛が丘北、緑が丘、桜が丘西、雄飛が丘南区第１～３、雄飛が丘仲区第１・２、雄飛が丘中央団地、更葉園、
東住吉、（老人ホーム）、桜が丘団地

「エ. 木野市街（鈴蘭地区・緑陽台地区・共栄台地区を含む）」の行政区・町内会

大橋、千隆、木野２～９、木野西９～１１、木野新町、神田、すずらんの丘、
中鈴蘭、清和、南鈴蘭、鈴蘭公園通、青葉、共栄、むつみ、共栄南、共栄高台、共栄団地、緑陽台北区第１・２、緑陽台仲区東・西、緑陽台南、緑陽、開進、９線大和、柳町北・仲、柳町南区東・西、緑街、（晩成園/緑陽台）、北蘭西・東・北・新町、すずらん台、あやめ、楓、共栄台北・南・東・中央

「オ. 宝来・ひびき野市街」の行政区・町内会

藤ヶ丘、北藤ヶ丘、宝来第１～５、北宝来１～３、ひびき野西町第１・２、ひびき野仲町１・２丁目、ひびき野東町１・２丁目

「カ. 十勝川温泉市街」の行政区・町内会

温泉